		年	卷	號
對する計算法	磯谷敬之助〔保雜〕	明三三	五	五八
生命保險契約の種類變更に就て	玉木爲三郎〔保雜〕	明三三	五	五一
生命保險契約の種類變更に關する玉木氏の說を讀む	丹 勝吾〔保雜〕	明三三	五	五四
生命保險契約論	志田鉀太郎〔內外〕	明三五	一	四
生命保險契約の法律的性質に關する學說を批評す	ベンヂックス〔明學〕	明三七	一	二八—九
商法第四二八條に就て	佐竹 三吾〔新報〕	明三九	一六	三
生命保險會社の新契約に就て	岩間 六郎〔保評〕	明四四	四	四—一〇
生命保險に於ける同意の要件に就て	村上 隆吉〔保評〕	明四四	四	一〇—一一
他人の生命の死亡保險に於ける被保險者の同意に就て	松本 烝治〔法協〕	明四五	三	一〇
保險約款の自殺規定に就て	岩田 宙造〔保評〕	大元	五	八
生命保險契約不告の重要事項新舊法適用問題	松岡 亮平〔保評〕	大二	六	五
團體保險（生命保險の包括契約）を論ず	關 伊右衛〔保評〕	大二	六	三
生命保險契約と英國法	三浦 義道〔法協〕	大六	三五	一二
生命保險契約の效力延長に就て	門脇 政治〔保雜〕	大七	一	二六一

		年	卷	號
生命保險契約より生ずる財產的權利	水口 吉藏〔國國〕	大七	六	一—五

被保險者利益

生命保險の再保險を論ず	志田鉀太郎〔新報〕	明三五	二三	八
生命保險の再保險實行方法	〔保雜〕	明三五	一	八二
他人の生命に有する利益を論ず	麻生義一郎〔保雜〕	明三六	八	九四
生命保險の再保險に就て	岡野敬次郎〔新報〕	明三七	一四	四
生命保險の再保險	高輪 守幸〔保雜〕	明三九	一	一二九
生命保險に於ける被保險利益を論ず	藤本幸太郎〔日經〕	明四〇	一	七

危險

所謂年增に就て	矢野 恒太〔保雜〕	明三二	四	三九
年增論	中村精一郎〔保雜〕	明三三	四	四〇
年齡相違に就て	栗津 清亮〔保雜〕	明三三	四	四三
生命保險に於ける危險の變更增加を論ず	栗津 清亮〔保雜〕	明三三	四	四七
本邦生命保險會社の惡德と被保險者の開陳責任	中村 敬三〔保雜〕	明三三	一一	一八四—八六
生命保險に於ける職業危險に就て	栗津 清亮〔保雜〕	明三七	九	一〇〇—一〇二
戰爭危險に對する歐米諸國				

		年	卷	號
生命保險會社の事例	伊藤萬太郎〔保雜〕	明三七	九	一〇六—一〇八
生命保險の人的危險について	玉木爲三郎〔保雜〕	明四一	一	一四八
被保險者の陳述する出生時と戶籍に於ける出生時との相違に就て	松崎故一郎〔保評〕	大二	六	一

保險料

生命保險料の比較	石關 寬一〔保雜〕	明三二	三	二八
生命保險料算出に就て	中村精一郎〔保雜〕	明三二	三	三六
生命保險に於ける戰時特別保險料は保險會社が戰爭中に其增額を請求するを得べきや	栗津 清亮〔保雜〕	明三七	一	一〇九
重複生命保險の保險料計算方法に就て	森村 金造〔保雜〕	明三九	一	一二八
生命保險料の集金慣習	志田鉀太郎〔國家〕	明四一	三	一
一年の小數期間毎に支拂はるゝ生命保險料に就て	森村 金造〔保雜〕	大六	一一	二〇〇—二〇一
我國に於ける生命保險料に就て	角尾猛治郎〔保雜〕	大六	一	二三四—三五
會計整理上より觀たる生命保險料	栗津 清亮〔保雜〕	明三五	一	八一
我國に於ける生命保險の保險料に付て	竹下 清松〔保雜〕	大八	一	二五四—五五
氏葬團計算法	石川 文吾〔商研〕	大一〇	一	二
生命保險料の分割拂を論ず	佐藤 保兒〔國經〕	大二	二四	三
生命保險と攝定利率	山科 勉〔會計〕	大一五	一八	一
生命保險業に於ける未收保險料の整理に就て				

契約の效力

生命保險解約價格に就て	玉木爲三郎〔保雜〕	明三二	四	二八—三一
生命保險の解約	麻生義一郎〔保雜〕	明三二	四	四二
被保險者の自殺に就て	芳賀 八彌〔保雜〕	明三二	一	四六—四八
失踪の死亡者に就て	芳賀 八彌〔保雜〕	明三二	四	一〇七—一〇八
刑事被告人未決拘留中の死亡に付て	玉木爲三郎〔保雜〕	明三二	五	四九
生命保險に於ける契約無效を論ず	栗津 清亮〔保雜〕	明三二	一	二九九—三〇〇
第三者の生命に關する保險	木村誠次郎〔新聞〕	明三四	一	一一〇—一一二
保險金受取人か被保險人の親族に非さる場合に於ける生命保險契約の效果如何	栗津 清亮〔保雜〕	明三五	一	八一
保險金受取人か被保險人の親族に非さる場合に於ける生命保險契約の效果に就て	角尾猛治郎〔保雜〕	明三六	一	二三一—三二
	古谷 伊平〔保雜〕	明三五	一	八二

我國に於ける生命保險金削減條款に就て（講演）　角尾猛治郎（保險）　ニ　一
角尾君の削減條款論を讀む　礪野正登（保險）　一　一
生命保險の拂濟保險金額並解約返戻金の算出方法に就て　角尾猛治郎（保險）　ニ　一
被保險者の自殺に就て　石川文吾（保險）　三　一
生命保險に於ける被保險者の自殺を論ず　石川文吾（國經）　三　一
生命保險の解約返戻金に就て　角尾猛治郎（保險）　ニ　一
解約の死亡率に及ぼす影響　角尾猛治郎（保險）　三　一
解約取戻に就て　納賀雅友（保險）　三　一
生命保險に於ける保險金受取人の權利の發生期　久田博人（辯護）　三　一
約の保險金額と受取るべき者の權利の發生期　志田鉀太郎（內外）　三　一
他人の爲にする生命保險契約の效力　竹內正二（保險）　三　一
會社との關係に就て　竹內正二（保險）　三　一
商法第四三一條と外國保險に付て　藤原哲夫（保險）　三　一
親族に非ざりし場合に於ける生命保險契約の效力　藤原哲夫（保險）　三　一
保險金受取人が被保險者の

被保險者の殺害して保險金を請求したる一例　三浦義道（保險）　ニ　一
生命保險契約の解除に付き　石川文吾（國經）　三　一
生命保險事故發生の通知に就て　石川文吾（商）　三　一
生命保險に於ける保險金の支拂に就て　石川文吾（新報）　三　一
生命保險契約の失效解約防止に就て　龜田豐治朗（保險）　三　一

死亡調査

平均壽命論　麻生義一郎（保險）　一　一
養老保險と終身保險との死亡に付て　中村精一郎（保險）　一　一
森村氏の「養老保險と終身保險との死亡に付て」を讀む　仙代生（保險）　一　一
簡單なる餘命平均の計算法に就て　奧礒谷欽之助（保險）　一　一
英國十七會社死亡表の記　奧村英夫（保險）　一　一
經過年數に應ずる被保險者の死亡率　那須理太郎（保險）　一　一
英國の新死亡表　麻生義一郎（保險）　一　一
終身保險と養老保險の死亡率　麻生義一郎（保險）　一　一

【勢力範圍】

勢力範圍論　稻田周之助（新報）　一　一
勢力範圍論　立作太郎（新報）　一　一
保護地、勢力範圍、ヒンテルランド、租借地に關する高圓國際法學會の新提案　澤田廉三（國際）　一〇　一
勢力範圍と門戶開放の消長　根岸佶（外時）　一　一

【世界主義】

世界主義と愛國心と國際法　中村進午（新報）　一　一
世界主義と維す　重德來助（外時）　一　一

參照＝國體主義。世界政策。

眼的に營業狀態を決定せんと欲するオッペンハイメル氏法に就て（譯）　K生（保險）　一〇
生命保險醫學上より見たる疾病遺傳の意義　高田他家雄（保險）　一　一
保險醫學上より見たる日本人の體質　高田他家雄（保險）　一　一
保險醫の法律上の地位を論ず　鬼澤藏之助（新報）　一　一

史上より觀たる世界主義　占部百太郎〔三學〕大六　一卷　四一五頁
世界人の世界主義　蠟川　新〔外時〕大六　三六　三〇八
世界主義に對する國家主義的反動　栗原　信一〔法治〕大三　三　一一

【世界政策】　參照＝外交關係關係。平和。

世界政策と帝國主義　津村　秀松〔日經〕四〇　一　六
ハーレー「世界政策と社會改良」　河津　暹〔日經〕四〇　一　二
獨逸の全獨逸主義と世界政策　津村　秀松〔國經〕四〇　二　一三
列强の世界政策を顧みて　佐久間　信〔國知〕大三　三　四
獨逸の世界政策と講和條件　神川　彦松〔外時〕大六　四　二五
世界政策と戰爭　津村　秀松〔國經〕四〇　二　一三

【世界戰爭】　歐洲戰爭を見よ。

歐洲戰爭と列强の世界政策を顧みて　佐久間　信〔國知〕大三　三　四
獨逸の世界政策と講和條件　神川　彦松〔外時〕大六　四　二五
戰時病傷者の待遇を論ず　秋山雅之助〔志林〕四〇　九　五一〇
赤十字條約改正會議　秋山雅之助〔志林〕四〇　九　七一〇
改正赤十字條約の規定を論ず　秋山雅之助〔國際〕四五　八　一一二
赤十字條約と各國赤十字社兼業との沿革關係を論ず　秋山雅之助〔志林〕四五　三　二　四
赤十字條約の由來　高橋　作衛〔國際〕四五　八　二　九
改正赤十字條約の規定を論ず　秋山雅之助〔國際〕四五　八　九
露國病院船アンガラ號事件と論じて有賀博士の所論を評す　秋山雅之助〔國際〕四五　八　一〇
遠藤　源六〔國際〕四四　一〇　二

赤十字條約の改正の必要　有賀　長雄〔外時〕四三　四　四
ジュネーヴ條約に付て　松原　一雄〔新報〕四三　三　六一〇
赤十字條約の改正會議　有賀　長雄〔外時〕四三　六　六〇
軍用病院船に關する特權の範圍を論ず　秋山雅之助〔志林〕四三　六　五九
赤十字條約の由來現在及將來　寺崎　勝治〔新聞〕四三　一　二一六
海戰と赤十字條約　高橋　作衛〔國際〕四三　一　七
病院船に關する條約案　佐野　美一〔國際〕四三　八　二　七
海上赤十字條約の改正に關する日本貿務家の意見　高橋　作衛〔法論〕四三　三　一二
黑木軍と赤十字　加藤　房藏〔國際〕四〇　六　四
戰時病傷者の待遇を論ず　秋山雅之助〔志林〕四〇　九　五一六

炭礦勞働者の生計
炭礦勞働者の生計狀態
石炭經濟論
英國
英米兩國に於ける石炭の不足
英國戰時石炭管理
英國炭坑坑夫論
英國石炭業委員會報告の概要
英米產業戰としての石炭問題
堀江 歸一 三專 資料 ㄨㄨ
英國の炭坑委員會
英國の石炭問題
英國炭業に於ける貨銀制度
森田 良雄 社政 大一 ㄧ 三 四 ㄧ 三
森田 良雄 社政 大一 三 四 ㄧ 三
細川 嘉六 原ノ上 大二 ㄧ 三 四 ㄧ 三
英國の救濟
英國炭坑夫の貨銀協定とその成果
高橋清三郎 外時 大一0 三六
水上鐵治郎 社政 大三 ㄧ 三五0
英米產業戰としての石炭問題
英米兩國に於ける石炭の不足
有川 治助 外時 大一0 三六
北米炭坑事情
水上鐵治郎 社政 大二 ㄧ 四0
印度石炭の現況
佛國石炭問題
佛國に於ける炭價の暴騰
露國の石炭
露國石炭事情
瑞典の製鐵製鋼及採炭業
阿部重兵衛 國經 明四0 三
松岡 均平 國家 大二 二七 三七
獨逸石炭シンヂケート
獨逸石炭鑛業の組織改造問題
林 榮夫 社政 大一0 ㄧ 10
獨逸炭坑公有新案
櫛田 民藏 國家 大八 三 七
十龜 盛夫 東經 大四 七 卷三
井上 翠 東經 大八 三 四
有川 治助 外時 大一0 三六
水上鐵治郎 社政 大二 ㄧ 四0

有望なる石炭礦
山東省嶧縣中興炭礦
炭礦亭情

支那

內外油業の統一策
日本の石油政策の樹立
原油輸入事業の沿革
小林 亘 東經 大一0 三0九二
小林部忠承 東經 大一0 三0九二
長谷川尙之丞 東經 大一0 三0九二
瀨島猪之丞 東經 大一0 三0九二
內藤 久寬 東經 大一0 三0九二
內藤 久寬 東經 大一0 三0九二
支那の統一
支那の貨幣制度
森 和 財經 大一 ㄧ 四 ㄧ 三
高橋清三郎 外時 大一0 三六
永井 亨 財經 大一0 三六
永井 亨 財經 大一0 三六
支那の幣制改革
支那の貨幣制度
支那の貨幣問題
支那の貨幣協定とその成果
支那の炭坑問題
支那の炭坑委員會
支那の炭礦
支那の炭礦
支那の炭礦

【竊盜の罪】

道具は竊盜犯の目的物となるや　江村拳人
偽造貨幣の盜用を論ず　柴田駒三郎〔法協〕　明二九・一四　八九
親屬相盜論　狙撃犯人〔新報〕　明二八・五・卷　四七號
親屬相盜を論ず　小木曾義房〔辯協〕　明三三　二六
竊盜論　川島龜夫〔新報〕　明三三　九二　六四
竊盜罪の構成要件として動產なる文字を論ず　松田道一〔法協〕　明三六　二
電信線を竊取する目的を以てこれを切斷し電氣を不通ならしめたる者の處分如何　小崎傳〔法政〕　明三四　三七
外國官名を詐稱するも罪せざるか　金子喜代太郎〔新報〕　明三五　三
電氣と法律　穗積陳重〔法協〕　明三五　二一　四
電流盜用事件の判例を評す　岡田朝太郎〔法協〕　明三五　二一　七
親族相盜に於ける敎唆者の罪責に就て　小崎傳〔新聞〕　明三七　一　二一
强竊盜の爲に兄振を爲す行爲は同罪の共同正犯なりや　小崎傳〔新報〕　明三九　一六　二

【セットルメント】

シカゴ市に於けるセットルメント事業　長谷川良信〔社政〕　大二　一　附錄
ソシヤル・セットルメントの起源及其發達　志賀支那人〔社雜〕　大二　一　四
ソシヤル・セットルメントの精神と其經營　志賀支那人〔社雜〕　大二　一　六
第二回セットルメント國際協議會に就いて　志賀支那人〔社雜〕　大二　一　一〇
セットルメントの思想史的背景　大林宗嗣〔原藏〕　大二　四　一

【節約】

參照＝家計。生活費。貯蓄。貯蓄銀行。生活標準。投資。
勤儉貯蓄と事業界の統一　雨宮敬次郎〔日經〕　明四〇　一　九

物の所持　泉二　新熊〔新報〕　明三九　二六　一一
竊盜罪に於ける豫備と着手との區別　賤乃家學人〔新聞〕　明三九　一　三六
屋內竊盜を爲すの意思を以て某家の雨戶を開かんとしたるに鎖鑰嚴重にして開くことを得ず依て其場所を立去るに際し同家の裏口開放しあるを發見屋內に侵入して物盜を遂げたる者の處分如何　泉二　新熊〔法政〕　明四〇　二　三
持兇器竊盜罪成立の要件「持兇器」の意義並に兇器主義　小崎傳〔新聞〕　明四一　一　四八
電柱に垂下せる電信線又は電話線切斷竊取せる者の處分如何　平井義三郎〔新聞〕　明四一　一　四九
不動產の竊盜　佐野英一郎〔志林〕　明四一　二　八
新刑法時數　飯島喬平〔法協〕　明四一　七　一三
竊盜の十五系統　市場學而郎〔刑評〕　明四一　三　一二
非獨立所持と竊盜　喜頭兵一〔志林〕　明四一　三　七
時間盜罪を論ず　岩崎動〔辯協〕　明四一　五　一六　一五
狂言「瓜盜人」に表はれた る竊盜行爲　寺田精一〔志林〕　大二　一二　二

【瀨戶內海】

國際法上瀨戶內海の地位　遠藤源六〔國家〕〔國際〕　明三五　二六　二五

【ゼノフォン】 (Xenophon, 434?-355? B. C.)

クセノフォンの諸著に現はれたる經濟思想　高橋誠一郎〔三學〕　大七　三　一一
ゼノフォン經濟思想　佐谷悅治〔同論〕　大三　一　一五

【消費節約論】

消費節約論　河津遲〔日經〕　明三　六　六
節用論　田島彌治〔經濟〕　大五　三　一五
節儉と道德　河上肇〔法論〕　大六　一　一
英國に於ける戰時動儉論　上田貞次郎〔國經〕　大六　三　二
德川時代の節儉論　瀧本誠一〔商經〕　大八　一　三
國民的節約日設定の急務　天岡直嘉〔財經〕　大一〇　八　五
節約運動より儲率增進運動へ　神戶正雄〔時經〕　大一一　一　三
國民節約運動に就て　橋本芳雄〔財經〕　大一一　九　六
節約の意義並に要件　竹島貢三郎〔商經〕　大一一　一　六
物價引下に對する消費節約の可否　藤原正年〔東經〕　大一八四　二三
消費節約の根本義　藤山雷太〔ニヨ〕　大一三　二　九

【纖維工業】

販路を擴張せるセルロイド製品 吉村 鷹夫〔洋經〕 大五 一 七五

【セルロイド】

埃及反目の近因 田中 萃一郎〔外時〕 大三 三〇 三六

【塞爾維亞】

參照＝ユウゴースラヴィア

【世良太一】

世良太一君の長逝を悼む 槇山 雅男〔統集〕 大八 一 四五
世良社長を葬るの記 〔統雜〕 大八 一 三四

【セメント】

支那セメント業 長野 恒夫〔東經〕 大六 五 二號
セメント事業の過去、現在及び將來を論じてセメント合同論に及ぶ 〔貨幣〕 大六年 三卷 二號

【船員】

日進丸の帰航 松波仁一郎〔新報〕 四五 一四 三
海員雇入契約の變遷と社會政策 加藤 正治〔法協〕 四六 三 九一三
船長と佛船客との關係 柳川 勝二〔法政〕 四五 一〇 六
戰時に於ける船長の行爲が船主及貨主に及ぼす影響 堵 才次郎〔國際〕 四五 四 九
海員雇入の公認と船長の命令權 市村 富久〔法政〕 四五 一〇 二
船長の選任に就て 市村 富久〔法協〕 四四 一〇 二
船舶の修繕不能の意義 李 純俊〔新聞〕 四四 一〇 一 四三
碇泊日數に就て 倉田 庫太〔國經〕 四四 四 一四
船長の代理權に關する大審院の最近判例 市村 富久〔法協〕 四四 一〇 二
水先人の性質及び責任 鹽田 環〔志林〕 四四 一〇 二
海員の過失罪に及ぶ 〔志林〕 四四 一〇 二
海員保護に就て 鹽田 環〔志林〕 四四 一〇 二
海員の保護及保險を論ず 堀 光龜〔國經〕 四四 一〇 一
海員の給料 倉田 庫太〔國經〕 四四 一〇 一
現代法曹の弊風を論じて海員の過失罪に及ぶ 鹽田 環〔志林〕 四四 一〇 二
商法第五四四條の趣旨を解し水先案内人は商法にいわゆる所謂船員に該當する所以 武田 藏之助〔法協〕 四四 一〇 一
航海論 松波仁一郎〔海法〕 四四 一〇 一
埃國海員保險法草案 市村 富久〔法協〕 四四 一〇 一
航路の變更を論ず 高根 義人〔精協〕 四四 一〇 一
米國海員法の本邦船舶に適用せらるゝ範圍 淺野 總一郎〔海法〕 四四 一〇 一
海員勤勞論 松波仁一郎〔國家〕 四四 一〇 一
修繕不能の意義 烏賀陽然良〔法叢〕 四四 一〇 一
船長の法律上の地位を論ず 烏賀陽然良〔法叢〕 四四 一〇 一
船員とは何ぞや 烏賀陽然良〔新報〕 四四 一〇 一
船長の積荷處分權 小町谷操三〔志林〕 四四 一〇 一
船舶の識別と海員の義務（勞務商品論） 松波仁一郎〔海法〕 四四 一〇 一

【船員】

戰時に於ける日本の纖維工業 鵜澤 甲子男〔財經〕 大三 一一 一一
貿易に現れた主要纖維工業の消長 〔貨幣〕 大三 10 一一 10
震災と本邦纖維工業 〔貨幣〕 大10 七 10

航路の變更 高根 義人〔精協〕 四四 一〇 一
海員の權利 武田 藏之助〔海法〕 四四 一〇 一
水先人を論ず 鹽田 環〔志林〕 四四 一〇 一
海員保護に就て 倉田 庫太〔國經〕 四四 一〇 一
海員の保護及保險を論ず 堀 光龜〔國經〕 四四 一〇 一
海員の給料 鹽田 環〔志林〕 四四 一〇 一
現代法曹の弊風を論じて海員の過失罪に及ぶ 市村 富久〔法協〕 四四 一〇 二
商法第五四四條の趣旨を解し水先案内人は商法にいわゆる所謂船員に該當する所以 武田 藏之助〔海法〕 四四 一〇 一
航海論 松波仁一郎〔海法〕 四四 一〇 一
埃國海員保險法草案 市村 富久〔法協〕 四四 一〇 一
航路の變更を論ず 高根 義人〔精協〕 四四 一〇 一
米國海員法の本邦船舶に適用せらるゝ範圍 淺野 總一郎〔海法〕 四四 一〇 一
海員勤勞論 松波仁一郎〔國家〕 四四 一〇 一
修繕不能の意義 烏賀陽然良〔法叢〕 四四 一〇 一
船長の法律上の地位を論ず 烏賀陽然良〔法叢〕 四四 一〇 一
船員とは何ぞや 烏賀陽然良〔新報〕 四四 一〇 一
船長の積荷處分權 小町谷操三〔志林〕 四四 一〇 一
船舶の識別と海員の義務（勞務商品論） 松波仁一郎〔海法〕 四四 一〇 一

【船員】

船員雇傭紹介法に就て 上野 理一〔法協〕 大二 一 一
海員の疾傷と給料權との關係 松波仁一郎〔海法〕 大二 一 一
船長に關する問題の一二に就て 酒島 彌太郎〔商經〕 大二 一 一
船員の故意過失の意義 和田 正義〔國經〕 大二 二 一
船員の惡行に關する研究 都築 直三〔商事〕 大二 二 二
和船航海に就て 小町谷操三〔志林〕 大二 二 二
北米合衆國の海員法制定に就て 山本 理一〔法協〕 大二 三 六
英國海員養成方針 高橋 正熊〔社政〕 大10 一 一四

【選擧】

參照＝衆議院。政治。選擧權。選擧法。政黨。選擧干渉。比例代表。
二十三年の總選擧 末松 謙澄〔國家〕 明三三 一 一
自選投票の效力 〔新報〕 明三四 一二 二
當選訴訟の疑義 都筑 馨六〔新報〕 明三四 一二 二
二十五年總選擧統計 末松 謙澄〔國家〕 明三五 二 一
衆議院議員當選訴訟論 ト部 哲次郎〔新報〕 明三五 一二 一
補員選擧記投票 一木 喜徳郎〔國家〕 明三三 一二 一
選擧の法理並訴訟問題 宮本 平九郎〔明法〕 明三三 一一 一六
淺見倫太郎〔新法政〕 明三五 一二 一六

		年	卷	號
選舉取締に關する緊急勅令の發布は憲法違反なり	吉見謹三郎〔新聞〕	明三六	一	一三四
選舉論に就て	井上　密〔內外〕	明三六	一	記念
小數者の權利	美濃部達吉〔國家〕	明三七	一八	二一一二三
所謂小數代表又は比例代表の選舉	上杉　愼吉〔國家〕	明三八	一九	三
補闕選舉の後一年以內に議員の闕員を生したる場合の補充に就て	美濃部達吉〔國家〕	明三九	二〇	三
小選舉區制の利害を論ず	美濃部達吉〔法政〕	明三九	一〇	一
選舉の强制	佐々木惣一〔國家〕	明四一	一三	四
同一氏名の被選舉人ある場合の投票に就て	雲外生〔新聞〕	明四一	一	五一一
自治機關の腐敗と總選舉	瀧　與治〔東經〕	明四一	五七	一四二一
選舉取締法案に就て	佐々木惣一〔京法〕	明四一	三	四
無選舉區と制度比例選舉制度	佐藤丑次郎〔京法〕	明四一	三	五
當選無效の結果は補充か補闕か	山田準次郎〔法協〕	明四二	二七	七
長崎市の違法選舉	齋藤　巖〔新聞〕	明四三	一	六二八
選舉犯に就て（衆議院議員選舉法第一一條第四號の解釋問題）	花井　卓藏〔新報〕	明四三	二〇	九
若松市選舉違犯論	池田　直江〔新聞〕	明四五	一	七九一七九五
如何にせば選舉をして意義あらしめ得べきか	井本　常治〔辯協〕	明四五	一六	一六四
總選舉所感	平松　市藏〔辯協〕	明四五	一六	一六四
多數代表の選舉制度と小數代表の選舉制度	野村　淳治〔新報〕	明四五	二一	二一二
議員選舉の目的	清水　澄〔法協〕	明四五	三〇	二
選舉の理論と實際	市村　光惠〔京法〕	明四五	七	六
選舉法違反の行爲は政事犯なるか將た常事犯なるか	勝本勘三郎〔志林〕	大元	一四	九
選舉區改正問題	清水　澄〔新聞〕	大二	一	九〇四
英國の選舉界と我國の現狀	林田龜太郎〔國家〕	大二	一一	一三
議員選舉審査の權限を行政裁判所に移すの議	佐々木惣一〔京法〕	大三	九	一
衆議院議員選舉法違反と刑法第五四條	天野宗太郎〔新聞〕	大四	一	一〇四一
財政經濟上より觀たる總選舉	本多　精一〔財經〕	大四	二	三
憲政と選舉	植原悅二郎〔國國〕	大四	三	三
總選舉と法曹の注意	石山　彌平〔辯協〕	大四	一九	一九四
總選舉の刑事觀	鹽谷恒太郎〔辯協〕	大四	一九	一九六
總選舉の取締に就て	大澤　眞吉〔辯協〕	大四	一九	一九四
選舉權の擴張と選舉區制度の改正	美濃部達吉〔國家〕	大六	三一	六
農村問題と總選舉	擴井　時敬〔財經〕	大六	四	三
第六回臨時總選舉の回顧	橫山　雅男〔統集〕	大六	一	四三三

		年	卷	號
一七八四年の總選舉に就て	田中萃一郎〔三學〕	大六	一	八
選舉一元老一政黨論	今村　根存〔新聞〕	大六	一	二七六
投票用紙に就て	宇野　愼三〔法協〕	大六	三五	二
選舉の神聖を論じて轉ばぬ先の杖を提供	布施　辰治〔新聞〕	大六	一	三三三三七
官吏の被選舉權に關する外國の制度	工藤　重義〔法政〕	大六	一四	八
選舉取締の勵行	平松　市藏〔辯協〕	大六	二一	二一二
選舉罰則私見	今村力三郎〔辯協〕	大六	二一	一一
選舉法違犯に就て	播磨　龍城〔新聞〕	大六	一	二一二九二二二〇〇
衆議院議員選舉別表に就て	濱田　富吉〔統集〕	大七	一	四四四
千葉縣全部再選舉を要す	齋藤　巖〔新聞〕	大七	一	一三六四
千葉縣安房郡の選舉無效と當選問題	齋藤　巖〔新聞〕	大七	一	一三六二
千葉縣の再選舉を論ず	齋藤　巖〔新聞〕	大七	一	一三六三
廢すべき階級選舉制度	志賀和多利〔新聞〕	大七	一	一三六一
千葉縣全部再選舉を要す	逸名氏〔新聞〕	大七	一	一四八三
千葉縣安房郡の選舉無效と當選問題	齋藤　巖〔新聞〕	大七	一	一三六四
市會議員選舉と衆議院議員選舉法第一〇一條との關係並に結果を論ず	齋藤　巖〔新聞〕	大七	一	一三六二
大審院の判決は特に愼重なることを要す	齋藤　巖〔新聞〕	大七	一	一四一一
	松本　重敏〔新聞〕	大七	一	一四二九
無記名投票に就て	清水　澄〔新報〕	大八	二九	三
選舉問題に付て	清水　澄〔新聞〕	大八	一	一四九四
總選舉からの政治教育收穫	大山　郁夫〔我等〕	大九	二	六
公選制度の效力（總選舉批判）	稻田周之助〔新報〕	大九	二〇	六
選舉訴訟と請求の拋棄及認諾	打田　傳吉〔辯協〕	大九	二四	一〇
選舉制度に關して	清水　澄〔新聞〕	大一一	一	一九二五
船舶乘組員等の投票方法に就て	坂　千秋〔法政〕	大三	二〇	一
消極投票（選舉法に關する新提案）	小野塚喜平次〔國家〕	大一二	三七	一
選舉取締規定改正の必要を論ず	野村　淳治〔國家〕	大一二	三七	四
選舉理論の二三	吉野　作造〔國家〕	大一二	三七	五
普通選舉の急務を論じて反論者の猛省を促す	小林榮太郎〔新聞〕	大一二	一	二〇二九二〇二九
衆議院議員各選舉區に於ける議員と人口との割合	河原　富造〔統集〕	大一三	一	五一七
選舉と勅任との關係	稻田周之助〔新報〕	大一三	二四	一一
中選舉區制と比例代表法	稻田周之助〔新報〕	大一三	二四	一二
行政官吏の被選舉資格	稻田周之助〔新報〕	大一三	二四	五
如何にして選舉界の廓清を期すべきか	美濃部達吉〔國家〕	大一三	二八	四一五

英國
神戸の選擧訴訟に就て　今井嘉幸〔國家〕大五　四〇　一一三
　定主義　森口繁治〔法叢〕大五　五　六
選擧區の法律的性質と其法
　律的投票動的投票　坂千秋〔法政〕大五　三三　一
　究　坂千秋〔法政〕大五　三三　二
生票と死票ー新選擧法の研
　察　布施辰治〔新聞〕大四　一　三四六　一〇
選擧運動の實費と報酬の考
選擧の秘密について　宮澤俊義〔國家〕大四　三九　10
選擧干渉と司法權　橋爪龍城〔新聞〕大四　一　三四八
互選と公選との區別　穂積重遠〔新報〕大四　三五　二
制限投票法　穂積重遠〔新報〕大四　三五　六
衆議院總選擧の結果　市川正一〔マルク〕大三　一　三
選擧違反罰　安達元之助〔法新〕大三　一　四
　判例　齋藤巖〔新聞〕大三　一　三四
選擧運動者の觀念と大審院
　停止し得るか　齋藤巖〔新聞〕大三　一　三五
選擧運動の費用と選擧違反　齋藤巖〔新聞〕大三　一　三五
選擧の繁雜と減少する方策　橋爪龍城〔新聞〕大三　一　三五八
金錢供與と選擧違反　齋藤巖〔新聞〕大三　一　三六〇
國民の覺醒と選擧の公正　松倉慶三郎〔新聞〕大三　一　三四
神戸選擧訴訟の由來　久能木悠治〔雜誌〕大三　二六　四
選擧運動　平山六之助〔雜誌〕大三　二六　三
選擧　市村光惠〔法叢〕大三　二〇　六

英國に於ける下院議員選擧
　と黨政の趨向　石井醴吾〔雜誌〕大六　三　四六
英國代議士の選擧區民との
　關係　植原悅二郎〔國家〕大六　一　三
英國の選擧界と我國の現狀　林田龜太郎〔國家〕大六　一　三
英國下院議員の選擧手續　市村光惠〔京法〕大六　二　四
英國の選擧運動　伊藤龜雄〔外時〕大11　三　二
　佛國
選擧事務に關する佛國の立
　法　鵜田厚〔京法〕大三　九　二
佛國下院議員總選擧　小野塚喜平次〔國家〕大10　三　1
佛國の家族選擧制　下吉一郎〔經濟〕大三　三　四
　其他
李滿新國代議院議員の選擧
　に關する統計調査樣式　相原重政〔統集〕昭七　一　二六
加奈陀下院總選擧の意義　鵜山政道〔新報〕大11　三　1

【選擧權】

參照＝選擧法。

所得稅に於ける選擧權被選
　擧權を論ず　田中隆三〔新報〕明三　二　11
選擧權　戸田海市〔國家〕明三　四　一五
選擧權論　美濃部達吉〔國家〕明六　九　二一

衆議院議員選擧權の擴張に
　就きて　佐藤丑次郎〔京法〕明九　一卷　三號
選擧權と住所との關係に就
　て　美濃部達吉〔明學〕明四　一　三五
議員選擧有權者に關する統
　計上の觀察　相原重政〔統集〕明三　一　一
選擧權を擴張せよ　大隈信〔洋經〕明三　一　四六三
選擧權被選擧權の禁止は罰
　金刑に反ぶ乎　渡邊澄也〔雜誌〕大二　一七　二
普通選擧制實行の急務　矢野作郎〔東經〕大三　六　一五三
神聖なる選擧權　島村他三郎〔新聞〕大二　一　九二
略式命令を以て選擧權をも
　停止し得るか　花岡敏夫〔雜誌〕大四　一九　一九六
衆議院議員選擧資格に關す
　る緊急勅令に就て　末松偕一郎〔國家〕大　四　三　二
議員被選擧權に就て　佐藤丑次郎〔京法〕大四　一〇　八二
君民同治の理想と普通選擧
　運動に就て　布施辰治〔新聞〕大六　一　三四六
普通選擧運動所感　布施辰治〔新聞〕大六　一　三四四
選擧權の擴張と選擧區制度
　の改正　美濃部達吉〔國家〕大六　三　六
選擧權の效果を論ず　佐藤丑次郎〔京法〕大六　三　八
借地人に對する選擧權の附
　與　市村光惠〔法論〕大七　一　二

普通選擧の根本義　布施辰治〔法政〕大八　二　二
普通選擧法論　布施辰治〔法政〕大八　二　一
普通選擧論　美濃部達吉〔國家〕大八　二　10
非普通選擧論　不破情警〔新聞〕大八　一　二六
世界改造と普通選擧　布施辰治〔新聞〕大八　一　三〇
所謂普通選擧論の疑問　石山賢吉〔雜誌〕大八　三　二
立憲政治の根底は普通選擧
　の上に在り　川手忠義〔雜誌〕大八　三　三
普通選擧論（講演）　今井嘉幸〔我等〕大八　一　一
普通選擧と反對思想　上杉慎吉〔法政〕大八　一　三
英國に於ける選擧權擴張の
　沿革を述べて我國の選擧
　權擴張問題に及ぶ　市村光惠〔法叢〕大八　一　二
原內閣の選擧權擴張と米國
　のデモクラシー選擧法　田宮重一郎〔國家〕大八　七　三
英國に於ける選擧權擴張の
　沿革を述べて我國の選擧
　權擴張問題に及ぶ　市村光惠〔法叢〕大八　一　二
選擧權擴張問題　安東松〔雜誌〕大八　三　二
普通選擧と陪審制度　正臣〔新聞〕大八　一　三
普通選擧主張の理論的根據　吉野作造〔國家〕大八　三　二
衡平なる普通選擧論　切治覺〔新聞〕大八　一　三

英國に於ける普選の實情　伊藤　龜雄〔國知〕大三　五
英國佛國二國に於ける普通選擧制度の沿革　吉野　作造〔志林〕大三　七　七
佛國に於ける普通選擧制の難立　小野塚喜平次〔法協〕大三　八
以國に於ける普通選擧施行の顚末と近時の政況　ベルソット〔國家〕大三　四
歐洲諸國の普通選擧制　外國　坂　千秋〔法政〕大五　二一四
選擧權の法律的性質　小野　清一郎〔志林〕大五　二　三
普選實施と乏利に由る條約者　今中　次麿〔國家〕大五　四〇　二一三
普通選擧理論に對する疑義　伊藤　龜雄〔外時〕大五　四二　四九
日英普選の比較　高橋　清吾〔社政〕大一四　一　五
來
無產階級の爲に普選を開放せよ　上村　進〔新聞〕大四　一　三五一
普通選擧と新無產政黨の勃興　板倉卓造三郎〔新聞〕大四　一　三五五
普通選擧と人格品性　江木　衷〔新聞〕大四　一　三五三
普選と勞働階級　江木　衷〔新聞〕大四　一　三五二
普選法案と歐米の近代道德　江木　衷〔新聞〕大四　一　三五一
普通選擧と外交の民衆化　立作太郎〔外時〕大四　四二　四〇〇
普選法案大意　松倉卓造三郎〔新聞〕大四　一　三四八
普通選擧と勞働階級　松倉卓造三郎〔新聞〕大四　一　三四五
の力

日英普選の比較　伊藤　龜雄〔外時〕大四　四二　四九〇

【選擧法】

選擧法の改正に就て　美濃部達吉〔國家〕明四五　一
選擧法大意　美濃部達吉〔國家〕明四四　八
衆議院議員選擧法改正に就て　清水　澄〔國家〕明四五　一
衆議院議員選擧法に關する一疑問　田澤　貞雄〔新聞〕大四　一　三九一
貴族院に於ける衆議院議員選擧法案の否決　南部　皆治〔辯協〕明四五　二六
選擧法改正問題に付て　美濃部達吉〔國家〕明四五　二六　三
衆議院議員選擧法改正に就て　清水　澄〔國家〕明四五　二六　三
選擧法改正案私議　今村力三郎〔辯協〕大二　一七
選擧法改正問題に付きて　美濃部達吉〔法協〕大二　三　九
政黨と選擧　新井要太郎〔辯協〕大二　八　二九
選擧法改正意見　泉　哲〔日露〕大二　二六　六
理想選擧法　岩切　覺治〔新聞〕大二　一　九九
地方行政の刷新と選擧法改正　河瀨　俊藏〔國國〕大二　三　三六
選擧法の改正に就て　大場　茂馬〔法學〕大四　一　一〇三

選擧法罰則解釋上の疑義　泉二　新熊〔法論〕大四　四　八
佛國日本部縣選擧法比較　岩切　覺治〔新聞〕大四　一〇　三六
日英選擧法に關する私見　田宮淳一郎〔國國〕大四　三　四
埃太利選擧法改正の政治的觀察　吉野　作造〔國家〕大五　三〇　九一〇
選擧法改正に就て　清水　澄〔新報〕大五　三六　四
改正選擧法の缺點　石渡　敏一〔國國〕大五　四　一一
選擧法は如何に改正すべきものなるか　泉　哲〔國國〕大五　四　六
日英兩國の選擧法改正　山崎　宗直〔三學〕大五　一〇　二
半面の選擧法觀　今村力三郎〔辯協〕大六　二　三
選擧法改正論　藤　苗代〔辯協〕大八　三　二
衆議院議員選擧法改正問題　稻田周之助〔新報〕大二　三　九
新選擧法案と比例代表制　稻田周之助〔新報〕大二　三　一
選擧法の研究　坂　千秋〔法政〕大二　一　一
選擧法改正管見　小野塚喜平次〔國家〕大二　二六　一
婦人參政權と選擧法　小林柔太郎〔新聞〕大二　一　三五
新選擧法の研究　坂　千秋〔法政〕大二　三　一一
改正選擧法に就て　齋藤　巖〔新聞〕大二　一　一
普選法案中の缺格者に就て　高田　懷吉〔原議〕大二　三　二
普選法案と近代の歐米道德　江木　衷〔法新〕大二　一　二
新選擧法實施に於ける我政界の分野に就て　原　夫次郎〔新聞〕大二　一　三九
衆議院議員選擧法の一大缺

獨逸の潛航艇戰　未成　重雄〔外時〕ス四・三　三七
歐洲戰爭に於ける客船艦及灣水艇の價値　日高　謹爾〔外時〕ス四・三　三七
潛航艇の觀念　小林俊次郎〔法論〕ス六・一　二
潛水艇及獨潛水艇戰の海事上に及ぼせる影響　森山慶三郎〔海法〕ス六・一　二
潛水艇戰の法理　立作太郎〔法協〕ス六・三　五
潛水艇の港戰法上の地位　跡部定次郎〔商法〕ス六・三　六・七
獨逸の潛航艇戰に關する史　木村　鋭市〔外時〕ス六・三　三九
暴言の動機に就て　長岡　春一〔外時〕ス六・三　三九
最近に於ける獨逸の激甚なる潛水艇戰及英國の敵國通商禁絕　立作太郎〔外時〕ス六・三　三七
英國の輸入貿易と潛航艇戰　渡邊　幾治〔外時〕ス七・三　三六
戰爭　寺田四郎〔國際〕ス七・一　二
潛航艇と武裝商船　伊藤正德〔外時〕ス二・三　四八
英佛の想敵關係と潛艇協定
敗

【センサス】圖解調査と見よ。

米國は果して戰時禁制品なる乎　高橋　拾六〔法協〕ス五年・三卷　二號
シドニー號事件に付巴里法科大學教授ルノウ氏の意見　石井菊次郎〔法協〕　四
戰時禁制品論　秋山雅之助〔法政〕明四四・一　一
戰時禁制品を論ず　遠藤　源六〔法協〕明四四・一　一
戰時液體著カメロン事件論　高橋　作衛〔內外〕明四五・一　五
禁制海運と戰時禁制品　遠藤　源六〔法政〕明四五・七　一
戰時禁制海運論　遠藤　源六〔國際〕明四五・一　一
戰時禁制人と論　立作太郎〔法協〕明四五・七　一
禁制品に就て　ネルランド〔國際〕明四五・一　一
露國と戰時禁制品　松原　一雄〔外時〕明四五・一　一
露國戰時禁制品項目と棉花　千賀鶴太郎〔外時〕明四五・一　一
禁制品の處分に關する日露　八
英並大陸の諸主義の比較　高橋　作衛〔國際〕明四五・一　一
戰時禁制品中殊に石炭供給　三上　英雄〔法政〕大一・三卷　二號

【戰時禁制品】參照＝局外中立。

戰時禁制品に關する一提案　小村　欣一〔法協〕明四五・二　二
戰時禁制品の到達地を論ず　遠藤　源六〔法政〕明四五・10　八
戰時禁制品と權恕する船舶を拿捕し得る時期　遠藤　源六〔國際〕明四五　四　九
クノーン氏の戰時禁制品に關する日露兩國法論と讀む　遠藤　源六〔明法學〕明四四・10　一　四八・七
戰時禁制品の制度の全廢　立作太郎〔法協〕明四四・三　八
戰時禁制品論　立作太郎〔國際〕明四四・三　六
戰時禁制品に關する遠藤新
海主義の擴張　立作太郎〔新報〕ス五・三　一
現戰爭に於ける戰時禁制品　立作太郎〔國家〕ス五・三　九
英國と戰時禁制品　長岡　春一〔外時〕ス五・三　三七
海洋の自由と戰時禁制品　石川　實〔外時〕ス九・三　三四

【戰時船舶管理令】ミニステリアル

戰時船舶管理令と商法第六一四條第一項　鳥賀陽然良〔新報〕ス六・三七　二
戰時船舶管理令と其の運用　內田嘉吉〔財經〕ス六・四　二
戰時船舶管理令實施の一年間　伊藤重治郎〔財經〕ス七・五　九
戰時船舶管理令と商法第六

一四條　上の畑檢二〔京法〕大七年　三號
船舶管理令を論ず　松波仁一郎〔法協〕大七　二六　二
船舶管理令と傭船契約の解除　岩井　尊文〔志林〕大七　三〇　一
戰時船舶管理令と傭船契約　岩田　宙造〔辯協〕大七　三三　四
商法第六一四條と戰時船舶管理令　岩田　宙造〔辯協〕大七　三三　四
管理令　松本　烝治〔新聞〕大七　一　三四
戰時船舶管理令と傭船者の解除權　鹽田　環〔新聞〕大七　一　三五七

【先取特權】

負傷者最後の病に關する債權　ルゲキヨー〔法協〕　三三　七
主特權と論ず　田中　隆三〔法協〕　三三　七　六二
不動產先取權論　板倉松太郎〔志林〕　四七　六
先取特權に準用すべき抵當權の規定　加藤　正治〔志林〕　四四　九　六
保險金に對する質權又は先取特權の效力　赤上　恭一〔新報〕　四三　九　六
動產上の先取特權の順位　横田　秀雄〔新報〕　四三　一〇　八
留置權者と優先權　西川　一男〔新報〕　四四　三　八
動產賣買の先取特權相互間の順位　西川　一男〔新報〕　四四　三　10
特別擔保の意義

先取特權疑義七則　三浦　信三〔評論〕大四　三　三
雇人給料及日用品供給の先取特權　鈴木眞一郎〔新報〕大五　六　二
物上代位の場合に於て代表物たる債權の差押と爲せる債權者とこれに對して優先權を有する債權者との關係（民法第三〇四條の解釋）　藏道　文藝〔京法〕大五　一一　六
物上代位を論ず　横田　秀雄〔國家〕大七　六　八九
勞働者の賃金債權と先取特權及其保護規定に付きて　小島豪三郎〔新報〕大九　三〇　四
先取特權の不權衡　北斗　生〔新聞〕大四　一一　三五

【戰時利得稅】

戰爭利得稅新案　小川鄉太郎〔經濟〕大　四　一　四
戰爭利得稅新法　小川鄉太郎〔經濟〕大五　二　一
戰時利得稅の諸學說及實例　神戶　正雄〔經濟〕大五　三　二
戰時利得稅と其の是非　鐵部健太郎〔財經〕大六　四　10
戰時利得稅の諸例　神戶　正雄〔經濟〕大六　五　二
戰時利得稅と論ずる人々に　中村　茂男〔國家〕大六　五　一一
戰時利得稅に關する新立法　木村鐵太郎〔新聞〕大六　一　二六の四
戰時利得稅論　內池　廉吉〔國家〕大七　三　一

我戰時利得稅を論ず　小川鄉太郎〔經濟〕大七　七　二
戰時利得稅法適用の期について　佐藤　雄能〔東經〕大七　七　二
鐵道業と戰時利得稅　佐藤　雄能〔東經〕大七　七　二
戰時利得稅の永續性　神戶　正雄〔經濟〕大八　八　一一

【外國】

英國の戰爭利得稅　小川鄉太郎〔經濟〕大五　二　四
各國の戰時利得稅制　〔實村〕大六　三　二
英國に於ける戰時利得稅　神山　政良〔國家〕大六　三　二

【戰爭】

參照＝歐洲戰爭。外交。軍國主義。戰爭。國際聯盟。戰費。日露戰爭。日清戰爭。平和。
近世內外戰死者及戰費統計　高橋　二郎〔統集〕明一　一　四
戰時の統計に就て論ず　相原　重政〔統集〕明三七　一　一五七
戰爭哲學　ルボン〔法協〕明三九　一四　平七
解兵論　ディジャルダン〔外時〕明三三　二　二三
今日以後の戰爭　有賀　長雄〔外時〕明三三　二　二五
戰爭廢止試驗案（講演）　中村　進午〔明法〕明四一　一　三七
吾人の戰爭觀　蜷川　新〔國際〕明三五　一　一
平和の戰爭　戶水　寬人〔外時〕明三五　五　一
戰爭存廢論者の意思と紹介　中村　進午〔法政〕明三五　六　五

主義の戰爭乎否乎　立　作太郎【外時】大六　二天　三〇七
不解噺　立　作太郎【外時】大六　二六　三〇九
海上に於ける戰爭危險　伊藤萬太郎【統集】大六　一　四三九　四五〇
人道と戰爭　鶴田　悉【辯協】大七　三　四
與國の戰爭目的　末廣　重雄【外時】大七　二七　三一八
グロオスマン「戰爭と化學工業」（譯）　朴堂　學人【財經】大七　八　六　三　十一　十二　一　二
戰爭と文化（講演）　高田　保馬【日社】大七　六　一三
戰爭と文化（講演）　山内雄太郎【日社】大七　六　一三
戰爭と文化（講演）　椎尾　辨匡【日社】大七　六　一三
戰爭と文化（講演）　宇都宮　鼎【日社】大七　六　一三
戰爭と文化　高田　保馬【經叢】大八　八　一二
戰爭と後代の負擔　舞出長五郎【國家】大八　三三　五
國際聯盟と戰爭　岩崎彦彌太【日社】大九　七　四五
戰時狀態の延長　高木　信威【外時】大九　三三　三八一
國家主義　帝國主義、軍國主義　戰爭讃歌　杉村陽太郎【外時】大一〇　三三　三九八
戰爭と道德の原則　財部　靜治【經叢】大一一　一五　五
戰爭は遂に防止し得べからざるか　青木　節一【國聯】大一一　二　六
武力的制裁についての一考案　稻垣　守克【國聯】大一一　二　八
社會革命と戰爭　小泉　信三【財經】大一一　九　一二　一三
戰爭に關係ある獨逸哲學　村瀨武比古【法治】大一一　一　七
戰爭と產業との關係及我國の戰爭と產業　松下　芳男【法治】大三　二　一〇
戰爭と交通　松下　芳男【國知】大一三　三　九
奈翁戰爭に關する若干の考察　鶴田　悉【辯協】大七　三三　四
猪谷　善一【商研】大三　三　二

參照＝海上捕獲。交戰團體。局外中立。國際法。水雷。赤十字。潛航艇。戰爭法規。戰利品。仲裁裁判。平和。

【戰爭（センソウ）】（國際法）

交戰と强制手段との區別　花井　卓藏【新報】明四八　五　五二
交戰原因論　花井　卓藏【新報】明四九　六　六二
國際上開戰の時期を論ず　石山　彌平【新報】明四四　一一　一二九
國際法上の戰爭　高橋　作衛【新報】明四五　一二　二
歐洲公法學者の戰爭觀並平和觀　蠟川　新【法協】明三六　二一　七
國際法上の戰爭と觀念　立　作太郎【新報】明三七　一四　九
立敎授の捕獲開戰論に就て　松原　一雄【國際】明三七　二　一〇
戰爭の定義に關する疑義　蠟川　新【國際】明三七　二　一三
宣戰　中村　進午【志林】明三七　六　五三
戰爭に就て　寺尾　亨【志林】明三七　六　五五
國際公法の基礎を論じて戰爭の地位に及ぶ　秋山雅之助【志林】明三七　六　五七
陸戰と海戰との別　松原　一雄【志林】明三七　六　六二

國際法上當然砲撃を加へ得べき所謂守備せる都邑の觀念　立　作太郎【外時】明三七　七　三　一
立學士の高敎を仰ぐ　小林伊太郎【外時】明三七　七　七四　一
小林君に答ふ　立　作太郎【外時】明三七　七　七八　一
戰爭の性質に關する諸學說　中村　進午【國際】明三八　三　四　一
開戰の時點　千賀鶴太郎【法政】明三八　九　八　一
戰爭宣言に關する疑問　ローラン【國際】明三九　五　一
開戰の同盟國に及ぼす效果を論ず　立　作太郎【新報】明四〇　一七　一
國際法協會と宣戰　牧野　英一【外時】明四〇　一〇　三
戰爭論　蠟川　新【國際】明四〇　五　八―九
國際法と戰爭及平和　寺尾　亨【法政】明四〇　一一　明三一　三二　二
交戰團體と獨立權との關係　有賀　長雄【國家】明四五　二六
內國戰爭に於ける國際法規の適用　立　作太郎【志林】明四五　一四　五
戰爭の法理　蠟川　新【法協】大二　三一　三
戰爭の國際法的時觀　立　作太郎【法協】大二　三三　九
開戰の交通貿易並に敵國人民及び其財產に及す效果　立　作太郎【國國】大三　二　九
戰亂と國際法　牧野　義智【國國】大三　二　一一
交戰國間の條約に及ぼす開戰の效果（我國に於ける獨逸人の特許權に就て）　遠藤　源六【法協】大三　三三　一二
戰爭と永世中立條約　牧野　義智【國國】大五　四　一二
外國の內亂の場合に於ける交戰團體の承認を論じて　立　作太郎【外時】大五　三三　二七
叛亂狀態に及ぶ　立　作太郎【外時】大五　三三　二七
戰時復仇　立　作太郎【外時】大五　三三　二八
戰數　立　作太郎【外時】大五　三三　二九
現戰爭に於ける海牙の三宣言の適用特に有毒瓦斯の使用　立　作太郎【國際】大五　一四　九
戰爭論　跡部定次郎【法論】大六　一　二一三
國交斷絕と治外法權　泉　哲【國國】大六　五　五
保護國の宣戰が被保護國に及ぼす影響　泉　哲【國國】大六　五　九
戰爭の國際條約に及ぼす影響　泉　哲【國國】大六　五　一三
空中より敵襲撃　蠟川　新【外時】大六・六　二六　二一
戰爭狀態の開始　立　作太郎【外時】大六　二六　三二
現戰爭に於る海上私有載貨　立　作太郎【法協】大七　三六　一〇
現戰爭に於ける毒瓦斯使用法及び戰爭に關するグロチウスの思想　小川精一郎【國際】大七　一六　七
戰時叛逆を論ず　井川　恭【京法】大七　一三　二一四
交戰權と中立權の極限　立　作太郎【新報】大七　二八　一〇
戰爭權の消滅に就て　泉　哲【外時】大二　三七　四三九
稻垣　守克【國知】大一四　五　二

グロチウースの戰爭觀に就て　松原　一雄〔國際〕大一四　二四　一
戰爭の違法化に關する一考察　阪本　瑞男〔外時〕大一五　四三　五〇八

【戰爭法規】

戰時國際法要領　花井　卓藏〔新報〕昭二七　四　四一
戰時國際公法上の日本帝國　有賀　長雄〔國家〕昭二七　八　八八
戰爭と國際法との關係を論ず　碧江　人〔志林〕昭三　二　二
合衆國新定海戰例規批評　有賀　長雄〔外時〕昭四・四　四三
陸戰の法規慣例に關する條約　有賀　長雄〔國家〕昭三五　一六　一八八
謂ゆる戰爭法規の拘束力に就て　片山　義勝〔法協〕昭三七　三
戰時國際法の拘束力如何　今井　嘉幸〔新報〕昭三七　一四　一三
海戰法規の英國派と大陸派　牧野　英一〔外時〕昭三七　七　七五
戰爭と條約との關係　山田　三良〔新聞〕昭三七　一　一九二
米西戰爭に關聯して生した　中川恒次郎〔新報〕昭八　一五　一
る國際法の成例及疑問　高橋　作衛〔新報〕昭八　一五　一
海上公法の四大原則　寺尾　亨〔法協〕昭四〇　二五　二
戰爭と國際法
陸上に於ける露軍の戰時法規違反の事實　遠藤　源六〔國際〕昭四一　七　一
海戰法規に關する倫敦宣言に就て　立　作太郎〔外時〕昭四一　二三　五
倫敦海戰法規會議に就て　山川　端夫〔法協〕昭四一　二七　一九
海戰法會議に就て　遠藤　源六〔國際〕昭四一　二七　八一九　五一六
倫敦海戰法會議　長岡　春一〔國際〕昭四二　九　二一〇
飛行機に關する戰時規則と海牙諸條約との比較研究　高橋　作衛〔國際〕昭四五　一〇　九一〇
戰時國際法に對する日獨觀念の差異　篠田　治策〔國際〕大四　一四　一
海底電線と最近戰時法　石坂　泰三〔國際〕大四　一四　一
空中戰規　中山　詳一〔京法〕大四　一〇　二
英國と海戰條規　長岡　春一〔國際〕大四　一三　六
戰爭と條約　蜷川　新〔國際〕大四　一三　七
獨逸思想と陸戰法規　立　作太郎〔國家〕大四　二九　八一〇
海牙陸戰條規と敵人の權利保護　跡部定次郎〔京法〕大四　一〇　一一
戰爭法規を論ず　遠藤　源六〔新報〕大五　二六　五
戰時法規と國際條約　立　作太郎〔國際〕大五　一五　二
現戰爭と交戰法規　立　作太郎〔外時〕大五　二四　三八〇　三八二
交戰諸國の戰時法規集　色部　貢〔國家〕大六　三一　三
空戰法規に關する考察　泉　哲〔外時〕大一〇　三四　四〇七
戰時法規改訂の要旨　泉　哲〔法治〕大一一　一　二
華府會議と戰時國際法　立　作太郎〔國際〕大一一　二　四

戰時國際法の現在　立　作太郎〔國際〕大一二　二　一五
空戰法規私見　泉　哲〔國際〕大一一　二一　五一六
泉博士の「空戰法規私見」を讀む　松本　俊一〔國際〕大一一　二一　七一八
空戰法規に就て　泉　哲〔國際〕大一一　二一　一〇
戰時海軍政策として觀たる英國主義海戰法規　秋山　理敏〔外時〕大一二　三六　四三〇
空戰法規草案を評す　泉　哲〔國際〕大一二　二一　四三四　八
戰爭法規違反者に對する制裁の新傾向　松原　一雄〔國際〕大一二　二一　九
空戰法規としての臨檢搜索權　松田　道一〔國際〕大一三　二二　六
空戰法規發展史序論　楢崎　敏雄〔新報〕大一五　三六　四

【仙臺】

舊仙臺藩に行はれたる買米制度　土屋　喬雄〔經論〕大一二　一　三
舊仙臺藩の鹽專賣　土屋　喬雄〔經論〕大一三　二　三
舊仙臺藩の赤子養育仕法　土屋・喬雄〔經論〕大一三　三　一
仙臺通寶と琉球通寶　土屋　喬雄〔經論〕大一三　三　三
舊仙臺藩財政狀態の沿革　土屋　喬雄〔國家〕大一四　三九　四一八
舊仙臺藩に行はれたる買米制度　土屋　喬雄〔經論〕大一二　一　三
舊仙臺藩の鹽專賣　土屋　喬雄〔經論〕大一三　二　三
舊仙臺藩の赤子養育仕法　土屋・喬雄〔經論〕大一三　三　一
仙臺通寶と琉球通寶　土屋　喬雄〔經論〕大一三　三　三
舊仙臺藩財政狀態の沿革　土屋　喬雄〔國家〕大一四　三九　四一八

【船長】

參照＝公共事業。國有。

【專賣】

參照＝公共事業。國有。

專賣の性質を論ず　上杉　愼吉〔志林〕昭二七　六　五三
專賣局現業員共濟組合概說　青木　道〔國家〕〔國經〕昭四五　二六　一三　十九　十三
專賣と戰後財政　小川鄕太郎〔經叢〕大四　一　四一
煙草專賣法上の一問題　宮　島〔辯協〕大五　二〇　一
酒の政對專賣と公益　神戸　正雄〔經叢〕大九　一〇　四
米穀專賣提議　河田　嗣郎〔エコ〕大二　一　九
是非必要な米專賣制　河田　嗣郎〔エコ〕大三　二　一六
佐藤信淵の國家專賣法

外國

支那に於ける鹽專賣　根岸　佶〔國經〕昭四三　八　一
古支那の鹽專賣　田中　保夫〔亞經〕大七　二　四
瑞西穀物專賣計畫　瀧本　美夫〔國經〕昭四二　七　三
獨逸帝國石油專賣法案　關　一〔國經〕大二一五　四一五
獨逸の穀物專賣　瀧谷　善一〔國經〕大四　一八　四
露國の火酒專賣　瀧本　美夫〔國經〕昭四一　五　五
露國に於ける政府穀物專賣案　神戸　正雄〔京法〕大二　八　六

露國の砂糖專賣案　伊東祐穀〔統集〕明二七 一 一六〇
船舶檢疾論　松波仁一郎〔法協〕明二八 一三 七
清國盛京省支那形船　伊東祐穀〔統集〕明二七 一 一六〇
千九百年十二月一日調査の外國に在る獨逸國船舶人口　相原重政〔統集〕明三六 一 二七二
最近世界船舶噸數統計　市村富久〔國家〕明四四 二一 一〇
獨逸帝國船舶の現在數及港灣出入船舶統計調査法　相原重政〔統集〕明四一 一 三三一
本邦不定期船の現狀及發展策　田崎愼治〔國經〕明四四 一一 三
民設船舶檢査組合の必要　田崎愼治〔國經〕大三 一六 一
船舶價格の整理方法　佐藤雄能〔東經〕明四五 六五 一六三三
不定期貨物船研究　高野遽〔國經〕大四 一九 一一
新船賣却の可否と奬勵金低減問題　寺野精一〔財經〕大五 三 一〇
太平洋上の外國船腹增加噬ふべき船腹調節決議　川瀨俊繼〔東經〕大五 一七 一八四八
英國の船腹不足と物價騰貴　川瀨俊繼〔東經〕大五 七四 一八六四
米國船舶院と船舶國有　〔資料〕大五 二 四
本邦に於ける船舶に就て　伊藤重治郎〔國經〕大六 二二 四一五
日本船舶の輸出禁止を論ず　松波仁一郎〔法協〕大六 三五 三
米國の鐵材禁輸と我が船舶管理案　寺野精一〔財經〕大六 四 一〇
船舶行政政策私見　小畔四郎〔洋經〕大六 一 一七九一
船腹調節策　戸田海市〔經叢〕大六 四 六
貸借對照表に現はれたる日本郵船會社　渡邊鐵藏〔國家〕大六 三一 六一八
船鐵交換と製鐵業の前途　野呂景義〔財經〕大七 五 一七九二
船舶の重量噸數に就て　倉田庫太〔國經〕大八 二八 一七九三
不定期船殊に本邦の不定期船　〔資料〕大七 四 一〇
定期船と不定期船の研究　松岡均平〔國家〕大七 三二 六一八
我國に於ける船舶金融　細矢祐治〔國經〕大八 二六 一四
海運界の前途と船舶合同問題　內田嘉吉〔財經〕大八 六 五
運賃利益船價船腹の連帶的變動關係　小島昌太郎〔經叢〕大八 九 四
船舶能力の發達　小島昌太郎〔經叢〕大九 一〇 五
世界に於ける船舶狀況　〔國際〕大九 八 八
船舶に就て　孕石元照〔國經〕大九 二九 二
「ライナー」と「トランプ」　廣田保〔國經〕大九 二九 二
船鐵保護政策私見　寺野精一〔財經〕大一〇 八 一
消燈船の危險に就て　久川武三〔國經〕大一〇 三一 五
輸出貿易に於ける船積の研究　上阪酉三〔商事〕大一四 五 二
國際貸借尻と船舶金融　伊藤重治郎〔金融〕大一三 一 二
船に關聯せる語源の研究　住田正一〔國經〕大一三 三八 六
我國古代の船　住田正一〔國經〕大一三 三七 五
我國中世以後の船　住田正一〔國經〕大一三 三七 六
文久二年の官船來一次上海派遣と文久三年一元治元年の第二次上海派遣に關する史料に就て　武藤長藏〔商濟〕大一四 五 二
船貨積付法の研究　加藤吉次郎〔商事〕大一四 六 一一二
運賃論より見たる繫船同盟と海運同盟　小島昌太郎〔經叢〕大一四 二一 二
八幡船考　新村出〔經叢〕大一四 二一 四
船舶價額の整理　佐藤雄能〔會計〕大一五 一八 三
元治元年上海派遣官船「健順丸」に關する長崎側の史料　武藤長藏〔商濟〕大一五 六 一

【船舶（センパク）】參照＝海運。戰時船舶管理令。

國際貸借尻と船舶金融　伊藤重治郎〔金融〕大一三 一 二
船に關聯せる語源の研究　住田正一〔國經〕大一三 三八 六
我國古代の船　住田正一〔國經〕大一三 三七 五
我國中世以後の船　住田正一〔國經〕大一三 三七 六
文久二年の官船來一次上海派遣と文久三年一元治元年の第二次上海派遣に關する史料に就て　武藤長藏〔商濟〕大一四 五 二
船貨積付法の研究　加藤吉次郎〔商事〕大一四 六 一一二
運賃論より見たる繫船同盟と海運同盟　小島昌太郎〔經叢〕大一四 二一 二
八幡船考　新村出〔經叢〕大一四 二一 四
船舶價額の整理　佐藤雄能〔會計〕大一五 一八 三
元治元年上海派遣官船「健順丸」に關する長崎側の史料　武藤長藏〔商濟〕大一五 六 一

【船舶及び船舶所有者（センパクオヨビセンパクショユウシャ）】參照＝海損。航海。戰時船舶管理令。

船籍論　松波仁一郎〔法協〕明三七 一二 八
日本船舶論　松波仁一郎〔法協〕明三七 一二 一〇
船長の技術上の過失に付て　井關友一郎〔法協〕明三八 一三 三
貨主に對する船主の責任　市村富久〔法協〕明三九 二四 三
不法行爲に關する民法第七一五條の規定船員の不法行爲に付き船舶所有者か第三者に對して負ふ損害賠償責任に關する商法の現定より生する疑義　市村富久〔法協〕明三四 一九 八
再び船主の責任を論ず　市村富久〔法協〕明三四 一九 二
有限責任に就て　市村富久〔法協〕明三五 二〇 二
比較船舶國籍法　東野俊一〔法協〕明三六 二一 四
船舶貸借人の權利義務に就て　市村富久〔法協〕明三六 二一 一〇
發航準備終了後に發生したる債權の爲に船舶を差押ふることを得べきか　花岡敏夫〔辯協〕明三六 七 七
有限責任の解　岡野敬次郎〔新報〕明三八 一五 一
海船航海の區域に就て　市村富久〔法協〕明三八 三三 一〇
有限責任論　高根義人〔新報〕明三八 一五 二二
船舶共有の性質　松波仁一郎〔新聞〕明三八 一 二六二
船舶所有者の責任の沿革　加藤正治〔志林〕明三九 八 二
船舶貸借人の權利義務に關する最近英國法　市村富久〔法協〕明三九 二四 三
內外人間に於ける船舶共有契約の效力　田島戾太郎〔法協〕明三九 二四 四
船舶所有者の意義に就て　市村富久〔法政〕明三九 一〇 七

商法第五四四條に就て　市村　富久【志林】明四四　年　九　卷　一　號
船舶所有者の責任の制限　毛戸　勝元【京法】明四一　三　四―一〇
船主の責任に關する新判例　山田　三良【法協】明四一　二六　九
海產の免責的委付に關する判例　市村　富久【法協】明四一　二六　一〇
衝突に因る船主の責任　鹽田　環【法協】明四一　二六　一一
【辯協】明四一　一三　一二五
船舶所有者が爲す委付に就て　平出　修【辯協】明四一　一三　一二〇
萬國海法會議に於ける船舶所有者の責任制度　岡野敬次郎【法協】明四二　二七　一
商法第五四四條の解釋に就て　市村　富久【國經】明四二　七　三
船舶の法律上の性質　加藤　正治【國經】明四二　七　四
挽船船長の過失による船舶所有者の責任　市村　富久【法協】明四二　二七　五
船舶の意義　加藤　正治【志林】明四二　一一　八
海產委付　市村　富久【法協】明四二　二七　九―一〇
船舶所有者の責任に制限に關する各國の四主義　入江　良之【新聞】明四二　―　（四五八九五六九）
船腹借切契約の性質　鹽田　環【志林】明四二　一一　一〇
船舶論　坪根　久松【評論】大元　一　一
船主責任の將來　鹽田　環【志林】大元　一四　一〇
タイタニック號船主の責任　加藤　正治【法協】大二　三一　一

海產委付の法律上の性質　松本　烝治【京法】大二　八　八
船主責任概論　市村　富久【法協】大三　三三　一二
船主協定を論ず　山本　理一【法協】大四　三三　六
船主の責任の經濟的見地　市村　富久【新聞】大四　―　（一〇五一一〇五六）
陸內水航行及挽船に關する私法制定の必要　市村　富久【海法】大五　一　一
船籍移轉に就いて　寺田　四郎【國際】大一八　一五　五十六
船舶所有者の塔航擔保責任　今西與三郎【商經】大六　一　五
船舶共有の本質を論ず　鳥賀陽然良【京法】大六　一二　二
船主の海產委付と其後の法律關係の按排を論ず　齋藤　巖【新聞】大七　―　一四〇〇
訴訟當事者としての船舶委付論　寺田　四郎【新報】大八二九　九
船舶共有者の持分强賣權　藤本幸太郎【國經】大九二九　一―三
船舶の讓渡と海員の義務（勞務商品論）　小町谷操三【新報】大九三〇　四
船舶失踪に關して（主として海員給料との關係）　松波仁一郎【海法】大一〇　―　五
船主の責任制限ある債務に就て　平松　憲夫【法叢】大一一　七　六
船舶所有者の航海堪能力擔保義務　西島彌太郎【法叢】大一二　八　一六
船舶滿載吃水線法の實施　東　季彥【海法】大一一　一　六
船舶艤裝者の免責約款に就て　小野　猛【海法】大一一　一　六

て　寺田　四郎【法治】大二　年　二―三　號
船舶委付と運賃　加島　五郎【辯協】大二　二七　七　卷
船舶の霧中速力を論ず　津島　憲一【海法】大二　一　八　卷
國際船主倫敦會議（一九二四年）　松波仁一郎【海法】大二　一　九　卷
船員の不法行爲に對する船主の責任を論ず　田中　誠二【海法】大二　一　九　卷
船舶所有權讓渡の要件を論ず　田中　誠二【商研】大一四　五　二　卷
船舶の國籍に就て　田中　誠二【國際】大一四　二四　一〇　卷
公船の責任に就いて　松波仁一郎【法協】大一四　四三　五　卷
公船責任論の著述に就き　松波仁一郎【外時】大一四　四一　四八二　卷
公船責任論の公刊と其世界的反響　松波仁一郎【海法】大一四　―　一〇　卷
船舶無線電信施設法の制定　上の畑悌二【海法】大一四　―　一〇　卷
關東州置籍船舶の航行制限に關する勅令の制定　上の畑悌二【海法】大一四　―　一〇　卷
發航に際する船主の堪航力擔保義務　西島彌太郎【法叢】大一五　一一五　一　卷
船舶所有者の意義　近藤　民雄【法公】大一五　三〇　六　卷

外國法

北米合衆國の船舶補助法案　土井　慶吉【國經】明四〇　二　二　卷
船舶賃借人の責任に關する最近英國法　市村　富久【法協】明四一　二六　五　卷
佛國船舶所有者責任制度　加藤　正治【法協】明四三　二―一二　二八―一一〇　卷
米國に於ける船舶買收法案に就て　岸本熊太郎【經叢】大五　三　二　卷
米國船主責任法（Hartes Act）に就て　加藤　正治【海法】大五　一　一　卷
英國法に於ける船主有限責任制度の概要　鳥賀陽然良【新報】大八二九　八―九　卷
英國船舶登記法　大原万千百【海法】大一一　一　六　卷
米國商船法に就て　長川　豐樹【海法】大一一　一　六　卷
英國船主責任制度論　大濱　信泉【早法】大一四　四　一　卷

【船舶債權者（センパクサイケンシャ）】

寄港地に於ける普通債權者と船舶の差押　加藤　正治【志林】明四一　一〇　四　卷
船舶債權者の先取特權の消滅に就て　林　龍太郎【新聞】明四一　一　五四二　卷
船舶假取押には登記を要せざる乎　帶刀吉五郎【新聞】明四二　一　六七〇　卷
船主の責任制限ある債務に就て　西島彌太郎【法叢】大一一　八七　一九　卷

【戰費（センピ）】

參照＝軍事費。

近世內外戰死者及戰費統計　高橋　二郎【統集】明一八　一　四三　二六
英國の戰費と經濟　河田　嗣郎【經叢】大四　一　四　二七
戰費支辨方法を論ず　小川鄕太郎【京法】大四　一〇　一—六
英國の戰費と經濟實力　河田　嗣郎【經叢】大六　五　四
戰費調達問題　小島昌太郎【經叢】大七　七　一—二
戰費とは何ぞや　小島昌太郎【經叢】大七　六　六
戰費調達法の歸趨　阿部　賢一【同論】大九　一　一

【占有權】

占有を論ず　岡野敬次郎【法協】明一〇　五　三八—三九
獨逸民法上占有權の法理を論ず　パーテルス【法協】明三二　一一六　一二—一二
民法第一七八條の引渡なる文字は同第一八三條に依り占有權を取得する場合を包含するや　大場　茂馬【新報】明三二　九　九八
民法第一七八條及第一八三條に關する大場君の論說を讀む　小野澤龍吉【新報】明三二　九　一〇一
占有論　荒井賢太郎【志林】明三二　二　七
準占有權　中山成太郎【法政】明三二　四　三六
新民法に於ける容假占有及代理占有　卜部喜太郎【新報】明三二　一〇　一一〇
代理占有を論ず　梅　謙次郎【志林】明三四　三　二六
第三者に對抗することを得べき動產の引渡と占有改定の效力に付て　倉橋準太郎【新聞】明三五　一　八一
占有權取得に關する所謂代理人の意義　磯部　尙【辯協】明三六　七　六五
民法第一九三條と監守盜との關係　渡邊　輝【新聞】明三七　一　二三八
民法第一九三條と監守盜との關係　岩瀨　義一【新聞】明三七　一　二三〇
民法第一九二條及第一九三條の沿革竝法制比較　志田鉀太郎【新報】明三八　一五　一—五
占有の訴に就て　土方　寧【新報】明四〇　一七　一
民法第一九三條の解釋　橫田　秀雄【志林】明四一　一〇　一〇
民法第四七五條と同第一九三條との關係に就て　伊藤藤三郎【新聞】明四一　一　四九九
占有意思と代理占有　富井　政章【法協】明四三　二八　一
占有意思論　石坂音四郎【法協】明四三　二八　五—七
民法第一九二條論　石坂音四郎【志林】明四三　三　六
占有權主體の複數　西川　一男【新報】明四三　二〇　九
レーツロープ「民事上所謂占有と刑事上所謂握持に就て」（譯）　平島　及平【法記】明四四　二　三
占有の妨害と一箇年後に於ける要償　橫田　秀雄【新報】明四四　二　二
消費貸借の成立と占有の移轉　富井　政章【法協】明四五　三〇　一
所有權者及地上權者と代理占有　西川　一男【新報】明四五　三　二
取消し得べき法律行爲に因り給付したる動產と第三者の占有　西川　一男【新報】明四五　三　四
占有權移轉に關する一判例　淺木【新聞】明四五　一　七七
民法第一九二條の適用範圍　富井　政章【法協】大二　三　二
占有改定に依りて占有權を取得せる者にも民法第一九二條の適用ありや　乾　政彥【志林】大二　一五　九
非權利者か權利者の同意を得て爲したる權利の處分　石坂音四郎【志林】大二　一五　三
盜品及び遺失物の占有に就て　富井　政章【評論】大二　二　八
民法第一九二條の解釋に就て　乾　政彥【法協】大二　三　九
善惡占有に於ける善意の意義　乾　政彥【志林】大二　一五　九
占有要件論　中島　玉吉【京法】大二　八—一〇
動產の即時取得には正權原の占有を必要とするや　橫田　秀雄【評論】大二　二　一八
占有權の性質　富井　政章【法協】大三　三　一
占有權の侵害と不法行爲　末弘嚴太郎【志林】大三　一六　二
代理占有と代理人をして占有を爲さしむる意思　橫田　秀雄【新報】大三　二四　三
留置權の債權と占有との牽連　三潴　信三【評論】大三　二　一五
他人の物の占有者と撤罔及横領の所爲　山岡萬之助【新報】大四　二五　二
金錢の即時取得に付て　松本　烝治【法記】大四　二五　二
占有者の相續人と其新權限　水口　吉藏【新報】大四　二五　二
代理占有を論ず　橫田　秀雄【評論】大四　三　一九
民法第一八三條の解釋に就て　森　作太郎【新聞】大五　一　一〇八〇
民法第一九二條適用の範圍　大橋　誠一【新聞】大五　一—一八六
民法第一八三條の適用　疇道　文藝【京法】大六　一二　三
民法第一九三條論　宮本　英雄【京法】大六　一二　五—七
サルモンドの占有論　藥師寺傳兵衞【志林】大六　一九　一〇—一一
クロンベルヒの占有論　藥師寺傳兵衞【法記】大七　二八　二
代理占有　鳩山　秀夫【志林】大七　二〇　二—三
イエリング占有意思論抄譯　末川　博【京法】大七　一二　五
遺失物と占有喪失後に於ける權利拋棄の意志　三潴　信三【新報】大七　二八　五
代理占有と本人の意思　長島　毅【新報】大七　二八　七

占有の繼續及併合を論ず　横田秀雄〔國家〕大正六年
民法第一九三條と質權者の占有の繼續及併合を論ず　横田秀雄〔國家〕大正六年
權利取得に就て　上田八九三〔新聞〕大正七年
占有の繼續及併合を論ず　横田秀雄〔國家〕大正七年
占有權の價額　山田正三〔法曹〕大正八年
動產の即時取得を論ず　横田秀雄〔國家〕大正八年
民法第一九二條の要件を具備したる占有者と依權者　長島毅〔新報〕大正八年
動物の取得　梅原錦三郎〔法政〕大正八年
動物占有者の責任　師寺志光〔新報〕大正一〇年
金錢と即時取得　岡村玄治〔法協〕大正一〇年
占有權の本體　大西利夫〔新聞〕大正一一年
無記名有價證券と民法第一九三條の適用を論じて商法第二八二條に及ぶ　横田秀雄〔法政〕大正一一年
占有意思を論ず　宮本英雄〔法叢〕大正一一年
英法に於ける動產即時取得　寺野義太郎〔志林〕大正一四年
占有に於ける自力救濟　吉田新報〔新報〕大正一五年
間接占有と代理占有　横田秀雄〔法政〕大正一五年
占有の一班　大西利夫〔新聞〕大正一一年
占有意思を論ず　横田秀雄〔法政〕大正一四年
法第二八二條に及ぶ九三條の適用を論じて商　宮本英雄〔法叢〕大正一一年
英法に於ける動產即時取得　寺野義太郎〔志林〕大正一四年
占有に於ける自力救濟　吉田新報〔新報〕大正一五年
間接占有と代理占有　久保田新報〔新報〕大正一五年

【戰利品】

英國海軍戰利法提要　ラッシントン〔國家〕昭和二年
戰利品に就て　江木冷灰〔新報〕昭和二年
戰場に於ける劫奪論　オッペンハイム〔國際〕昭和二年
戰利品論　鵜川新〔國際〕昭和二年
黑木軍の戰利品に就て　加藤豐夫〔國際〕昭和二年
戰役の結果沈沒したる交戰國艦艇の所屬に就て　遠藤源六〔國際〕昭和二年
西伯利戰爭と戰利品問題　小山精一郎〔國際〕大正七年

【占領】

占領論　花井卓藏〔新報〕昭和二年
占領地臣民の地位　山田三良〔國家〕大正一〇年
占領地に於ける課金を論ず　中村進午〔國際〕昭和二年
戰時の占領を論ず　寺尾亨〔國家〕大正一一年
北京掠奪事件の法律上の觀念　有賀長雄〔外時〕昭和二年
陸戰の法規慣例條約に付き占領地に於ける私有兵器鞭策の規定を論ず　秋山雅之助〔志林〕昭和二年
滿洲に於て帝國軍隊の行へる土地占領の性質　立作太郎〔國際〕昭和七年
滿洲地方に對し我軍隊は軍隊占領の權利を完全に行使し得るや否や　秋山雅之助〔志林〕昭和七年
滿洲の占領　松原一雄〔外時〕昭和七年
帝國軍隊の滿洲占領に關して松原學士に答ふ　立作太郎〔外時〕昭和七年
掠奪と徵發の法理　蛯川新〔國際〕昭和九年
戰地に於ける宣敎師の保護　有賀長雄〔國際〕昭和一〇年
在外軍隊の所在地住民に對する法權　立作太郎〔國際〕昭和一〇年
現品の徵發に對する補償を論ず　秋山雅之助〔志林〕〔國際〕昭和一〇年
所謂治外法權及び敵占領地に於ける住所　板倉卓造〔三學〕大正七年
占領地に於ける占領軍の國際法上の地位　寺田四郎〔國際〕大正一〇年

【染料】

人造藍と硫化色素　守屋源次郎〔日經〕昭和四年
染料藥品生產奬勵制度　戶田海市〔經濟〕大正四年
染料の話　島高徳本〔財經〕大正四年
各國染料業の現狀及び將來　鷲尾生堂〔財經〕大正四年
染料及び染料會社に就て　高松豐吉〔財經〕大正五年
染料工業の經營に就て　高松德治郎〔財經〕大正六年

アニリン染料　中澤良夫〔法論〕大正六年
支那の染料貿易　〔貿易〕大正六年
染料　〔經濟〕大正七年
染料工業の經濟的價値　高松豐吉〔財經〕大正七年
問題となれる染料中毒に就いて　長谷川武次郎〔社政〕大正一一年
染料保護の方針　神戶正雄〔時經〕大正一一年

ソ部

【倉（ソウ）庫（コ）】

參照＝常平倉。倉庫營業。農業倉庫。

近世倉庫業の經濟學上に於ける地位を論ず　内池　廉吉〔國經〕明四〇　年　三　卷　三　號
倉庫業と他の商業機關との關係　川上　賢三〔國經〕明四〇　三
倉庫業に就て　小野田政次郎〔東經〕明四一　五八　一四六六
倉庫業と財界の關係　明石　冠山〔東經〕明四一　五九　一四八〇
新假置場法の研究　津村　秀松〔國經〕大　元　一三　三―四
倉庫と米價　内池　廉吉〔國家〕大　四　二九　二
倉庫と金融　清崎　昌雄〔三學〕大　五　一〇　二一
大阪蔴分倉庫の爆發に就て　稟田　藤吉〔商經〕大　六　一　七
保管料の計算に就て　門脇　龍雄〔國經〕大　八　二七　一
冷藏倉庫論　内池　廉吉〔商研〕大二〇　一　二
倉庫と商品取引所との關係　稟田　藤吉〔商經〕大二　一　三三
甕糸金融と倉庫關係　高山　武雄〔銀研〕六　三　一　六
工業會社の倉庫部に就てターミナルフヲシリチーとしての倉庫　神馬新七郎〔會計〕大二三　一五　四―五
本邦倉庫の職能に就て　内池　廉吉〔商研〕大一三　四　一
倉庫證券による銀行業者倉庫業者の論爭　内池　廉吉〔國經〕大一四　三九　五
我が倉庫業界に現はれたる新傾向　安河内　舛〔銀叢〕大一四　五　四
保稅倉庫に就て　加藤吉次郎〔商事〕大一四　五　六
内池　廉吉〔商研〕大一四　五　二

【倉（ソウ）庫（コ）營業（エイギョウ）】

參照＝寄託。

質入證券の支拂拒絕證書作成地を論ず　毛戸　勝元〔法協〕明三三　一七　八
倉庫受寄物上の質權　飯田　宏作〔辯協〕明三三　四　二九
質入證券所持人か作らしむへき拒絕證書　梅　謙次郎〔法協〕明三三　一八　四―六
倉庫證券に就て　岡松參太郎〔新聞〕明三四　一　三四―三五
倉庫證券の形式　岡松參太郎〔法協〕明三四　一九　五
倉庫證券を一通と爲すの議に就て　梅　謙次郎〔志林〕明三五　四　二九
倉庫證券は一枚を可とするか二枚を可とするか　岡松參太郎〔内外〕明三五　一　六
預證券記載事項に關する倉庫營業者の責任の範圍　花岡　敏夫〔新聞〕明三六　一　一六六
寄託物を債務の擔保に供して預證券及質入證券に爲したる讓渡裏書は必しも無效に非す　松本　重敏〔新聞〕明三七　一　三八

倉庫營業の觀念　佐伯　叔作〔新聞〕明三七　年　卷　號
倉庫證券の效力　岡松參太郎〔内外〕明三七　三　二　二七五
倉庫證券の效力に關する岡松博士の論文を讀む　松本　烝治〔法協〕明三七　三　六
無記名式倉庫證券を論ず　ベーレント〔新聞〕明三八　一　二九八
預證券質入證券に關する規定改正意見　三谷　軌秀〔新聞〕明三九　一　三八八、三九〇
倉庫證券論　毛戸　勝元〔京法〕明三九　一九―一〇
京濱倉庫同盟會の商法中倉庫營業に關する規定修正意見　川上　賢三〔國經〕明四〇　三
倉庫證券規程修正問題　内池　廉吉〔東經〕明四一　五八　一四五二、一四五三
倉庫證券規程修正問題再論　内池　廉吉〔東經〕明四一　五八　一四五九
内池敎授の倉庫證券修正問題再論　川上　賢三〔東經〕明四一　五八　一四六一
倉庫證券に關する商法上の疑點　川上　賢三〔國經〕明四一　四　六
倉庫證券規定修正問題に付きて　花岡　敏夫〔東經〕明四一　五八　一四五七
倉庫會社の保管證書を論ず　青木　徹二〔志林〕明四一　一〇　一〇
倉庫證券の擔保に就て　青木　徹二〔辯協〕明四一　一一　一二四
倉庫寄託貨物の内出に就て　菰淵　清雄〔新聞〕明四一　一　五〇〇
倉庫證券免責條項の効力に就て　菰淵　清雄〔新聞〕明四一　一　四九二
質入證券の分離流通を論ず　川上　賢三〔國經〕明四二　六　六
倉庫證券上の債務者　青木　徹二〔國經〕明四二　六　一
倉庫證券に就て　岡野敬次郎〔新報〕明四二　一九　一一
商法中倉庫證券に關する改正案に就て　福地　國松〔新聞〕明四三　一　六八五
森作太郎氏の倉庫證券論に加勢す　森　作太郎〔新聞〕明四三　一　六六〇
倉庫營業に關する商法改正案に就て　山本　規章〔新聞〕明四三　一　六六二
倉荷證券に關する改正商法の大不備　小笠原　德〔新聞〕明四三　一　六七二
代替物倉庫證券の規定を望む　吉田八十綱〔新聞〕明四四　一　七三〇
一部出庫に關し改正商法第三八〇條の二と同第三八三條の三とを比較對照せんとす　吉田八十綱〔新聞〕明四四　一　六九七
倉庫規定修正案を評す　花岡　敏夫〔辯協〕明四四　一五　一五六
倉庫證券規定の改正と二枚一枚隨意制　花岡　敏夫〔國經〕明四四　一一　五
米券倉庫と特別法制定の必要　内池　廉吉〔國經〕明四四　一〇　一
内池　廉吉〔國經〕明四四　一一　二
金森　輝夫〔志林〕明四五　一四　三

混合保管論　内池　廉吉〔國經〕大二　一四　六
混藏倉庫寄託論　松本　烝治〔志林〕大二　一五　九
倉庫證券の不實の記載に對する責任　石坂音四郎〔新報〕大三　二四　一
保管者の責任保險を論す　松本　烝治〔評論〕大四　三　一九
倉庫寄託物と火災保險　丸谷　喜市〔國經〕大六　三　一
倉庫貨物の火災保險を論じ丸谷商學士の所說に及ぶ　白井　俊三〔國經〕大六　三　三
倉庫證券に依る擔保貸の形式と銀行業者の勢力　丸谷　喜市〔國經〕大六　三　四
米券倉庫其他混和保管に就て　松本　烝治〔新聞〕大六　一　一二五九　一二五〇
倉庫會計及事務整理上より觀たる商法第三七七條の價値　中西新兵衛〔國經〕大六　三　四一六
倉庫寄託契約に於ける疑義　白井　俊三〔國經〕大八　二六　二
倉庫保險契約の性質附保管義務竝保險義務　烏賀陽然良〔法叢〕大八　七　一
金庫契約に就て　竹田　省〔新報〕大八　二九　二
倉庫寄託契約に於ける入出庫の意義　白井　俊三〔國經〕大九　二八　五一六
倉庫保管契約に關する卑見に就て　烏賀陽然良〔國經〕大九　二九　一
質入證券所持人の權利を論ず　水口　吉藏〔國國〕大九　八　三
倉庫證券より起る銀行犯罪豫防策　伊藤由三郎〔銀叢〕大二三　二　四
倉荷證券記載の不備と損害賠償　安河内　舛〔銀叢〕大二三　三　二一三
記名持參人式倉庫證券に就て　安河内　舛〔銀叢〕大二四　四　二
倉庫證券による銀行業者倉庫業者の論爭　安河内　舛〔銀叢〕大二四　五　四
倉庫寄託契約に於ける保管期間の滿了　楠　藏人〔新聞〕大二四　一　二四四五
倉庫保險に就て（疋田氏著「火災保險契約論」中所論に對する疑義）　長谷川　久太郎〔保雜〕大一五　二九　三〇八
倉庫契約に就て　疋田久次郎〔保評〕大一五　一九　四

【桑港震災】

米國ー桑港震災を見よ

【搜査】

告訴人の權利　川島　仟司〔新報〕明三四　二　一三七
刑事訴訟法第二〇條の解釋に就て　山田　泰造〔辯協〕明三六　七　六
犯罪原因と搜査とに就て　寺崎　勝治〔新聞〕明四一　一　五七六

間接國稅犯則者に對し通告處分前に於て檢事其他司法警察官は搜査を實行することを得るや　板倉松太郎〔志林〕明四一　一一　三
名譽を毀損せられたる者か告訴をなさずして死亡したる場合に於ける相續人の告訴權　大場　茂馬〔新報〕明四一　一九　九
新刑法と犯罪搜査　鳥谷　警部〔刑評〕明四三　二　二
告訴前に於ける親告罪の搜査及逮捕に就て　轡　苗代〔刑評〕明四三　二　一〇
歐米の刑事警察及犯罪搜査の實況　太田　敎弘〔刑評〕明四四　三　八
犯罪の搜査　岡田　庄作〔法記〕明四五　三　二
親告罪の告訴と搜査處分との關係　林　賴三郎〔新報〕大三　二四　七
犯罪の搜査に就て　古賀　廉造〔新聞〕大五　一　一三五
搜査機關に就て　黒坂　獨步〔新聞〕大六　一　一三〇　一四九九　一四八〇
搜査に强制力を認むるの論　宮路　貞一〔新聞〕大七　一　一四九九
搜査餘論　宮路　貞一〔新聞〕大八　一　一四九九
改正刑事訴訟特別手續と犯罪搜査處分　三好　一八〔臺法〕大一一　一六　一一二
搜査上の强制處分手續　上内恒三郎〔臺法〕大一三　一八　三一六
强制搜査處分に就て　林　賴三郎〔新報〕大一三　三四　五六
裁判上の搜査處分　松南　健彦〔新報〕大一四　三五　九

【相殺】債權ー債權の消滅、相殺を見よ

【騷擾の罪】

禁止命令論（兒徒衆衆事件の論點）　鵜澤　總明〔明學〕明三九　一　一〇二　一〇三
現行刑法の兒徒衆衆罪　播磨　龍城〔新聞〕明三九　一　三二七
再ひ兒徒衆衆罪に就て　播磨　龍城〔新聞〕明三九　一　四
騷擾罪を論ず　大場　茂馬〔新報〕明四三　二〇　五一六
騷擾罪に對する正當防衛論　志賀和多利〔辯協〕大二　一七　一七二
騷擾事件と群集心理　寺田　四郎〔國國〕大二　一　四
所謂騷擾事件に就て　寺田　四郎〔辯協〕大二　一七　一七六
騷擾事件の判決を評す　石　大次郎〔新聞〕大二　一　八六九
騷擾事件を論ず　上原　鹿造〔辯協〕大三　一八　一八四
我刑法の騷擾罪の規定を評す　大場　茂馬〔國國〕大七　六　二
騷擾事件と恐怖時代　布施　辰治〔新聞〕大七　一　一四四三
獨逸共產主義者の暴動と其公判　宮本　英脩〔法叢〕大一一　八　三
勞働運動と騷擾罪　平野義太郎〔志林〕大一三　二六　一二

【造船（センゾウ）】

參照＝海軍。汽船。軍艦。商船。船舶。戰時船舶管理令。

太平洋方面に於ける米國の航海及造船業　倉田庫太〔國經〕明三九年一卷一號
造船術の進歩と新港灣　柴崎雪次郎〔國經〕明四一　五　二—四
英國造船業に於ける勞働爭議の解決　松村芳平〔國經〕明四四　六　三
我國造船業の發達史　河瀨蘇北〔國國〕大五　四　六
新造船の輸出に就て　增井幸雄〔三學〕大五　一〇　一二
歐洲戰亂と我國の造船業　今岡純一郎〔財經〕大五　三　一
我が造船業並に船材供給の前途　寺野精一〔財經〕大五　三　三
英國の鐵材輸出禁止と我造船界　寺野精一〔財經〕大五　三　六
米國造船業の現況　寺野精一〔財經〕大五　三　六
米國造船業と歐洲の注文　〔資料〕大六　三　九
造船奬勵制度に就て　門脇龍雄〔國經〕大六　二三　二
昨年度の世界造船業　戶田海市〔商經〕大六　一　五
英國海運業造船業調査委員報告書の要旨　寺野精一〔財經〕大六　四　五
我か造船界の現狀と製艦能力　瀧谷善一〔國經〕大七　二五　三
造船界の多量生産主義　寺野精一〔財經〕大七　三　八
米國造船業の物典と海運政策の將來　太田黑敏男〔國國〕大八　七　七
造船業者の採るべき方策　今岡純一郎〔財經〕大二　九　七
造船業の原價計算　廣崎三郎〔會計〕大二　二　六　一

【相續（ソウゾク）】

參照＝遺言。遺産相續。家督相續。

相續論　工藤仙太郎〔法協〕明一九　四　二五
相續法三變　穗積陳重〔法協〕明二一　六　五〇
相續論　ワイベルト〔法協〕明二二　七
日本相續制度論　石山彌平〔新報〕明二九　六　二
社會學上より相續の沿革を概論す　石山彌平〔新報〕明三一　八　八九
親族編及相續編論評　石山彌平〔新報〕明三一　八　九一
相續法の三問題　石山彌平〔新報〕明三二　九　一〇三
新舊相續法の經過的觀察　淺見倫太郎〔法政〕明三二　三　一八
中繼相續論　石山彌平〔新報〕明三二　一〇　一二三
女戶主の配偶者の離緣　川名兼四郎〔新報〕明三五　二　六
相續法改正論　森作太郎〔新聞〕明三五　一　一二三
東西相續法の差異を論す　池田季雄〔新聞〕明三五　一　九九
相續回復論　淺見倫太郎〔新聞〕明三七　一　（缺）
相續權の本質　淺見倫太郎〔新聞〕明三七　一　（缺）
相續權の基礎に關する諸學說特に先占說を論す　山岸哲夫〔法協〕明三八　三　二
現行土地相續法に就て　松崎藏之助〔法協〕明三九　二四　（缺）
相續權の基礎を論す　吉田節太郎〔法協〕明三九　二四　一—二
相續權否定論を評す　小島誠〔法協〕明三九　二四　四
相續權の性質　長島毅〔法協〕明三九　二四　六
相續の目的　松山得四郎〔法協〕明三九　二四　九
相續回復の請求權　川名兼四郎〔法協〕明四〇　二五　（缺）
相續の基礎　岡村司〔明學〕明四一　一　（缺）
公權の相續讓渡及び拋棄に就て　佐々木惣一〔京法〕明四二　四　九
相續權限界問題　穗積重遠〔法協〕明四三　二八　四—五
相續權の意義　牧野菊之助〔新聞〕大二　一　八五六
直系卑屬と相續權　柳川勝二〔評論〕大四　三　二四
表見相續論　柴石生〔新聞〕大五　一　（缺）
日本中世相續法の研究　中田薰〔國家〕大五　三〇　（缺）
日本中世の相續法　中田薰〔國家〕大七　三三　（缺）
寡婦の相續權　穗積重遠〔法協〕大七　二六　一—四
リードの相續制度廢止論　井上周三〔早法〕大一二　一一　一一
破產法と相續　中川善之助〔法政〕大一二　二〇　五
一子相續制度に就て　八木芳之助〔經叢〕大一三　一八　二—四
相續法の改正について　穗積重遠〔法協〕大一四　四三　（缺）
繼親子關係の範圍と相續權　藤井清治〔新聞〕大一四　一　（缺）
相續法の改正について　穗積重遠〔法協〕大一五　四四　一—三
外國法
春秋時代に於ける楚國相續法　戶水寬人〔國家〕明三〇　一一　一三八
明律の相續法に就て　清水泰次〔早法〕大二　二　一
露國の親族法及相續法　穗積重遠〔法協〕大四四　二九　九—一一
新ロシアの親族法相續法　穗積重遠〔國知〕大一二　三　九
瑞西民法草案の相續法に就て　山內四郎〔法協〕明三六　二一　四
ベートリッヒ「獨逸民法に於ける相續契約の觀念」（譯）　結城安次郎〔志林〕大二　一五　七
臺灣に於ける朴續主義の立法に就て　玲瓏學人〔臺法〕大八　一三　二
英國古代土地相續法の研究　津田武二〔國經〕大八　二六　一—二
相續の承認及拋棄
限定承認の性質及効力　川名兼四郎〔明法〕明三五　一　四七
債務免除主義と相續限定承認　花岡敏夫〔辯協〕明三六　七　六六
民法第一〇二四條の疑義　岸本晉亮〔新聞〕明三七　一　一八六
相續承認の瑕疵と隱居との關係　齋藤巖〔新聞〕明四〇　一　四五一
限定承認の性質及效力　川名兼四郎〔法政〕明三五　六　六〇
後見人の爲せる相續の承認又は拋棄を取消したる場合に於ける相續確定の方法　奧田義人〔新報〕明四一　一八　六
未成年者の相續單純承認取

			年	卷	號
消	掛下重次郎	〔明學〕	明四一	一	一三〇
相續の拋棄に就て	中島　玉吉	〔京法〕	明四三	四	八
公權の相續讓渡及拋棄に就て	佐々木惣一	〔京法〕	明四三	四	九
相續の單純、限定承認	川名兼四郎	〔法協〕	明四三	二八	九一二
死亡せる債務者の相續人か爲したる限定承認と保證人の債權者に對する責任	長島　毅	〔新報〕	六	七	二八　一
相續の限定承認の効力	穗積　重遠	〔新報〕	六	八	二九　六
選定相續權の事前拋棄と裁判所の許可	齋藤　巖	〔新聞〕	六	一四	一　二三九三
限定相續に就て	河原榮次郎	〔新聞〕〔正義〕	六	一五	一　二五三　六
相續人の曠缺					
絶家の時期	川名兼四郎	〔法政〕	明三五	六	六五
絶家確定の時期を論ず	德永　平次	〔新聞〕	六	九	一　二六八
【相續稅】 參照＝租稅。					
相續稅論	山田喜之助	〔新報〕	明二六	三	二三
相續稅論	靈堂　學人	〔新報〕	明二六	三	二五
相續稅法論	田島　錦治	〔法協〕	明二九	一四	二十四
相續稅に付て	小川鄕太郎	〔內外〕	明三七	三	六
相續稅法	小川鄕太郎	〔內外〕	明三八	四	二
相續稅の理論上の根據如何	瀧本　美夫	〔國經〕	明三八	一	七
相續稅論	松崎藏之助	〔國家〕	明三八	一九	一
相續稅法の要領	藤川利三郎	〔法協〕	明三八	二三	三
相續稅の理論上の根據如何	瀧本　美夫	〔國經〕	明三九	一	七
獨逸の新相續稅	瀧本　美夫	〔國經〕	明四〇	二	一
相續稅に關する各國の實例及批評	桑田　熊藏	〔國家〕	明四〇	二	一
相續稅の將來	富田勇太郎	〔國家〕	明四〇	二	一
相續制度と相續稅との關係	桑田　熊藏	〔國家〕	明四一	二	七
家族制度と相續稅	桑田　熊藏	〔國經〕	大三	一六	六
相續稅と家族制度	神戶　正雄	〔經叢〕	大四	一	四
相續稅の課稅方法	神戶　正雄	〔經叢〕	大七	七	五六
相續稅と財產課稅	神戶　正雄	〔經叢〕	大七	七	三一四
相續稅批評の重點	神戶　正雄	〔經叢〕	大七	七	一二
相續稅の發達	土方　成美	〔國家〕	大一〇	三五	一〇
店員と積立金と相續稅法との關係を論ず	武田貞之助	〔新聞〕	大一〇	一	一八三二
相續稅に於ける特殊累進に就て	神戶　正雄	〔經叢〕	大一一	一五	六
我邦相續稅を論ず	神戶　正雄	〔經叢〕	大一一	一四	三
時代後れの相續稅法	內池　廉吉	〔エコ〕	大一二	一	五
相續稅の經濟政策觀	神戶　正雄	〔經叢〕	大一二	一六	五
相續稅改正の必要	藤澤　穆	〔國經〕	大一二	三四	四
財產の贈與を受けたる人と相續稅との關係	矢島慶次郎	〔會計〕	大一三	一五	一
相續稅改正再論	藤澤　穆	〔國經〕	大一三	二七	四
贈與を受けたる者の相續稅納付責任に就て	矢島慶次郎	〔會計〕	大一四	一七	一
佛蘭西財政狀態と相續稅	小川福太郎	〔經叢〕	大一四	二〇	三
相續稅の能力原則上の弱點	神戶　正雄	〔經叢〕	大一四	二〇	二
新自由主義の相續稅論	猪谷　善一	〔企社〕	大一五	一	三
【相對性】					
相對性理論の擴張	石原　純	〔我等〕	大一一	四	一
ローレンツのアインシュタインの相對性理論	村瀨武比古	〔法治〕	大一二	二	二
アインスタイン相對性原理と經濟法則の客觀性	二木　保幾	〔社科〕	大一四	一	一
【送達】 訴訟手續＝送達を見よ					
【贓物に關する罪】					
贓物に關する罪	小嶋　傳	〔法政〕	明三五	六	六三
贓物の意義	赤羽乙二郎	〔新聞〕	明三七	一	二四八
犯罪に因て得たる物件と贓物	小嶋　傳	〔新聞〕	明三八	一	二九四
贓物に關する罪概論	牧野　英一	〔志林〕	明三九	八	三
贓物を交換に因り得たる者の處分を論ず	浅野豐三郎	〔新聞〕	明四二	一	八四七
贓物の意義に就て	小嶋　傳	〔法記〕	明四四	二一	四一五
死體と贓物	伊藤藤三郎	〔刑評〕	大元	四	九一〇
贓物の觀念に就て	武田清次郎	〔新聞〕	大二	一	八八五
贓物罪と親族關係	泉二　新熊	〔志林〕	大三	一六	三
贓物の意義	泉二　新熊	〔法記〕	大四	二五	八
【贈與】	福井　盛太	〔辯協〕	大一〇	二五	三
負擔附贈與の性質	津田　進	〔國國〕	大一〇	九	八
土地を贈與したる者の相續人に對する登記名義變更	津田　進	〔法記〕	大一〇	三一	九一〇
	乾　政彥	〔志林〕	明四〇	九	二

訴願の行使權を論ず　行政處分の解義に關する訴願の一例　森田茂吉〔法協〕四一ノ二　三　二
「租借地と世の輿論」を讀　租借地と世の輿論と租借地の法律關係を論ず　菊地駒六〔法協〕四一ノ二　一〇
租借地上の權利と滿洲問題　租借地と世の輿論　蜷川泉〔外時〕四三ノ三　七四
租借地の性質と論して旅順陷落の效果に及ぶ　租借地及類似占領地の期限　蜷川新〔外時〕四三ノ六　二五
租借地の處分如何　租借地の法律上の性質　美濃部達吉〔新報〕四二ノ一　五
新租借地論　委任統治と租借統治　江木衷〔國際〕四ノ九　九
租借權の性質と關東洲の租借地　租借地の法律上の性質　稲田周之助〔新報〕四二ノ一　一
我憲法は租借地に行はるるや　國際地役を論して滿洲鐵道の布設權及關東洲の租借地の法律上の性質に及ぶ　帝國憲法と殖民地租借地及保護國との關係　菊池駒次〔國際〕四ノ一　七
賠償の請求　賠償契約の取消權　民法第五〇條の消滅時效　西川一男〔新報〕四一ノ一　六
賠償雜說　水口吉藏〔國家〕六ノ一　三
未成辯護士〔新聞〕六ノ八　一　三

【ゾーム】 (Rudolf Sohm, 1841-1917)

就いて　ゾームの所說に付て　平野義太郎〔新報〕四一ノ二　三　七
「處分行爲」の概念に　「客體」「物」並び　後藤清〔商論〕六ノ五　一　一

【ソォントン】 (Henry Thornton, 1768-1815)

ソーントン紙幣信用論　ソーントン、ヘンリー　福田敬太郎〔國經〕六ノ二　八　四

【訴願】

行政處分の解義に關する訴願の一例　森田茂吉〔法協〕四二ノ二　三　二

ゾームの所說に付て）　總有の觀念（主としてゾ　ゲルマン法に於ける團體及

訴願の行使權を論ず　未成辯護士〔新聞〕六ノ八　一　三三

訴願法概論　江木衷〔新報〕四一ノ一　六
訴願と行政訴訟の竝立　倉知鐵吉〔法協〕四三〇　五　六
行政訴訟と訴願との區別及　長島鷲太郎〔法政〕四三　四　三
共關係
行政裁決及行政裁判に關す　織田萬〔內外〕四五　一　二
る諸法案
行政裁判と訴願との區別に　美濃部達吉〔志林〕四宅　六　五六
就て
訴願申立期間經過後に於け　島村他三郎〔志林〕四一〇　一〇　三
る不服事由の追加
訴願に就て　清水澄〔新聞〕六ノ四　一　一〇

【租借地】 參照「領土」。

英國の威海衛租借の顚末　佐藤宏〔外時〕四三　二　二
清國に於ける列國租借地の　有賀長雄〔外時〕四三　二　一〇
戰時關係
平時占領論特に租借地の法　有賀長雄〔外時〕四三　二　一〇
律關係
永久占領と租借地　中村進午〔法政〕四三　七　二三
旅順口法權問題　松原一雄〔新報〕四三　三　二
清國に於ける列國租借地の　松原一雄〔國家〕四三　五　六
國際法上の地位
租借地上の權利と滿洲問題　有賀長雄〔明法〕四三　一　五
蜷川新〔外時〕四三ノ六　二

【訴訟】 參照「刑事訴訟。裁判所。證據。訴訟行爲。訴訟手續。訴訟當事者。訴訟費用。民事訴訟。」

裁判所と當事者との關係　仁井田益太郎〔志林〕四四　三　三
訴訟延滯の問題に就て　宍戸源藏〔法記〕四三六　三　三四
訴訟の延滯及び辯護士の弊　〔法記〕四三六　三　一四五
風に關する一例
ニルストタクベ「訴訟記錄　民事訴訟の喪失に就て」（譯）　平島及本〔法記〕四三七　一四　一四八
民事訴訟の進行に就て　津川彌三郎〔訴論〕六ノ四　一　一
訴訟進行の遲滯に就て　原嘉道〔新報〕四五　三　一
救恤訴訟部の創設を要望す　宮島大郎〔辯協〕六ノ四　二九　一九五
審理の緩漫は事件を延滯せ　新井要太郎〔辯協〕六ノ五　一〇　四
訴訟の機關に就て　宮城長五郎〔法政〕六ノ六　一四　四
訴訟印紙問題　齋藤巖〔新聞〕六ノ七　一　一四五
訴訟事類の受理に關し當局　宮田龜之助〔新報〕六ノ三三　三　三
の一考を煩す　板倉松太郎〔新報〕六ノ三三　三　五
訴訟關係論　齋藤巖〔新聞〕六ノ八　一　一三二
訴訟の變化

【租借地】

租借地還付の義務を論ず　岡田良一〔法雜〕六ノ三　二　四
みて　山本美越乃〔外時〕六ノ三　六　四五〇

獨逸民事訴訟法第一二七九條　小川平吉〔明法〕㊂㊂　一一
干渉主義　小川平吉〔明法〕㊂㊂　一一
訴訟法に於ける極端なる不　渡邊清太郎〔法政〕㊂㊂　三一
抛棄認諾に關する解釋　平島及平〔法記〕㊂㊂　三一
（譯）　ワッハ「懈怠訴訟手續」　江木衷　三一
民事訴訟の放任主義　磯谷幸次郎〔法協〕㊂㊂　三一
民事訴訟期日の延期及休止に關し法典調査會　
抛棄認諾を論ず　津川彌三郎〔新聞〕㊂㊂　一一
商號と以てする訴訟行爲　前田直之助〔新報〕㊂㊂　一一
責問權を論ず　阪本生成〔辯協〕㊂㊂　一一
宣誓の訴訟行爲　小野清一郎〔志林〕㊂㊂　一一
賞罰上の法則の民事訴訟法　
に於ける價値　
確定判決仲裁又は和解の　
在を以てする抗辯と其判　
訴訟物の抛棄又は認諾の性　
決及三者の差異　
管轄違以外の妨訴抗辯の裁　
判後に爲す管轄の合意を　
許すべき管轄違の普通抗　
辯　
裁判上の自白を論じて大審　
院の最近決定に及ぶ　
請求の認諾と被告敗訴の判　
決申立　
無訴權の抗辯と商業會議所　
の經費取立權　
責問權を論ず　
抛棄及認諾を論ず　
商號と以てする訴訟行爲　
宣誓の訴訟行爲　

【訴訟行爲】

民事訴訟期日の延期及休　
止に關し法典調査會　磯谷幸次郎〔法協〕㊂㊂　二一
民事訴訟の放任主義　江木衷　三一
ワッハ「懈怠訴訟手續」　
（譯）　渡邊清太郎〔法政〕㊂㊂　三一
抛棄認諾に關する解釋　平島及平〔法記〕㊂㊂　三一
訴訟法に於ける極端なる不　小川平吉〔明法〕㊂㊂　一一
干渉主義　
獨逸民事訴訟法第一二七九條　

訴訟の運否について　橋本亀　大正二　一
判決事未配置裁判所と訴訟　豊島武夫〔新聞〕大正二　一
遅延　
民事訴訟法改正と訴訟の促　今村恭太郎〔正義〕〔法新新聞〕大正二　一一
進　
訴訟遅滞の弊害と其救治　高野重秀〔正義〕大正二　一一
書理の實際に付ての考察　片山通夫〔法曹〕大正二　一二
電報に依る訴狀の差出　前田直之助〔新報〕大正二　一二
訴訟に於ける迅速と費用節　冠木精喜〔法政〕大正二　一三
減　
良賤之訴訟　瀧川政次郎〔志林〕大正二年　一一

（我第一二一條）の解釋　
口頭審理の弊及其救濟　
裁判上の自白の性質　
自白論　
訴訟上の和解　
訴訟行爲に就て　仁井田益太郎〔法政〕㊂㊂　八一九
民事訴訟に於ける請求の抛　仁井田益太郎〔法政〕㊂㊂　八一九
棄及認諾の性質に就て　仁井田益太郎〔明學〕㊂㊂　一一七
裁判上の自白の性質　岩濱義一〔新聞〕㊂㊂　一一二〇
訴訟行爲の順序に就て　仁井田益太郎〔志林〕㊂㊂　一一七
相殺の抗辯に付て　仁井田益太郎〔法政〕㊂㊂　九一四
再び訴訟上の和解に付て　仁井田益太郎〔新報〕㊂㊂　一一五
裁判上の相殺を論ず　鈴木英太郎〔法記〕㊂㊂　一一七
訴訟の目的物の表示に就て　仁井田益太郎〔京法〕㊂㊂　一一
訴訟的法律行爲に就て　神谷健夫〔京法〕㊂㊂　一一八
再び請求の抛棄及認諾に付　
て　仁井田益太郎〔明學〕㊂㊂　一100
裁判上の自白に付て　仁井田益太郎〔明學〕㊂㊂　一10八
訴訟手續違背に對する責問　
權の喪失　竹田孝太郎〔新聞〕㊂㊂　一三一
民事訴訟に於ける責問權の　
喪失　小山松吉〔新聞〕㊂㊂　一三五
敗訴者の賠償責任に就て　松澤常四郎〔新聞〕㊂㊂　一三五
裁判上の相殺と論ず　鈴木英太郎〔法記〕㊂㊂　一七　六

訴訟行爲論一班　
訴訟上の和解と無效及取　
消　
訴訟上の相殺　
條件附訴訟行爲論　
正式裁判請求の取下に就て　田中耕太郎〔法協〕大正四　一三　10
訴訟遮斷に關する一疑問　田中智作〔新聞〕大正四　一一　一一四三
へルキッヒ「訴訟行爲及法　岩切覺治〔新聞〕大正五　一一　一一四三
律行爲論」　
責問權の抛棄に付て　野長良〔新報〕大正七　八　九
訴訟上の和解を論ず　
訴訟上の和解　石加藤正吉〔法政〕大正一〇　一八　一一四五一〇
妨訴抗辯の裁判と本案裁判　崎市郎〔憲法〕大正一一　一六　四五一〇
と同時に爲す場合と主文　
の表示方　前田直之助〔新報〕大正一一　三　五
合意管轄に關する事實自　
白の撤回と被告の闕席　
攻撃防禦の範圍　
裁判上の和解と借地法　
所謂「責問權」に關する研究　
訴訟法上の抗辯を論ず　
訴訟行爲の適法及び不適法　
に就て　
裁判長の處分に對する訴訟　

雄本朗造〔新聞〕大正一一　三　100三
箱田淳三〔志林〕大正一二　一七　三
仁井田益太郎〔新報〕大正一二　三五　八
田中耕太郎〔法協〕大正一二　三　10
仁井田益太郎〔京法〕大正一二　一　一一四三一〇
細岩切覺治〔新聞〕大正一二　一　一一四三一〇
野長良〔新報〕大正一七　八　九

形式主義の訴訟手續の解放　小山松吉〔法曹〕大三　一　一六
及訴訟手續　
ソヴィエト露國の司法制度　寺田四郎〔國家〕大三　二　七
正義の觀念と獨逸訴訟手續　
「訴訟手續の改正」　ハイニック〔法記〕昭八　一四　二六
「合議裁判所に於ける訴訟」（譯）　平島及平〔法記〕昭三　三　三九
の固定及判決の正確に就て　
エッテンライヒ「訴訟手續」　高根義人〔法協〕四九　一四　一二
大阪奉行所訴訟手續概略　

【訴訟手續】

期日及期間　
辯論の準備　
新民法訴訟法案に依る辯論　
當事者の死亡　
任意的口頭辯論中に於ける　
辯論及裁判の併合　
辯論の再開に就て　
原告の請求却下の判決と求　
むとの申立と本案の口頭　
辯論の準備　
大審院の一裁判　
申立に依る期日の變更、辯　

【訴訟參加】

訴訟當事者を見よ

法に就て　多田吉藏〔朝司〕大三　二　一
の裁判上の和解の强制方　
登記申請手續と履行する旨　津田遠藤武治〔新報〕大三　三　二
管轄違ひと訴訟行爲の效力　進〔新報〕大三　三　二
破産宣告の訴訟行爲に及ぼす影響　三野昌治〔法曹〕大二　四　一
裁判上の和解と借地法の適用　松南健彥〔新聞〕大四年　三五卷　三號
關係人の異議申立權　

【訴訟手續】

口頭辯論及び準備書面　
法律上の辯論　原嘉道〔辯協〕昭二　二　一一
獨逸新民事訴訟法に於ける　スタイン〔法記〕昭三　10　10五
第一辯論期日　
判決の基本たる口頭辯論に　齋藤十一郎〔法政〕昭四　二　四九
關する一節　
民事法廷に於ける最終の辯　横山勝太郎〔新聞〕昭六　一　二七四
論に就て　
所謂最終の辯論に就て橫山　橫田五郎〔新聞〕昭六　一　二七六
勝太郎君に答ふ　
敢て判事橫田五郎君の一讀　橫山勝太郎〔新聞〕昭六　一　二七九
を煩す　
民事の審理手續　菊池武夫〔辯協〕昭二　二三　二二六
法廷に於ける辯論の範圍　牧野賤男〔辯協〕昭二　二三　二二八
民事訴訟法に於ける辯論主　清瀨一郎〔志林〕昭二　一一　一
義を論ず　
民訴第一一八條に依り辯論　前田孝之助〔新報〕大二　三　八
を分離し請求の一のみに　
付て爲したる判決と一部　
判決の口頭辯論を經たる　齋藤巖〔新聞〕大四　一　二三
任意的　
か　
改正民事訴訟法案と英國訴　小林一郎〔法新〕大三　一　二六
訟手續の實際　

【訴訟手續】

證據調の期日と口頭辯論期　
日の關係　
口頭審理訴訟手續と善意擬　
制　
大阪管內に於ける書面排斥　
主義に就て　清瀨一郎〔志林〕昭二　一一　七
準備書面提出に關する清瀨　菅原奮二〔新報〕大三年　一號
辯護士の所論に就て　
辯論の再開に就て　不破庄野瀨震　清瀨一郎〔新聞〕大七　一　三六
判事震域氏に答ふ　清理一郎〔新聞〕大七　一　三七四
原告の請求却下の判決と求　不破庄野瀨震　清瀨一郎〔新聞〕大七　一　三七五
辯論　渡邊村岡玄治〔法治〕大二　一　一
むとの申立と本案の口頭　
辯論及裁判の併合　
任意的口頭辯論中に於ける　
當事者の死亡　前田直之助〔新報〕大三　三　一
新民法訴訟法案に依る辯論　
の準備　菊井維大〔志林〕大五　二　六
大審院の一裁判　山內確三郎〔正義〕大五　二　一
期日及期間　江口巴港〔新聞〕昭三　一　五七
辯論の準備　

【訴訟手續】

訴訟手續の中斷及び中止　
訴訟手續の休止に就て　
辯論を制限し中間判決を爲　
し たる後一年以內に期日　
指定の申請を爲さざる結　
果　
訴訟關係人の期日懈怠の效　
天災事變と期日の懈怠　
除斥期間及び出訴期限　
訴訟手續の擔保　
意思能力喪失者に對する送　
達の效力　
禁治產宣告前心神喪失の常　
況に在る者に對する訴狀　
送達の效力　
職權を以て送達する裁判と　
公示送達　
送達　
職權送達に付て　

辯論の準備　
辯論及裁判の併合　
任意的口頭辯論中に於ける　
當事者の死亡　
新民法訴訟法案に依る辯論　
の準備　
大審院の一裁判　
期日及期間　
申立に依る期日の變更、辯　

【訴訟參加】

訴訟當事者を見よ

法に就て　多田吉藏〔朝司〕大三　二　一
の裁判上の和解の强制方　
管轄違ひと訴訟行爲の效力　津田遠藤武治〔新報〕大三　三　二
登記申請手續と履行する旨　進〔新報〕大三　三　二
破産宣告の訴訟行爲に及ぼす影響　三野昌治〔法曹〕大二　四　一
裁判上の和解と借地法の適用　松南健彥〔新聞〕大四年　三五卷　三號
關係人の異議申立權　

【訴訟手續】

口頭審理訴訟手續と善意擬　
制　
大阪管內に於ける書面排斥　
主義に就て　清瀨一郎〔志林〕昭二　一一　七
準備書面提出に關する清瀨　菅原奮二〔新報〕大三年　一號
辯護士の所論に就て　
辯論の再開に就て　不破庄野瀨震　清瀨一郎〔新聞〕大七　一　三六
判事震域氏に答ふ　清理一郎〔新聞〕大七　一　三七四
原告の請求却下の判決と求　不破庄野瀨震　清瀨一郎〔新聞〕大七　一　三七五
むとの申立と本案の口頭　
辯論及裁判の併合　
任意的口頭辯論中に於ける　
當事者の死亡　前田直之助〔新報〕大三　三　一
新民法訴訟法案に依る辯論　
の準備　菊井維大〔志林〕大五　二　六
大審院の一裁判　山內確三郎〔正義〕大五　二　一
期日及期間　江口巴港〔新聞〕昭三　一　五七
辯論の準備　

【訴訟手續】

訴訟手續の中斷及び中止　
訴訟手續の休止に就て　
辯論を制限し中間判決を爲　
し たる後一年以內に期日　
指定の申請を爲さざる結　
果　
訴訟關係人の期日懈怠の效　
天災事變と期日の懈怠　
除斥期間及び出訴期限　
訴訟手續の擔保　
意思能力喪失者に對する送　
達の效力　
禁治產宣告前心神喪失の常　
況に在る者に對する訴狀　
送達の效力　
職權を以て送達する裁判と　
公示送達　
送達　
職權送達に付て　

		年	卷	號
果	中込　宗造〔新報〕	明四一	一八	一
本案事件判決後上訴期間內に於ける訴訟手續受繼の申立を爲すへき裁判所	山內確三郎〔新報〕	明四一	一八	二
第一審判決言渡後の承繼手續に對する判決	板倉松太郎〔志林〕	明四一	一〇	五
期間を定めすして訴訟手續休止の合意を爲し一箇年を經過したる結果	前田直之助〔新報〕	明四五	二三	五
民訴第一八八條第三項の注意	伊藤　悌治〔新報〕	明四一	一八	九
法人變更の場合に於ける訴訟手續の中斷	板倉松太郎〔志林〕	明四一	一〇	二
上訴提起後當事者雙方口頭辯論期日に出頭せすして一年を經過したる時は上訴を取下けたるものなりや	平井彦三郎〔新聞〕	明四一	一	四九三
訴訟は當事者の一人妻となり若くは準禁治產の宣告を受けたる場合には訴訟手續は中斷すへきものなりや	板倉松太郎〔志林〕	明四二	一二	二
支拂命令發布後債權者の相	板倉松太郎〔志林〕	明四四	二	八

續人の爲め假執行宣言の申請と訴訟の中斷中止	前田直之助〔新報〕	明四二	一九	一〇
第一審判決言渡後上訴前中斷の原因か生したる場合と訴訟の受繼	前田直之助〔新報〕	明四五	三	二
中止したる訴訟手續受繼の意義	前田直之助〔新報〕	明四五	三	五
裁判上の請求に因る時效中斷の時期を論ず	川手　忠義〔新聞〕	大	三	九四〇
破產宣告に因り中斷せる訴訟の受繼	堆本　朗造〔新報〕	大	四	二五
隱居者に對する債權辨濟の訴訟中隱居者死亡し非家督相續人か遺產相續人たる場合の受繼手續	牧野菊之助〔新報〕	大	五	二六
相續人廢除の裁判未確定中被相續人死亡したる場合の訴訟手續終否	大橋　誠一〔新聞〕	大	六	一二八二
破產宣告に因り中斷せる訴訟の受繼	加藤　正治〔法協〕	大	六	二五 六一七
訴訟的法律關係の承繼を論す	江波　由郎〔法政〕	大	九	一七 九

參照＝訴訟當事者＝共同訴訟。

訴の變更	卜部喜太郎〔新報〕	明	二六	二 二六

民事訴訟法第二〇一條第二項に就て

訴權論	北田　新藏〔新報〕	明二六	三	三二
ウアハ「訴の變更に就き」（譯）	宮田　四八〔辯協〕	明三一	二	一五
確認訴訟に就て	平島　及平〔法記〕	明三一	八	八四
確認訴訟	江木　衷〔新報〕	明三一	八	九二
	飯田　宏作〔志林〕	明三二	一	一
日本に於て權利關係の確認訴訟を許せる程度如何	〔法協〕	三二	一七	二
	宮田　四八〔法政〕	明三二	三	二七—八
	〔辯協〕	明三二	三	二四
反訴の性質	長島鷲太郎〔法政〕	明三二	三	一八
訴權論	宮田　四八〔辯協〕	明三二	三	一五
鑛業特許權無效確認の新判例	〔法政〕	明三二	三	一八
訴の原因論	高木　豐三〔辯協〕	明三二	三	二〇
確認訴訟の新判例	松岡　義正〔法政〕	明三二	三	二一
確認訴訟の新判例	飯田　宏作〔志林〕	明三二	二	三
大審院の誤判	長島鷲太郎〔辯協〕	明三二	四	二九
岡田米國法學博士の大審院の誤判を讀む	岡田　泰藏〔新聞〕	明三四	一	二三
訴權の性質	根本　紀綱〔新聞〕	明二四	一	三〇
	岡田　泰藏〔新聞〕	明三四	一	二四
	仁井田益太郎〔內外〕	明三五	一	二
應訴の義務に付て	吾孫子　勝〔志林〕	明三六	五	四六
民事訴訟法案の訴の提起に付て	中村　生〔新聞〕	明三六	一	一五五
代替物給付を請求し若し債務者か所持せさるに於ては其補償を請求すとは不適法なる訴なりや	齋藤　覃次〔新聞〕	明三七	一	一八九
實質的訴權と强制執行との關係	仁井田益太郎〔新報〕	明三八	一五	六
訴權の性質	松岡　義正〔法政〕	明三八	九	八
給付の訴及確認の訴の區別	仁井田益太郎〔明學〕	明三八	一	明八二 明八四
確認の訴に關する疑問	竹田孝太郎〔新聞〕	明三八	一	三二三
私權の保護に就て	仁井田益太郎〔志林〕	明三九	八	二一四
反訴提起期間の起算點を論す	宮崎　國吉〔新聞〕	明三九	一	三三〇
反訴提起期間の制限に就て	賤乃家學人〔新聞〕	明三九	一	三五三
訴の原因	エンゲルブレヒト〔新聞〕	明三九	一	三六三
訴の變更	エンゲルブレヒト〔新聞〕	明三九	一	三六三
訴變更の意義	古谷新太郎〔新聞〕	明四〇	一	四〇〇
經界確定の訴を論す	丹野慶太郎〔新聞〕	明四〇	一	四一九
訴の申立の減縮に就て	齋藤常三郎〔京法〕	明四一	三	七
訴訟繼續中債權を讓渡して更に之を取消したる效果	中込　宗造〔新報〕	明四一	一八	八
條件的申立に付て	神谷　健夫〔京法〕	明四一	三	九

反訴か獨立の訴なる理由及び其根據　板倉松太郎〔志林〕明四一　一〇　二
最初求めたる物の意義　前田直之助〔明學〕明四一　一　一三一
最初求めたる物の意義に就て東京地方裁判所の判決を評す　平井彦三郎〔新聞〕明四一　一　四九二
土地境界確認上告事件に付き爲したる大阪控訴院の判決を評論す　鈴木生〔新聞〕明四一　一　五二四
同一事件の意義　板倉松太郎〔志林〕明四一　二　一
訴の原因及び訴の變更を論ず　雉本朗造〔京法〕明四二　四　二一〇
土地境界確認の訴に就て　清瀬一郎〔新聞〕明四二　一　五二九
訴の原因及訴の變更を論ず　雉本朗造〔京法〕明四二　五　三一七
原權と請求權との關係　西川一男〔新報〕明四二　二〇　一
訴の原因の變更に就て　田中智作〔新聞〕明四三　一　六三九
河西辯護士の確認訴訟論を確認訴訟論に付き中山法學士に答ふ　中山秋水〔新聞〕明四三　一　六七四
訴訟成立條件に就きて　河西善太郎〔新聞〕明四三　一　六八六
要償の訴　日吉平吉〔志林〕明四四　一三　三一五
反訴論　板倉松太郎〔志林〕明四四　一三　八一九
詐害行爲取消の訴と訴訟物の價額　雉本朗造〔志林〕明四四　一三　一〇　七五〇
將來の給付の訴　雉本朗造〔新報〕明四五　二三　二
經界の訴を論ず　雉本朗造〔京法〕大元　七　八一九
反訴適否と訴訟條件　前田直之助〔新報〕大元　二三　九
一般的不作爲の訴（權利侵害の豫防）　石坂音四郎〔新報〕大元　二三　九一〇
境界確認の訴を論ず　中西酉藏〔新聞〕大元　一　二二　六
中間確認の訴　雉本朗造〔京法〕大二　八　六
權利變更の訴　日吉平吉〔志林〕大元　一四　一二
債權者取消の訴の性質（廢罷訴權）　雉本朗造〔志林〕大四　一七　三一二
債權者の取消の訴の性質　雉本朗造〔志林〕大五　一八　一
雉本博士の「債權者取消の訴の性質」を評す　石坂音四郎〔志林〕大五　一八　六一〇
請求の豫備的併合及び選擇的併合　雉本朗造〔京法〕大　一一　八一九
地所明渡の訴訟と其請求原因　七　一二　一
反訴の牽連性に就て　吉田秀四郎〔辯協〕大六　二一　七
相續權回復、後見人免黜、親族會決議の無效又は取消、身分關係確定の訴と事物の管轄　杉本藤一〔新聞〕大六　一　一二〇六
相續權確認訴訟の適否を論ず　牧野菊之助〔新報〕大六　二七　七

仲裁判斷取消訴訟論　齋藤巖〔新聞〕大七　一　一三九〇
訴の變更と民訴特別手續第一〇條　池田季雄〔法政〕大八　一六　一二　一七
經界確定訴訟の當事者　高林勝治〔臺法〕大九　一四　一
訴權論　三瀦信三〔法協〕大九　三八　一二
經界訴訟の性質　雉本朗造〔法叢〕大一〇　六　一五
債權不存在確認の訴棄却の申立と時效中斷　吉田常次郎〔新報〕大一〇　三一　六
恩給證書返還請求訴訟の性質　山家卓〔法政〕大一〇　一八　六
取戻權を行使し得る場合と確認訴訟の許否　吉田常次郎〔新報〕大一一　三二　三
經界確定の判決に對する控訴の申立　吉田常次郎〔新報〕大一一　三二　五
物に關する訴を論ず　加藤正治〔法協〕大一一　四〇　六
記名有價證券取戻の訴に就て　橫田秀雄〔法政〕大一一　二　一一一七
境界確認の訴に就きての管見　吉田政之助〔新聞〕大一一　一　三三七
訴の原因に變更なしとする裁判は明示すること要しないか　前田直之助〔法記〕大一三　三三　一
形成の訴の觀念　菊井大維〔法協〕大一三　四二　五
確認訴訟の要件たる利益　宮田龜之助〔辯協〕大一三　二七　四
土地明渡訴訟と建物の買收請求權　中島弘道〔法曹〕大一三　二　二
共有物分割の訴の構成及び其の訴繫屬中共有權讓渡の效力　鈴木喜三郎〔辯協〕大一三　二八　八
訴の取下に就きて　加藤正治〔法協〕大一四　四三　六
訴の變更に就いて　山田直記〔法曹〕大一四　三　四
經界確認訴訟の性質及其の當事者竝賃借權の對外的效力に關する疑問　前田直之助〔法曹〕大一四　三　六一八

【訴訟當事者】

民事訴訟中追被告を許すの規定なし　姉齒松平〔臺法〕大一四　一九　一二
未成年者は自ら訴訟を提起すること能はざるか　高橋覺〔新報〕明二六　三　二九
國家か民事訴訟當事者としての資格　高橋覺〔新報〕明二六　三　三一
梅法律博士の訴訟能力に關する論文を讀む　岸小三郎〔國家〕明二六　七　八
訴訟代理の本義　高木豐三〔法記〕明二七　四　三三
銀行會社支店長の訴訟能力を論ず　江木衷〔新報〕明二七　四　三四
　佐々木清麿〔新報〕明二七　四　三六

會社の訴訟委任狀　高橋　覺〔新報〕明二七　年卷　四〇號
訴訟能力に就て　石山　彌平〔新報〕明二八　五　五一
告知參加を論す　石山　彌平〔新報〕明二九　六　六九
告知參加に關する現行法の疑點　日山彦十郎〔新報〕明三〇　七　七〇
寺院檀徒の訴訟行爲に關する判例　城　數馬〔志林〕明三一　一　二
法律上代理人に因る未成年者の民事訴訟を論す　高木金之助〔新報〕明三一　九　一〇五
檀徒の訴權に付て大審院判決を論す　山田　泰造〔辯協〕明三二　四　三六
無盡講代表者の訴訟能力　棟居喜九馬〔志林〕明三二　二　三
部落の訴訟に於ける町村長の代理權　佐々木茂三〔志林〕明三二　二　一〇
裁判所と當事者との關係　仁井田益太郎〔志林〕明二四　三　二
本人訴訟主義を辯護士訴訟主義に改正すへし　木村　萬象〔新聞〕明二六　一　一五九
民事訴訟に於ける當事者自身の出頭を論ず　仁井田益太郎〔法政〕明二七　八　二
皇室訴訟問題に就て　平島　及平〔法記〕明二七　一四　一四七
妻は他人の訴訟代理人となることを得さる乎　稻村藤太郎〔新聞〕明二八　一　（缺）二六四　（缺）二六六
訴訟代理人か相手方に對し防禦方法として爲したる意思表示は無效なる乎　藤澤茂十郎〔新聞〕明二八　一　三三
主參加に就て　鈴木　虎雄〔新聞〕明二九　一　三二
人事訴訟手續法第三條は無能力者か被告たる場合にも適用あり　仁井田益太郎〔新報〕明四一　八　二
〔辯協〕明四一　二　一七
人事訴訟手續法第三條の適用範圍　梅　謙次郎〔新聞〕明二一　一　二
〔志林〕明二一　一〇　二
妻及ひ準禁治產者の訴訟能力　瓊浦　學人〔新聞〕明四一　一　五一五
民事訴訟に於ける「正當なる當事者」なる觀念及ひ共訴訟上の地位を論ず　谷田勝之助〔新聞〕明四一　一　四七九
從參加人訴訟擔任の性質及ひ主たる當事者に及ぼす效果　雉本　朗造〔新報〕明四二　一九　二
從參加人の訴訟引受に因り脫退したる被參加人と之に對する執行文の付與　中込　宗造〔新報〕明四二　一九　三
被告人の死去　中込　宗造〔新報〕明四三　二〇　四
當事者宣誓制度の規定を望ひ　富田　山壽〔新報〕明四三　二〇　四五
主參加と共同訴訟竝に本訴　尾越　辰雄〔辯協〕明四四　一五　一七

訟　前田直之助〔新報〕明四五　年卷　七號
必要的共同訴訟と主參加　森　竹藏〔新聞〕明四五　一　七二
民訴第五四條第二項但書の意義　前田直之助〔新報〕大二　二三　八
訴訟當事者の隱居又は入夫婚姻　雉本　朗造〔新報〕大二　二三　九一二
法定代理人の同意を得たる未成年者の訴訟行爲　前田直之助〔新報〕大三　二四　四
民事訴訟に於ける當事者の誠實義務を論す　井野　英一〔法記〕大四　二五　一八
被告人所在地の意義　大井　靜雄〔新聞〕大五　一　一二六四
民事訴訟法第五八條に所謂訴訟の擔任　前田直之助〔新報〕大六　二七　一〇
被告人の人違ひ　土屋　寬〔新聞〕大八　一　一五〇二
訴訟當事者としての船舶經界確定訴訟の當事者　寺田　四郎〔新報〕大八　二九　九一〇
主參加訴訟參加の解釋に就て大審院判決の變更を望む　三瀦　信三〔法協〕大九　二八　一二
當事者主義の制限　和田　于一〔法政〕大二　二〇　二
訴訟代理と民法第七一五條代理人の供述と其効力　大塚　春富〔辯協〕大三　二八　一
親族會決議無效確認訴訟の被告　菊井　維大〔法協〕大三（缺）　二
共同訴訟　小野　久〔辯協〕大一四　二九　五
共同訴訟の範圍　津田　進〔新報〕大五　三六　四
共同訴訟に關する五大疑問答案　齋藤　巖〔法新〕大一五　一　六二
連帶債務者中一人の認諾に就て　榛葉彥三郎〔法協〕明三四　九　一一二
共同訴訟に關する疑問に就ての意見　大島恒二郎　神尾光臣　關口銳〔法記〕明二六　三　三二
答高木豐三君　高橋　覺〔新報〕明二六　三　二八
梅氏の答書に就て　高木　豐三〔法記〕明二七　四　二七
連帶債務者を共同被告としたる場合は權利關係か合一にのみ確定すへきや　梅　謙次郎〔法協〕明二七　二　一〇
主參加と共同訴訟竝に本訴訟　高木　豐三〔法協〕明二七　三　二
必要的共同訴訟と主參加　齋藤　覃次〔新聞〕明三六　一　一七五
必要的共同訴訟に於て出席せる共同訴訟人の爲したる認諾又は拋棄は關席せる共同訴訟人に其效力を及ぼすを得へきか　前田直之助〔新報〕明四五　三　七
必要的共同訴訟に於て其一　森　作藏〔新聞〕明四五　一　七七二
雉本　朗造〔法協〕大二　三一　八
岩井　尊文〔新聞〕大五　一　二一〇

名に對する訴を取下くる　細野　長良〔新報〕大六　二七　二
申立と其處理方法
連帶債務者を被告とせる共　井上直三郎〔法叢〕大八　一　六
同訴訟
必要的共同訴訟と上訴期間　岸井　辰雄〔辯協〕大二四　二九　三
必要的共同訴訟に就て　姉歯　松平〔臺法〕大二四　一九　四

【訴訟能力】訴訟當事者を見よ

【訴訟費用】

刑事

新刑事訴訟法の訴訟費用　八太　茂〔辯協〕大二　二六　一〇
刑事訴訟費用負擔に關する　佐藤　幾六〔法曹〕大二三　二　四
疑問

民事

民事訴訟法上の外國貧民權　中村　進午〔新報〕明三五　一三　八
控訴審に於ける新事實提出
の許可に基く弊害の救濟
として訴訟費用の負擔
（民訴七二條修正意見）　和田　駿〔京法〕明四一　三　三
差戻判決と訴訟費用の裁判　前田直之助〔新報〕明四四　二一　一一
民訴法第二六一條に依り關
席判決を維持する場合と
訴訟費用　前田直之助〔新報〕大五　二六　一〇
辯護士の報酬と民事訴訟費　箱田　淳〔新聞〕大六　一三一一
用
訴訟費用の點のみの裁判　齊東　野人〔新聞〕大六　一三二三
訴訟費用の點のみの裁判に
就き齊東野人君の妄を辨
ず　宮島　鈴吉〔新聞〕大六　一三三九
再び訴訟費用の點のみの裁
判に就て　齊東　野人〔新聞〕大六　一三四三
訴訟費用のみの裁判に就き
再び齊東野人君に答ふ　宮島　鈴吉〔新聞〕大七　一三五二
辯護士の手數料報酬と訴訟
費用とを論じ當事者が訴
求手續に關聯して生ずる
ことあるべき諸損害費用
の賠償を豫定したる特別
の效力に及ぶ　佐藤　有恭〔新聞〕大八　一〔一三四七／一三四九〕

【租稅】參照＝財政。地方稅。

公賣處分法解釋私議　木下　廣次〔法協〕明一七　二　六
稅率經重の效果　加藤　彰廉〔國家〕明二一　二　一六
租稅改良策（講演）　添田　壽一〔國家〕明二四　五　〔四四九／四五二〕
累進稅論　田島　錦治〔國家〕明二八　九　九九
村有共產制の稅法　戶水　寬人〔國家〕明二一　二　一三二

除することを得るや否やに關する獨逸國法學家の論爭　一木喜德郎〔法協〕明二一　一六　六
租稅の負擔を論ず　下村　宏〔國家〕明三三　一四　一六六
單稅論　ガルスト〔國家〕明三三　一四　一五七
行政上の手數料は命令を以て定むることを得るか　美濃部達吉〔新報〕明三六　一三　七
憲法第六二條の手數料に就て　清水　澄〔新報〕明三六　一三　一〇
所謂租稅原則の財政學上の價値　瀧本　美夫〔國家〕明三八　一九　四
國稅徵收法の改正に就て　常吉　德壽〔國家〕明三八　一九　七
租稅に於ける給付能力原則の新意義及適用に就て　泉二　新熊〔法政〕明三八　九　二
刑法總則と稅則違反罪　小川鄕太郎〔京法〕明三九　一　四
租稅論の未決問題　田島　錦治〔京法〕明三九　一　一
累進稅及比例稅　神戶　正雄〔京法〕明三九　一　二
租稅原則に付きて　田中　穗積〔國經〕明四〇　二　九
特別賦金論
關稅の改正及內國稅制の革新　加藤政之助〔日經〕明四〇　一　一八
直接稅の負擔力　相原　重政〔統集〕明四〇　一　〔四二一九／四二二六〕
日本の財政特に租稅制度に就て　神戶　正雄〔日經〕明四一　二　七
稅源論　兩夜亭〔東經〕明四一　一五七　一四二七
租稅の道義的基礎を論ず　神戶　正雄〔京法〕明四一　三　一〇
直接稅と間接稅との區別の標準　神戶　正雄〔京法〕明四一　三　二五
保護稅と國利民福　丹羽　豐〔國經〕明四一　五　四
關稅制度上に於ける內國稅と戾稅　津村　秀松〔國經〕明四二　六　一
（ヘンリージョージ）
單稅論　〔東經〕明四二　五九　一四九四
租稅及國費法則の新提案　神戶　正雄〔國家〕明四二　二四　四
租稅の觀念　神戶　正雄〔京法〕明四二　五　四
直接稅統一論　小林丑三郎〔東經〕明四四　六四　〔一六二四／一六二八〕
現行稅法に依る各種所得の負擔に就て　松崎藏之助〔日經〕明四四　九　一一五
租稅に於ける給付能力原則の新意義及適用に就て　神戶　正雄〔國經〕明四四　一〇　五
生活の必需品に課する租稅に就て　馬場　鍈一〔新報〕明四四　二一　四
現行稅法に依る各種所得の負擔に就て　松崎藏之助〔國家〕明四四　二五　四六
日本國民の收得と稅金　高橋　秀臣〔國經〕大元　一二　三
租稅轉嫁概論　熊崎　良〔國經〕大元　一三　五
稅法の改正　松崎藏之助〔日經〕大二　一三　一一六
國稅徵收法第三十二條の解釋　橫山勝太郎〔辯協〕大二　一七　一七七
所得稅最低課稅額と租稅政策の變遷とに就て　松崎藏之助〔法協〕大二　三一　五一六

				卷	號	頁
金備擴張と直接稅の增收	田邊	高雄	〔三學〕	大三	八	三
遞稅鬪爭を論ず	小川鄕太郎		〔國經〕	大三	一七	一
租稅の滯納を論す	神戶	正雄	〔京法〕	大三	九	一
朝鮮增稅問題	關根	重憲	〔日經〕	大三	一四	二
現內閣の財政策と減稅問題	町田	忠治	〔財經〕	大三	一	六
租稅の新傾向	神戶	正雄	〔經叢〕	大四	一	一
租稅負擔の理論及實狀研究の一節	神戶	正雄	〔國經〕	大四	一八	五
社會政策より觀たる我國租稅制度	河津	暹	〔國家〕	大四	二九	一二三
還元に因る脫稅	町田	成美	〔國家〕	大五	三〇	九
租稅法規の不備に乘する巧妙なる脫稅方法に就て	神戶	正雄	〔新報〕	大五	二六	三
最小活資の免稅を論す	神戶	正雄	〔經叢〕	大五	三	五一六
租稅と社會政策	上田貞次郎		〔國經〕	大五	二一	六
現行稅法中改正を希望すべき若干點	神戶	正雄	〔新報〕	大六	二七	四
租稅に於ける强制と任意	神戶	正雄	〔經叢〕	大六	五	六
租稅と社會政策に就て上田敎授の批評に答ふ	田中	穗積	〔國經〕	大六	三	一
單稅理論の爭點	土方	成美	〔國家〕	大六	三一	六
廣義の公有物及租稅の本質	筧	克彥	〔國家〕	大七	三二	二一三
國防充實と增稅	小川鄕太郎		〔經叢〕	大七	七	五
現行稅制改正統一所得法論	柿沼	谷雄	〔新聞〕	大八	一	一〇八
特別課徵の課額の決定	神戶	正雄	〔經叢〕	大八	九	五
特別課徵の利害竝に其當否	神戶	正雄	〔經叢〕	大八	九	四
社會政策的租稅の價值	內池	廉吉	〔國經〕	大八	二七	六
租稅收入豫算の見積を論す	小川鄕太郎		〔經叢〕	大八	九	五
稅法上の積立金に就いて	中村	雄男	〔會計〕	大八	六	三一五
社會的租稅政策の根本理論	小川鄕太郎		〔經叢〕	大九	一〇	二
德川時代の稅制	瀧本	誠一	〔經叢〕	大九	一二	二
增稅案修正の批判	清水文之輔		〔東經〕	大九	八	二〇六六
租稅の限度に就きて	神戶	正雄	〔經叢〕	大九	一二	一一二
累進課稅の根據に就きて	神戶	正雄	〔經叢〕	大九	一二	三
累進課稅の弱點に就きて	神戶	正雄	〔經叢〕	大九	一二	四
琉球藩制時代の稅制	小島	熏	〔國國〕	大九	八	二一四
手數料決定上の二問題	神戶	正雄	〔經叢〕	大九	一〇	一
累進稅の公平犧牲說に關する統計的觀察	汐見	三郎	〔經叢〕	大一〇	一二	二
直接稅制度の整理に就て	小川鄕太郎		〔經叢〕	大一〇	一二	一
租稅政策の根本原則	三浦	武美	〔國經〕	大一〇	三一	六
租稅に於ける補完作用に就きて	神戶	正雄	〔經叢〕	大一〇	一二	五
給付能力原則の適用	神戶	正雄	〔經叢〕	大一〇	一二	三
租稅に於ける給付能力の原則	神戶	正雄	〔經叢〕	大一〇	一二	二
租稅回避を論ず	關口健一郎		〔新報〕	大一一	三二	一〇

				卷	號	頁
租稅に關して	清水	澄	〔新報〕	大一一	三三	二
稅率重ければ脫稅多し	成瀨	義春	〔財經〕	大一一	九	一三
租稅負擔の地方別研究	汐見	三郎	〔經叢〕	大一一	一五	四
間接稅の整理を論ず	小川鄕太郎		〔經叢〕	大一一	一四	五
累進稅の根據に就て	小川鄕太郎		〔經叢〕	大一一	一四	一
累進稅の根據と限界効用說	土方	成美	〔經論〕	大一一	一	一
小川博士著「租稅論」を讀むで再び累進稅の根據を論ず	土方	成美	〔經論〕	大一二	一	二
二重稅を論ず	小川鄕太郎		〔經叢〕	大一二	一四	四
最低生活費免稅論	小川鄕太郎		〔經叢〕	大一二	一四	二
租稅及租稅政策の進化	武田	英一	〔國經〕	大一二	二三	三
租稅負擔の一般と租稅の民衆化	神戶	正雄	〔經叢〕	大一二	一五	一
租稅立法に於ける階級打算的態度	神戶	正雄	〔經叢〕	大一二	一五	一
跋行的減稅案を排す	神戶	正雄	〔經叢〕	大一二	一四	五
震災と租稅	伊藤	正德	〔財經〕	大一二	一〇	五
租稅の逋脫	小川鄕太郎		〔經叢〕	大一二	一七	六
租稅の逋脫	神戶	正雄	〔經叢〕	大一二	一七	五
餘剩價值と租稅	小林丑三郎		〔經商〕	大一二	二	一
震災に伴ふ稅務の諸問題	山本	貞作	〔會計〕	大一二	一三	六
貨幣價值の成立と租稅の作用	土方	成美	〔經論〕	大一二	一	三
稅法の新改正を論ず	小川鄕太郎		〔經叢〕	大一二	一六	五六
租稅問題	神戶	正雄	〔時經〕	大一二	一	一六
納稅義務者としての國家	神戶	正雄	〔經叢〕	大一二	一六	二
租稅配分に於ける公益逆比の原則	神戶	正雄	〔經叢〕	大一二	一六	四
減稅か減債か	神戶	正雄	〔經叢〕	大一二	一六	一
信託と諸稅	成瀨	義春	〔財經〕	大一二	一〇	二
租稅に關する會計問題の法律的解釋	細矢	祐治	〔會計〕	大一二	一三	三
投資と租稅	富永新次郎		〔會計〕	大一三	一五	二
不景氣と租稅	神戶	正雄	〔經叢〕	大一三	一八	五
奢侈抑制と租稅改革	神戶	正雄	〔經叢〕	大一三	一八	四
稅界葛藤錄一束	堀江	歸一	〔エコ〕	大一三	二	一四
租稅歸着論概說	平田	芳造	〔會計〕	大一三	一四	四
租稅の公平と利益團體の組織	內池	廉吉	〔國經〕	大一三	二七	二
資本課稅と減廢稅	神戶	正雄	〔經叢〕	大一三	一八	六
緊縮と非募債と減稅	澤田	謙	〔社政〕	大一三	一	四七
減稅論素人解	成瀨	義春	〔財經〕	大一三	一一	一三
信託と租稅	小川鄕太郎		〔經叢〕	大一三	一七	六
律令の土地制度並に租稅制度と家人奴婢との關係に就いて	山本	貞作	〔會計〕	大一三	一五	五一六
國債利子及官吏俸給の免稅	渡邊	善藏	〔會計〕	大一三	一四	二
	瀧川政次郎		〔法協〕	大一四	四三	四一六
	神戶	正雄	〔經叢〕	大一四	二一	一

			年	卷	號	頁
租稅公正の實現難	神戸 正雄	〔經叢〕	大一四	一一	五	一
間接稅負擔の地方別研究	汐見 三郎	〔經叢〕	大一四	二一	三	一
課稅と時の元素	神戸 正雄	〔經叢〕	大一四	一〇	五	一
物價と租稅の不公平	神戸 正雄	〔經叢〕	大一四	二〇	四	一
生計調査より觀たる租稅負擔	汐見 三郎	〔經叢〕	大一四	二一	五	一
公益上の免稅	神戸 正雄	〔經叢〕	大一四	二一	二	一
租稅負擔の分配	神戸 正雄	〔時經〕	大一四	一	三六	一
租稅負擔の公正	堀江 歸一	〔エコ〕	大一四	三	一三	一
ライプチヒ商科大學に於ける「稅務研究所」	平井泰太郎	〔國經〕	大一四	三八	一	一
我邦國稅負擔の分配	神戸 正雄	〔時經〕	大一五	一	四七	一
租稅收入の季節的變動	汐見 三郎	〔經叢〕	大一五	三	五	一
單一稅の實現性	汐見 三郎	〔經叢〕	大一五	三	二	一
國稅體系と地方稅體系	高島佐一郎	〔國經〕	大一五	四〇	四五	一
改稅後の本邦國稅及地方稅體系大觀	神戸 正雄	〔時經〕	大一五	一	四六	一
信託稅制概論	細矢 祐治	〔會計〕	大一五	一八	四六	一
岡山藩の稅制	黒正 巖	〔經叢〕	大一五	三	六	一

學說

アダム・スミスの「租稅の原則」	工藤 重義	〔國家〕	大七	三	六	一
アダム・スミスの租稅論	堀江 歸一	〔三學〕	大二	一七	七	一
リカルドの租稅論	大内 兵衛	〔經論〕	大一三	三	二	一
スミスの租稅原則	神戸 正雄	〔經叢〕	大一三	一八	一	一
福祉經濟學者の租稅論	阿部 賢一	〔早政〕	大一四	一	一	一
マルクス「稅制改革論批判」	大内 兵衛	〔原雜〕	大一五	四	一	一
マーシャルの租稅學說	阿部 賢一	〔社科〕	大一五	二	一	一

稅制整理

稅制の整理	小林丑三郎	〔新報〕	明三九	一六	五	一
稅法整理	瀧本 美夫	〔國家〕	明四一	二三	二—四	一
減債か減稅か	阪谷 芳郎	〔日經〕	明四五	一〇	七	一
減債か減稅か	松崎藏之助	〔日經〕	明四五	一〇	七	一
減債か減稅か	神戸 正雄	〔日經〕	明四五	一〇	七	一
減債か減稅か	瀧本 美夫	〔日經〕	明四五	一〇	七	一
減債か減稅か	堀江 歸一	〔日經〕	明四五	一〇	七	一
減債か減稅か	本多 精一	〔日經〕	明四五	一〇	七	一
減債か減稅か	月浦 山人	〔日經〕	明四五	一〇	七	一
減稅及官業拂下の世論	田島 錦治	〔京法〕	大二	八	七	一
稅制の整理に關する二三の問題に就て	馬場 鍈一	〔新報〕	大二	二三	四	一
稅制根本的整理に就て	田中 穗積	〔洋經〕	大三	一	明六六六六八	一
大に減稅を要求すべし	松山忠二郎	〔財經〕	大三	一	一	一
稅制整理の根本方針	田中 穗積	〔財經〕	大三	一	八	一
稅制整理に就て	内池 廉吉	〔國經〕	大八	二七	三	一
社會政策よりする稅制整理	牧野 義智	〔會計〕	大八	六	三	一
稅制整理に就て	小林丑三郎	〔新聞〕	大九	一	一七—四	一
稅制整理の根本方針	若槻禮次郎	〔財經〕	大九	七	一一	一

			年	卷	號	頁
稅制整理に就いて	渡邊 鐵藏	〔財經〕	大九	七	七	一
稅制の改造	小林丑三郎	〔東經〕	大九	八一	二〇 二七	一
稅制改革の歸着點	若槻禮次郎	〔財經〕	大一〇	八	二〇 二九	一
稅制整理の主要問題に就きて	神戸 正雄	〔經叢〕	大一〇	一一	五	一
稅制の整理に就て	增島六一郎	〔財經〕	大一一	九	五	一
稅制整理案の缺點	成瀨 義春	〔財經〕	大一一	九	九	一
稅制整理問題	神戸 正雄	〔時經〕	大一一	一—一三		一
小川博士著、稅制整理論	土方 成美	〔經論〕	大一二	二	二	一
國稅整理の方法如何	成瀨 義春	〔財經〕	大一四	一二	二一	一
稅制整理案を評す	成瀨 義春	〔財經〕	大一四	一二	一〇 二七	一
三派稅整案の比較	成瀨 義春	〔財經〕	大一四	一二	二一	一
政友會の稅制整理案	成瀨 義春	〔財經〕	大一四	一二	二〇	一
稅制整理の目的如何	成瀨 義春	〔財經〕	大一四	一二	八	一
國稅整理の方法如何	成瀨 義春	〔財經〕	大一四	一二	九	一
稅制整理の批判	小林丑三郎	〔金融〕	大一四	二	九	一
稅制整理案論評	松田 雪堂	〔金融〕	大一四	二	一〇	一
稅制整理案の批判	宇都宮 鼎	〔金融〕	大一四	二	一〇	一
整稅案の一缺點として負債利子の問題	神戸 正雄	〔經叢〕	大一四	二一	四	一
三政黨の稅整案概評	濱島 覺成	〔經商〕	大一四	四	九	一
稅制整理案の嚴正批判	小林丑三郎	〔經商〕	大一四	四	一〇	一
來るべき稅制整理の方針	神戸 正雄	〔時經〕	大一四	一	三四	一
政府の稅制改革基礎案批評	神戸 正雄	〔時經〕	大一四	一	三七	一
政友會の改稅案批評	神戸 正雄	〔時經〕	大一四	一	三七	一
政變の動機となりたる整稅	神戸 正雄	〔時經〕	大一四	一	三八	一
在野二大政黨の稅制整理案	神戸 正雄	〔時經〕	大一四	一	四〇	一
新聞紙に現はれたる稅制整理論	生松 淨	〔經研〕	大一四	二	三	一
稅制整理の目標如何	堀江 歸一	〔エコ〕	大一四	三	九	一
稅制整理に就て	小川鄉太郎	〔イン〕	大一四	一	六	一
稅制整理に就て	馬場 鍈一	〔新報〕	大一四	三五	一〇	一
稅制整理並に教育費國庫負擔增額の財源	成瀨 義春	〔財經〕	大一四	一二	二二	一
稅制整理と中流階級	成瀨 義春	〔財經〕	大一五	一三	五	一
社會政策上より見たる國稅整理案	成瀨 義春	〔財經〕	大一五	一三	三	一
所謂稅制妥協案	神戸 正雄	〔時經〕	大一五	一	四五	一
稅制はいかに改正されんとしてゐるか	山本 貞作	〔會計〕	大一五	一八	一—四	一

課稅

課稅の基礎を論ず	田島 錦治	〔新報〕	明一九	六	明六二 五六二	一
租稅賦課方法に就て	服部 信吉	〔國家〕	明三三	一四	一六〇	一
課稅の基礎	田島 錦治	〔內外〕	明三五	一	三	一
重複課稅論	馬場 鍈一	〔明學〕	明三八	一	明九四 五九六	一
不當課稅に關する最近の行政裁判例	鄉古 潔	〔法協〕	明四二	二七	七	一
君主に對する課稅	佐々木惣一	〔京法〕	大二	八	二	一

課稅と獨占價格　高田　保馬〔經濟〕大五　三　甲一五
株式會社課稅問題　町田　成美〔國家〕大六　三　一一二
會社の課稅に關し疑問となりたる一つの點　上田貞次郎〔會計〕大六　一　二
會社の合併禁止的課稅論を難ず　大崎萬太郎〔會計〕大七　四　二一二
船舶取扱者より觀たる運送業の課稅　小原　朝彥〔會計〕大七　四　六
課稅權の理由　內池　慶吉〔國經〕大七　二五　甲一五
法人の所得に對する課稅方法に就て　石田　芳助〔國經〕大八　二七　六
株式のプリイミアムを論じて其課稅問題に及ぶ　中村　茂男〔會計〕大九　七　三
株式の分布と課稅（株式會社株主に對する武藤氏の誤解）　汐見　三郎〔經濟〕大九　一〇　五
汐見法學士に答ふ　武藤　山治〔經濟〕大九　一〇　六
會社合併の場合に於ける課稅上の諸問題　中村　俊雄〔會計〕大一〇　八　二六
自然的課稅の主張者　金原賢之助〔三學〕大一一　天　一〇一
最低生活費の課稅說を駁す　小川鄉太郎〔經濟〕大一一　一四　三
不勞增價と課稅政策　前田　稔靖〔商業〕大一二　四　三
國際重複課稅防止策　北崎　進〔經商〕大一二　二　一
「日步貯金」利子は非課稅　山本　貞作〔會計〕大一二　三　二

各種租稅

連系會社の課稅に就て　稻森　實〔經研〕大二　一　一
所得本體の不明確又は捕捉難に基く不公平課稅の可能　神戶　正雄〔經濟〕大二　一九　一
課稅に於ける家族事情の考慮　神戶　正雄〔經濟〕大一四　二〇　三
無收益財產の課稅　神戶　正雄〔經濟〕大一四　二一　三
重複課稅の本質　神戶　正雄〔經濟〕大一五　三　一
參照＝印紙稅。營業稅。織物消費稅。家屋稅。關稅。交通稅。財產稅。資本利子稅。所得稅。消費稅。戰時利得稅。相續稅。地租。地方稅。
土地增價稅に付て　美濃部達吉〔新報〕四〇　一七　二
土地增加稅の轉嫁問題に就きて　神戶　正雄〔京法〕明四五　七　一
土地增價稅を概論す　熊崎　良〔日經濟〕大九　三　一
社會政策としての增價稅　笠間　杲雄〔國家〕大九　二六　八
土地增價稅と財政需要　神戶　正雄〔京法〕大九　七　八
土地增價稅の異論の異論　神戶　正雄〔國家〕大九　二六　八一〇
間接土地增價稅の學理的意義より直接土地增價稅に論及す　熊崎　良〔國經〕大二　一五　一二

都市計畫財源としての土地增價稅　前田　稔靖〔長彙〕大二　一　三
社會的財政思想の表現としての特別賦課及土地增加稅　高島佐一郎〔國經〕大二三　三六　二一四
土地增價稅に就て　田川大吉郎〔洋經〕大二三　一　一一二七、一一二八
土地增價稅に就いて　村山　五作〔洋經〕大二三　一　一二六
土地增價稅は中產者を亡さん　佐野　志郎〔洋經〕大二三　一　一二七
土地增價稅の一問題　神戶　正雄〔時經〕大二四　一　三一
土地增加稅に就て　矢島慶次郎〔洋經〕大二四　一　一二三一
土地增價稅は特別稅との關係　田川大吉郎〔洋經〕大二四　一　一二三七
土地增加稅制定に對する反對論に就いて　伊藤　俊雄〔新聞〕大二四　一　二三五六
土地課稅の一新例　桑田　熊藏〔法政〕明三九　一〇　一二
租稅制度に於ける土地差增稅の地位　堀江　歸一〔三學〕明四二　一　二
地價の課稅と都市人口集積　青木　嗣夫〔國家〕明四二　二三　七
土地課稅新案　神戶　正雄〔經濟〕大二　一七　六
土地の賃貸價格稅　神戶　正雄〔時經〕大三　一　一八
土地課稅制度に對する考察　北崎　進〔政經〕大五　一　一
酒造稅論　河田　嗣郎〔日經〕七四一　二　九
酒造稅煙草專賣價及郵便料金の引上說　神戶　正雄〔時經〕大一四　一　三〇
酒稅の矛盾及び不徹底　神戶　正雄〔經濟〕大七　六　一
現行內國酒稅　關口健一郎〔國家〕大一一　三六　九一〇
酒庫出稅說を評す　永雄　策郎〔東經〕大二　六八　一七一五
清酒庫出稅と租稅の立替　汐見　三郎〔經濟〕大五　三　一
兵役稅論　田中　穗積〔國經〕明四九　一　四
兵役稅論　吉川　良矩〔京法〕明三九　一　甲一六
兵役稅論　泉　至剛〔日經〕大二　一四　一〇一二
兵役稅を制定せよ　森下憲之丞〔會計〕大一〇　九　二一四
再び兵役稅に就て　片山貞一郎〔國家〕明四〇　二二　二一
骨牌に重稅を課することに就て　松本　順吉〔法政〕明三六　七　一
登錄稅及印紙稅に付て　唯野　喜八〔會計〕大二四　一六　五
土地臺帳に關する登錄稅の廢止を論ず　松崎藏之助〔法協〕明三八　三三　二
壯丁稅を論す　町田　成美〔國家〕大五　三〇　四
本邦壯丁稅問題に就て　神戶　正雄〔經濟〕大五　三　二
國防稅の本質　神戶　正雄〔經濟〕大五　三　二一四
國防稅の當否　神戶　正雄〔經濟〕大八　九　一
住居稅の公平負擔　神戶　正雄〔經濟〕大八　九　二
住居稅の本質及其構造　神戶　正雄〔經濟〕大八　九　三
住居稅の利害と高級住居稅の提案　神戶　正雄〔經濟〕大八　九　三
奢侈稅の辯難　神戶　正雄〔經濟〕大八　九　四五

奢侈税の本質及其構造	神戸	正雄	新報
奢侈税の實例と其價値	松野清次郎		商經
奢侈税論	泰	順治郎	國家
綜合奢侈税の批評	神戸	正雄	經濟
奢侈課税としての關税	神戸	正雄	經濟
資上税の本質及其所	神戸	正雄	經濟
資上税の缺點	神戸	正雄	經濟
間地税の觀察點	神戸	正雄	經濟
間地税の當否	神戸	正雄	時經
業税に就て	山崎	犀二	法政
業税の重税	神戸	正雄	經濟
業税の構成	神戸	正雄	經濟
税に就て	伊吹	山德司	國家
税に關する諸問題	小林丑三郎		國家
税と新設すべし	濱永	生	東經
税と通行税	黒澤		東經
税の改革	戸田	海市	國經
論	得三		法協
税と公債	青木		經
税法の整理と釐革實例	工藤	重義	國家
税論	子島	兵衛	國經
稅	撫順		

支那

支那の關税	青木	得三	國家
支那の租税制度	町田	成美	國家
支那の煙酒税	木村增太郎		亞經
民國新工業品に對する新税則	宮脇實之介		亞經

獨逸

獨逸に於ける地價差增税	下條	歳彦	國家
獨逸の新土地增價税と土地改良運動	神戸	正雄	京法
獨逸に於ける土地增加税	高島	誠一	國經
獨逸の租税改革	神戸	正雄	京法
獨逸の戰時税	土方	成美	國家
獨逸戰時財産差增税新法案に就て	汐見	三郎	經濟
獨逸帝國に於ける税制の發達と論ず	小川	鄉太郎	經濟
戰時戰後に於ける獨逸税制の變革を論ず	小川	鄉太郎	經濟
獨逸增價法正文	小町谷操三		志林

米國

米國に於ける戰時税	北崎	進	經商
北米合衆國增税案の經過	三浦	貳美一	國經
米國の戰時租税法	阿部	賢一	經濟
米國の戰後財政と租税政策	土方	成美	國家
米國の租税法改正	十龜	虔夫	日經

其他

歐米諸國に於ける自働車税制度	内務省地方局		法政

【租製造】

粗製品輸出の原因	丹羽	筑山	實經
漫に粗製濫造を說くべからず	加地觀次郎		洋經
輸出品の粗製濫造に就て	田中穗積		日經
粗製濫造と輸出影響	村	秋	實經
我が經濟界に於ける粗製濫造の現象	田		實經
露國軍備註文と粗製濫造	戸田	海市	京法
粗製濫造品の取締を論ず	松崎伊三郎		洋經
戰時の我輸出品の粗製濫造	河津	選	國家
粗製濫造の防止と檢査制度	戸田	海市	經濟
粗製濫造の日本	松崎		志林
	志田鉀太郎		財經

【ソレル】 (Georges Sorel, 1847-1922)

ソレル著作年表	百瀨二郎		三學
ソレルと唯物史觀	百瀨二郎		三學

【損金計算】

參照＝會計學。原價計算。

庭園税に就きて	神戸	正雄	新報
仲買業に對する營業税に就て	戸田	海市	京法
遊興税論	川瀨善太郎		國家
一種の營業税	三浦	周行	經濟
山林伐採の取得税に就て	三浦	正雄	國經
財産税に對する諸種の非難	川瀨善太郎		國家
純理上より觀たる財産重課に答ふ	神戸	正雄	經濟
貸金税の性質	坂	千秋	法政
物價の變動と從量税	汐見	三郎	經濟
收益税改造の一案	工藤	重義	國家

英國

英國の土地增價税に就て	戸田	海市	京法
英國國民保險税の農業經濟	神戸	正雄	時經
英國に於ける轉嫁問題	小島昌太郎		京法
英國の戰時增税及び公債	河田	嗣郎	經濟
英吉利の新税	河津	選	國家
英國に於ける税制改正と社會政策	戸田	海市	經濟

支那

支那の關税	青木	得三	國家
支那の租税制度	町田	成美	國家

			年	卷	號
經濟學に於ける損益の概念	小島昌太郎	〔商經〕	大五	一	三
賣上商品の純益計算に就て	武貞　孝內	〔會計〕	大六	二	二—三
損益問題研究の必要	東　爽五郎	〔會計〕	大七	三	二
損益境上のReserve account に就て	太田　哲三	〔會計〕	大八	六	二—三
價格減損計算法	山本　憲介	〔計理〕	大九	一	五
經費分割の二原則	太田　哲三	〔會計〕	大一一	三	二
會計損益私論	中村　茂男	〔經商〕	大一一	一	一
損益計算書及利益處分表	佐藤　雄能	〔會計〕	大一三	三	五—六
貨幣價値の變動と損益計算	增地庸治郎	〔商研〕	大一二	二	三
損益勘定を論ず	下野直太郎	〔會計〕	大一三	三	四
損益計算論	村峰　幾造	〔計理〕	大一二	一一	四—六
損益表と貸借對照表との關係	磯野　半造	〔商事〕	大一二	四	一
大震火災の損害額計算に就て	古館市太郎	〔計理〕	大一三	一	一七
企業財產の評價及會計損益	中村　茂男	〔會計〕	大一三	一五	一
後期繰越金と缺損金補塡との關係に就て	矢島慶次郎	〔會計〕	大一三	一五	四
信託會社損益計算の基礎	細矢　祐治	〔銀研〕	大一三	七	一
決算期に於ける損益勘定の分立に就きて	田中藤一郎	〔商叢〕	大一三	二	一
收益計數及經濟的效果より見たる減配の可否	松尾　藤平	〔銀叢〕	大一四	五	三
損益計算理論	高瀨莊太郎	〔商研〕	大一三	四	二
ワルプの新二勘定系列と損害計算の二途	林　健二	〔國經〕	大一五	四〇	四
損益計算書の解剖	中瀨勝太郎	〔經商〕	大一五	五	一
企業損益の計算に就いて	岡田　誠一	〔會計〕	大一五	一八	四
特殊なる賣買損益計算法各種	中西新兵衛	〔會計〕	大一五	一八	四
都下五大銀行損益計算	稻葉新三郎	〔銀研〕	大一五	一〇	一

【損害保險（ソンガイホケン）】

參照＝運送保險。火災保險。

			年	卷	號
奇災保險論	栗津　清亮	〔保雜〕	明三六—大一〇	八—一〇八	
物の一部分は獨立して損害保險の目的となり得さる乎	內田　庸郎	〔保雜〕	明三七	九	九九
損害保險の相互會社には有限責任を認むへからさるか	岡野敬次郎	〔國家〕	明三九	二〇	一
損害保險の危險と過失	村上　隆吉	〔保評〕	明四二	二	二
損害保險契約に於ける被保險利益の觀念	北田彥三郎	〔新報〕	明四三	二〇	三
獨逸に於ける有價證券抽籤償還より生ずべき損害に對する保險	井浦仙太郎	〔國經〕	大二	一四	六
商法第三九七條適用の範圍	水口　吉藏	〔新報〕	大四	二五	九
損害保險に於ける危險の選擇	前田加一郎	〔商經〕	大二	一	二八
有價證券の損害保險論	吉田政之助	〔新聞〕	大三	一	二〇八一
損害保險會社に於ける支拂保險金勘定に就て	中山秀次郎	〔會計〕	大一五	一八	六

【ゾンバルト】 (Werner Sombart, 1863-)

			年	卷	號
ゾムバルト「無產者階級論」（譯）	河田　嗣郎	〔日經〕	明四一	三	二—四
ゾムバルト「米國に社會主義無き理由」（譯）	河田　嗣郎	〔日經〕	明四一	四	一—二
ゾムバルトの觀たるマークス	小西　虎雄	〔國經〕	明四三	九	二—四
ゾムバルトよりマルクスへ	福田　德三	〔國經〕	明四四	一〇	三
ゾムバルトの傲語	織田　萬	〔京法〕	大五	一一	六
ゾンバルト「無產勞働階級の研究」（譯）	大山　郁夫	〔我等〕	大八	一	一四
「近世資本主義」第二版序文緒論に於けるゾンバルト	高木　壽一	〔三學〕	大一三	一八	七
ゾムバルトの「プロレタリヤ社會主義」	小泉　信三	〔三學〕	大一四	一九	四

夕部

【ダアヴィン】(Charles Robert Darwin. 1809-1882)

ダルヰンを憶ふ　河上肇〔經濟〕明29年 5巻 6號
ダーヴヰンの淘汰論と社會的進化　舞出長五郎〔國家〕大七 三三 九
ダーヴヰンの進化論に誤られたるヨーロッパ　藤井悌〔社政〕大一〇 一 九

【ダアダネルス海峽(カイキョウ)】

ターダネルス軍艦通過問題　有賀長雄〔外時〕明三六 六三
ダルダネルス問題　有賀長雄〔外時〕明四五 一五 一八一
兩海峽中立問題　宮本平九郎〔外時〕大二 一七 一九七
ボスフオラス・ダーダネルス海峽問題　末廣重雄〔法叢〕大一二 一九 一六

【犬學(ガクノ)】 教育を見よ

【怠業(タイギョウ)】

サボタージュに對する私見　神戸正雄〔經叢〕大八 九 五

団盟怠業の道徳的批評に就て　美濃部達吉〔新報〕明三六 二三 四六
サボタージュは非　河上肇〔經濟〕明29年 5巻 6號
サボタージュの由來　河田嗣郎〔經叢〕大八 九 五
芳賀榮造〔社政〕大九 一 一

【大權(タイケン)】 參照＝恩赦。戒嚴令。天皇。

豫算と官制〔法政〕　小林丑三郎〔法政〕明三〇 一 六
大權を以て租稅の徴收を免除することを得るや否やに關する獨逸國法學者の論爭　一木喜德郎〔法協〕明三一 一六 六
君主は監國を設置し得るや　副島義一〔法政〕明三一 二 一四
大權の特立　穗積八束〔國家〕明三一 一三 一三七
〔法政〕明三一 二 一七
官制制定權を論ず　鐵史樓主人〔新報〕明三二 一〇 一一六
非常大權の行動を論ず　神居繁太郎〔志林〕明三五 四 三六
憲法第三一條に所謂戰時又は國家事變の場合に於ける天皇大權の施行に就て　島田俊雄〔明法〕明三五 一 四一
君主の大權を論して敎を穗積博士に請ふ　美濃部達吉〔新報〕明三六 一三 一
美濃部大學敎授の論說に付て　穗積八束〔法協〕明三六 二一 三
再び大權事項と立法との關係を論ず　美濃部達吉〔法協〕明三六 二一 四
大權の觀念を論ず　美濃部達吉〔新報〕明三六 一三 四六
非常大權の行動を論ず　山崎捨吉〔法政〕明三七 八 一
統帥權を論ず　遠藤源六〔法協〕明三七 三三 二
兵馬大權の行動　寺崎勝治〔新聞〕明三七 一 二二三 二二七
戒嚴令の適用及新聞紙の發行停止に關する非常命令に就て　花井卓藏〔辯協〕明三八 九 九一
非常命令論評　花井卓藏〔新聞〕明三八 一 三一五
憲法上の大權に基く既定の歲出　市村光惠〔京法〕明三九 一 一
自由行政と所謂「憲法上の大權」　井上密〔京法〕明四二 四 五
緊急勅令の改廢を論じ非常大權命令及豫算との關係に及ぶ　占部百太郎〔外時〕大一五 四三 五〇六
英國王の大權と實際政治上の地位　占部百太郎〔外時〕大一五 四三 五〇六
外交調査會の決議と陸海軍統帥權　松本烝治〔評論〕大九 一 一
大權に關する非違二項　松本重敏〔新聞〕大七 一 一四三
陸海軍統帥權及び內閣制（二重政府說二重外交說の妄を辨ず）　上杉愼吉〔國家〕大一〇 三五 一
政治と統帥權との關係　稻田周之助〔新報〕大一一 三三 二
山田陸槻〔外時〕大一四 四一 五〇一

【貸借對照表(タイシャクタイショウヒョウ)】 參照＝財產評價。財產目錄。

財產目錄及貸借對照表調製に關する意見　大原信久〔新聞〕明三四 一 四七
財產目錄貸借對照表に就て　岡野敬次郎〔新報〕明三五 一二 一
財產目錄と貸借對照表に付て　松本烝治〔新聞〕明三六 一 一二四
貸借對照表調製に付て　大原信久〔新聞〕明三六 一 一二四
財產目錄貸借對照表に關する岡野博士所論を讀む　大原信久〔新聞〕明四三 一 六五三
有限責任會社に於ける貸借對照表を論ず　小坂英太〔國經〕明四四 一二 四一五
銀行の貸借對照表と其保證債務問題　宇佐美力〔國經〕明四四 一〇 五
再び貸借對照表に就て　大原信久〔新聞〕大九 一 八三一
貸借對照表上に於ける創業費　松本烝治〔評論〕大九 一 一
監査役は虛僞の貸借對照表の公告に責を負ふ　松波仁一郎〔法記〕大二三 九一一〇
再び貸借對照表論に就て　蒔山正〔東經〕大一一 六七 一七〇 一七〇三
貸借對照表と商法の一部改正　大原信久〔新聞〕大三 一 九一四

項目			
貸借對照表の解釋法	貸借對照表能力	貸借對照表政策の研究	自働中間貸借對照表と產定
借方及び貸方の意義	動的貸借對照表論	河谷武夫〔商業〕	上野道輔〔經論〕
貸借對照表の調製法に就て	シュマーレンバッハ教授の	上野道輔〔經論〕	中西寅雄〔經論〕
及ぶ	貸借對照表に就きて	飯田靜夫郎〔商業〕	飯田靜夫郎〔商業〕
論じて貸借對照表の形式	貸借對照表價値論の研究	松本烝治〔新報〕	上野道輔〔經論〕
「借方」「貸方」の意義を	論ず	礪野牛造〔商業〕	礪野牛造〔商業〕
ぜて學界の通説を指摘す	財産目錄及び貸借對照表を	河谷武夫〔計理〕	河谷武夫〔計理〕
照表に計上する慣例を論	損益表と貸借對照表との關係	藤山正〔會計〕	藤山正〔會計〕
ず	貸借對照表の經營論的考察	志田鉀太郎〔會計〕	志田鉀太郎〔會計〕
貸借對照表の用語を論ず	貸借對照表の樣式	下野直太郎〔會計〕	下野直太郎〔會計〕
貸借對照表の形式を論じ併	米國諸鐵道會社貸借對照表	三邊金藏〔三學〕	三邊金藏〔三學〕
貸借對照表の形式論に及	創業費を資產として貸借對	明路常造〔商經〕	明路常造〔商經〕
ぶ	價の原則に就て	三邊金藏〔三學〕	三邊金藏〔三學〕
貸借對照表と本質の概念	貸借對照表に現はれたる日	濱邊蓊藏〔國家〕	本郷船會社
貸借對照表の分解的觀察	貸借對照表に於ける資產評	明路常造〔商經〕	貸借對照表に現はれたる日
貸借對照表と本質の概念	貸借對照表の分解的觀察	明路常造〔商經〕	價の原則に就て
貸借對照表の形式論に及	貸借對照表と本質の概念	金藏〔三學〕	貸借對照表に於ける資產評
ぶ	貸借對照表の形式論に及	金藏〔三學〕	價の原則に就て
新たに貸借理論を闡明して	ぶ	常造〔商經〕	貸借對照表の分解的觀察
	新たに貸借理論を闡明して	常造〔商經〕	貸借對照表と本質の概念
		金藏〔三學〕	貸借對照表の形式論に及
			ぶ
			新たに貸借理論を闡明して

【代書人】

伊國代言人及代書人に關す	理想的貸借對照表の形式と	及見積貸借對照表	
支那共和國大統領の陸海軍	構造	中島幸之亮〔商事〕	三
	機續性の原則と貸借對照表	河谷武夫〔商經〕	三
	信託會社の貸借對照表及財	河谷武夫〔商經〕	三
	產目錄	糊矢祐治〔會計〕	一
	貸借對照表に現れたる英國	脇村義太郎〔經論〕	一
	の海運會社	桑野傳三〔國經〕	六
	經濟學上及び貸借對照表論	林健二〔國經〕	六
	上の資本概念	長谷川忠平〔銀研〕	六
	貸借對照表に於ける貸借	佐野包治〔銀業〕	六
	銀行家の立場より見たる貸	未喜〔會計〕	六
	借對照表	香治〔會計〕	六
	貸借對照表の通俗概念的考		
	印度會社法に定むる貸借對		
	照表雛形		
	察		
	資本の收益力と貸借對照表	小堀	

【大統領】

支那共和國大統領の陸海軍	對敵取引禁止令と其適用	平澤均治〔雜誌〕	五
主義の理論と其變遷	對敵取引禁止令を讀む	立作太郎〔外時〕	三01
	對敵取引禁止令	穗積重遠〔法協〕	六
	外國法		
	米國對敵取引禁止要領	岡實〔國家〕	二
	米國の對敵取引禁止法	穗積重遠〔法協〕	二
	對敵通商禁止に關する英米	板倉卓造〔法研〕	一

【對敵取引禁止令】

司法代書人法制定の必要	司法代書人に營業稅を課す	藤場	曲木如長〔法記〕
司法代書人不認可に對する	るは不合理なりとの解釋に	生〔新聞〕	一
訴願	付て	孟郎學人〔憲法〕	八
		小林清穗〔新聞〕	三

【大統領】

貸借對照表の金額に就て	貸借對照表の眞實性より見	原口寃平〔國經〕	三
貸借對照表の經營論的考察	貸借對照表の公告	只見徹〔國經〕	三
貸借對照表に於ける創業費	貸借對照表と財產目錄の區	志田鉀太郎〔會計〕	三
貸借對照表上に於ける創業費	別如何	松本烝治〔新聞〕	一
親會社子會社聯結貸借對照	表	吉田良三〔會計〕	一
米國諸鐵道會社貸借對照表	の樣式	大鹽篤一〔會計〕	八
損益表と貸借對照表との關	係	礪野牛造〔商事〕	一
貸借對照表價値論の研究		河谷武夫〔計理〕	一
貸借對照表に就きて			
シュマーレンバッハ教授の	動的貸借對照表論	飯田靜夫郎〔商業〕	
貸借對照表能力		上野道輔〔經論〕	
貸借對照表政策の研究		河谷武夫〔商業〕	
自働中間貸借對照表と產定		上野道輔〔經論〕	

統帥權　有賀長雄〔外時〕ニ　三〇參

佛國憲政に於ける大統領の地位　富澤俊義〔法協〕六三　四三　一七三

佛國憲政變と大統領の地位　中野登美雄〔外時〕六三　四四　四七三

米國大統領の權能と任務　北澤佐雄〔國家〕六五　四〇　四七　六

【太平洋】

參照＝軍備縮少。南洋。

太平洋の發達（譯）　伊吹山德司〔國家〕四三　三　一一三七

太平洋問題　柴崎雪太郎〔國經〕四四〇　三　二　九

太平洋に於ける日米　福島平〔京法〕四四〇　二　一　九

マックシー「太平洋と日米」（譯）　坂本德夫〔日經〕四四一　八　一四

マッゼー「大平洋上に於ける日米覇權論」（譯）　小山倉之助〔國家〕六六　三六　一一

Japanese-American relations, as affecting the control of the Pacific.　Edwin Maxey〔國家〕六六　三六　一一

アリューシャン群島　岩田秀雄〔外時〕四四五　一五　一八〇

太平洋上の國防問題　沼田照義〔國際〕六六　二　三　九

太平洋問題と遠洲海軍　煙山專太郎〔外時〕六六　二　八　三五

遠洲防備の變と太平洋問題　沼田照義〔國際〕六六　三　二　一〇

太平洋問題　安達謙藏〔日經〕六六　三　一四　二〇

太平洋に於ける對米海運問題を論ず　堀光龜〔商研〕六四　五　二

太平洋に於ける對米海運問題　〔國際〕六三　三　一〇

目露復交と太平洋政策の確立　堀光龜〔商業〕六三　一〇卷　一號

太平洋關係調査會設立　後藤新平〔外時〕六四四　四　四五

"Institute of Pacific Relations"について　高木八尺〔外時〕六四四　三　四五

松岡靜雄「太平洋民族誌」　高木八尺〔國家〕六四　二九　三

太平洋及極東方面に於ける米國勢力の段階　内藤吉之助〔社雜〕六五　一　二

現代米國の政治運動と社會　高木八尺〔國際〕六五　三　二三

世相を論じて太平洋問題の將來に及ぶ　高木八尺　六五　三　二三

太平洋問題と聯盟　神崎見　堀一郎〔法公〕六五　三　三　平六

【太平洋會議】

軍備縮少を見よ。

太平洋時代に入れる日米關係　堀光龜〔商業〕六三　一〇卷　一號

Protocol for the Pacific settlement of international disputes.　〔國際〕六三　三　一〇

太平洋に於ける對米海運問題を論ず　堀光龜〔商研〕六四　五　二

目露復交と太平洋政策の確立　後藤新平〔外時〕六四四　四　四五　四

太平洋關係調査會設立　高木八尺〔外時〕六四四　三　四五　五〇一

"Institute of Pacific Relations"について　高木八尺〔國家〕六四　二九　三

松岡靜雄「太平洋民族誌」　内藤吉之助〔社雜〕六五　一　二

太平洋及極東方面に於ける米國勢力の段階　高木八尺〔國際〕六五　三　二三

現代米國の政治運動と社會　高木八尺　六五　三　二三

世相を論じて太平洋問題の將來に及ぶ

太平洋問題と聯盟　神崎見　堀一郎〔法公〕六五　三　三　平六

太平洋の風波　神川彥松〔國家〕六六　三　三　一

北太平洋海運の現在及將來　田中館秀三〔財經〕六六　八　六　一七

太平洋の覇權と米國の外交　小山精一郎〔外時〕六六　七　六　三三八

戰爭と太平洋航路　〔實料〕六六　三　三　二

戰後の太平洋問題　坂本俊篤〔國際〕六六　八　一七　一〇

北太平洋に於ける富源　岡本鶴松〔外時〕六六　八　一九　二四

太平洋觀

太平洋の將來と列强の貿易

國際聯盟の價値を論じて太平洋問題に及ぶ　佐藤堅司〔外時〕六六　九　三　三九

太平洋問題と日英同盟　佐藤堅司〔外時〕六六　九　三　三七

ヤップ島　高橋粲二〔國際〕六六〇　一〇　一

太平洋問題　坂本俊篤〔國聯〕六六〇　一　七

太平洋の過去現在及將來　山田三良〔國家〕六六〇　三五　九一〇

太平洋上の日米關係　松波仁一郎〔外時〕六六〇　三五　三九

太平洋に於ける米國の利害關係　寺田四郎〔外時〕六六〇　三四　四〇

太平洋の戰備撤廢　末廣重雄〔外時〕六六〇　三四　四〇八

ヤップ島及他の赤道以北の太平洋委任統治諸島に關する日米條約　〔實料〕六六一〇　八七　一一二

太平洋問題　松波仁一郎〔國際〕六六一　二　一〇

太平洋防備問題　松波仁一郎〔外時〕六六一　三五　四五

【大實令】

參照＝法制史。

大實令の政府組織　辰巳小次郎〔國家〕四〇　一　八

大實法典の發布及修正　增田于信〔法協〕四五　一〇

大實令と貞永式目　岡部精一〔法協〕四八　三　二一〇

大實律令制定に至れる順末

並に大實律令の批評　山田正賢〔國家〕四九　三〇

大實令の親族法　池邊義象〔京法〕四九　一　一一

大實令及其の註釋書　池邊義象〔京法〕四〇　二　三

大實令の刑法　池邊義象〔京法〕四四　八　二

大實令に見えたる稱呼並に指にについて　黒板勝美〔法協〕六八　七　一三

【逮捕の罪】

逮捕罪と略取罪との區別　小畑傳〔新報〕四三　一九　八

【代理】

本人共代人に委任せる所爲

		年	卷	號
の責に任するは何故なりや	岡野敬次郎〔法協〕	明三一	六	五一
權限虧缺の代理行爲の追認を論す	松村　敏夫〔法協〕	明二六	一	三
新民法上復代理人は更に代理人を選任することを得るや	曙　學　人〔新報〕	明三〇	七	七五
代理に因る法律行爲の當事者を論す	塚田達二郎〔志林〕	明三三	二	九
代理の觀念	岡松參太郎〔新報〕	明三六	一三	五六
獨逸民法に於ける代理權	荻田　悅造〔法協〕	明三六	二一	八
法定代理と任意代理との區別を論す	岡松參太郎〔新聞〕	明三六	一	一五七、一五八
法定代理と任意代理との區別に關する岡松博士の論文を讀む	菱谷　精吾〔法政〕	明三七	八	一
復代理人の性質及復任權	志田鉀太郎〔法政〕	明三七	八	七
復代理人及復代理人選任權の本質	鈴木雄次郎〔新聞〕	明三八	一	二六六
復代理人及其選任權の本質に就て	熊倉　虎雄〔新聞〕	明三八	一	二六九
代理權の發生	土方　寧〔法協〕	明三九	二四	五
代理に關する大審院の判例	岩田　宙造〔法協〕	明三九	二四	六
代理に就て	中島　玉吉〔京法〕	明四〇	二	七
單獨行爲と代理權發生原因	荒田　簡二〔新聞〕	明四〇	一	四二七
表現代理及獨立代理を論す	覽　克彥〔新報〕	明四一	一八	三四
復代理人選任權なき代理人の行爲竝に其選任行爲の效力	梅　謙次郎〔志林〕	明四一	一〇	四
無權代理人の行爲と無能力者の行爲との效力の差異	乾　政彥〔志林〕	明四一	一〇	七
復委人と復代理人	三浦芳太郎〔明學〕	明四一	一	二七
代理行爲の要件を論す	神戸寅次郎〔三學〕	明四二	一	二五
未成年者の代理人としてなしたる法律行爲の效力	乾　政彥〔志林〕	明四二	二	二六
復代理人選任權の性質及び代無人の死亡は復代理權消滅の原因なりや	乾　政彥〔志林〕	明四二	一一	六
表見代理權	中島　玉吉〔京法〕	明四二	五	二
我商法と共同代理	松本　烝治〔新報〕	明四二	二〇	四
未成年者が法定代理人の同意を得ずして爲したる代理行爲の效力	村上　恭一〔新報〕	明四三	二〇	五
代理權の不可撤回	疇道　文藝〔京法〕	明四三	五	七
無權代理人の責任を論す	鳩山　秀夫〔志林〕	明四四	一三	八一九
復代理人が本人を代理して代理人と爲す法律行爲に付て	横田　秀雄〔新報〕	明四五	三	七
民法第四四條其他の代理人と被用者	嘉山　幹一〔新報〕	大二	二三	八
任意代理と法定代理の區別に關する私見	三潴　信三〔志林〕	大三	一六	五
エストッペルの法理より見たる表見代理	花岡　敏夫〔辯協〕	大五	二〇	一一
民法第四四條の其他の代理人と委任代理人	長島　毅〔新報〕	大六	二七	七
代理權授與行爲と基本關係	鳩山　秀夫〔法協〕	大七	三六	六
英米の代理權追認の法理	梅原錦三郎〔法政〕	大七	一五	一一
民法第一〇八條に違反せる法律行爲の效力を論す	藪中　隆〔法政〕	大八	一六	六
復代理の復代理	穗積　重遠〔新報〕	大八	二九	八
復代理占有の可能	長島　毅〔新報〕	大九	三〇	五
民法一〇八條に違反せる法律行爲の效力及び債權者が債權者を代理人として爲したる一部辨濟と債務の承認との關係	菅原　眷二〔法叢〕	大九	三	六
無權代理行爲と不當利得	鳩山　秀夫〔法協〕	大九	三八	九
虛僞の意志表示と代理	長島　毅〔新報〕	大九	三九	一〇
先占と代理	長島　毅〔新報〕	大一〇	三一	二
無權代理人の爲したる法律行爲を論ず	横田　秀雄〔國國〕	大一〇	九	一三
使者の法律上の地位	小池　隆一〔法研〕	大一一	一	三
代理人の不法領得の意思と消費貸借の成立	長島　毅〔新報〕	大一二	三三	五
無權代理契約に於ける取消權の性質	吉田　久〔新報〕	大一二	三三	六
心裡留保に代理を認むることを得るや	長島　毅〔新報〕	大一三	三三	八
超權代理を論す	增永　正一〔朝司〕	大一四	四	一一〇、一一二
代理商の性質を論ず	增田　嘻彥〔志林〕	明三七・六		五四
代理者に與へられたる留置權	佐竹　三吾〔志林〕	明四一	一〇	二
臺灣總督府直轄學校生徒父兄職業及年齡別	塊內　八郎〔統雜〕	昭三	一	一二九
明治三十八年十月一日臺灣詮察斯視察談	高橋　二郎〔統集〕	明三八	一	三九六、三九七
臨時戶口調査に依りて知り得たる臺灣社會現象	水科七三郎〔統集〕	明四〇	一	三一

【代理商】を見よ

【大連】【臺灣】

印度のセンサスと臺灣の臨時戸口調査　高野岩三郎〔國經〕明四〇 二 四
臺灣島を見る　植松考昭〔洋經〕明四一 一 四六七〇
臺灣の根本的研究　下村宏〔國國〕大五 四 一
臺灣人同化論　田中萃一郎〔三學〕大五 一〇 七
臺灣見物に關する所感　松室致〔臺法〕大八 一三 三
臺灣印象記　島本英夫〔長彙〕大一五 七 一七三

經濟

日本と臺灣島と貿易上の關係　伊藤祐毅〔統集〕明二七 一 一三九一六二
臺灣と國際經濟　有賀長雄〔外時〕明四一 一一 一一
臺灣粗糖聯合と輸出策　谷奥利吉〔洋經〕明四三 一 一三八九
臺灣に於ける貨幣制度　晉武時〔日經〕明四四 九 六
臺灣藩族の社會と經濟　田崎仁義〔國經〕大四 一九 三一四
臺灣に於ける取引所問題　匿名氏〔新聞〕大六 一 一三二五
臺灣に於ける水利概況及び其發達原因　野間海造〔農經〕大一五 二 一
臺灣に於ける水利舊慣行と其現在（附水利法餘論）　野間海造〔農經〕大一五 二 二
蕃人の土地自由賣買に就て　和田博〔臺法〕大一五 二〇 二
和田博氏の「蕃人の土地自由賣買に就て」に就て　竹川富〔臺法〕大一五 二〇 三

産業

臺灣に於ける製糖業上行政に就て注意すべき要點　山内正瞭〔國學〕明四一 二三 四
臺灣の產業政策に就て　山内正瞭〔東經〕明四一 五七 一四三三
臺灣に於ける糖業の奬勵成績と將來　新渡戸稻造〔國家〕明四三 二四 四
臺灣糖業の批判　安田與四郎〔洋經〕大二 一 六七
臺灣產業の概觀　河東田經清〔東經〕大二 六七 一一六八六
臺灣糖業の發達　難波五百麿〔財經〕大五 三 九
臺灣糖業界の合同は不可能　山本悌二郎〔東經〕大一〇 八三 二〇八八

社會

臺灣藩族の社會と經濟　田崎仁義〔國經〕大四 一九 三一四
内地台灣犯罪比較統計一斑　水科七三郎〔統集〕大七 一 四五四
結婚の數より觀たる内臺同化の實現　久保田豐三〔法政〕大九 一七 一
臺灣の犯罪傾向と對策　長尾景德〔臺法〕大九 一四 九
臺灣に於ける犯罪狀態概觀　上内恒三郎〔臺法〕大一四 一九 一

人口統計

臺灣の統治に就て　植松考昭〔洋經〕四三 一 一三九一六二
臺灣陰謀事件　松岡正夫〔國國〕大四 三 一三
性相學上臺灣統治論　播磨龍城〔新聞〕大一〇 一 一七九九
臺灣統治より觀たる調停制度　下村宏〔臺法〕大一〇 一五 四
朝鮮及臺灣に於ける諮問機關　森文三郎「商濟」大二 二 一

政治

臺灣に於ける總督政治三十年の治績に就いて　矢野仁一〔國家〕大一三 三八 九
臺灣議會請願問題と總督政治　山本美越乃〔外時〕大一四 四一 四八

對外關係

臺灣と條約との關係　水野遵〔國家〕明三一 一二 一三六
征臺事件談判始末　坂部行三郎〔外時〕明三五 五、 四四八 四五八
臺灣に於ける既往及現在の國際法問題　後藤新平〔國際〕大元 一一 三

法律

臺灣と憲法　小澤政許〔新報〕明四四 七 八一
臺灣に關する立法の錯誤（附高野問題）　有賀長雄〔國家〕明三四 一五 一七二
井上博士の臺灣律令違憲論を駁す　武田鬼十郎〔新聞〕明三五 一 七
臺灣の國法的關係を論じて律令違憲論に及ぶ　菊地駒次〔國家〕明三七 一八 二〇四
臺灣總督の命令權に付きて　穗積八束〔法協〕明三八 二三 二
内地臺灣間に於ける法律命令の效力に就て　鈴木宗言〔法協〕明三八 二三 二一四
内地及台灣間に於ける法制上の連絡　鈴木宗言〔新聞〕明三八 一 二九四
鈴木宗言氏の内地及臺灣間に於ける法制上の連絡を讀む　藤田貞太郎〔新聞〕明三八 一 二九六
臺灣律令問題に就て　無名生〔新聞〕明三八 一 山二〇二 山二〇六 山二六七
臺灣に於ける法律施行に就て　岡野敬次郎〔新報〕明四四 一七 七〇
臺灣又は樺太に法律を施行する勅令の效力　長岡隆一郎〔法協〕明四三 二七 六
臺灣刑事狀況　手島兵次郎〔刑評〕明四四 三 五
合股令案評私見　天涯孤士〔辯協〕明四四 一五 一五九
臺灣私法の完成　福田德三〔國經〕大元 一二 三
臺灣法制に就て　土屋理嘉治〔辯協〕大三 一八 一八二 一八四
臺灣總督律令權繼續案私見　伊藤政重〔辯協〕大五 二〇 二
母系主義と臺灣生蕃　岡松參太郎〔新報〕大七 二六 九一一 一一八
臺灣に於ける相續主義の立法に就て　玲瓏學人〔臺法〕大八 一三 二
臺灣人の刑罰感應性と刑量　上内恒三郎〔臺法〕大八 一三 二一四
裁定との關係　玲瓏學人〔臺法〕大八 一三 三
臺灣の登記制度　三好一八〔臺法〕大八 一三 六七
内地人臺灣人間の親族關係　小野得一郎〔臺法〕大八 一三 一二
人入家及轉籍に關する研究　高林勝治〔臺法〕大九 一四 四
本島（臺灣）人の未成年を論ず　
臺灣土地登記規則第一條を論ず　

		年	卷	號
厝主權一名地基權論	伊藤 正介〔臺法〕	大九	一四	七
本島（臺灣）人內地人と公法及私法	伊藤 正介〔臺法〕	大九	一四	一
登記簿公信主義と臺灣	岩澤彰二郎〔臺法〕	大一〇	一五	六—八
軍機保護に關する臺灣法制	三好 一八〔臺法〕	大一〇	一五	七—一〇
朝鮮及臺灣に於ける諮問機關	森 文三郎〔商濟〕	大三	二	一
臺灣新民事法概論	三好 一八〔臺法〕	大三	一七	二—一二
內臺人共婚の法律觀	後藤和佐二〔臺法〕	大三	一八	一
民法商法を本島（臺灣）人間に施行の可否	杉本 榮次〔臺法〕	大四	一九	一
不當利得の請求方法に關する本島（臺灣）の舊慣並無登記賦耕に關する不當利得の性質	姉歯 松平〔臺法〕	大四	一九	二

司法

臺灣法院を論す	鈴木 宗言〔志林〕	明三三	二	一二
岡松法學博士の內地臺灣司法共通法論を讀む	增島六一郎〔辯協〕	明四三	一三	二八
內地臺灣司法共通法案に就て	中村啓次郎〔辯協〕	明四三	一三	二八
臺灣の司法制度に就ての所感	新田 繁永〔新聞〕	大五	一	一〇〇九四
臺灣誤判問題と司法統一	土屋理嘉治〔辯協〕	大六	二	一二
朝鮮並に臺灣談合事件の經過を敍して司法統一の緊要を論ず	大井 靜雄〔新聞〕	大六	一	一三五
獨立せる臺灣の司法	三好 一八〔臺法〕	大八	一三	八
臺灣司法制度の革新	谷野 格〔臺法〕	大八	一三	八
南支那に於ける我國の司法權を臺灣に領有するの議	三好 一八〔臺法〕	大八	一三	一二
南支領事裁判と臺灣總督府法院	谷野 格〔臺法〕	大九	一四	一
臺政革新と司法警官	三好 一八〔臺法〕	大九	一四	一一
臺灣に於ける人事訴訟手續	後藤和佐二〔臺法〕	大一一	一六	四
南支那領事裁判と臺灣總督府法院	三好 一八〔臺法〕	大一一	一六	六

賦耕

無登記賦耕の性質に就て	伴野喜四郎〔臺法〕	大八	一三	七
無登記賦耕を論ず	杉本 榮次〔臺法〕	大九	一四	三
無登記賦耕と賦耕權	高田 豐三〔臺法〕	大九	一四	四
無登記賦耕の效力に就て	有水常次郎〔臺法〕	大九	一四	四
共同賦耕契約者の權利拋棄	佐藤三之助〔臺法〕	大九	一四	六
未登記賦耕と無登記賦耕	岩澤彰二郎〔臺法〕	大九	一四	七九
無登記賦耕と承賦者の權利	後藤和佐二〔臺法〕	大一〇	一五	五八
賦耕權及賦耕に就て	姉歯 松平〔臺法〕	大三	一七	六七
不當利得の請求方法に關する本島（臺灣）の舊慣並無登記賦耕に關する不當利得の性質	姉歯 松平〔臺法〕	大四	一九	二
民法施行前に於ける賦耕契約と民法施行後の賃貸借及其の登記請求權に就て	姉歯 松平〔臺法〕	大四	一九	三
【ダヴィッド】(Eduard David, 1863-)	東畑 精一〔農經〕	大四	一	一
ダヴィットの「有機的生產と機械的生產」	猪股 洪清〔辯協〕	大四	二九	八
【ダヴエナント】(Charles Davenant, 1656-1714)	水上 孝正〔辯協〕	大四	二九	八
チャアルス・ダヴエナントの經濟策	古屋 貞雄〔辯協〕	大四	二九	八
【高橋勝弘】	松谷與二郎〔法新〕	大四	一	四七
高橋勝弘君を弔す	水上 孝正〔法新〕	大四	一	四七
【高松事件】	古野 周藏〔新聞〕	大四	一	二四三八
高松事件と當局の態度	上村 進〔新聞〕	大四	一	二四七一
高松事件に直面して	〔商工〕	大四	一	一
高松事件の動機と當局の態度	〔辯協〕	大四	二九	由一一〇
伏石の小作爭議と法律的解釋	〔法公〕	大五	三〇	一一三
高松事件の眞相	〔法新〕	大四	—	基六〇
局外より見たる高松事件	若林 三郎〔法公〕	大五	三〇	四
伏石事件の法律問題	若林 三郎〔法新〕	大五	一	六二 六七
農民運動に無理解な伏石事件の判決	長田 治人〔辯協〕	大四	二九	六
伏石問題の經濟的考察	豐島 直通〔法政〕	明三六	七	一
事務管理か窃盜か				
高松事件判決の法律的構成				
高松事件の法律觀				
【タキツス】(Publius (Caius) Cornelius Tacitus, 55-117)				
タキツスの親たる古代獨逸	占部百太郎〔三學〕	大七	二	一二
【墮胎の罪】				
墮胎罪に就て				

堕胎罪と遺棄罪とに就て　勝本勘三郎〔志林〕明四五・大一・二
堕胎業と共犯関係　高橋非一郎〔法学〕明四五・一・一
堕胎罪の構成要件たる堕胎行為の意義　小畑孝一〔法政〕明四四・一・三
堕胎罪と共犯論　草野豹一郎〔新報〕大一〇・二・一
堕胎罪に就て　岩井尊文〔新聞〕大一・一・一五
堕胎と仏西刑法　濱川幸辰〔法叢〕大三・三・一

【伊達政宗】

羅馬法皇と伊達政宗　蛭川新一〔国際〕大二・三・一

【建物保護法】

建物保護に関する法律の敷布　池田寅二郎〔法協〕明四三・二・七
建物保護法の溯及力　池田寅二郎〔法協〕明四三・二・七
建物保護法の溯及力に就て　松澤常四郎〔新聞〕明四三・一・二〇
法律解釈の諸原則と建物保護法　三潴信三〔志林〕明四三・一・一
建物保護法と土地の賃貸　大塚郷二〔志林〕大五・八・三
建物保護法と賃借権との関係　小野村風徹〔法政〕大一〇・八・二四

【煙草】

煙草の消費高に就て　山中政太〔統計〕大一〇・一・三六
煙草価格引上に就て　瀧水太〔東経〕大四・二・一四
煙草官営の前途　筑山生〔東経〕明四二・一・一四
煙草の産額及消費高　相原重政〔統集〕大二・一・三八
露國煙草業事情　〔煙草専売局〕大二・三・一
本邦煙草に関する統計　加藤銀蔵〔統集〕大二・一・一
煙草専売事業の趨勢　杉浦俊一〔財経〕大九・七・一

【足袋】

無條約國人煙草税則違犯事件の判決に関する私見　中川一介〔新報〕明四五・一〇・一

【タムソン】

北埼玉地方の足袋製造業　小島英一〔國経〕大三・一

【タムソン】(William Thompson, 1785-1833)

煙草の消費高に就て　山中政太〔統計〕大一〇・一・三六
煙草価格引上に就て　瀧水太〔東経〕大四・二・一四
煙草官営の前途　筑山生〔東経〕明四二・一・一四
煙草の産額及消費高　相原重政〔統集〕大二・一・三八
露國煙草業事情　〔煙草専売局〕大二・三・一
本邦煙草に関する統計　加藤銀蔵〔統集〕大二・一・一
煙草専売事業の趨勢　杉浦俊一〔財経〕大九・七・一

無條約國人煙草税則違犯事件の判決に関する私見　中川一介〔新報〕明四五・一〇・一

無條約國人の煙草税則違犯は同税則に依り處罰すべきことを論ず　M生A〔法協〕明四五・一〇・二

煙草専売法に於ける犯罪　泉二新熊〔新報〕明四五・一・一五
煙草専売法中の疑義に就て　西村省郎〔新聞〕明四四・一・一七

【タルド】(Gabriel de Tarde, 1843-1904)

タルドの法律進化の社會學的研究　風早八十二〔國家〕大二・三・三

タルドの刑事社會學と刑法　風早八十二〔國家〕大二・三・八

【タレエル】(Edmond-Eugene Thaller, 1851-1918)

タレエル先生を悼む　杉山直治郎〔法協〕大八・三・一

【團體交渉】

參照＝工場委員會。勞働組合。勞働と資本。勞働契約。

獨逸に於ける勞働協約　福田徳三〔新報〕明四四・一・一七
英國に於ける勞働協約　福田徳三〔新報〕明四四・一・一八
貸家契約　石坂音四郎〔新報〕明四三・一・一七
勞働契約と勞働協約　福田徳三〔國家〕大二・一・一七
貸家契約論　玉木三郎〔商経〕大五・一・一
勞働協約（團體交渉）に關する獨逸法制　安井英二〔法政〕大一〇・八・一〇

團體交渉問題　森田良雄〔社政〕大一〇・一・一一
團體交渉　高橋正雄〔社政〕大一〇・一・一四
勞働協約に關する獨逸の立法並に草案正文　平野義太郎〔法協〕大二・一〇・一二
米國硝子壜工業に於ける團體交渉　ジョン・イ・ゲオル〔社政〕大一一・一・一七
フイラデルフイヤ市街鐵道の團體交渉の顛末　ミッテン〔社政〕大一一・一・一七
團體交渉は安定の本　ヒューレツト・ジョンソン〔社政〕大一一・一・一七
團體交渉と立法　ヘーピン・ジョンソン〔社政〕大一一・一・一七
團體交渉の一形式としての最低賃銀法の強制　アドキンス〔社政〕大一一・一・一七
米國大統領主催第一回産業會議に於ける團體交渉　ラッセル〔社政〕大一一・一・一七
佛國に於ける團體的勞働契約に關する理論　高橋正雄〔社政〕大一一・一・一〇
勞働協約に關する研究　水谷嘉吉〔社政〕大一一・一・一二
佛國勞働協約法（勞働法研究資料其の一）　末弘嚴太郎〔法協〕大一一・四・五
ドイツ勞働協約法の改正　平野義太郎〔法協〕大一一・四・八
獨逸に於ける團體交渉權　松永義雄〔繊協〕大一一・四・一七
勞働協約の研究　安井英二〔社政〕大一一・四・一七
團體協約關係小見　孫田秀春〔商研〕大一四・五・一一
勞働組合の組織と交渉權　吉本貞一〔ヨコ〕大一四・五・一一

勞働協約の法學的構成　中村高吉〔早法〕六　二　一一　一一卷　二二號

【ダンテ】(Dante Alighieri, 1265-1321)

ダンテ・マキアベリの思想と帝國主義　松下芳男〔法政〕六　二　五　三

【ダンピング】

ダンピングに關する論爭に就て　河津草刈朝雄〔國際〕六　五　三　二

投資政策と輸出聯合　河津暹〔外時〕六　六　三　三

カルテルとダンピング　松田知之〔外時〕六　六　三　三

投資禁止法の制定と最惠國條款　河津暹〔財經〕六　六　四　二

獨逸戰後のダンピング政策　〔實科〕六　六　三　五

【擔保】

金錢擔保の性質　モダイン〔內外〕四　三　一　一

共有者の持分の擔保に就て　杉山直次郎〔法政〕四　八　九　一

他人の財產權を目的として債權の擔保と爲したる設定行爲の效力に就て　福井オー郎〔新聞〕四　〇　一　四　五　〇

物上代位を論ず　富井政章〔志林〕四　一　10　六

韓國の典當　梅謙次郎〔法協〕四　一　三　10

未だ發生せざる債權の擔保に就て　富井政章〔志林〕四　一　二　四

預金擔保は債權として成立すると得さるや　石坂音四郎〔京法〕四　六　六

擔保物權の移轉性と隨伴性　三潴信三〔法協〕六　二　三　二

特種擔保權に關する法律上の疑義　岡本兵太郎〔商經〕六　七　一　九

德川時代不動產担保法　中田薰〔法協〕六　七　三　六

擔保物權の移轉性を論ず　横田秀雄〔新法〕六　九　三〇　五　六

日本古法に於ける混奉擔保の沿革　中田薰〔法協〕六　九　三　二

擔保契約論　富原常二〔法叢〕六　一〇　四　二

現物担保規定に就て　加藤行吉〔法政〕六　10　二　四

共同擔保連帶の原則と論ず　藥師寺志光〔新報〕六　二　三　四

賣渡擔保、似而非賣渡擔保　加藤行吉〔法政〕六　10　二　四

及信託擔保　梶田年〔法治〕六　二　二　三

堪航担保義務論　瀨戶彌三次〔國際〕六　二　三　四

讓渡擔保と信託　細矢祐次〔新報〕六　三　三　八

質渡抵當又賣渡擔保に就て　姉齒松平〔法協〕六　二　二　三

擔保物權の競問題　三潴信三〔志林〕六　四　二　九　一

治警第十七條制定當時の帝國議會　林癸未夫〔社政〕六　四　一　一

治警第十七條と勞働團體法第十九條　松永義雄〔法新〕六　五　一　四

【チイチエック】(Franz Zizek, 1876-)

チイチエック統計學の結構について　木村喜一郎〔商經〕六　五　一　四

【チウニス】

チユニスと朝鮮　戶水寬人〔外時〕四　六　八　九

チユニスに於ける佛國保護權の設定　長岡春一〔國際〕四　九　五　三

突尼斯に於ける領事裁判權　〔國際〕四　九　五　三

獨逸と韓國に於ける同問題　江木翼〔法協〕四　二　六　七

チユニスに於ける佛伊兩國植民　高岡熊雄〔國經〕六　二　二　一

【地役權】

參照＝入會權。

地役權の性質　緒方省一郎〔京法〕四　九　一　一

地役權不可分原則と消滅時效　平野義太郎〔志林〕六　三　六　四

勞働組合法の制定と治安警察法第十七條との關係　荒川實〔社政〕六　一　一　六　四　七

治安警察法第十七條問題に望む　大澤真吉〔新聞〕六　九　一　一　六　四　七

治安警察法に關して協議會　〔新聞〕六　九　二　四　三　六　四　七

治安警察法第十七條の存廢如何　新井要太郎〔辯協〕六　九　二　四　一　三　六　四　七

治安警察法第十七條に就て　島田武夫〔新聞〕六　八　一　六　四　七

治安警察法第十七條　神戶正雄〔經濟雜誌〕六　八　二　四

治安警察法第十七條　牧野英一〔志林〕六　八　二　六　一　三

【治安維持法】

治安維持令廢止すべし　加藤行吉〔辯協〕六　三　二　一

治安維持法の通用に付て　野村調太郎〔朝司〕六　四　四　五

忌む可き治安維持法　高山和雄〔辯協〕六　四　二　九　四　四

治安維持法の一觀點　河野我等〔我等〕六　四　一　七　四　四

暴力團の跋扈と法律の權威　鍛冶良作〔法新〕六　四　一　五　四　五

治安維持法案　牧野英一〔志林〕六　四　二　七　四　五

維持法案の危險　布施辰治〔新聞〕六　四　一　二　六　二

【チの觀念 Chiism に就て】

松岡靜雄〔社雜〕六　五　1卷　二五號

効
地役權不可分論　横田　秀雄〔志林〕㊀四一年 一〇巻 八號
地上權者と地役權の主體　三潴　信三〔法協〕大五 三四 六一八
消極的地役と不作爲債務の差異　西川　一男〔新報〕大二 二三 七
小島愛三郎〔新報〕大八 二九 九

【チエッコ・スロヴアキア】

チエッヒ民族の將來　煙山專太郎〔外時〕大七 二七 ㊁三一七 ㊂三二八
チエック・スロヴアック軍隊に關する承認　〃　作太郎〔外時〕大七 二八 三三
チエック・スロヴアークに於ける工場委員會法　黒川　小六〔社政〕大二 一 一七
チエコ・スロヴアク國憲法　美濃部達吉〔國家〕大九 三四 二
チエコ・スロヴアキアの刑法草案に就て　小野清一郎〔國家〕大三 三七 五
チエッコ國幣制改革問題　鈴木　福治〔法政〕大五 二三 四
チエッコ・スロヴアキア共和國の社會立法に就て　鈴木　平吉〔國經〕大一四 三九 一

【チエレーン】 (Johann Rudolf Kjellen, 1864-1922)

ルドルフ・チエレーンの國家に關する學說　藤澤　親雄〔國際〕大一四 二四 二

【地價】 參照＝地租。土地。

地價修正の標準　河田　嗣郎〔日經〕㊀四一 四 一
地價修正の不可を論ず　横井　時政〔國經〕㊀四三 八九 一六
地價の上騰及土地の兼併と地租問題　神戸　正雄〔日經〕㊀四四 九 一
地價の決定原因及測定方法に就きて　神戸　正雄〔京法〕㊀四四 六 三
地價を論ず　河田　嗣郎〔京法〕㊀四四 六 九
土地價格の上騰に就きて　神戸　正雄〔三學〕㊀四五 六 三
朝鮮に於ける地價調査の綱要　和田　一郎〔國家〕大八 三三 六
都市的土地價格に關する一研究　長谷田泰三〔國家〕大一一 三六 三

【治外法權】 參照＝領事裁判。

治外法權論　鳩山　和夫〔法協〕㊀四〇 一 四五
帝國に於ける外國人犯罪者を逮捕するの權　鳩山　和夫〔法協〕㊀四三 七 五六
治外法權論　花井　卓藏〔新報〕㊀四四 一 ㊁

法律治外效果論　工藤　武重〔新報〕㊀四六年 三巻 二四號
治外法權に關する意見　澤田　俊三〔新報〕㊀四六 三 三一
治外法權と不可侵害權　秋山雅之助〔志林〕㊀四一 一〇 二
關東州に於ける我邦法權の發動　川島　仁司〔新報〕㊀四四一 一八 二
裁判權の條約草案に關する意見　セ・ボアチード〔辯協〕㊀四一 一二 一三三
國交斷絶と治外法權　泉　哲〔國國〕大六 五 五
所謂治外法權國及敵占領地に於ける住所　板倉　卓造〔三學〕大七 一二 四一九
支那治外法權撤廢反駁論　西川　喜一〔亞經〕大一〇 五 四
外交官の不可侵權と治外法權　泉　哲〔外時〕大一〇 三三 三九七
Ice King 號事件より觀たる國有商船の治外法權問題　竹井　廉〔國際〕大一二 三三 四一五
支那と法權回復　原　嘉道〔法新〕大一三 一 二三
南京條約以前の治外法權問題に就て　矢野　仁一〔經叢〕大一四 二一 三一四
治外法權制度の實情　西澤　英一〔財經〕大一四 一二 二〇
支那の治外法權撤廢は可能性ありや　高木　信威〔新報〕大一四 三五 五
治外法權なる語の使用に就て　米田　實〔外時〕大一四 四二 四九七
關稅自主と治外法權の撤廢　神田　正雄〔外時〕大一四 四二 五〇
支那治外法權撤廢は斷じて不可　小野　實雄〔新聞〕大一四 一 二四六八
支那の治外法權撤廢問題　速水　一孔〔外時〕大一五 四三 五一二
治外法權撤廢問題に於ける自由裁量の行使　高柳　賢三〔外時〕大一五 四三 五二三

【蓄音機】 參照＝著作權。

蓄音機と遺言　小島愛三郎〔新聞〕㊀二八 一 二八一
レコードの著作權　市村　光惠〔新報〕大二 二三 三
蓄音機と著作權　織田　萬〔京法〕大二 八 一二
蓄音機平圓盤の告訴事件を論ず　荒木虎太郎〔新聞〕大二 一 八三七
蓄音器事件に付き再說す　荒木虎太郎〔新聞〕大二 一 八四二
法理上より蓄音機事件を論ず　荒木虎太郎〔新聞〕大二 一 八四五
再び法理上より蓄音機事件を論ず　荒木虎太郎〔新聞〕大二 一 八四五
著作權法と蓄音器　泉二　新熊〔志林〕大三 一六 一
蓄音機事件の論評　荒木虎太郎〔新聞〕大三 一 ㊁八三四 ㊂八三六 九五八
蓄音器のレコードに關する法律上の意見　花井　卓藏〔辯協〕大五 二〇 一二
口頭審理訴訟手續と蓄音機

吹込裝置の應用を論ず　眞野　毅〔辯協〕大五　二〇　五
蓄音器に關する法律上の觀察　花井　卓藏〔臺法〕大一一　一六　五一六

【地上權（チジョウケン）】

地上權の性質及賃貸借との差異を論ず　川島　龜夫〔辯協〕明三三　四　二九
地上權者は土地を賃貸することを得るか　梅　謙次郎〔志林〕明三四　三　三
地上權を論ず　木村誠次郎〔新聞〕明三四　一　二八／二九
永代借地權永小作權、地上權、　戸水　寬人〔法協〕明三四　一九　一一／一七六／〔國家〕明三四　一五
地上權の目的地は轉貸を得るや否や　太田　資時〔辯協〕明三四　五　四三／四四／四五／〔新聞〕明三四　一
地上權者に告く　武田貞之助〔新聞〕明三四　一　二四
抵當權と地上權永小作權竝賃借權との關係　横田　秀雄〔法政〕明三七　八　四一五
地上權に付て　河部　榮助〔新聞〕明三八　一　二六七
民法施行前より存する地上權の對抗力に付て　森　作太郎〔新聞〕明三八　一　二六九
民法第二七六條に於ける請求意義に就て　ソレガシ〔新聞〕明三八　一　三六
土地と建物との關係　梅　謙次郎〔志林〕明三九　八　八一一〇
工作物の讓渡と地上權　三潴　信三〔新報〕明三九　一六　六
建物の競賣と地上權との關係　糸永　祐順〔新聞〕明三九　一　二五二
地主の地上權消滅の請求　横田　秀雄〔法記〕明三九　一六　四／〔明學〕明三九　一　一〇三
抵當權に後れて登記したる地上權の運命　中西惣三郎〔新聞〕明四一　一　四九六
永久無限なる地上權の設定　横田　秀雄〔志林〕明四一　一〇　三
抵當權に後れた登記したる地上權の運命に關する中西君の論文を讀む　河合　廉一〔新聞〕明四一　一　四九九
抵當權に後れて登記したる地上權の運命に付て　頑　獼生〔新聞〕明四一　一　五〇二
未登記地上權に關する問題　一瀬房之助〔新聞〕明四二　一　五六七
未登記地上權の負擔ある土地の賣買と地上權者の權利　佐藤　鐵六〔新聞〕明四二　一　五六二
未登記地上權の負擔ある土地の賣買と地上權者の權利に就て　大野　狗吾〔新聞〕明四三　一　五五四
未登記地上權の負擔ある土地賣買の地上權者に及ぼす影響　梅　花　生〔新聞〕明四三　一　五五〇
地上權問題に付き判事梅花君に申す　小山　吾郎〔新聞〕明四二　一　五五三
地上權の損害賠償請求權に就て　戸口佐太郎〔新聞〕明四二　一　五四九
土地及建物の關係に就て　飯島　喬平〔法協〕明四四　二九　三
地上權者と土地に加ふる永久の損害　西川　一男〔新報〕明四四　二一　七
所有權者及地上權者と代理占有　西川　一男〔新報〕明四五　三　二
地上權の地代に就て　中島　玉吉〔新報〕明四五　三　六
地主は慣習を原因と爲して地代の增額を請求することを得る乎　添田　增男〔新聞〕明四五　一　七九七
地代增額に關する判例と中島博士の所說に就て　三潴　信三〔法協〕大元　三〇　九
地上權消滅の請求と特定承繼人　嘉山　幹一〔新報〕大二　二三　六
地上權者と地役權の主體　西川　一男〔新報〕大二　二三　七
地代値上に關する慣習　石坂音四郎〔京法〕大三　九　五
地代債務と地上權との關係　鳩山　秀夫〔志林〕大五　一八　五
建物讓渡と地上權の運命　三潴　信三〔新聞〕大五　一　二七二
地上權存續期間の指定　業師等傳兵衛〔國國〕大六　五　五
民法施行法第四十四條第三項に依る地上權の期間に就て　鈴木　於用〔辯協〕大六　二　三
民法施行前に設定したる地上權を論ず　業師等傳兵衛〔國國〕大六　五　一
地上權者永小作人の義務違背に對する制裁を論ず　横田　秀雄〔國國〕大九　八　六一七
民法第三八八條の地上權の範圍　三潴　信三〔法協〕大九　三八　三
無限地上權論　伊藤　正介〔臺法〕大一〇　一五　三
永代借地權問題と外人土地所有權　三潴　信三〔外時〕大二　二八　四五二
推定地上權の規定に就てドイツに於ける地上權法の改正　久田　博人〔正義〕大四　一　四

【地震（ヂシン）】

參照＝震災（大正十二年）。米國ー桑港震災。

栗生　武夫〔法叢〕大五　一五　三
本邦地震考　和田　雄治〔統集〕明一七　一　三〇
本邦中古の地震　和田　雄治〔統集〕明一八　一　四三
安政の震災と救濟策　本庄榮治郎〔經叢〕大二　一七　四
安政震災の復舊策について　本庄榮治郎〔經叢〕大三　一七　五
安政桑港兩震災の經濟的影響の比較　勝田　貞次〔銀研〕大二　五　三
地震と死亡率　土肥槻太郎〔保評〕大三　一七　一〇
山陰東部の震火災　神戸　正雄〔財經〕大一四　一　三六

地租論　小川郷太郎〔經濟〕大二・七
委議と收入の缺陷　小川郷太郎〔經濟〕大二・七
地租の改廢に就て　小川郷太郎〔經濟〕大三・一
都市の財源としての地租　小川市太郎〔ヨヨ〕大三・一
我邦の地租を論ず　神戸正雄〔經濟〕大10・三
地租に於ける特別稅對附加　神戸正雄〔經濟〕大九・二
地租標準　神戸正雄〔經濟〕大九・二
地方稅としての地租の課稅　神戸正雄〔經濟〕大九・二
地租と地方團體との關係　神戸正雄〔經濟〕大九・二
支那の地租條規　田原嶺大郎〔亞經〕大六・一
地租の時勢順應力に就きて　神戸正雄〔經濟〕大六・一
地租問題　神戸正雄〔日經〕大六・一
地價の上騰及土地の兼併と地租に就て　神戸正雄〔國經〕四三・一
我邦現時の地租輕減問題に就て　神戸正雄〔國經〕四三・一
地租の課稅標準を論ず　滋口岐一〔國家〕四三・一
地租復舊の可否を論ず　滋口岐一〔新報〕四三・一〇
本邦地租負擔論　滋口雄幸〔國家〕四三・一
明治以前の地租法　河合島錦治〔統雜〕四三・一
支那上古の地租を論ず　河田嗣郎〔國家〕四三・一

【地租】

地代の發達及歸屬　河田嗣郎〔京法〕四四・六
地代は商品を高價ならしむるや　河田嗣郎〔日經〕四四・八
宅地の地代を論ず　河田嗣郎〔京法〕四四・九
「準地代」論と貸銀　高城仙次郎〔京法〕四四・一
近世資本主義と地代說　阿部秀助〔三學〕大七・三
地代に就きて　瀧井正雄〔京法〕大八・二
地代と穀價　瀧井正雄〔三學〕大八・五
地代の研究　瀧井正雄〔京法〕大九・一〇
地代の性質　戸田海市〔京法〕大一〇・二
戸田教授の地代說に就て　河上肇〔京法〕大一〇・二
地代の性質に就て戸田教授に質す　戸田海市〔京法〕大一〇・二
地代の性質に就て　戸田海市〔經濟〕大一〇・一
A modification of the Ricardian theory of rent.　Buchanan〔三學〕大一〇・一
地代と價格との關係　高城仙次郎〔三學〕大一〇・一
リカルド分配論特に地代論の研究　島文獻〔三學〕大一〇・一
地代統論　小川幸雄〔三學〕大一〇・一
地代論と社會主義　小泉信三〔三學〕大九・一〇
ロオドベルトスの地代論とギルド社會主義者の「價格」　小泉信三〔三學〕大九・一〇

【地代】

地租委議の先決問題　成瀨義春〔財經〕大三・一〇
地租問題　池上昇〔東經〕大三・八
地租は市町村に委議すべし　山森靜〔東經〕大三・八
地租の轉嫁　神戸正雄〔經濟〕大三・八
地租の不公平可能　神戸正雄〔經濟〕大三・九
地租委議を論ず　小川郷太郎〔イソン〕大三・一〇
地租委議反對說を評す　小川郷太郎〔イソン〕大三・一〇
地租と營業稅との對立に關する考察　神戸正雄〔經濟〕大三・一〇
地租委議に就て　上道彥〔金融〕大三・一一
自作農維持策としての地租免除　河田嗣郎〔經濟〕大三・一一

【地代】 參照＝小作。地主。

アンダーソンの地代論とリカルドの地代論　薗田德三〔內外〕四六・一五
地代は全然生產費に含著せられざる乎　山崎覺次郎〔國家〕四三・一〇
地代は餘剩なりや　薗田德三〔國家〕四二・一二
農業地代に就て　河田嗣郎〔國經〕四三・一
地代と勞賃との關係　河田嗣郎〔京法〕四四・一
地代考　神戸正雄〔國家〕四四・五
地代と利潤との關係　河田嗣郎〔國經〕四四・一

及び「地代」觀　津田武二〔國經〕大10・10・一
The influence of so-called marginal rent upon the marginal expenses of production.　Buchanan〔三學〕大一一・一六・三
Marshall on The relation between economic rent and the marginal expenses of production　Buchanan〔三學〕大10・五・四一五
地代論に於けるマルクスとロオドベルトス　小泉信三〔三學〕大一一・一六・二
マルクスの地代論について　堀內勘示〔國家〕大一一・五・一〇二
地代の本質竝に起原に關するマルサスとリカルドとの論爭　松浦要〔新報〕大一一・三三・一一二
リカアドオ地代學說の先蹤　津田誠一〔三學〕大三・七・一〇
マルクスの地代論に就て　谷口吉彥〔經濟〕大三・七・一五
較差地代と絕對地代　小泉信三〔三學〕大三・八・一〇
リカルドウの地代論に對する新しい觀察　中川新吾〔商經〕大一三・一・三
十九世紀に於ける英國の農業人口と地代　小泉信三〔三學〕大三・八・一一
マルクスの絕對地代に就て　劉馬俊治〔經濟〕大一四・一・二
　木芳之助〔經濟〕大一四・一〇・一五

西藏問題 米田 庸男 一
刻下の西藏問題 米田 庸男 一
策 過去に於ける英國の西藏政策 大崖 最秋 六
西藏條約の公示 藤田 昌樹 九
英藏交涉沿革 成田 安輝 一〇
動搖せる西藏 大崖 最秋 一三
市町村の自治行政 勝澤 總明 一七
府縣制中改正の疑義 根岸常次郎 二一
府縣の性質を論ず 竹内利太郎 二六
英米の地方行政（講演） 松浦鎭次郎 三一
目賀田種太郎 長谷川吉次 一七
市町村制中改正意見 長谷川吉次 一九

【地主】

近世地主の發達に關する考察 小野 武夫 一
地主の對話 石坂 養平 一
地主論 横井 時敬 一七
地主と兵役 成田 光輝 二二
收入 我國富豪家と英國大地主の 宮本 [illegible] 一

【西藏】

西藏問題 小野 武夫 一
市町村制 村田岩次郎 一
光源寺實記 [illegible] 一

【地方行政】

英佛普比較地方制度要領 末岡 精一 一
モッセ「町村制度（講演）」 花房直三郎 二
市町村公民の資格を論じて 花房直三郎 二
所得稅法に及ぶ 武田千代三郎 二七
日本普西亞市制比較論 野村彌三郎 二七
市町村公民權の得喪に關する 野村彌三郎 二七
特別市制を論ず 都筑馨六 二八
英格蘭四市法律の內容 ウィルソン 二九
東京市行政と伯林市行政と 矢野仁一 三
市町村の自治行政 勝澤總明 一七
府縣制中改正の疑義 根岸常次郎 二一
府縣の性質を論ず 竹内利太郎 二六
英米の地方行政（講演） 松浦鎭次郎 三一

【地主】

マルクスの絕對地代と價值法則 八木芳之助 一
經濟學に於ける地代論の案內と小作料 田邊忠男 六

【西藏】

西藏問題 矢野仁一 三
滿蒙は支那本來の領土に非ざる論 矢野仁一 三
最近西藏問題 清水泰次 一〇

【地方行政】

市町村公民の資格を論じて 花房直三郎 二
モッセ「町村制度（講演）」 花房直三郎 二
英佛普比較地方制度要領 末岡精一 一
所得稅法に及ぶ 武田千代三郎 二七
日本普西亞市制比較論 野村彌三郎 二七
市町村公民權の得喪に關する 野村彌三郎 二七
特別市制を論ず 都筑馨六 二八
英格蘭四市法律の內容 ウィルソン 二九
東京市行政と伯林市行政と 矢野仁一 三
市町村の自治行政 勝澤總明 一七
府縣制中改正の疑義 根岸常次郎 二一
府縣の性質を論ず 竹内利太郎 二六
英米の地方行政（講演） 松浦鎭次郎 三一

【地代】

マルクスの絕對地代と價值法則 八木芳之助 一
經濟學に於ける地代論の案內と小作料 田邊忠男 六

【地主】

參照＝借地。土地所有權。借家。地代。

【西藏】

參照＝土地所有權。

【地方行政】

參照＝地方財政。地方稅。自治。都市。都市計畫。

【地方行政】

「市制町村制正義」批評 野村 淳治 一
市町村制正義 村田岩次郎 二
米利加の市に於ける委員政治 [illegible] 一
英國市政比較論 [illegible] 一
注目すべき新市政 [illegible] 一
ノアの改革と市長ゲーリー 寶藏 水野錬太郎 二
紐育市政の改善 水野錬太郎 二
紐育市政の改善は一種の虛設也 今村力三郎 二
市區改正は一種の虛設也 [illegible] 一
立法主義 [illegible] 一
島嶼府縣行政特例に關する 美濃部達吉 八
貴族院の都制法案を論ず 美濃部達吉 八
公共組合法論 美濃部達吉 八
公共組合法論 清水澄 一
寄留屆の缺欠と公民權 [illegible] 一
町村自治の素亂と監督者 [illegible] 一
町村制に於て [illegible] 一
ツニルテンベルヒ國の新市制 [illegible] 一
特別市制に於て 澁水澄 一
町村の合併を非とす 横井時敬 一
都市行政に於ける民育問題 井上友一 一
市の自治に於て 美濃部達吉 一
町村に於て 清水澄 一

【地方行政】

歐米の市政 [illegible] 一
地方行政の刷新と還暦法改正 [illegible] 一
東京市制の制定に就て 澁澄 一
町村長の確立 澁澄 一
英米佛獨大都會の行政組織 野村淳治 一
都市の警察自治を論ず 村田岩次郎 一
沖繩縣に於ける內法に就て 市村光惠 一
市制論 水野錬太郎 一
特別市制につきて 清水澄 一
東京市の特別制度につきて 清水澄 一
英國古代に於ける村落團體 津田武二 一
市制の研究 [illegible] 一
市制町村制に所謂不動產管理の意義に就て 中橋徳五郎 一
德川時代に於ける村の人格 小島昌太郎 一
都市制度一斑 石田幸次郎 一
米國市政發達の沿革 横山雅男 一
市政と統計 清水澄 一
東京市の市制につき 澁澄 一
社會奉仕としての市政 [illegible] 一
上古の地方政治 [illegible] 一
特別市制概論 [illegible] 一
普選以後の市制 [illegible] 一

町村制第二五條第六三項の規定に依て町村會議員と各名譽市參事會員の兼任を論ず　島村他三郎〔志林〕四二　一〇
市會の疑問の二三に就て　繩田　清水　〔志林〕四二　九　二
市町村の選擧に關して起れる疑問　繩田　澄　〔志林〕四二　一〇　三
縣會の役員選擧の紛擾に就て　島田俊雄〔國家〕四二　七　一
市長論　島田俊雄〔國家〕四二　七　一
市町村の等級選擧　美濃部達吉〔法政〕四二　七　一
水野學士に答ふ　一瀦澤總明〔新報〕四二　五　二
公吏論　一瀦澤總明〔新報〕四二　五　二
法令の解釋に就て　水野錬太郎〔國家〕四二　五　二
等級選擧法に關する一疑問　一木喜德郎〔國家〕四二　四　二
熊谷喜一郎〔新聞〕四二　一　二
清浦奎吾〔國家〕四一　六　一
齋藤實〔新聞〕大二　一　二
渡邊鐵藏〔都問〕大二　一　二
後藤新平〔都問〕大二　一　二
菊地愼三〔都問〕大二　一　二
島村他三郎〔志林〕四一　一　五
美濃部達吉〔新報〕四一　一　七
清水幸藏〔明學〕四一　一　三
佐竹三吾〔法協〕四一　一　二
島村他三郎〔志林〕四一　一　八
小野武夫〔國經〕大一　一　四
牧野信之助〔經濟〕大一　一　四
宿利重太郎〔新聞〕大一　一　三
上杉慎吉〔國家〕大一　一　三
井上英治〔新報〕大一　一　三
佐上信一〔國家〕大一　一　三
松倉隆三郎〔新聞〕大一　一　二
波多野仁山〔法協〕大一　一　二
飛瀬山中白川郷
郡制の廢止に伴ふ郡道の處分に就て
町村制第二五條第六三項の規定に依て町村會議員と各名譽市參事會員の兼任を論ず
町村人事相談所の責任及所員の修養を論ず
町村學區論
町村財產の管理及處分に就て
部落有財產の管理及處分に就て
町村制の廢止に伴ふ郡道の處分に就て
町村制第二五條第六三項の規定に依て町村會議員と各名譽市參事會員の兼任を論ず
町村會記錄の責任と町村長の責任

市町村長並に監督官廳の就職に關する權限
町村の權能に屬する事務の範圍
府縣會議員配當の標準たる人口の調査
縣稅賦課の細目に關する郡參事會の權限
府縣と其府縣內の市町村と共同事業を爲すことを得るや
牧野信之助〔經濟〕大一　一　四
小野武夫〔國經〕大一　一　四
鳥村他三郎〔志林〕四一　一　八
井上豐太郎〔新聞〕大一　一　七
宿利重治〔新報〕大一　一　三
上杉慎吉〔國家〕大一　一　三
松倉隆三郎〔新聞〕大一　一　二
波多野仁山〔法協〕大一　一　二
佐竹三吾〔法協〕四一　一　二
鳥村他三郎〔志林〕四一　一　五
美濃部達吉〔新報〕四一　一　七
清水幸藏〔明學〕四一　一　三
佐々木惣一〔志林〕四一　一　二

都市人事行政の改善に就て
市政の興廢と市民の自覺
市民の輿論は如何にして實現さるべきか
府縣制第一一〇條の議案並に其續issの性質及之に對する縣會修正の範圍
都長公選を非とするの論
市町村行政機關の組織を論ず
等級選擧法に關する一疑問
公吏論
水野學士に答ふ
市町村の等級選擧
市長論
縣會の役員選擧の紛擾に就て
町村人事相談所の責任及所員の修養を論ず
町村學區論
町村財產の管理及處分に就て
部落有財產の管理及處分に就て
町村制の廢止に伴ふ郡道の處分に就て
町村制第二五條第六三項の規定に依て町村會議員と各名譽市參事會員の兼任を論ず
町村會記錄の責任と町村長の責任

部落の訴訟に於ける町村長
區有財產及部落有財產の處分に就て
英獨市民條例
小市民の市會議員觀
ヴァネシャー案
都市行政上に於けるシティ
都會議員の選擧に於ける違
米國に於ける市行政機關の變遷
市長公選論
市會議員の階級選擧廢止と大都市と市長選任問題
市長兼一班
議員選擧の實檢
等級選擧の弊害と東京市會
米國都市委員制度の特徵
市長論
推薦

島村他三郎〔志林〕四一　一〇　七
水野錬太郎〔國家〕四一　一〇　一
村田岩次郎〔三學〕四一　九　六
笠原文太郎〔新聞〕大七　一　一
水野錬太郎〔法政〕大七　一　五
水野錬太郎〔法協〕大六　一　五
水野錬太郎〔國家〕大七　一　五
未松偕一郎〔國家〕大三　二　七

【地方財政】

地方財政統計編纂論
使用料論
自治團體財政の監督
市町村財產の差押
地方債の研究
地方財政の研究
地方財政に就て
市債に就て
地方財政に就て
地方財政論
國債と地方財政
地方町村基金の運用に就て
物價騰貴に對抗する都市の解釋
都市計畫の法律問題と都市の法律事務
市町村の混合企業に就て
部落有山野の村有に統一問題
京都市公同組合の研究

參照＝財政。租稅。地方行政。

地方行政。

山田準次郎〔新報〕大一四　五　六
菊地愼三〔都問〕大一四　一　五
小山田小七〔經濟〕大一四　二　六
櫛田龍城〔新聞〕大一五　一　一
吉川季治郎〔都問〕大一五　二　二

			年	卷	號
財政及社會政策	神戸	正雄〔京法〕	大二	八	五
地方財政の調整	神戸	正雄〔經叢〕	大四	一	一
地方債整理論	神戸	正雄〔經叢〕	大四	一	五
市町村財政と小學校費の負擔	本多	精一〔財經〕	大五	二	二
地方財政の整理に付て	工藤	重義〔國家〕	大六	三	八
戰時財政に於ける地方團體の協力	工藤	重義〔國家〕	大六	三	三
地方財政に於ける收支關係の原則	神戸	正雄〔法論〕	大六	一	一
地方財政及其の統計概況	花房直三郎	〔統雜〕	大六	一	三八〇 三八二
都市の財政を論ず	水野錬太郎	〔法政〕	大七	一五	六—七
地方團體に對する國庫補助金制度	山崎	犀二〔法政〕	大八	一六	六
中央財政と地方財政	內池	廉吉〔國經〕	大九	二九	四—五
市町村教育費輕減問題	澤柳政太郎	〔財經〕	大一〇	八	一
都市財政の豫算經費に就いて	小野寺力雄	〔會計〕	大一一	一	一
最近我國に於ける地方費の組成と增加	小山田小七	〔經叢〕	大一〇	三	五
本年（大正十二年）度の道府縣費豫算	船田	中〔法政〕	大一三	二〇	六
都市の財源としての地租	小川市太郎	〔エコ〕	大一三	一	六—八
震災前後の地方財政	船田	中〔法政〕	大一三	二	一
都市改良事業費の財源問題	宮武	貫一〔經商〕	大一三	三	三
市町村財政の研究	船田	中〔法政〕	大一三	二	四—七
地方財政整理に關する諸問題	船田	中〔法政〕	大一三	二	二
戸數割と地方財政の困憊	有森	英彦〔財經〕	大一三	二	一三
東京市の財政狀態を思つて	田川大吉郎	〔都問〕	大一四	一	三
都市財政改革の要諦	小林丑三郎	〔都問〕	大一四	一	四
都市財源としての土地課稅	小川市太郎	〔都問〕	大一四	一	五—六
地方財政膨脹の內容的考察	小田	忠夫〔都問〕	大一四	一	七
都市財政上の經費論	小林丑三郎	〔都問〕	大一五	二	二
都市起債制度の改革	西村	健吉〔都問〕	大一五	二	六
我國地方債の現狀	小山田小七	〔商論〕	大一五	一	一

【地方稅（チホウゼイ）】

參照＝租稅。地方行政。地方財政。

			年	卷	號
市町村稅に關する所感	公道	學人〔新報〕	明三〇	七	七
課稅法に就て	公道	學人〔新報〕	明三一	八	八—九
市町村の公課に就て	杉浦鎭次郎	〔國家〕	明三三	一四	一六二
市町村稅の新設又は增減と其周知方法	若槻禮次郎	〔志林〕	明三四	三	三一九 三二〇
營業稅附加稅に就て	土岐	嘉平〔新報〕	明三五	一三	四
地方稅に於ける配分原則に就きて	神戸	正雄〔京法〕	四三	四	二
郡制第六條の納稅一年以來の起算點	島村他三郎	〔志林〕	明四二	二	一〇
地方稅の改善	小林丑三郎	〔日經〕	明四四	八	二
地方稅整理論	小林丑三郎	〔東經〕	明四四	六三	一五八三
地方稅に於ける特別稅、對附加稅の問題	神戸	正雄〔國經〕	大元	一三	五
縣稅戸數割に關する疑義	宗像藤喜治	〔新聞〕	大三	一	九—九
縣稅戸數割と其の附加稅たる町稅との關係	佐々木惣一	〔京法〕	大四	一〇	三
附加稅の客體	窪田靜太郎	〔法協〕	大四	三三	九
東京市隣接各郡の町村に於ける町村稅增加の趨勢	竹內秀次郎	〔統集〕	大五	一	四二四
戸數割及戸別割を論ず	神戸	正雄〔經叢〕	大五	二	二
雜種稅の分析及其整理	神戸	正雄〔經叢〕	大五	二	四
地方團體に於ける課稅原則	土方	成美〔國家〕	大六	三	四
市町村稅制整理の方案	本多	精一〔財經〕	大六	四	九
營業稅徵收免除と地方稅の賦課	猪股	淇清〔新聞〕	大六	一	二九九
地方稅として地租の課稅標準	神戸	正雄〔經叢〕	大九	一	五
地方稅分離論	藤澤	穆〔國經〕	大五	二九	三
我國の地方稅を論ず	小川鄕太郎	〔經叢〕	大一〇	一三	三
地方稅制整理の要	田中廣太郎	〔經究〕	大一〇	一	三
地方稅整理の問題	小川鄕太郎	〔經叢〕	大一〇	一三	四—五
我國の地方稅	田中廣太郎	〔經究〕	大一〇	一	五—七
地方稅制整理論	志立鐵次郎	〔財經〕	大一〇	八	八
戸數割を論ず	小川鄕太郎	〔經叢〕	大一一	一五	二
地方稅戸數割	田中廣太郎	〔法政〕	大一一	九	三—七
戸數割則更正私見	石井	良一〔新聞〕	大一一	一	二〇四一
北米合衆國に於ける地方稅の負擔	大內	武次〔經叢〕	大一三	二	七
道府縣稅の研究	船田	中〔法政〕	大一三	二〇	十—一〇
大正一〇年勅令第四二二號府縣稅戸數割規則第一條につきて	關口健一郎	〔國家〕	大一三	三毛	八
戸數割と地方財政の困憊	有森	英彦〔財經〕	大一三	一	一三
災害地、地租免除又は營業稅法二九條に依り國稅を免除せられたるものに地方稅たる附加稅の賦課に就て	唯野	喜八〔會計〕	大一四	一六	一
戸數割と家屋稅との併課に對する私見	唯野	喜八〔會計〕	大一四	一七	二
地方稅遊興稅	田中廣太郎	〔國家〕	大一四	三元	三
地方稅制問題の核心	阿部	賢一〔金融〕	大一四	二	二
地方稅整理の方法	成瀨	義春〔財經〕	大一四	三	二
地方稅整理案を評す	成瀨	義春〔財經〕	大一四	三	二八 二九
地方稅整理の問題	神戸	正雄〔財經〕	大一四	一	三元
地方稅の整理と國家の安危	松倉慶三郎	〔新聞〕	大一四	一	二四四〇

製絲業者の不動産取得の行爲に對し府縣稅を課するは適法に非ず　唯野　寧八〔會計〕大五五4
地方稅制案の得失　成瀨　養吾〔財經〕大五五
國稅證系と地方稅體系　高島佐一郎〔國經〕大五四
自治體稅制の缺點　三浦鐵太郎〔洋經〕大五一
戶數割の課稅物件に關する一考察　神戶　正雄〔時經〕大五一
改稅後の本邦國稅及地方稅　神戶　正雄〔時經〕大五四
米國諸都市の一般財產稅　小幡　清金〔都市問題〕大五一
米國に於ける製茶課稅の本邦に及ぼす影響　森　貞次郎〔國經〕
製茶の產額及消費高　相原　重政〔統計〕大四二
製茶の退歩　〔東經雜誌〕大四七
露國に於ける茶の消費　〔實科〕大四一
幣岡縣の茶と清水港　本本　是郎〔統計〕大五一
朱代の茶法茶馬　松井　等〔亞經〕大六
茶業勞働の現況　勝俣千之助〔三學〕大六
製茶改正私見　宮地　鐵治〔財經〕大六
支那の茶業　〔實科〕大六

【茶】

米國諸都市の一般財產稅　小幡　清金〔都市問題〕大五一
米國體系大觀　神戶　正雄〔時經〕大五
改稅後の本邦國稅及地方稅　神戶　正雄〔時經〕大五
戶數割の課稅物件に關する一考察　神戶　正雄〔時經〕大五
自治體稅制の缺點　三浦鐵太郎〔洋經〕大五一
國稅證系と地方稅體系　高島佐一郎〔國經〕大五四
地方稅制案の得失　成瀨　養吾〔財經〕大五五
唯野　寧八〔會計〕大五五4

【チャアチズム】

展望　大谷嘉兵衛〔財經〕大10　八　八
製茶貿易の現狀と根本的發
支那茶業史論　田中　忠夫〔亞經〕大10　五　二
支那茶戰と英國　柏田　忠一〔亞經〕大10　五　二
英外茶貿易論　田中　忠夫〔亞經〕大10　五　二
金元茶法史論　田中　忠夫〔亞經〕大八　三　三
本邦製茶統計　加藤　鐵藏〔統集〕大七　一　閏六

【チャイルド】

(Sir Josiah Child, 1630-1699)

階級鬪爭としてのチャーティズム　上田貞次郎〔商研〕大二　一　一
ラヴェット著「チャーチズム」格論　大森　宗嗣〔原蘇〕大三　二　二
チャアチズムと勞働組合運動　小泉　信三〔財經〕大五　三　一

抽稿チャイルド著「新貿易論」　武藤　長藏〔國經〕大六　三　三
再びジョサイア・チャイルド著「新貿易論」に就て　武藤　長藏〔國經〕大六　三　三
支那の茶業　永並　豐吉〔商經〕大10　一　三
製茶改正私見　小六〔社政〕大10　一　八
茶業勞働の現況　勝俣千之助〔三學〕大六　二　九
宮地鐵治〔財經〕大六　二　一
松井　等〔亞經〕大六　二　一
朱代の茶法茶馬　本本　是郎〔統計〕大五　一　三
幣岡縣の茶と清水港　〔實科〕大四　一　四
露國に於ける茶の消費　〔實科〕大四　七二　一七六
製茶の退歩　森　貞次郎〔東經〕大四　一　一
製茶の產額及消費高　相原　重政〔統集〕大四二　一　五七
製茶に及ぼす影響　〔國經〕　四

【チャアチズム】

階級鬪爭としてのチャーティズム　上田貞次郎〔商研〕大二　一　一
ラヴェット著「チャーチズム」格論　大森　宗嗣〔原蘇〕大三　二　二
チャアチズムと勞働組合運動　小泉　信三〔財經〕大五　三　一

【チャイルド】

(Sir Josiah Child, 1630-1699)

抽稿チャイルド著「新貿易論」　武藤　長藏〔國經〕大六　三　三
再びジョサイア・チャイルド著「新貿易論」に就て　武藤　長藏〔國經〕大六　三　三

【仲裁】【仲裁裁判】

英米に於ける仲裁制度　池田寅二郎〔法公〕大二　三　一
働仲裁裁判制度　岩下　堅造〔社政〕大二　一　三

【仲裁裁判】

國際裁判私見　中村　六郎〔法協〕昭三　二六　三
デラゴア灣仲裁裁判事件　中村　進午〔外時〕昭三　三　元
戰爭と仲裁裁判　秋山　雅之助〔志林〕昭二　二　二
家屋稅問題と仲裁裁判　山田　三良〔國際〕昭三　一　三
仲裁裁判の法理　松原　一雄〔國際〕昭三　一　九10
仲裁裁判の目的　松原　一雄〔國家〕昭三　二六　八
國際仲裁裁判の前途　原田豐次郎〔外時〕昭三　六　六
仲裁裁判概論　鵜川　新〔國家〕昭三　七　二
當國仲裁裁判制に就て　古谷久綱〔新報〕昭三　四　一
仲裁裁判條約に就て　松原　一雄〔外時〕昭三　八　一
第二回平和會議と義務的仲裁裁判　松原　一雄〔志林〕昭二　七　二
居留地家屋稅仲裁裁判　中村　進午〔法政〕昭二　九　六
歐米諸國間に於ける一般仲裁裁判條約締結順序大要　菊地　剛次〔志林〕昭二　八　一
家屋稅問題の仲裁裁判　千賀鬼太郎〔京法〕昭二　一　一
日米仲裁々判條約に就て　山田　三良〔法協〕昭四　三六　一
仲裁々判制度改革論　青木　得三〔法協〕昭四　三六　10

【仲裁】

仲裁法案反對論　岩切　覺治〔新聞〕昭四　一　七0
頽制的仲裁制度の利弊　松崎　諦〔國經〕大六　三　一
社會的不安と新西蘭の產業和解及仲裁法　北澤新次郎〔國經〕大七　二四　二四
佛國に於ける和解及仲裁制度　黑川　小六〔社政〕大10　一　八
英國仲裁法第二十七條に付て　永並　豐吉〔商經〕大10　一　三
クイーンスランドに於ける勞

【中華民國】

支那を見よ　菊之助〔商業〕大五　三　一

【チャップマン】

(Sir Sydney John Chapman, 1871-)

チャップマンの經濟學觀　武藤　長藏〔國經〕大六年　三卷　四號

【嫡出子】

實子を見よ

【チャイルド】

論に就て

仲裁々判と高國平和　寺尾亨〔國際〕明四〇　二
仲裁裁判に附すべき爭項と說明して日米仲裁條約締結の風評に論及す　立作太郎〔外時〕大八　三〇
國際聯盟と仲裁裁判　立作太郎〔外時〕大八　三〇
國際仲裁裁判問題と端西國　立作太郎〔外時〕大八　三〇
國際紛爭に關する仲裁裁判と司法的解決との分化　蠟山政道〔國家〕大九　二
國際裁判の歷史的研究　岩田宙造〔國家〕大三　三八
國際仲裁裁判の歷史的研究　岩田宙造〔國家〕大三　三八
國際仲裁裁判の提議　蠟山政道〔國家〕大九　二

京城六矣塵に就いて　黒正　巖〔經叢〕大一〇　一三　二
朝鮮の過去と現在　柳　泰慶〔國知〕大一三　三　二
震災の朝鮮人に及したる影響を憂ふ　上田貞次郎〔外時〕大一三　元　四五七
在滿朝鮮人の現狀と其の救濟策　末廣　重雄〔經叢〕大一三　一九　六
朝鮮の諸問題　稻葉　君山〔外時〕大一三　元　四六六
朝鮮民族と扶養關係　生江　孝之〔社政〕大一三　一　五〇
朝鮮海峽論　松波仁一郎〔國際〕大一四　二四　六一八
移民
關稅　移民ー朝鮮を見よ
銀行　關稅ー朝鮮を見よ
金融　銀行ー朝鮮を見よ
經濟　金融ー朝鮮を見よ
韓錢手形並に韓錢問題　野口　彌三〔法協〕明三五　二〇　十一〇
經濟單位發展史上韓國の地位　福田　德三〔內外〕明三六　二　一一二　三七　八　一
韓國に於ける農事經營の近狀　中村　彥〔日經〕國四〇　一　七九
滿韓利源調査　奈佐　忠行〔國經〕明四〇　二　二
韓國の拓殖　瀧本　美夫〔日經〕明四〇　二　三
對韓商業政策私議　山內　正瞭〔日經〕明四〇　一　一〇
滿韓の企業　小澤愛次郎〔明學〕明四〇　一　三一二　一二四
韓國に於ける土地制度　稻田周之助〔新報〕明四一　一八　三
清韓に對し我商業的機關を設備する必要　宮崎　駿兒〔東經〕明四三　五九　一四七
經濟史上生產要素の効果に異同ある所以を論じ併せて朝鮮開發問題に及ぶ　松崎藏之助〔法協〕明四三　二八　一
朝鮮に於ける水に就きて　神戶　正雄〔日經〕國四四　八　七
朝鮮に於ける保險業　小山哲四郎〔保評〕大二　六　七
朝鮮經濟事情　藤原　正文〔國國〕大三　二　六
朝鮮に於ける地價調査の綱要　和田　一郎〔國家〕大八　三三　六
朝鮮干潟地利用論　三田村一郎〔經叢〕大九　一一　四
倭寇時代に於ける日韓濱の貿易品　後藤　秀穗〔亞經〕大一〇　五　一
大邱の令市に就いて　黒正　巖〔經叢〕大一〇　一三　五
鮮銀の改造　神戶　正雄〔時經〕大一三　一　一三
朝鮮貿易入超の考察　淳澤甲子男〔財經〕大一三　一〇　二
食糧問題と朝鮮の米作　河田　嗣郎〔經叢〕大一三　一九　六
朝鮮の雜種農業　河田　嗣郎〔經叢〕大一四　二〇　二一三
鮮銀不始末の眞因　鈴木　穆〔エコ〕大一四　三　一八
歡迎すべき朝鮮拓殖計畫　尾崎　敬義〔エコ〕大一四　三　二〇
朝鮮の農業金融組織　河田　嗣郎〔經叢〕大一四　二〇　一
朝鮮に於ける契の研究　猪谷　善一〔商研〕大一三　四　二
小作問題と朝鮮の小作制　河田　嗣郎〔經叢〕大一四　二〇　二一三

韓國の財政整理　藤本幸太郎〔國經〕明三九　一　二
韓國財政の前途に就て　峰岸榮太郎〔東經〕明四二　六〇　一五一〇
朝鮮今後の財政　田中　穗積〔日經〕明四三　八　一
朝鮮增稅問題　關根　重憲〔日經〕大三　一四　二
朝鮮の財政獨立に就きて　小川鄕太郎〔經叢〕大九　一〇　一
社會
韓國人の敎育　堀江專一郎〔辯協〕大二　一七　一七一　一七二
ケナン「日本は果して朝鮮に於て基督敎徒を迫害しつゝありや（陰謀事件の評論）」（譯）　杉原太之助〔統集〕大七　一　四五三
統計上より見たる朝鮮敎育の前途　高橋　亨〔日社〕大七　六　一三
朝鮮の白丁　吉野　作造〔國家〕大九　七　三三一　一〇一
天道敎研究資料　稻葉　岩吉〔亞經〕大一一　一　一一
朝鮮の文化問題　一六
朝鮮の慣習上男子なき者死亡したる場合に於ける相續順位に就いて　金　膺植〔朝司〕大二　二　五
朝鮮の姓の由來　稻葉　岩吉〔亞經〕大三　八　一
朝鮮社會史の斷面　稻葉　岩吉〔亞經〕大一四　九　一一二
朝鮮人の婚姻と族姓　都守　泰一〔社雜〕大一五　一　二六
朝鮮の族譜に就て　稻葉　岩吉〔亞經〕大一五　一〇　二

韓國顧問官　戶水　寬人〔外時〕明三七　七　八二
統監府　戶水　寬人〔外時〕明三九　九　九八
韓國讓位と新條約　松宮春一郎〔外時〕明四〇　一〇　二一七
阿利那禮河と新羅の議會　宮崎道三郎〔法協〕明四一　二六　四一六
韓國更統論　有賀　長雄〔外時〕明四三　一三　一
朝鮮警察の沿革を述べ朝鮮人の種類及性質に及ぶ　松井　茂〔國際〕明四三　九　三
間島に於ける統監府派出所の行動　篠田　治策〔國際〕明四三　八　七
朝鮮の內務行政殊に警察行政に就て　松井　茂〔國家〕明四三　二四　一三
朝鮮警察の今昔　松井　茂〔法記〕明四四　二一　一
〔刑評〕明四四　三　六一七
朝鮮統治と土語　赤木　格堂〔外時〕明四五　一五　一七二
朝鮮警察の沿革　對馬都之助〔京法〕大二　一二　九一一二
朝鮮統治の根本問題　山本美越乃〔經叢〕大八　九　三
朝鮮統治論　大澤　眞吉〔辯協〕大八　二三　五
朝鮮統治の根本主義　牧野　義智〔國國〕大九　八　四
西伯利撤兵と朝鮮統治　中尾　龍夫〔外時〕大一一　三六　四二五
朝鮮及臺灣に於ける諸問機關　森　文三郎〔商滿〕大二　二
朝鮮政治史の過程　稻葉　岩吉〔亞經〕大二　八　四
日米問題と朝鮮統治の根本義　副島　道正〔外時〕大二五　四二　五八

			年	巻	号	頁
	對外國關係					
朝鮮開港の始末（講演）	花房　義質	【國家】	明三三	四	三	一
朝鮮に於ける日露の聯合保護	エングラルド	【外時】	明三一	一		四
朝鮮に於ける日露關係の近狀	鳳凰山人	【外時】	明三三	三		二六
韓國の通信機關及航行自由問題	松宮春一郎	【外時】	明三八	八		九一
國際法上韓國の地位に就て	廣田　守信	【京法】	明三九	一		五
清韓兩國に於ける發明、意匠、商標及び著作權の保護に關する日米條約釋義	菊地　駒次	【國際】	國一	七		二
日露開戰當初に於ける韓國の法律上の地位	有賀　長雄	【國際】	明四一	七		三
突尼斯に於ける領事裁判權撤去と韓國に於ける同問題	江木　翼	【法協】	明四一	二六		七
仁川開港始末	有賀　長雄	【外時】	明四三	一三		六
朝鮮と米佛借款問題	原田豐次郎	【外時】	明四三	一三		九
韓國併合國際法觀	立　作太郎	【法協】	明四三	二八		一
日韓關係						
韓土附庸時代	中村德五郎	【國家】	明三一	一		一五四
所謂滿韓交換の實相及批評	有賀　長雄	【外時】	明三六	六		七〇
對韓經營の序幕	松宮春一郎	【外時】	明三七	七		八二
日韓議定書	中村　進午	【新報】	明三七	一四		三
征韓論	煙山專太郎	【外時】	明三八	八		八七
日韓新協約を讀む	中村　進午	【外時】	明三八	八		九〇
韓國の經營	戸水　寛人	【外時】	明三八	八		九六
日韓關係疑義	中村　進午	【志林】	明三八	七		三
日韓條約と强迫問題	有賀　長雄	【外時】	明三九	九		五
日韓保護條約締結の顚末	松宮春一郎	【外時】	明三九	九		九
保護費補賠論	有賀　長雄	【外時】	明三九	九		一〇一
日韓協約と條約締結權	立　作太郎	【國家】	明四〇	二		七
韓問解決	中村　進午	【外時】	明四〇	一〇		二七
明治初十年の我對韓關係	煙山專太郎	【外時】	明四一	一〇		一
韓國に於ける我官民の衝突	松宮春一郎	【外時】	明四一	一二		一三〇
日韓覺書と憲法	佐々木惣一	【京法】	明四二	四		九
日韓合邦說の提唱及其影響	松宮春一郎	【外時】	明四三	一三		一
德川初期に於ける日韓關係	小澤　愛圀	【三學】	明四三	四		一一二
韓國民を濟ふの道	松宮春一郎	【外時】	明四三	一三		四
朝鮮の合併と米國の態度	高橋　作衛	【國際】	明四三	八		七
韓國合邦の法理	有賀　長雄	【外時】	明四三	一三		七
日韓合邦の根本問題	有賀　長雄	【外時】	明四三	一三		八
日韓合邦の晩	松宮春一郎	【外時】	明四三	一三		八
韓國併合所感	有賀　長雄	【外時】	明四三	一三		九
韓國の合併と立法事業	梅　謙次郎	【國際】	明四三	八		九
韓國併合國際法觀	立　作太郎	【法協】	明四三	二八		一二
日鮮問題の困難について	柳　宗悅	【國知】	大二	三		九
朝鮮に獨立の資格なし	川島清治郎	【洋經】	大一三	一		二一二
日韓否併合の神隨	播磨　龍城	【新聞】	大一四	一		二四七
法律						
韓國の土地建物證明規則	京城生	【志林】	明三九	八		三
朝鮮の司法制度と法律	松寺　竹雄	【法政】	明四一	三		三
韓國の典當	梅　謙次郎	【法協】	明四一	二六		一〇
韓國に於ける遺失物取扱慣例	松井　茂	【法協】	明四一	二六		一〇
法人に關する韓國慣習法一斑	梅　謙次郎	【法協】	明四二	二七		五
韓國刑事一斑	安住時太郎	【刑評】	四四三	二		六
合併後の韓國法制	梅　謙次郎	【刑評】	明四三	二		九
朝鮮の刑事警察	松井　茂	【刑評】	明四三	二		一〇
在韓文官の登用法論	羽　山	【新聞】	明四三	一		六五七
帝國憲法は朝鮮に及べるや	內山　光春	【新聞】	明四三	一		六七六
內山光春君の帝國憲法は朝鮮に及べるやを讀む	A　S　生	【新聞】	明四三	一		六八七
內山氏の帝國憲法は朝鮮に及べるやと題する論文を讀む	中村　順	【新聞】	明四三	一		六八七
AS君及び中村順君に答ふ	內山　光春	【新聞】	明四四	一		六九七
朝鮮會社令に就て	山田　三良	【法協】	明四四	二九		三
朝鮮會社令に關する山田博士の批評を讀みて	原　象一郎	【法協】	明四四	二九		三
朝鮮の刑政に就て	石山　彌平	【辯協】	大六	一六		一六八
朝鮮法原の歷史的研究	淺見倫太郎	【法協】	大六	三五		八
朝鮮法學教育の概況	吾孫子　勝	【法政】	大六	一九		一九
朝鮮刑事令改正案說明書		【朝司】	大六	一		三
朝鮮に於ける慣習と民事法規との關係	吉田平治郎	【朝司】	大六	二		四
平安北道に於ける賭地權に就て	蔡　圭　明	【朝司】	大六	二		一〇
平南中和の賭地權に就て	多田　吉鍾	【朝司】	大六	二		一三
朝鮮民事令と民事訴訟法改正法律案	多田　吉鍾	【朝司】	大六	五		五
司法						
韓國に於ける日本の司法權	有賀　長雄	【外時】	明三九	九		六
韓國の司法制度と法律	松寺　竹雄	【法政】	明四一	三		三
韓國に於ける司法制度に就て	江木　翼	【國家】	明四二	二三		一〇
新統監府の司法部刷新論	羽　山	【新聞】	明四三	一		六五〇
朝鮮司法制度の改革	宮脇　梅吉	【新聞】	明四四	一		七五一
朝鮮に於ける辯護士規則の改正を促がす	伊藤金次郎	【新聞】	四四四	一		七〇三
朝鮮司法界の現狀	國分　三亥	【新聞】	大五	一		一〇七
朝鮮並に臺灣談合事件の經過を敍して司法統一の緊要を論ず	大井　靜雄	【新聞】	大六	一		一三六

朝鮮司法の回顧と其のデレンマ　匿名氏〔新聞〕大七・一・一四　卷號 一四三
朝鮮司法界に對する回憶　渡邊暢〔朝司〕大一三・三　一
朝鮮司法界に對する回憶　草場林五郎〔朝司〕大一三・三　一
勞働及び勞働階級　勞働及び勞働階級ー朝鮮を見よ

【調停（チョウテイ）】

宇滿亞國の調訂手續法　吾孫子勝〔國經〕國三　九　六
臺灣統治より觀たる調停制度　下村宏〔臺法〕大一〇・一五　四
獨逸に於ける產業爭議の調停方法　松岡尙義〔社政〕大一一・一　二〇
最近の法律現象として調停及陪審　牧野英一〔志林〕大二・二五　六・八
調停法の文化的價値　水本信夫〔新聞〕大二・一　二一四・二一二二
大震と調停和解　藤沼藤七郎〔法曹〕大二・三　二
一般調停法制定の議　原嘉道〔法新〕大三・一　一三
調停制度有終の美を望む　後藤文夫〔臺法〕大四・一九　一一
「調停法主義」寸言　渡邊省三〔法新〕大一四・一　四八

【徴兵（チョウヘイ）】

參照＝軍事。
無罪の徴兵忌避　香取久吉〔新聞〕明三八・一　二七二
ハノーヴアー徴兵保險會社の狀態　木下薰〔保雜〕明四二・一　一四五
徴兵と學生の關係　曾我祐準〔國家〕明二六　七　七
徴兵統計の話　橫山雅雄〔統集〕明四四・一　三六三
英國の强制徴兵制度　卜部百太郎〔三學〕大五・一〇　五
徴兵檢查と職業　高岡熊雄〔國經〕大七・二五　二一三
徴兵危險率に就て　玉野重次郎〔保雜〕大七・一　二六四

【著作權（チョサクケン）】

參照＝書籍機。著作權法。
萬國版權は書價を增加することなし　ブットハム〔法協〕明三〇　一五　九
日本と著作權の保護　水野錬太郎〔國家〕明三四　一五　一六七
著作權に關する方式を論ず　水野錬太郎〔法協〕明三四　一九　八
知能權に就て　水野錬太郎〔法政〕明三五　六　五九
著作權の性質に就て　水野錬太郎〔法協〕明三六　二一　一七九
著作權を論ず　ブリッグ〔法協〕明四〇　二五　二一三
出版と著作　佐々木惣一〔京法〕明四一　三　四一五
リコードの著作權　市村光惠〔新報〕大二・三　三
蓄音器と著作權　織田萬〔京法〕大二　八　一一
假裝著作者の承諾に就て　佐々木惣一〔新聞〕大二・一　九〇一
假裝著作者の承諾と發行者の制裁　木村篤太郎〔新聞〕大二・一　八九六
裁判上に現はれたる音樂的著作物に關する諸問題　渡部龍一郎〔新聞〕大三・一　卷號 九六八
戰爭と著作權（講演）　水野錬太郎〔法協〕大四　三三　一
著作權の移轉及侵害に就て　白井茂〔國國〕大六　五　三
ラジオは著作權の複製なり　河井榮藏〔新聞〕大一四・一　二四二四
著作權雜記　榛村專一〔法新〕大一五・一　七〇　七二

會議及び條約

萬國版權保護同盟に就て　山田三良〔法協〕明三〇　一五　五一八
萬國版權保護同盟に就て　水野錬太郎〔國家〕明三一　一二　一四二
萬國工業所有權保護同盟條約に就て　山田三良〔法協〕明三四　一九　一二
日淸通商追加條約中版權に關する規定に就て　水野錬太郎〔法協〕明三七　三　五
萬國著作權協會第二十六回會議の議決　水野錬太郎〔法協〕明三八　二三　六
萬國著作權保護協會第二十七回萬國會議　水野錬太郎〔法協〕明三九　二四　五
著作權保護に關する日米協約に就て　水野錬太郎〔法協〕明三九　二四　六
淸韓兩國に於ける發明、意匠、商標及び著作權の保護に關する日米條約釋義　菊池駒次〔國際〕明四一　七　二
著作權保護に關するベルヌ條約の改正　水野錬太郎〔法協〕明四二　二六　三
文學及び美術的著作物件保護萬國同盟條約に關する伯林會議事項並に本邦の提案　水野錬太郎〔國家〕明四一　二三　七
伯林に於ける著作權保護同盟萬國會議の顚末　水野錬太郎〔國家〕明四二　二三　五
歐米諸國と日本との間に於ける飜譯自由に關する本邦委員の說明　水野錬太郎〔國家〕明四二　二三　八
著作權保護同盟條約改正會議に就て　水野錬太郎〔國際〕明四二　七　八
飜譯自由に關する本邦委員の說明に對し委員會議長ルノー博士の批評　水野錬太郎〔國家〕明四二　二三　九
著作權保護萬國會議の成果と內國法　水野錬太郎〔法協〕明四二　二七　卷號 二一〇
著作權保護萬國の決議に對する論評　水野錬太郎〔法協〕明四三　二八　四
著作權保護同盟條約創立二十五年の回顧　水野錬太郎〔法協〕大二　三一　三
工業所有權及著作權保護條約は戰爭の爲めに消滅するや　泉哲〔日經〕大三　一六　二
著作權保護同盟條約の解釋に關する遠藤博士の所說　水野錬太郎〔法協〕大三　一六　三

貯蓄心の進歩　多田井喜生
勞働と貯蓄との關係　米田庄太郎
勞働貯蓄と事業界の統一　雨宮敬次郎〔日經〕昭四　一　九
資本の成立と貯蓄との關係　山崎覺次郎〔法協〕昭四　一　七
我國の富と貯蓄　下村宏〔國經〕昭四　一　一
貯金制度と社會問題　熊藏〔國家〕昭三　三　六
貯金制の理論及其實例　熊藏〔保險〕昭三　一　一〇
貯蓄と社會の福祉　十龜生〔日經〕大一一　一　一
貯蓄と社會の福祉　堅次〔國家〕大一一　三　四
貯蓄機關の趨勢に就て　石川榮吉〔日經〕大一一　一
英國の貯金銀行運動　松下鐵之助〔洋經〕大六　一
英國に於ける戰時貯蓄運動　高島誠一〔國經〕大七　一
貯蓄の意義　勝田貞次〔金融〕大一四　一
貯蓄の本質に就いて　井下兜二〔銀藏〕大一五　一
貯蓄銀行の改善問題　松崎蓊吉〔國經〕大一三　五
貯蓄銀行の官、公及私營　神戸正雄〔時經〕大一三　一
貯金法と貯蓄銀行問題　下村宏〔國家〕昭三　一
北米合衆國に於ける新郵便貯金　麻生義一郎〔保險〕昭三　三
貯蓄銀行の小口保險業　水野錬太郎〔法協〕昭三　一
米國著作權法の一部改正　水野錬太郎〔法協〕昭三　三
參照＝著作權。
歐洲に於ける著作權法の沿革及其國際的關係の由來　水野錬太郎〔內外〕昭三　一
伯耳尼西爾國新著作權法草案を讀む　水野錬太郎〔法協〕昭二　九
參照＝著作權法。
文藝家協會の著作權法改正　藤田和夫〔法新〕大一五　一
著作權法第二一〇條の說明　藤田和夫〔新聞〕大一三　一
著作權法と著音器　藤田嘉一　泉水野錬太郎〔法協〕昭二　一〇
本邦著作權法の沿革　水野錬太郎〔國家〕昭二　一五
著作權法案　水野錬太郎〔國家〕昭二　一
著作權法の統一と模範著作　水野錬太郎〔國家〕昭二　三
我著作權法と國際著作權法　水野錬太郎〔法協〕大一四　三
參照＝著作權法。
著作權草案　藤井勝部定次郎〔外時〕大八　二六　三〇
著作權法の統一と模範著作　水野錬太郎〔法協〕大一四　三
參照＝著作權法。
工業所有權戰時法と竝工業所有權保護同盟條約　正

貯蓄銀行の改善問題　松崎蓊吉〔國經〕大一三　五　六
貯蓄銀行の官、公及私營　神戸正雄〔時經〕大一三　一
貯金法と貯蓄銀行問題　下村宏〔國家〕昭三　一　八
北米合衆國に於ける新郵便貯金　麻生義一郎〔保險〕昭三　三
貯蓄銀行の小口保險業　水野錬太郎〔法協〕昭三　一
米國著作權法の一部改正　水野錬太郎〔法協〕大一四　三
參照＝著作權法。
歐洲に於ける著作權法の沿革及其國際的關係の由來　水野錬太郎〔內外〕昭三　一
伯耳尼西爾國新著作權法草案を讀む　水野錬太郎〔法協〕昭二　九
參照＝著作權法。
文藝家協會の著作權法改正　藤田和夫〔法新〕大一五　一
著作權法第二一〇條の說明　藤田和夫〔新聞〕大一三　一
著作權法と著音器　藤田嘉一　泉水野錬太郎〔法協〕昭二　一〇
本邦著作權法の沿革　水野錬太郎〔國家〕昭二　一五
著作權法案　水野錬太郎〔國家〕昭二　一
著作權法の統一と模範著作　水野錬太郎〔國家〕昭二　三
我著作權法と國際著作權法　水野錬太郎〔法協〕大一四　三
參照＝著作權法。
著作權草案　藤井勝部定次郎〔外時〕大八　二六　三〇
著作權法の統一と模範著作　水野錬太郎〔法協〕大一四　三
參照＝著作權法。
工業所有權戰時法と竝工業所有權保護同盟條約　正

賃銀制度の將來　北澤新次郎〔我等〕大九　一　二
製糸工女登錄制度及工銀　佳卓　阜〔社政〕大一〇　一　三
賃銀制度の廢止と歐西亞　田島錦治〔經濟〕大一〇九　一一〇　一
勞賃の經濟的及び道德的性質　國枝元治〔三學〕大九　一四　二一一
社會保險の賃銀に及ぼす影響　加藤出長五郎〔國家〕大八　一三三　二一〇
物價指數賃銀制度　三浦武美〔國經〕大八　二七　二
賃金と生活費　馬場啓四郎〔統集〕大八　一　四五七
賃銀變則と處世訓　忠臣〔三學〕大八　二三　二一一
人口と勞銀の趨勢　池高田保〔經營〕大五　一三　二六
賃金及利子の源泉　松崎藏之助〔日經〕大四　一七　四
賃與賃銀制度の計算　三浦辰一〔國經〕大四　二　四
失業の賃銀に及ぼす影響　田松村光三〔會計〕大四　二　四一六
北米合衆國に於ける實質賃銀の趨勢　森戸辰男〔國家〕大四　一　五
戰時に於ける獨逸の勞働賃金と勞働時間　加藤出長五郎〔統集〕大八　一　四五七
勞働者利益分配制度　田島錦治〔經營〕大一〇　一　一
勞賃の經濟的及び道德的性質　國枝元治〔三學〕大九　一四　二一一
社會保險の賃銀に及ぼす影響　加藤出長五郎〔國家〕大八　一三三　二一〇
物價指數賃銀制度　三浦武美〔國經〕大八　二七　二
賃金と生活費　馬場啓四郎〔統集〕大八　一　四五七
賃銀制度廢止論　忠臣〔三學〕大八　二三　二一一
賃銀國際比較の方法　加藤出長五郎〔國家〕大八　一三三　二一〇
賃銀形態殊に割增賃銀に關する考察　田島錦治〔經營〕大一〇九　一一〇　一
賃銀制度の將來　北澤新次郎〔我等〕大九　一　二
製糸工女登錄制度及工銀　佳卓　阜〔社政〕大一〇　一　三

賃銀　本賃銀主義　ヒートン〔社政〕大一一　一　八
諒洲賃銀法に現はれたる基　英國炭業に於ける賃銀制度　細川嘉六〔原ママ〕大一一　三〇　二
英國の展開　生島廣太郎〔商事〕大一一　一　六
賃率とは何ぞや　長岡保太郎〔社政〕大一一　一　三
英國生計スライデング・スケール賃銀制度　佐倉重夫〔社政〕大一一　一　三
賃銀改策としてのスライデング・スケール　吉田隼〔社政〕大一一　一　三
歐洲諸國に於ける家族賃銀　吉田隼〔社政〕大一一　一　三
米國に於ける勞働賃銀の推移　國際勞働局〔社政〕大一一　一　三
諸國に於ける賃金變動の傾向　森田良雄〔社政〕大一一　一　三
英國炭坑夫賃銀問題　田中弥一郎〔經營〕大一一　一七　四五
勞働生産と勞賃　中丸叶〔法政〕大一一　一〇　八九
歐西亞賃金令　大内貳夫〔經商〕大一一　二　四
賃銀支拂に關する保護　田中貢〔經商〕大一一　二　四
賃銀形態殊に割增賃銀に關する考察　田佐倉重夫〔社政〕大一一　二　四
賃銀制度の廢止と歐西亞　田中貢〔經商〕大一一　二　四

賃銀　家族賃銀の意義　岩倉重夫〔社政〕大一一　一　五〇
賃銀及最低賃銀　淺野研眞〔金融〕大一一　一　一
賃銀計算方法の複雜化　湊不二男〔財經〕大一一　二　九
勞賃其支拂方法としての時間拂及出來高拂制度の考察　鈴木常三郎〔經商〕大一一　三　三
物價と賃銀との關係　松村三郎〔財經〕大一一　二　一〇
英國炭坑夫の賃銀協定とその效果　水上鐵次郎〔社政〕大一一　一　五〇
大戰の勞働賃銀に及ぼせる影響　猪間驥一〔經研〕大一四　二　一
歐洲大戰中に於ける英國婦人勞働者の賃銀　兩永義正〔統集〕大一四　一　一
最低賃銀又は標準生活費測定の方法　出井盛久〔社政〕大一五　一　一
勞働者階級と賃銀統制　長澤柳作〔統時〕大一五　一　一
開稅と勞賃との關係について　瀨川末郎〔同論〕大一五　一　一〇
勞賃基金說其論據及沿革を論ず　杉村程〔法政〕昭二　二　二
賃銀に關する學說に就て　河津遐〔法協〕昭二　六　一一
所謂リカードの勞賃銅則に就て　藤本幸太郎〔法政〕昭二　三　三

賃銀　金融物價賃銀貿易考察　志立鐵次郎〔財經〕大一〇　八　九
婦人の報酬　芳賀榮次郎〔社政〕大一〇　一　七
賃銀の保護　末弘嚴太郎〔法協〕大一〇　二五　八
所得と勞賃　堀江歸一〔經營〕大一〇　三五　一五
割增附賃銀制度に關する一考察　福田德三〔國經〕大一〇　三　五
勞銀制度報告要領　中西寅雄〔國經〕大一〇　三　五
俸給及賃銀制度の改善に就て　林癸未夫〔國家〕大一〇　一　五
物價指數に依る賃銀制定法　杉村陽太郎〔社政〕大一〇　一　一
勞働者より觀たる賃銀問題　佐藤進〔社政〕大一〇　一　一
賃銀と勞働能率との關係　杉村陽太郎〔社政〕大一〇　一　一
雇主より見たる賃銀問題　林癸未夫〔國家〕大一〇　一　五
最近英國に於ける勞働賃銀　加藤一郎〔統集〕大一一　一　一
物價の變化と賃金　島崎藏之助〔社政〕大一〇　一　八
四十年來歐米に於ける賃銀と物價　久保田昇〔統集〕大一一　一　一
シカゴ印刷工賃金調節の要點　水上鐵治郎〔社政〕大一一　一　一〇
生計費調査と賃銀　柴田銀太郎〔國經〕大一一　八　三　一一二
科學的經營法賃銀制度　〔賃料〕大一一　一　二
俸給賃銀並に物價調査の規準表に就て　堀　〔統集〕大一一　一　九

賃金學說　ヘルマンの賃銀說に關する研究　チューネンの賃銀說に關する研究　ラスミスの賃銀論と社會問題　チューネンの自然賃銀論に就いて　マルクス「勞賃、價格及び利潤」（譯）　アダム・スミスの賃銀論　プレンタノの賃銀論及び賃の學說　機械と勞賃との相互關係に就てのマルクスの見解　各現的勞賃論の史的發展　マルクスの勞賃論　獨逸古典學派の勞賃論　正統學派の賃銀論　Johann Heinrich von Thünen の自然賃銀論に就いて

寺尾　琢磨〔三學〕大四　二
津田　誠一〔三學〕大四　二九
山口正太郎〔經濟〕大三　三六
山本　森耕二郎〔經濟〕大三　三六
森　森耕二郎〔經濟〕大三　三六
山本　勝市〔經濟〕大三　三六
伊藤　久秋〔長崎〕大三　二
氣賀川　勘重〔三學〕大三　一七
河上　肇〔社問〕大一〇　一
手塚　壽郎〔國經〕大九　一六
横田　秀雄〔新報〕四一　一六
野々山幸吉〔新聞〕四一　一
松澤常夫郎〔新聞〕四一　一
梅　謙次郎〔志林〕四一　一六
小山　立石〔辯協〕四三　一三
奇輿　正〔新聞〕四四　一

或期間一定の使用料にて不動産賃貸借の登記請求權　漁業權の賃貸借權と抵當權との關係　不動產賃貸借の登記請求權に付き裁判所の判決を許す　轉貸の効力に關する東京地方裁判所の判決を許す　訴訟の効力に關する長崎控訴院の判決を許す　賃貸借の効力ある不動產讓渡の効力　賃貸人の承諾を經ざる轉貸借の効力に關する義務の性質　賃貸不動產所有者の賃貸人に對する義務　地主の義務　契約に就て　第三者の爲めにする賃貸借　効力　が爲したる長期賃貸借の處分の能力又は權限なき者　地人の好手段　地所明渡訴訟に現れたる借賃　賠償責任　家屋賃借人の失火に關する數金の性質　を訴す　東京地方裁判所の判決　家賃と敷金の相殺を許したる東京地方裁判所の判決を許す　借人の權利は物權なりや　新民法小作契約に就ての問題　小作契約と論ず　地上權の性質及賃貸借との差異を論ず　賃借權の設　家屋の敷金賠償と賃借人の權利　家屋明渡の場合を論ず　登記したる不動產賃借權　抵當權と賃借權との關係に付て　抵當權と地上權永小作權竝賃借權との關係　賃借權の讓渡及轉貸を論ず　不動產の訴訟に關する三問題　保證金及敷金の性質　所謂地震實貫に就て　不動產賃貸借の登記請求權　立石　編〔明學〕四二　一
池田貨二郎〔法協〕四〇　三五
賃井　政章〔志林〕四〇　九
池田貨二郎〔法協〕四〇　三五

【賃　貸　借】

參照＝小作。借地法。借家法。
飯野　謹一〔法協〕四五　一四　七
高木金之助〔新報〕四三　八　九
高木金之助〔新報〕四三　八　九
戸水　寛人〔新報〕四三　一〇　一〇七
川島　龜夫〔維納〕四三　四　二九
小田幹治郎〔志林〕四三　三　二六
小山　愛治〔新聞〕四三　一　一
淺見倫太郎〔新聞〕四三　一　三六
鈴木　八重吉〔新聞〕大九　一　八〇三
横田　秀雄〔新報〕四三　二　九
武川　佳海〔新聞〕四三　一　六四
横田　秀雄〔志林〕四三　三　二
高窪喜八郎〔新聞〕四三　二　一七
鳩山　秀夫〔法協〕四三　二七　四
西川　一男〔新報〕四三　一　一
西川　一男〔新報〕四三　一　一
稻村藤太郎〔辯護〕四三　二　三
横田　秀雄〔志林〕四三　二　二
戸水　寛人〔新報〕四三　一〇　一〇七
横田　秀雄〔新報〕四三　二　九
水口　吉藏〔國國〕大二　一　一
水口　吉藏〔新報〕大四　三五　八
水口　吉藏〔評論〕大四　三　三〇

賃借人失火の責任　岡村　玄治〔志林〕大五年一六巻三號
登記なき賃借權の設定ある土地を買受けたる者と作毛の所有權　長島　毅〔新報〕大六　三七　九
賃貸借終了と原狀回復の程度　豊原　清作〔緯協〕大六　二　七
不動産賃貸料前拂と第三者對抗問題　岡村　玄治〔志林〕大六　二　九
燕京に於ける住家の賃貸借　板倉松太郎〔志林〕大六　二　九
賃貸人の承諾なき轉貸無效　岡村　玄治〔志林〕大九　三　七
賃貸借物權說と賃貸借の當然承繼　岡村　玄治〔志林〕大九　三　一　七
賃借權と賃借物所有權との關係　遠藤登喜夫〔法政〕大九　一七　二　三
未登記不動産賃借權の效力を論ず　橋本　能稽〔新聞〕大九　一　一　一六の
建物賃貸借に就て　石川　文一〔新聞〕大九　一　一六の
轉貸借の效力　自放　〔新聞〕大九　一　一六の
賃貸人の承諾を得ずして爲したる轉貸借の效力　齋藤常三郎〔國經〕大九　一六　二　ニ
家屋明渡に關する最近の判例に就て　小島愛三郎〔新報〕大九　三　八　二
家屋賃貸人と鼠害の賠償義務　小野　久〔緯協〕大四　二九　九
賃借權者の代位權に就て　鈴木喜三郎〔新聞〕大三　一　三三
ラック其他の建設物の收去を求むる事を得るや　布施　辰治〔新聞〕大三　一　二八六
土地の賃借人は他人が賃借地上に不法に建てたるバ　石井　良助〔法協〕大二　一　七
Pachtsystem und Hypothekensystem.　Sternberg〔法研〕大三　二　一
土地賃借權の效力　松倉慶三郎〔新聞〕大二　一　二九九
總額的依權的契約の特質と賃貸借及び雇傭　平野義太郎〔志林〕大三　五　一一四
借家權の內容　横田　秀雄〔法政〕大二　二九　一
賃貸借の對拔と沒收の適用　小野村風敏〔法政〕大10　八　二四
賃借權の移轉を論ず　嶺濱　正雄〔新聞〕大10　二九五
建物保護法と賃借權との關係　草野豹一郎〔志林〕大10　三　二
ゲンツマーの强制賃貸借契約論　林　頴三郎〔新報〕大九　三　九
小作料減額請求權と減額の範圍及民法の賃貸借の規定　岸　清一〔法學〕大二　一　二九九
賃貸借終了と收去義務　鈴木喜三郎〔新聞〕大三　一　三三
賃貸借の解除に就て　小池　隆一〔法研〕大四　四　二
永小作權と土地の賃借權との區別　西川　一男〔新報〕大四　三　七
賃主の承諾なき轉貸の解約　中村　武〔新報〕大四　三　九
土地の賃貸借契約に於ける賃料支拂義務と賃借地の收益の有無　姉歯　松平〔憲法〕大四　二九　七
民法施行前に於ける慶弔契約と民法施行後の賃貸借及其の登記請求權に就て　姉歯　松平〔憲法〕大四　二九　三
建物の滅失と借地權　猪股　淸〔法公〕大五　三　五

【青島】 膠州灣を見よ

【チンメルマン】 (Eberhardt August Wilhelm von Zimmermann, 1743-1815)

Zimmermann, の政治測量　財部　靜治〔論叢〕大10　三　六

ツ　部

【通貨偽造の罪】　【通貨】　貨幣と見よ

偽造紙幣と紙幣に紛はしき印刷物との區別を論じ刑法第一九三條の批評に及ぶ　高橋　敏之〔法協〕四二年三巻
紙幣模造取締法案を論じ刑法改正調査委員諸氏に望む　山田　三良〔法協〕四二年六
偽造貨幣の效用を論ず　柴田駒三郎〔法協〕四二年九
貨幣の偽造と變造の區別　勝本勘三郎〔法政〕四三年一
貨幣の偽造變動を論ず　三浦寿夫郎〔明法〕四三年一
偽造紙幣知情取受行使の共同正犯に就て　島　集〔新聞〕四三年一
明治三八年法律第六六號に就て　岡田朝太郎〔國際〕四三年一
貨幣偽造に關する罪　岡田朝太郎〔法協〕四三年一

【通信】　【ツガン・バラノウスキー】(Michael Tugan-Baranowsky)

會社業の本質及び目的　河上　肇〔社問〕六年一
通信の事務不饒裁　北斗生〔新聞〕六四年一三六
通信に關する一考察　宮島　保衛〔商業〕六四年五
郷の商業の永遠性に關する商業の投機性に及ぼす影響　紀清市〔三學〕六四年五
運輸及通信の速度の差異が丹後の飛脚に就いて　米田　實〔國家〕六四年五
海外電報及通信に就て　林谷　徳藏〔法政〕六年
現行通信行政を論ず　富田　金雄〔法政〕六年
通信設備と產業との關係を論ず　本庄栄治郎〔叢藏〕六六年五
飛脚の變遷　松宮春一郎〔外時〕四三年八
韓國の通信機關及航行自由問題　大橋　誠一〔新聞〕四三年
外國流通貨幣の偽造と罰則　一瀬勇三郎〔新聞〕六三年
明治三八年法律第六六號に對する大審院の誤判　参照＝交通。電信。電話。無線電信。

【信】　【通】　参照＝交通。電信。電話。無線電信。

【金】　【立】　【積】　準備金と見よ

【　】　【妻】　参照＝婦人。

夫の追認と妻の取消との爭　乾　政彦〔法協〕四二年九巻
妻及び準禁治產者と訴訟能力　谷田勝之助〔新聞〕四二
妻の行爲の相手方は妻が夫の許可を得たることを證明する責任なし　梅　謙次郎〔志林〕〔新聞〕四二年一〇
夫の許可なくして爲したる妻の生命保險契約は取消し得るや　難波藏四郎〔保評〕四三年二
妻の同居義務と强制執行　寺崎　彌彦〔新聞〕六年一二
瑞西民法に於ける妻の地位　岡村　司〔京法〕六年八
私法上に於ける妻の地位に就て　岡松參太郎〔新報〕六年八
法律行爲に關する夫の不當不許可と妻の訴權　長島　毅〔新報〕六年一
妻が借財を爲す場合の夫の許可と方法　三潴　信三〔法協〕六年三
妻の行爲と離婚後の夫の取消　長島　毅〔新報〕六年一〇
英法に於ける妻の契約上の能力　峰岸　治三〔法研〕六年一
婦人問題と私法上に於ける妻の地位　本間　喜一〔商研〕六年一

索引部

【ディーチェル】(Heinrich Dietzel, 1857-)

デーチェル氏の價値學說　伊藤久秋〔商業〕大三年　三號　一

【ディーツゲン】(Josef Dietzgen, 1828-1888)

ヨセフ・ディーツゲンの社會主義唯物論　上原好咲〔三學〕大10　一五　10

【ディール】(Karl Diehl, 1864-)

カール・ディールのアダム・スミス論　三邊金藏〔三學〕大三　一七　九-10
カール・ディールの貨本理論について　金原賢之助〔三學〕大四　一九　二

【帝國議會】議會を見よ

【帝國主義】

所謂帝國主義に就て　小林丑三郎〔法政〕明卅六　七　三
帝國主義と貿本國　關一〔國經〕明四〇　三　四-五
世界政策と帝國主義　津村秀松〔日經〕明四〇　一　六
帝國主義論　守屋源次郎〔日經〕明四一　三　六-八
帝國主義論　大西猪之助〔東經〕明四一　四　四-五
英領植民地に於ける帝國主義的思想の物象　津村秀松〔日經〕明四一　四　七
伊太利の帝國主義　大西猪之助〔日經〕明四二　二　一-六
帝國主義の根本概念に付て　田中幸一郎〔外時〕明四二　五　二-七
米國の軍備擴張と帝國主義　宮本本九郎〔財經〕大四　二　三
過激派と帝國主義　阿部秀助〔外時〕大10　三　九-二
國家主義、帝國主義、軍國主義、戰爭讃歌　松村勝太郎〔外時〕大10　三　三
社會主義の分裂と帝國主義　レーニン〔マル〕大三　一　四-五
帝國主義と無產階級　細川嘉六〔原理〕大四　三　一
帝國主義の今昔　稻田周之助〔新報〕大四　三　六
帝國主義と世界戰爭　松下芳男〔法治〕大四　四　六
植民政策と帝國主義　松下芳男〔法治〕大四　四　八
帝國主義と不平等條約　松原一雄〔外時〕大四　四　四-九
ホブソン著「帝國主義研究」　細川嘉六〔原理〕大五　四　一
重工業と帝國主義　松下芳男〔法治〕大五　五　一

人口狹隘と帝國主義　松下芳男〔法治〕大五年　五號　二
ダンテ・マキアベリの思想と帝國主義　松下芳男〔法治〕大五　二　三
關稅政策と帝國主義　松下芳男〔國家〕大五　四　二
賠償問題に現はれたる帝國主義　松下芳男〔法治〕大五　五　四-六
モスレーとイギリスの帝國主義　中平亮〔外時〕大五　豐　五10

【抵當權】

參照＝賃借抵當。

無登記抵當の效力を論ず　石山瀧平〔新報〕明四〇　七　七0
民法第三七四條に依り遲延利息に對し抵當權を行ふを得るや　富井政章〔新聞〕明三　一　一
遲延利息の抵當權に關する大審院の判決を評す　梅謙次郎〔新聞〕明三　一　一
民法第三七四條は遲延利息にも適用すべきものなるや否や　梅謙次郎〔志林〕明三　二　三
抵當權を告ぐべき賃借權登記　小山愛治〔新聞〕明三四　一　四
抵當權の效力は農具及造作に及ばざるや否や　森作太郎〔新聞〕明三五　一　110

家具の設置と農具に就て　樫蔭〔新聞〕明三五　一　110
抵當の目的たる建物と共にこれに附屬せる農具を競賣に附することを得さるや　伊藤吐月〔新聞〕明三五　一　一二
家屋賃貸と造作農具との關係に就いて　樫蔭〔新聞〕明三五　一　一三
抵當權の訴に就て　鈴木英太郎〔志林〕明三五　四　三
抵當權の恐慌來る　奥戸善之助〔新報〕明三六　三　三四
抵當權と賃借權との關係に付て　志方鍛〔法記〕明三七　一　三
抵當權の目的たる建物の建設しある土地を買得したる者は賣渡人に向ひて其建物の取拂を請求するの權利あるや　林賢之助〔新聞〕明三七　一　一九
抵當權の實行　遠見倫太郎〔新聞〕明三七　一　三八
抵當權と地上權永小作權竝賃借權との關係　横田秀雄〔法政〕明三七　八　四-五
不動產の一部に對する抵當權の設定　岡松參太郎〔新報〕明三八　三　七-八
共有者の持分の擔保に就て　杉山直次郎〔法政〕明三八　九　一
一番抵當權者の三番抵當權の拋棄者に對する其抵當權の效果　生末政之進〔法協〕明三八　三　三

民法第三九二條の解釋に就て　高梨　恂一〔新聞〕明三九　一　三三
土地と建物との關係　梅　謙次郎〔志林〕明三九　八　八一一〇
抵當代位權發生の時期　名合　孟〔新聞〕明四〇　一　四五四
所謂次順位抵當權者の代位に就て　澤田　例外〔新聞〕明四〇　一　四五〇
抵當代位權の發生時期　家本　生〔新聞〕明四〇　一　四四六
主物たる建物の抵當權が其從物たる疊建具に及ぼす效力に就て　楠山光次郎〔新聞〕明四〇　一　四一八
建物抵當權の效力と其從物たる疊建具　天野宗太郎〔新聞〕明四〇　一　四〇六
主債務の辨濟期延長と第三者の設定せる抵當權　梅　謙次郎〔志林〕明四一　一〇　一
抵當權に後れて登記したる地上權の運命　中西惣三郎〔新聞〕明四一　一　四九六
抵當權に後れて登記したる地上權の運命に付て　頑　獅生〔新聞〕明四一　一　四九九
抵當權に後れて登記せられたる地上權の運命に關する中西君の論文を讀む　河合　慶一〔新聞〕明四一　一　四九九
流抵當に關する大審院の判決を讀む　横山勝太郎〔辯協〕明四一　一三　一一〇
土地の一部を目的とする抵當權竝に其實行方法　横田　秀雄〔志林〕明四一　一〇　六
抵當不動產を火災保險に付したる場合に於ける抵當權者の權利　佐竹　三吾〔新報〕明四一　一八　四
競落不動產上に設定しある消滅時効に罹りたる抵當權の效力　横田　秀雄〔志林〕明四一　一〇　一三
實體上消滅せし抵當權に基く競賣の效力に關する疑義　錦江　學人〔新聞〕明四一　一　五六〇
不動產を競賣したる權利を讓渡することを得るや　飯島　喬平〔志林〕明四一　一一　八
相續人未定の場合に於ける抵當權の實行に就て　野村　嘉六〔新聞〕明四一　一　五四五
抵當權を侵害したる第三者の損害賠償責任　西川　一男〔新報〕明四一　一九　三
抵當權の效力は從物に及ぶ可きものなり　森　作太郎〔新聞〕明四二　一　六三二／六三四
抵當權の效力は從物に及ぼすべきものに非ずとせる判決に就て　加古　寅治〔新聞〕明四二　一　六三四
抵當不動產を火災保險に付したる場合に於ける抵當權者の權利　佐竹　三吾〔新報〕明四一　一八　四
競落不動產上に設定しある消滅時効に罹りたる抵當權の效力　横田　秀雄〔志林〕明四一　一〇　一三
實體上消滅せし抵當權に基く競賣の效力に關する疑義　錦江　學人〔新聞〕明四一　一　五六〇
不動產を競賣したる權利を讓渡することを得るや　飯島　喬平〔志林〕明四一　一一　八
相續人未定の場合に於ける抵當權の實行に就て　野村　嘉六〔新聞〕明四一　一　五四五
抵當權を侵害したる第三者の損害賠償責任　西川　一男〔新報〕明四一　一九　三
抵當權の效力は從物に及ぶ可きものなり　森　作太郎〔新聞〕明四二　一　六三二／六三四
抵當權の效力は從物に及ぼすべきものに非ずとせる判決に就て　加古　寅治〔新聞〕明四二　一　六三四

對する抵當權の實行方法　西川　一男〔新報〕明四二　二〇　三
抵當權と遺言　横田　秀雄〔新報〕明四二　二〇　八
土地及建物の關係に就て　飯島　喬平〔法協〕明四四　二九　三
第二抵當權者の權利行使と主たる債權の辨濟期到來前に於ける第一抵當權者の救濟　横田　秀雄〔新報〕明四四　二一　一
抵當權者と第三取得者に對する抵當權實行の通知に付て　横田　秀雄〔新報〕明四四　二一　八
抵當權と代物辨濟　西川　一男〔新報〕明四四　二一　八
抵當權の處分に就て　富井　政章〔志林〕明四四　一二　八一九
動產抵當　毛戸　勝元〔京法〕明四四　大　八
第三取得者に屬する抵當不動產が他人の不法行爲に因り滅失せる場合と物上代位　西川　一男〔新報〕明四五　三　五
抵當權の效力に就て　研　究生〔新聞〕明四五　一　七九
民法第三八八條の不當なる擴張解釋　三潴　信三〔志林〕大元　一四　八
抵當敷隱に因る重抵當と大審院判例　宮本　英脩〔志林〕大二　一五　四一七
抵當權設定者が其未登記なるを奇貨とし更に他人の爲めに抵當權を設定して金錢を借用し之が登記を了したる者の處分　大場　茂馬〔新報〕大二　二三　一
第一抵當權者が該不動產の所有權を共擔保に係る債權の代物辨濟として取得したる場合と第二抵當權者　横田　秀雄〔新報〕大二　二三　四
賣渡抵當及動產抵當論　松本　烝治〔法協〕大二　三一　二一四
消費貸借の成立と抵當權の設定　石坂音四郎〔京法〕大三　九　一
市區改正建物移轉料の性質竝に抵當權の消滅を論ず　豐原　清作〔辯協〕大四　一九　一九九
二重抵當の刑法上の責任　宮城　實〔國家〕大五　四　一二
抵當權と貸借權との關係　小林　俊三〔志林〕大五　一八　一二
抵當權ある債權の轉付命令と抵當權移轉登記の囑託　阿部文二郎〔新報〕大五　二六　七
抵當權第三四九條の如き規定を置かざる理由　水口　吉藏〔新報〕大五　二六　二
抵當地上の立木の賣却　小野精一郎〔志林〕大六　一九　七
動產の抵當問題に就て　泉田吉次郎〔新聞〕大七　一／一二八／一四二〇
民法第三八八條の地上權の範圍　三潴　信三〔法協〕大九　二八　二
抵當權の消滅事由、時效中

デイルタイ「歴史と精神科學」　山口正太郎〔商經〕　大二・三　三

【テイレン】(Johan Carl Wilhelm Thyren)

ビルク・マイカー「テイレン氏論「刑法改正の主義第一・刑罰の社會的任務」に就ての評論」（譯）　岡田庄作〔志林〕　大二・四　第一編　二一

【テオフラスト】(Theophrastos, 390-286 B. C.)

希臘唯一の法書テオフラストと希臘私法　寺田四郎〔國家〕　大一〇・九　七

【手形ガタ】（經濟）參照＝手形交換。

手形の振濟上に於ける作用に就て　山崎覺次郎〔志林〕　昭元・八　四一五

手形の法律振濟觀　松波仁一郎〔國家〕　明四四・一　四

銀行の手形引受業務に就て　大本實作〔日經〕　昭二・一一　一一

手形中買業管見　十亀盛次〔日經〕　大九・三・二　一六

米國に於ける手形引受制度　中西次郎〔國家〕　大七・三・一〇　一

手形の本質を論ず　岡野敬次郎〔新報〕　明三三・一〇　六

手形の交通　岡野敬次郎〔新報〕　明三三・一〇　二四

手形と論ず　寺崎勝治〔新聞〕　明三三・一〇　二六

金融手形制度の研究　不渡處分は懲罰なりや　欠席補償再割引手形　欠缺質　割引に於ける手形書換の性　支拂猶豫令に因る手形權利の保存　手形口錢の負擔　外國爲替に於ける手形賣買　爲替相場の變動と手形の騰落　手形不渡處分に關する規定　擔保附手形貸付の內入金整理に就て　商品代金としての受取手形　銀行手形引受制度及貸行論　場　我國の銀行と手形引受制度　銀行の手形引受制度　銀行と受取書　眞掛金に對して受取る手形　銀行引受手形の流通

加藤石巻　妹尾　清水支之輔〔東經〕　大二・八　四　二〇　六　柳樂　健治〔銀研〕　大二・一　二　石橋良夫〔銀研〕　大二・一一　四　横山千代村〔銀研〕　大二・一一　四　起田棄直〔會計〕　大二・一　九　三宅嘉十郎〔三學〕　大一〇・一　五　松崎　雄造〔銀叢〕　大八・一一　一　中島　精二〔會計〕　大八・一一　一　只見　崔〔亞經〕　大八年　三卷

和根〔銀叢〕　妹尾一雄〔銀研〕　大二・一一　四　柳樂　健治〔銀研〕　大二・一一　四　石巻良夫〔銀研〕　大二・一一　四　江口　繁〔新聞〕　大一一・一　一九　花岡敏夫〔新聞〕　大一一・一　一九　崎元武兵衛〔臺法〕　大一一・一　一　橫田長治郎〔法政〕　大一三・一〇　七　姉歯　松平〔臺法〕　大一四・一　一九　七　大橋　茹〔新聞〕　大一四・一　三六　Sternferg〔法研〕　大一三・一　一　木村龜二〔法協〕　大一一・四〇　七九

【テイボー】(A. Friedrich Justus Thibaut, 1774-1840)

テイボーの立法論と現時の問題

【テイルタイ】(Wilhelm Dilthey, 1834-1911)

			年	卷	號	頁
商法第四四一條の解	岡野敬次郎	〔新報〕	明三八	一五	四	二
手形有價證券に非ず	青木　徹二	〔志林〕	明三八	七	三	一
手形債務の發生と商法第四三五條及第四四一條との關係	立石　謙輔	〔明學〕	明三九	一		一〇〇
手形學說論	松波仁一郎	〔法協〕	明三九	二四	一〇	一〇二
		〔辯協〕	明三九	一〇	一〇二	
日本商法の手形學說	松波仁一郎	〔法協〕	明四〇	二五	三	三
手形の法律經濟觀	松波仁一郎	〔國經〕	明四一	四	四	四
手形法理の根本的誤解	青木　徹二	〔新聞〕	明四二	一	六四七	四
青木氏の手形法理の根本的解釋を讀む	細川　甚平	〔新聞〕	明四二	一	六五〇	四
手形の基本關係を論ず	青木　徹二	〔辯協〕	大二	一七	一七六	四
手形資金上の特約に關する塡人の論戰	手元　勝元	〔京法〕	大三	九	二	四
手形學說	松本　烝治	〔新報〕	大六	二七	一—五	四
手形の法理	有賀　成可	〔辯協〕	大六	二一	八—一〇	四
英國に於ける手形證券の起原より之が法的認識に至る迄の經過に付ての一考察				二二	一	
手形關係の本質（手形法の綜合的考察）	高瀨　三郎	〔銀叢〕	大四	四	二	四
手形行爲	田中耕太郎	〔法協〕	大四	四三	一—五	四

參照＝署名。

			年	卷	號	頁
署名の辯	岸　小三郎	〔法政〕	明三二	三	二四	二
後見人が無能力者の爲に振出したる約束手形に就いて	蓮澗　清雄	〔新聞〕	明三五	一	九九	二
盲人が爲替手形の裏書なりと言はれて署名したるに引受の場所への署名なりしときは其盲人は如何なる義務を負ふか	松波仁一郎	〔法政〕	明三六	七	二	二
眞造手形と僞造手形	松波仁一郎	〔法政〕	明三六	九	二	二
僞造手形の僞の程度を例說す	松波仁一郎	〔法政〕	明三八	九	三	二
破產宣告と手形行爲能力及手形の滿期日	加藤　正治	〔新報〕	明三九	一五	六	二
加藤博士の判例批評を讀む	岡野敬太郎	〔新報〕	明三八	一五	七	二
岡野博士の論評に答ふ	加藤　正治	〔新報〕	明三八	一五	八	二
手形文面の變造が變造前の手形の債務者に及ぼす影響を論ず	鈴木　虎雄	〔新聞〕	明三八	一	三〇六	二
變造せられたる手形の效力	森　作太郎	〔新聞〕	明三八	一	三一〇	二
手形行爲の代理	高根　義人	〔京法〕	明三九	一	二	二
僞造及變造小切手	高根　義人	〔國經〕	明四〇	一五	五	二
手形能力論	松波仁一郎	〔新報〕	明四〇	一七	七	二
手形關係に於ける複數當事者	竹田　省	〔京法〕	明四一	三	一	二

			年	卷	號	頁
「三井物產」手形僞造事件に關する三井物產會社の責任を論ず	高窪喜八郎	〔評論〕	大元	一	一	四
基本手形に於ける當事者資格の重複を論ず	乾　政彥	〔志林〕	大元	一四	三—四	四
會社の手形行爲は其目的の範圍內に非ざるときは無效なるや	森　作太郎	〔新聞〕	大二	一	八五	四
手形所有權は手形行爲の內容を成すや	水口　吉藏	〔評論〕	大三	三	一七	四
商法第四四一條に就て變造前の手形文言の不明と所持人の立證方法	森木　徹二	〔辯協〕	大三	一八	一八七	四
手形の善意取得	竹田　省	〔新報〕	大五	二六	一	四
手形行爲の根本觀念	竹田　省	〔京法〕	大五	一一	八—一二	四
手形の善意取得者の權利	水口　吉藏	〔國國〕	大五	四	一二	四
民法第一〇八條商法第一七六條に反する手形行爲	松波仁一郎	〔新聞〕	大五	一—一〇	一二	四
手形行爲と其原因	水口　吉藏	〔新報〕	大六	二六	一二	四
手形と除權判決の效力	松本　烝治	〔新報〕	大七	二八	三	四
英國法に於ける手形能力	水口　吉藏	〔國國〕	大七	大	九	四
詐欺に關する手形の取消及其效力を論ず	木部　林次	〔銀研〕	大一〇	一	一	四
	松倉慶三郎	〔辯協〕	大一一	二六	五	四
		〔新聞〕	大一一	一	一九八四	四

			年	卷	號	頁
變造手形の權利關係	鬼澤藏之助	〔法政〕	大一一	一九	四	四
詐欺に因る手形振出人が惡意の被裏書人に對し其手形の返還を求むるの可否	水口　吉藏	〔新報〕	大一一	三	七	四
手形の僞造變造に就て	蓮澗　清雄	〔法政〕	大一二	二一	七	四
手形人格の重複に就て	吉村　城价	〔辯協〕	大一二	二八	九	四
變造手形變造前署名の義務	小野　久	〔辯協〕	大一二	二八	一〇	四
變造手形變造前署名者の責任に就て	吉村　城价	〔辯協〕	大一三	二八	一二	四
商法第一七六條と手形行爲に就て	吉村　宗次	〔辯協〕	大一三	六	一	四
手形行爲の代理に就て	小野　久	〔辯協〕	大一四	二九	一二	四
手形に於ける損害賠償額豫定の記載	松本　烝治	〔正義〕	大一四	一	六	四
會社目的外の手形行爲と之が所持人權利に付き	鈴木　喜三	〔法新〕	大一四	一	五三	四
手形と民法第一一〇條の適用	松本　烝治	〔正義〕	大一四	一	二	四
僞造手形に就て	藤田　德松	〔銀研〕	大一四	九	一	四
手形の僞造及び變造	山尾　時三	〔法協〕	大一五	四四	五—六	四
非手形關係						
無效手形の救濟を論ず	坂本　生成	〔新聞〕	明三三	一	五	四
紛失手形の無效廣告の效力	岡野敬次郎	〔新報〕	明三五	三	三	四
商法第四四四條に就て	岡松參太郎	〔法政〕	明三五	七	二—五	四

所謂手形法上の不當利得に就て　劍　鋌　生〔新聞〕明三六　一　三一
手形上の不當利得に就て劍鋌生氏の說を駁す　森　作太郎〔新聞〕明三六　一　一三
商法第四四四條に就て　平島直太郎〔新聞〕明三六　一　一三六
再び商法第四四四條に就て　櫻　蔭〔新聞〕明三六　一　一三二
賣掛代金と約束手形　岸本　晉亮〔新聞〕明三七　一　二〇二
手形授受の既存の法律關係に及ぼす效力を論ず　岡野敬次郎〔法協〕明三八　二三　一
手形の授受は現存の法律關係を消滅せしむるの效ありや　森　作太郎〔新聞〕明三八　一　三一四
手形對價論　松波仁一郎〔新報〕明四四　一七　五
手形上の主たる債務者の債務の時效に因りて消滅するも債還義務者の債務は存在する場合あり　飯島　喬平〔志林〕明四一　一〇　一二
商法第四四四條の時效の起算點如何　飯島　喬平〔志林〕明四四　二　二
手形と爰互計算　竹田　省〔京法〕明四四　四　七
手形債權の時效中斷　渡邊　澄也〔辯協〕明四四　一五　一五二
手形時效論　松本　烝治〔評論〕大五　四　一九
手形授受の原因債權に及ぼす效力を論ず　水口　吉藏〔國家〕大六　五　八一〇

手形上の權利の觀念と其適用　水口　吉藏〔法治〕大二　一　一
喪失せられたる手形の除權判決　竹田　省〔法叢〕大二　八　二一五
商法第四四四條を論ず　松倉慶三郎〔辯協〕大二　二六　三
〔所聞〕大二　一　一九六九
手形債權の消滅時效を論ず　水口　吉藏〔新報〕大二　三　三一五
商法第四四四條に依る利得償還請求權と既存債權との關係　吉村　宗次〔辯協〕大三　二八　四

手形抗辯

手形抗辯論　青木　徹二〔新報〕明三八　一五　一三
手形抗辯　竹田　省〔京法〕明四四　四九—一〇
手形抗辯に就いて　竹田　省〔京法〕大七　三　九
意思表示の辯庇と手形抗辯　竹田　省〔法叢〕大八　一　一
手形債務者が爲し得る直接抗辯の性質如何　西村　孝三〔新聞〕大一　一　八〇〇

振出

爲替手形要件論　高根　義人〔法協〕明二六　二　一
〔內外〕明二五　一
荷爲替手形に付て　水野錬太郎〔法協〕明二六　二　九
無效約束手形の救濟を論ず　坂本　生成〔新聞〕明三三　一　五
手形振出地を論ず　野村安次郎〔新報〕明三四　一　一三
約束手形振出地に付て　花井　卓藏〔新報〕明三四　二　一三四
手形の振出地に關する新判例を聞て　梅　謙次郎〔志林〕明三四年　三卷　二〇號
再び手形振出地に關する新判例に就て　梅　謙次郎〔志林〕明三四　三　二一
手形振出地の記載　佐々木良三郎〔志林〕明三四　三　二一
約束手形振出地問題に對する諸家の說　雜誌記　者〔志林〕明四四　三　二二
手形振出地の問題に付て　富谷鉎太郎〔志林〕明三四　三　二三
約束手形の振出地に就て　仁井田益太郎〔志林〕明三四　三　二三
約束手形の振出地と支拂地指定銀行に就て　松本　重敏〔新聞〕明三四　一　四一
株式會社某銀行に於て御支拂可申候の意義に關する卑見　坂本　生成〔新聞〕明三四　一　五五
振出地の記載なき約束手形は民法の所謂指圖債權として效力ありや　鵜澤　總明〔新聞〕明三五　一　八六
約束手形を豫備支拂人の制度なきの理由を推して爲替手形の豫備支拂人選定の時期を論ず　齋藤　禮三〔法協〕明三五　二〇　二三
〔明法〕明三五　一　三二
岡野博士の約束手形振出地論を評す　高橋　捨六〔新聞〕明三五　一　一〇〇
振出人自ら受取人と爲りたる約束手形　齋藤　禮三〔明法〕明三六　一　六一
手形の外觀的解釋の原則を論じて大審院の判例に及ぶ　岡野敬次郎〔法協〕明三七　三　一
荷爲替論　松波仁一郎〔法協〕明三七　三　二
手形要件の多數當事者　松波仁一郎〔新報〕明三八　一五　三
破產宣告と手形行爲能力及手形の滿期日　加藤　正治〔新報〕明三八　一五　六
加藤博士の判例批評を讀む　岡野敬次郎〔新報〕明三八　一五　七
岡野博士の論評に答ふ　加藤　正治〔新報〕明三八　一五　八
白紙手形に付て　田部　芳〔法記〕明三八　一五　一六九
手形上の氏名を論ず　松波仁一郎〔法政〕明四〇　一一　一
人の通稱雅號を記載せる手形の效力　志田鉀太郎〔國經〕明四〇　三　二
白地手形に就て　毛戶　勝元〔京法〕明四〇　二　九
利息附手形の效力に就て　高木　龍吉〔新報〕明四一　一八　五
約束手形振出地の記載に就て　森　作太郎〔新聞〕明四一　一　五一五
白地手形の流通　佐竹　三吾〔志林〕明四一　一〇　一
爲替手形の線引の方法を設くるに就て　菰淵　清雄〔新聞〕明四一　一　四九七
約束手形の振出人が補箋に記載して爲したる裁判管轄の合意の效力　青木　徹二〔新聞〕明四一　一九　四

呈示なき一覽後定期拂及一覽拂約束手形に就て　奥岡　喜藏〔新聞〕明四三　一　六五九
荷爲替手形論　毛戸　勝元〔京法〕明四四　六　五
手形の支拂擔保と裏書の效力に就て　吉野千代吉〔新聞〕明四四　一　七〇〇
吉野君の擔保手形論を讀む　森　作太郎〔新聞〕大四四　一　七一六
擔保附手形論に就て吉野君に質す　吉野千代吉〔新聞〕明四四　一　七二五
手形擔保に關し吉野君に答ふ　森　作太郎〔新聞〕明四四　一　七三〇
約束手形面に特記されたる指圖債權的文言の效力　瀧本駒太郎〔新聞〕明四五　一　七九一
制限超過利息の支拂に代へて振出したる約束手形の效力　森　竹藏〔新聞〕明四五　一　七九四
他地拂手形を論ず　青木　徹二〔辯協〕明四五　一六　一六四
手形振出行爲に就て　森　作太郎〔新聞〕大元　一　八一五
手形債務發生の原因　西本辰之助〔三學〕大三　八　一〇
手形の振出地問題の新生面　松波仁一郎〔京法〕大三　九　八九
利息附手形論　松波仁一郎〔法協〕大五　三四　九
米國に於ける爲替手形及其引受　町田　成美〔國家〕大五　三〇　一二
受取人が振出人の代理として其氏名を代署して振出したる約束手形の效力　宮城　米藏〔新聞〕大五　一　二六三
手形振出人の署名捺印と受取人の代署　繁田　保吉〔新聞〕大五　一　一四一
受取人の記載なき爲替手形の效力に就て　中島　精二〔會計〕大八　六　二
無記名式手形？白地手形？既存債務に付爲替手形振出の效果　水口　吉藏〔會計〕大八　六　四
受取人の記入なき指圖式爲替手形の效力　鳩山　秀夫〔法協〕大九　三八　八
責任を負はざる旨を記載したる手形行爲の效力を論ず　竹田　省〔法叢〕大九　四　五
利附爲替手形に付て　目代　誠吉〔法政〕大一〇　一八　七
荷爲替手形に就て　須藤　又吉〔銀研〕大一一　二　一
一覽拂約束手形の時效に就て　廣瀨　正雄〔辯協〕大一一　二六　七
通船荷證券添付の荷爲替手形に就て　蓮淵　清雄〔法政〕大一一　一九　八
白地手形の補充權に就て　稻坂　磆〔銀叢〕大一二　三　四
白地手形行爲論　林　貞夫〔辯協〕大一三　二八　二
白地手形の效力　林　貞夫〔辯協〕大一三　二八　四
白地手形の無記名式手形約束手形の振出地に關する判例に就て　林　貞夫〔辯協〕大一三　二八　六
手形の署名に就て　堀田　肇一〔新聞〕大一三　一　二六一
東株先日附約束手形の現狀と性質　住吉　四郎〔銀叢〕大一三　二　一
所謂大大阪の成立と手形の支拂地又は振出地　岡田　純夫〔銀研〕大一四　八　五
滿期日の記載なき手形に就て　齋藤　悠輔〔銀叢〕大一四　五　一
小野　久〔法公〕大一五　三〇　六

裏書

株式會社支店へ宛てたる手形裏書は無效なるや　津久井　茂〔法協〕明三三　一八　六
「株式會社支店へ對して爲したる約束手形の裏書讓渡は無效なり」との新判決に就て　野口　彌三〔法協〕明三三　一八　七
債權讓渡と手形の裏書　岡野敬次郎〔法政〕明三三　四　三三
約束手形の豫備支拂人の制度なき理由を推して爲替手形の豫備支拂人選定の時期を論ず　齋藤　禮三〔法協〕明三五　三〇　三三
〔明法〕明三五　一　三一
占有權の讓渡と手形の裏書　齋藤　禮三〔明法〕明三五　一　四六
約束手形の裏書立證問題に就て　原　元藏〔新聞〕明三七　一　二四七
取立委任の裏書の性質　佐竹　三吾〔志林〕明四〇　九　八
被裏書人の氏名又は商號の記載に就て　平佐　純俊〔新聞〕明四〇　一　四二三
手形裏書の裏續立證責任に就て　つつじ生〔新聞〕明四一　一　四八三
取立委託又は質入の爲めと記載したる手形の不渡となりたる場合に於ける其裏書人の責任　飯島　喬平〔志林〕明四一　一　八
手形の質入裏書の效力に就て　松本　烝治〔志林〕明四三　一　五
手形の裏書と交付契約說　西村　孝三〔新聞〕明四五　一　七六九
後裏書と善意取得者の保護の原則　乾　政彥〔評論〕大二　二　一二
商法第四六一條に就て　須賀喜三郎〔評論〕大三　二　二三
逆裏書の相手方　水口　吉藏〔新報〕大五　二六　一
裏書禁止の手形と指名債權　竹田　省〔新報〕大五　二六　八
裏書人の白地署名　松本　烝治〔法協〕大五　三四　一二
手形の通常裏書に就て　松本　烝治〔新聞〕大五　一　一二六一;一二六七
裏書連續の意義及要件の訂正　水口　吉藏〔新聞〕大五　一　一一七〇;一一七一
主たる債務の時效完成と裏書人の償還義務　竹田　省〔新報〕大七　二八　六
無記名式手形の裏書　椎津　盛一〔法記〕大九　三〇　九

無記名手形の裏書　近藤　民雄〔辯協〕大九年　二四巻　一〇頁
手形裏書人と民事訴訟法第二九九條第四の所謂前主及商法第四四四條の利益返還請求　松倉慶三郎〔新聞〕大一一　一一九四号
手形裏書の委任に就て　妹尾　一雄〔銀研〕大二三　四　二
振出人裏書禁止と裏書禁止手形の取得と裏書の効力の差異　古館令太郎〔銀研〕大二四　九　二
商法第四六一條に就て　矢部　克巳〔新報〕大二四　三五　九
裏書禁止手形の取得と裏書人に關する私訴判決を讀みて　蒲澤　清雄〔法政〕大二四　三　二
西本　寛一〔新聞〕大二四　一　三九
支拂地引受論　齋藤　禮三〔明法〕昭三五　一　五
自地引受に就て　烏賀陽然良〔國粹〕昭四　三三　一
手形金額以上の引受の效力　飯島　雷平〔志林〕昭二　一〇　一〇
爲替手形の一種の引受　西脇　晉〔志林〕昭二　一〇　四七
烏賀陽然良〔國粹〕大三　三七　一
手形の引受を論す　烏賀陽然良〔國粹〕昭四　三　三
吉村　宗夫〔辯協〕大三　三六　二

判例に現れたる手形債權取得者と債務者との關係　松倉慶三郎〔新聞〕大一一　一一九四号
岡野博士の債權請求權保全に關する論文を讀む　蒲澤　清雄〔新聞〕昭三四　一　四
松本　重敏〔新聞〕昭三四　一　五

爲替手形の引受行爲の擔保の請求　服部　洪〔銀研〕大一四　八　五
爲替手形の引受を拒絶したる效果　土方　寧〔法協〕昭二　二六　一
土方博士の「爲替手形の引受を拒絶したる效果」を讀む　岡野敬次郎〔法協〕昭二　二六　10
爲替手形の遡及制度　岡野敬次郎〔新報〕昭二　一九　六

支拂

手形の支拂場所と銀行　星子　末雄〔新聞〕昭五　一　六三
手形の支拂延期(Prolongation)に就て　須賀喜三郎〔評論〕大一四　一四　一
手形上の複數支拂人を論す　片山　義勝〔新報〕大七　六　九

債權の請求

債權の請求の通知に付きて　野村安次郎〔新報〕昭四　一一　一〇
支拂拒絶證書作成免除の效果　岡野敬次郎〔新報〕昭四　一一　一三
手形債權請求に就て　蒲澤　清雄〔新聞〕昭四　一　四
債權請求權を保全するには滿期日に手形を呈示するを要せず　岡野敬次郎〔新聞〕昭四　一　五
手形の債權請求方式に就て　蒲澤　清雄〔新聞〕昭四　一　五

拒絶證書の作成免除に就て　富谷鉎太郎〔法記〕昭三　一　一三
手形保證債務の性質　高野　金重〔新聞〕昭三　一　一九
拒絶證書作成免除の場合に於ける債權請求の通知に就て　吉田　久〔新聞〕昭三　一　三
債權請求權は之を讓渡すことを得ざるや　楠山　廣業〔新聞〕昭三　一　四
拒絶證書作成の免除と債權請求通知の義務との關係を論す　梅　謙次郎〔法協〕昭八　三　八
拒絶證書作成の免除と裏書禁止手形の取得と裏書人に關する私訴判決を讀みて　松波仁一郎〔明學〕昭八　一　八
支拂拒絶證書の作成免除と擔保責任に就て　天野宗太郎〔新聞〕昭八　一　二
拒絶證書作成免除と債權請求權　平島直太郎〔新聞〕昭八　一　二
再び支拂拒絶證書作成免除の效果に就て　堀　六治〔新聞〕昭八　一　三
答辯人の執達吏に債權請求の通知に依賴したるは債權請求の通知として無效　平島直太郎〔新聞〕昭八　一　三

擔保の請求

爲替手形の引受を拒絶したる效果　土方　寧〔法協〕昭二　二六　一
土方博士の「爲替手形の引受を拒絶したる效果」を讀む　岡野敬次郎〔法協〕昭二　二六　10
爲替手形の遡及制度　岡野敬次郎〔新報〕昭二　一九　六

支拂

手形の支拂場所と銀行　星子　末雄〔新聞〕昭五　一　六三
手形の支拂延期(Prolongation)に就て　須賀喜三郎〔評論〕大一四　一四　一
手形上の複數支拂人を論す　片山　義勝〔新報〕大七　六　九

債權の請求

債權の請求の通知に付きて　野村安次郎〔新報〕昭四　一一　一〇
支拂拒絶證書作成免除の效果　岡野敬次郎〔新報〕昭四　一一　一三
手形債權請求に就て　蒲澤　清雄〔新聞〕昭四　一　四
債權請求權を保全するには滿期日に手形を呈示するを要せず　岡野敬次郎〔新聞〕昭四　一　五
手形の債權請求方式に就て　蒲澤　清雄〔新聞〕昭四　一　五
岡野博士の債權請求權保全に關する論文を讀む　松本　重敏〔新聞〕昭四　一　五

拒絶證書の作成免除に就て　岡松參太郎〔新聞〕昭三　一　三〇七
手形保證債務の性質　天野宗太郎〔新聞〕昭八　一　三10
拒絶證書作成免除の場合に於ける債權請求の通知に就て　青木　徹二〔新報〕昭四　三　一九　五
債權請求權は之を讓渡すことを得ざるや　岡野敬次郎〔新報〕昭四　一九　六
振出人の支拂義務と免除したる約束手形所持人の債權請求權　竹田　省〔新報〕昭四　三10　七
爲替手形の遡及制度　松本　烝治〔新報〕大四　三五　九
債權請求の通知に關する改正意見　藤田　德松〔銀研〕大三　七　二
手形利得債權請求權論
手形債權請求金額中の「滿期日以後の法定利息」に就て
擔保
主たる手形債務と共稼滯期を異にする手形保證の效力に就て　堀　確太郎〔新聞〕昭三　一　三
約束手形の滿期日後の支拂保證は有效なり　伊藤　啓助〔新聞〕昭三　一　三七
手形上の保證人の權利義務　飯島　雷平〔志林〕昭二　一〇　一〇
手形保證の效力に就て　鈴木眞一郎〔評論〕大四　一四　八
保證債務の取扱を述べて手形保證に及ぶ　小林國太郎〔會計〕大八　六　五

加

參

		年	巻	號	頁
約束手形に於ける參加支拂の效力	堀 礒太郎〔明法〕	明三五	一	三	三
參加引受の性質	飯島 喬平〔志林〕	明四一	一〇	一〇	八
參加引受人、豫備支拂人及他の第三者競合の場合と參加支拂を受くへき順序	片山 義勝〔新報〕	大六	二七	五	一
參加引受人に對する債權の消滅時效	水口 吉藏〔新報〕	大六	二七	七	一
拒絶證書					
支拂の場所を記載したる手形の拒絶證書作成の場所に就て	劍 銈生〔新聞〕	明三六	一	二四	一
支拂拒絶證書作成の期間は支拂を求むるが爲めにする期示の期間なり	岡野敬次郎〔新報〕	明三七	一四	五	一
拒絶證書の名實論	松波仁一郎〔志林〕	明三八	七	五	一
カイスネル「不可抗力に因る拒絶證書作成の不能」（譯）	中尾 芳助〔法記〕	明三八	一五	一六三	一
獨乙簡易拒絶證書法草案	竹田 省〔京法〕	明四一	三	三—四	一
拒絶證書改正論	毛戸 勝元〔京法〕	明四一	四	二	一
支拂擔當者が所持人たるとき引受人に對し所持人たるの權利を行ふは支拂拒絶證書の作成を必要とするや	飯島 喬平〔志林〕	明四二	一〇	三	一
支拂拒絶證書作成期間經過後の裏書と債權讓渡	須賀喜三郎〔評論〕	大二	二	八	一
一覽拂手形の呈示期間と支拂拒絶證書作成期間	毛戸 勝元〔京法〕	大三	九	七	一
戰爭其他不可抗力に因る拒絶證書作成期間の猶豫	玉木 三郎〔商經〕	大八	一	一六	一
拒絶證書作成について	山崎 行一〔新聞〕	大二	一	一九七	一
支拂延期手形の拒絶證書作成時期に就て	眞野 毅〔新聞〕	大三	一	二二八	五
支拂場所の燒失と呈示及拒絶證書の作成	吉村 宗次〔辯協〕	大四	二九	四	一
手形に關する拒絶證書作成の手續に付き改正を望む	中川 清吾〔新聞〕	大四	一	二四〇八	一
【手形交換】					
手形交換高に現れて手形交換所の銀行檢査	山崎覺次郎〔國家〕	明四〇	二	七	一
手形交換所の法律上の性質	武田 英一〔國經〕	明四二	七	一	一
手形交換所制度論	竹田 省〔京法〕	明四三	五	三	一
伯林外國爲替手形交換所の新設と我國外國爲替先物取引市場設置の提議	大森 研造〔經叢〕	大九	一〇	二—五	一
	粟田 藤吉〔商經〕	大一	一	二七	一

		年	巻	號	頁
手形交換所の改善策	石卷 良夫〔銀研〕	大一	三	四	一
地方交換制度の考察	阿部 定雄〔銀叢〕	大二	一	一	一
地方手形交換の必要と利益	鈴木庫太郎〔エコ〕	大二	一	四	一
地方手形交換實行論	石卷 良夫〔銀研〕	大二	四	七	一
手形交換制度の先驅としての里昂のペイーマン	小川福太郎〔經叢〕	大四	二	二	一
手形交換の原理に就て	石卷 良夫〔銀研〕	大四	八	三	一
【手形法】參照＝國際手形法。					
手形法と破產法との不調和	堀 礒太郎〔新聞〕	明三四	一	一	兒
手形法漫言	齋藤 禮三〔明法〕	明三七	一	七〇	一
手形法の過去現在及將來	松波仁一郎〔新報〕	明四一	一八	五	一
手形の三大法案	松波仁一郎〔京法〕	明四一	三	六	一
手形法統一問題研究資料	毛戸 勝元〔京法〕	明四二	四	九—一二	一
手形の國際的統一に就て	高木 龍吉〔新聞〕	明四二	一	明四二・七・一〇	一
手形法統一に關する荷蘭政府の質問表に對する答案	竹田 省〔京法〕	明四三	五	四—六	一
海牙に於ける手形法統一萬國會議の經過及其成績	牧野菊之助〔法記〕	明四四	二	六	一
手形法の統一に就て	白井敬次郎〔京法〕	明四五	七	二	一
手形法統一に關する條約案	岡野敬次郎〔法協〕	明四五	三〇	三	一
手形法統一案解說	松本 烝治〔法協〕	明四五	三〇	四—九	一
手形法統一會議に就て	松本 烝治〔新聞〕	明四五	一	七六二	一
統一手形法に就て	松本 烝治〔新聞〕	大六	一	八三二—八三三	一
爲替手形約束手形統一法	毛戸 勝元〔京法〕	大二	八	一	一
統一手形法と吾商法	毛戸 勝元〔新報〕	大二	二三	二	一
手形法上の危險思想	青木 徹二〔新聞〕	大七	一	一三六七	一
外國法					
獨逸手形法（譯）	〔法記〕	明三三	一〇	一〇一	一
新獨逸手形條例草案	毛戸 勝元〔京法〕	大四	一〇	四	一
露國新手形法比較小言	岡野敬次郎〔法協〕	明三六	二一	一一	一
露國新手形法	佐竹 三吾〔志林〕	明三七 大三八	六 七	一一—一二	一
【敵國私有財産】					
敵國私有財産の捕獲につきて	末廣 重雄〔京法〕	明四五	七	五	一
敵國臣民の無體財產權	山田 三良〔法記〕	大二	二四	一二	一
敵國臣民に屬する財產にして交戰國法權內に在るものの法律上の地位竝敵國人の關與せる法人の法律關係を論ず	金森德次郎〔國際〕	大三	一二	二	一
敵國臣民の無體財產權（特に特許權及び著作權）	山田 三良〔法協〕	大四	三三	一	一
敵國臣民の特許權及び著作權に關する山田博士及水野博士の講演を讀む	遠藤 源六〔法協〕	大三	三三	三	一
敵國臣民の無體財產權	山田 三良〔法記〕	大四	二五	四	一

我が製鐵事業と支那の鐵　菅生　經濟　一九
政策　永助　財經　一七
戰後の我が製鐵政策　今泉嘉一郎　財經　一七
製鐵生産費に關する調査　山崎靖純　三學　一六
世界鐵工業の大勢　龍雄　國家　一五
製鐵事業と保護關稅との關　門脇　財經　一五
我が製鐵事業と保護關稅との關係の必要　今泉嘉一郎　財經　一四
我國製鐵業の將來に對する希望　俵孫一　商經　一三
製鋼製鐵事業振興策　國一　財經　一三
官民製鐵業合同論　今泉嘉一郎　財經　一二
製鐵業上燃料の飾約　俵孫一　財經　一二
大阪鐵工界の對勞施設　本官　一男　商經　一一
船舶保護政策私見　寺野　精一　財經　一一
戰中に於ける日本の製鐵業　野呂景義　財經　一〇
大工業としての鐵鋼業の重要　藤澤　勇次　經濟　一〇
製鐵事業と保護關稅引上問題　神戸　正雄　時經　九
製鐵組織の變動性と共調整　小島　精一　國家　九
製鐵合同問題　神戸　正雄　時經　八
我が製鐵業に就て　大倉　大平　財經　八
製鐵事業と保護關稅との關係　今泉嘉一郎　財經　七
製鐵事業と保護關稅との關係　今泉嘉一郎　財經　六
製鐵事業と保護關稅との關係　今泉嘉一郎　財經　五
製鐵事業と保護關稅との關係　今泉嘉一郎　財經　四
製鐵事業と保護關稅との關係　今泉嘉一郎　財經　三
製鐵事業と保護關稅との關係　今泉嘉一郎　財經　二
製鐵事業と保護關稅との關係　今泉嘉一郎　財經　一

再び敵國臣民の無體財產權に就て　山田三良　法協　三卷　三號
戰時海上及陸上に於ける私有財產取扱の差異　泉哲　國際　五　四
敵國私有財產管理令論　石原雅二郎　法政　五　二
敵國私有財產管理令論　石原雅二郎　法政　四　六
【敵性】
【鐵】
製鐵事業奬勵策　今泉嘉一郎　財經　四　六
民間製鐵業の統一と共振興　今泉嘉一郎　財經　四　五
製鐵所の擴張に就て　服部一三　財經　四　五
鐵及び鋼とは何ぞや　俵孫一　財經　四　五
製鐵事業私議　今泉嘉一郎　財經　四　五
製鐵業の動向と日本　今泉嘉一郎　財經　四　五
近時の我製鐵問題　今泉嘉一郎　財經　四　五
鐵鋼關稅撤廢論　今泉嘉一郎　財經　四　五
自由船自由物敵船敵物の影響　戶水寬人　法政　三　三
人物及船舶の敵性に關する　山內四郎　國際　三　三
傭船乃至賃貸借契約より生ずる敵性　松波仁一郎　國際　三　三
在留帝國人の保護に關する　高橋作衛　國際　三　三
日本の主義　立作太郎　新報　三　三
現戰爭に於ける船舶の敵性　坂倉卓造　三學　三　三
中立船內の敵貨と敵船中の中立貨　戶水寬人　法政　三　三

保險政策と製鐵　柴四朗　日經　四　一
監督政策と講ずべき製鐵事業と製油事業　山路愛山　日經　四　一
鋼片拂下問題私議　今泉嘉一郎　財經　五　一
製鐵事業經營の根本政策　野呂景義　財經　五　一
姑息なる製鐵自給策を排す　橫堀治三郎　財經　五　一
製材獨立自給の必要如何　伊藤欽亮　財經　五　二
製鐵業の獨立と日支同盟　今泉嘉一郎　財經　五　二
製鐵業者として政府に對する希望　野呂景義　財經　五　二
製鐵業私議　今泉嘉一郎　財經　五　二
製鐵業統一論　野呂景義　財經　五　二
物價騰貴と特殊鋼業の奬勵　渡邊三郎　財經　五　三
製鐵業の奬勵　戶田海市　財經　五　三
製鐵業の將來　橫堀治三郎　財經　五　三
近時の我製鐵問題　今泉嘉一郎　財經　五　三
製鐵業と日本　今泉嘉一郎　財經　五　三
製鐵業の動向　俵孫一　財經　五　三
鐵及び鋼とは何ぞや　俵孫一　財經　五　三
製鐵所の擴張に就て　服部一三　財經　五　三
民間製鐵業の統一と共振興　今泉嘉一郎　財經　五　三
製鐵事業奬勵策　今泉嘉一郎　財經　五　三
本邦輸入の鐵及鋼　加藤銀藏　統集　五　四
「鐵論」の「鐵論」を評す　內田銀藏　京法　五　四
鐵論に就て　內田銀藏　京法　五　四
杉榮三郎　京法　五　四

戰時の佛國製鐵業　【資料】大八五 7
米國
北米の鋼鐵市　小西虎雄【國經】明四四 10 一
米國製鋼トラスト論　【資料】大六 三 一—五
米國製鋼トラスト　松岡均平【國家】大六 三一 九
米國の鐵材禁輸と其善後策　野呂景義【財經】大六 四 二
米國に於ける鐵價公定　森順次郎【國家】大六 二 三
亞米利加合衆國製鐵業概論　【資料】大八 三 一〇 一一九
最近四半世紀に於ける米國鐵鋼企業の集中に就て　小島精一【國家】大二 三八 五一六
其他
青島に於ける製鐵業　【資料】大四 一 一
漢冶萍及び本溪湖の製鐵業　甕堂生【財經】大五 三 三
瑞典の製鐵製鋼及採炭業　【資料】大六 三 四
瑞典鐵鑛　【資料】大八 五 六
支那本部の鐵鑛及び製鐵業概觀　【資料】大九 六 三
カナダ製鋼職工罷業の顚末　大江武男【社政】大二 一 四五

【哲學（テツガク）】

參照＝神。基督教。自然。社會學。宗教。進化。人格。心理學。相對性。道德。論理。

歸納的眞理の價値の大小　河上肇【國經】明四二 七 二
眞理の進化　河上肇【國經】明四二 七 四
河上君に答ふ　福田德三【國經】明四四 七 五
シユタムラー氏の哲學的立場及び社會學の根本思想　米田庄太郎【京法】大二 八 一
リツカートの「文化科學と自然科學」　錦田義富【京法】大二 八一〇 二 八 九 一一二
カントの認識論と純理經濟學　左右田喜一郎【國經】大四 一九 五
感覺及智能の物理　藤森達三【國國】大六 五 六—七
ベネデツトー・クロースの新哲學　江木衷【辯協】大七 三 一八二
現今の哲學と法理學　桑木嚴翼【法協】大七 三六 九一〇
新カント派認識論と經濟學　山口正太郎【商經】大七 一 二
歷史學派から文化科學派へ　大西猪之介【國經】大七 二五 一—二
ジョン・ロックの哲學と其經濟學說との交涉　高橋誠一郎【三學】大八 一三 八—九
英佛獨哲學の特質（講演）　桑木嚴翼【辯協】大八 三三 一—四
カント哲學の學徒としてのフオイエルバツハ　瀧川幸辰【法叢】大九 四 三
同圓意中心主義　吉田靜致【法政】大一〇 一八 一—四
哲學と科學　佐々木英夫【法政】大一〇 一八 六
經濟的合理主義の基礎　福田敬太郎【國經】大一〇 三一 六
歐洲哲學の現在の趨勢　金子弘【國經】大一〇 三一 一
哲學に於ける懷疑主義　佐々木英夫【法政】大一〇 一八 九
哲學は實際的である　佐々木英夫【法政】大一〇 一八 昭一一 一二

新實在論の論旨　大島正德【國家】大一〇 三五 三
唯物論と唯心論　佐々木英夫【法政】大一〇 一八 八
對象の類別殊に構象並びに事象の類別に關する私見　田村德治【法叢】大一〇 四一六 四
英國の理想哲學の發達　蠟山政道【國家】大一〇 三五 三—五
高等政治と批判哲學　村瀨武比古【國國】大一〇 九 一—二
カーライルの英國理想哲學に於ける地位　蠟山政道【國家】大一〇 三五 七
ギンスパーク「理性及び意志の役割」　河山肇【社問】大一一 一 三八
ボヂチヴイズム　村瀨武比古【法治】大一一 一 一
眞理か生命か（講演）　松原寬【法政】大一一 一九 八
リツプスの人格主義に就て　竹田仁【我等】大一一 四 二
絕對性の原理 ―非ユークリツドー カント（講演）　村瀨武比古【國國】大一一 一〇 三
哲學の使命（講演）　鹿子木員信【法政】大一一 一九 二
哲學と社會科學との關係　勝本鼎一【三學】大一一 一六 一
文化的認識と歷史的認識　恒藤恭【經叢】大二 一七 一—二
方法論考察の一斷片　大森義太郎【經論】大二 二 二
理性主義と反理性主義　柳澤泰爾【經商】大二 二 二
アダム・スミスの哲學思想　福田敬太郎【國經】大二 三四 六
ウキンデルバンドの偶然論　山口正太郎【商經】大二 一 三〇
フオイエルバツハ「哲學の改革に關する提言」　恒藤恭【同論】大二 一 一〇
近世文化の哲學者としてのカント　桑木嚴翼【社雜】大三 一 七
マルクスの科學方法論　久留間鮫造【原雜】大三 二 二
ヘーゲルの哲學史とマルクスの經濟學史　一瀨粂吉【銀叢】大三 三 一
斯の哲人に學べ　井出秀和太【臺法】大三 一八 一—五
墨子の哲學と論理思想　村松恒一郎【商研】大三 三 三
Max Weber の Ideal Typus 概念につきて　波多野鼎【社科】大三 四 一 五
ウイーゼの關係學綱要　米田庄太郎【經叢】大四 三一〇 四一六
フツサールの現象學　齋藤要【法政】大四 三 六—八
範疇論　川村豐郎【商研】大四 五 二
カントの「制斷力批判」の問題と文化の合目的性　米田庄太郎【經叢】大五 三 二
純正現象學り方法論及び問題論　米田庄太郎【經叢】大五 三 三
理性と現實　齋藤要【法政】大五 三三 四
性說考　齋藤要【法政】大五 三三 一—二
プラグマチズムの哲學　大森義太郎【經論】大五 二 二
ベルダソンの哲學　柳澤泰爾【經商】大五 二 二
經濟學の前提を爲す哲學心理學及社會學の諸條件と經濟學との關係　福田敬太郎【國經】大五 三四 六
アドラー「マルクス主義と　山口正太郎【商經】大五 一 三〇
　井關孝雄【法政】大五 二三 二—三

獨逸古典哲學との關係」（譯）　波多野　鼎〔社政〕六一五　一　六七

【鐵道（テツドウ）】　參照＝運輸。交通。市街鐵道。電氣鐵道。

鐵道國有及官業論　田島　錦治〔新報〕明三九　六　六一
官業鐵道の經營主義　關　一〔國經〕明三九　一　一
蒸氣鐵道の一部に電車運轉するの利益　西垣　直記〔國經〕明三九　一　三
地方鐵道論　關　一〔國經〕明三九　二　一七
帝國鐵道廳職員救濟組合に就て　栗津　清亮〔保險〕明四〇　一　一三四
國有鐵道經營の方針を論ず　植松　考昭〔洋經〕明四一　一　明四四　四七
國有鐵道處分案　神戸　正雄〔日經〕明四三　六　一〇
輕便鐵道の將來　關　一〔日經〕明四四　八　五—九
本邦地方鐵道論　永原　岩雄〔國經〕明四三　九　二四
廣軌改築の得失を論ず　植松　考昭〔洋經〕明四四　一　明四四　四九　明四五　三
國有鐵道の變例　莊田　秋村〔東經〕六二　六八　一七二四
鐵道に於ける社會政策　松岡　均平〔法協〕六二　三一　一二
鐵道と黨爭　伊藤重治郎〔財經〕六三　一　七
鐵道經營の方針　關　一〔財經〕六三　一　四
鐵道の延長と地方經濟の發達　河津　暹〔日經〕六三　一五　九
廣軌問題　〔科〕六五　二　二
國有鐵道經營私見　橋本圭三郎〔財經〕六五　三　一
輕便鐵道の現狀と趨勢　佐藤　雄能〔東經〕六五　四七　二八三
鐵道の經濟的作用　〔資料〕六七　四　一
鐵道平行線に就きて　織田松太郎〔商經〕六七　一　九
蒸氣鐵道の電氣化に就きて　織田松太郎〔商經〕六七　一　一〇
鐵道院に於ける共濟組合に就て　永井　亨〔法協〕六七　三六　四
國有鐵道現業員保護救濟施設　永井　亨〔國家〕六七　三一　五—七
鐵道經營論　〔資料〕六八　五　四
國有鐵道現業委員會に就て　田邊　忠男〔財經〕六九　七　九
根本的鐵道政策の樹立　元田　肇〔東經〕六一〇　八三　二〇八三
鐵道經費の結合法　增井　幸雄〔三學〕六一〇　一五　七
本邦鐵道勞働事情　小林鐵太郎〔社政〕六一一　一　二七
鐵道に關する知識の支那を通じて我國に傳はりし場合に就て　武藤　長藏〔亞經〕六一一　六　一
鐵道に於ける競爭の手段と原因とに於て　增井　幸雄〔三學〕六一一　一六　三
各國鐵道電化の趨勢　吉原　重成〔財經〕六一一　九　六
鐵道に關する智識の我國に傳はりし門戶としての長崎　武藤　長藏〔商濟〕六一二　二　一
世界鐵道政策の趨勢　〔資料〕六一二　九　七
鐵道經營の獨占的傾向に就て　增井　幸雄〔三學〕六二　一七　四
國民經濟的立脚點に於ける鐵道問題に關するラウンハルトの研究　山本恭次郎〔商濟〕六一三　五　一
鐵道に於ける交通量の伸縮性に就いて　增井　幸雄〔三學〕六一三　一八　八
鐵道電化計畫と箱根本線　松本　武雄〔財經〕六一三　一一　一三
難局にある鐵道事業　松本　武雄〔財經〕六一四　一三　九
鐵道に關する智識傳來史上の山口縣　秋守常太郎〔洋經〕六一二　一〇七五
世界主要鐵道の沿革竝に其近狀に就いて　生島廣次郎〔商事〕六一二　三　五
鐵道運賃を引上ぐべし　秋守常太郎〔洋經〕六一三　一一〇八〇
鐵道運賃率海運賃率の比較研究　增井　幸雄〔三學〕六一三　一八　一
重ねて鐵道運賃引上の必要を論ず　松本　武雄〔財經〕六一三　一一　一三
鐵道運賃率制禦策としての資率認可の制度に就いて　增井　幸雄〔三學〕六一三　一八　一
鐵道運賃率の妥當に就いて　增井　幸雄〔三學〕六一三　一八　三
鐵道運賃率の妥當性と制定主義　增井　幸雄〔三學〕六一三　一八　六
各國に於ける輸出入品鐵道賃率政策の梗概　武藤　長藏〔亞經〕六一五　一〇　二
鐵道運賃改正の企畫　江藤　誠之〔國經〕六一五　四〇　五

【運賃】

鐵道の旅客運輸論　關　一〔日經〕明四〇　二　六
國有鐵道　最近の運輸概況　伊藤重治郎〔國經〕六三　一六　二—三
戰時に於ける鐵道國際連絡運送に就て　木下　淑夫〔財經〕六四　二　一〇
鐵道運輸規定の適用に關する最近の判例に就て　關　一〔日經〕明四一　二　一二
鐵道運輸規定第八五條の二の適用に就て神戸弗蜚生に與ふ　大江　武男〔國際〕六四　一三　七
鐵道に於ける「運送の價値」　神戸　弗蜚〔新聞〕六四　一　一〇六四
　奥戸善之助〔新聞〕六五　一　一〇七〇
鐵道賃率の整理を望む　馬場　誠〔國經〕六九　二八　四—五
鐵道運賃率制禦策としての最高限度制定に就て　本多貞次郎〔東經〕六一〇　八三　二〇八四
國有鐵道と運賃政策　增井　幸雄〔三學〕六一一　一六　二
鐵道賃率による經濟的保護主義　增井　幸雄〔三學〕六二　七　五

			年	卷	號
鐵道と運送上の競爭	増井	幸雄【三學】	大10	一五	三一二
最近の鐵道貨物輸送に現はれたる經濟狀況	増井	幸雄【三學】	大11	一六	九
鐵道經濟					
日本鐵道會社營業損益論	中川	正左【財經】	大11	九	七
官設鐵道收入の性質	吳	文聰【統集】	明一八	一	四一
鐵道經濟に關する新著	馬場	鉄一【明法】	明三七	一	七三
日普鐵道經濟比較觀	關	一【國經】	明三九	一	五
鐵道の獨立會計に就て	神戸	正雄【日經】	明四一	五	六
財政の鐵道の衝突及之が救濟案	馬場	鉄一【新報】	明四二	一九	七
鐵道收入と經濟界	谷奥	利吉【洋經】	明四二	一	五四二
國有鐵道の財政比較	黒澤	龍濱【東經】	明四三	六二	五五三
輕便鐵道の營業收支及建設費	笠間	杲雄【國家】	明四三	二四	九
鐵道國有法及輕便鐵道買收計算法	佐藤	雄能【東經】	大四	七一	一八〇二
鐵道資本の財源問題に就て	佐藤	雄能【東經】	大四	一七	一八〇七
鐵道評價と經濟問題	小林丑三郎【東經】		大四	一七	一八一〇
減債基金と鐵道資金	【資料】		大四	一	三
鐵道豫算と廣軌問題	小川郷太郎【經叢】		大四	一	一
鐵道公債募集と減債基金	仲小路 廉【財經】		大五	三	二
鐵道改良工事費の整理法	本多 精一【財經】		大五	三	一二
鐵道業と營業稅	佐藤 雄能【東經】		大五	七四	一八七八
鐵道業に於ける不用材料整理法	佐藤 雄能【東經】		大五	七四	一八八〇
鐵道會計に於ける移轉取毀費用の整理法	佐藤 雄能【東經】		大六	七五	一八八九
鐵道業に於ける營業準備費	佐藤 雄能【東經】		大六	七五	一八九一
鐵道會計檢査の場合及其注意事項	佐藤 雄能【會計】		大七	四	六
鐵道業と戰時利得稅	佐藤 雄能【東經】		大七	支 一九七二二 一九七四	
地方鐵道會計規程に就いて	原口 亮平【會計】		大八	六	二
米國鐵道業者の書類保存期間	金子利八郎【會計】		大八 九	六 一一六 一一二	
地方鐵道會計規定と私設輕便兩鐵道會計準則との異同	佐藤 雄能【會計】		大九	七	一
鐵道會計檢査の方法及び注意	佐藤 雄能【會計】		大一〇	九	一一二
鐵道業の資金に就て	佐藤 雄能【會計】		大一〇	一〇	一
鐵道經費に於ける恒常費と優越	増井 幸雄【三學】		大一〇	一五	五
鐵道の營業報告書と計算	【資料】		大一一	八	四四
ラ■ドナー鐵道經濟論	山本恭次郎【商濟】		大二	三	一
我國有鐵道の資本總額と其利廻	神戸 正雄【時經】		大一五	一	四七

			年	卷	號
大正十四年度に於ける地方鐵道の補助に就て	佐藤 雄能【會計】		大一五	一八	五
統計					
鐵道の遭難	高橋 二郎【スタ】		明三三	一	三七
軌道統計に就て	篠崎 亮【統雜】		明三七	一	三〇
鐵道年報書の改良を望む	池田 近勇【統集】		明四一	一	三四二
鐵道年報改良問題	池田 近勇【統集】		明四二	一	三四二 三四三 三四四 三四七
鐵道年報は盛んに改善しつゝあり	湯淺禮太郎【統集】		明四二	一	三四三
世界鐵道統計	【資料】		大四	一	五
世界鐵道比較統計	【資料】		大四	一	五
世界鐵道統計	【資料】		大六	三	二
東京					
東鐵賃錢均一制を題ふ	永泉 岩雄【日經】		明四一	三	一三
東鐵市有問題と賃錢問題	永泉 岩雄【日經】		明四二	六	三
東京の八鐵道	閑雲 野鶴【國國】		大四	三	一二
東京市の交通と地下鐵道	阪谷 芳郎【東經】		大一〇	公三	二〇八四
東京市の高速交通機關としての高架鐵道と地下鐵道との撰擇	安部 邦衛【都問】		大一四	一	四
滿鐵					
南滿洲鐵道株式會社法	志田鉀太郎【法協】		明三九	二四	七一一〇
南滿洲鐵道今回の運賃改正に就て	武藤 長蔵【國經】		明四二	七	五一六
南滿洲鐵道と他の運輸機關との關係	武藤 長蔵【國經】		明四三	八	三一四
滿洲鐵道中立問題と清國	青柳 篤恒【外時】		明四三	一三	二
戰後の日露貿易と滿鐵の使命	【資料】		大六	三	九
伊太利					
伊太利鐵道と官業の成績	藤本幸太郎【國經】		明四一	譯	一
フイリッポ・タニヤ「伊太利に於ける鐵道狀況」（譯）	渡邊 鐵藏【國家】		明四三	二四	三一五
印度					
印度鐵道概況	【資料】		大五	二	一
印度鐵道經營問題	【資料】		大六	三	一〇
印度鐵道政策	【資料】		大一二	九	六
英國					
英國に於ける市街鐵道市有市營の成績	永原 岩雄【國經】		明三九	一	七
グラスゴウ市の市街鐵道に就て	河津 暹【志林】		明四四	一三	一
英國に於ける鐵道國有の損益を論ず	レーフエルド【三學】		大三	八	一
英國鐵道國有と其將來	【資料】		大四	一	三
戰時に於ける英國鐵道並に其將來	松岡 均平【國家】		大四	二九	六一一〇
獨英佛三國鐵道制度の比較	【資料】		大七	四	一二

英國の鐵道改造案	増井 幸雄	〔三學〕	大九	五九
英國鐵道會社の埠頭政策		〔資料〕	大10	七一
英國鐵道貨物運賃會議制度について	久保田明光	〔社政〕	大一一	一七
英國の新鐵道政策	増井 幸雄	〔三學〕	大一一	二五
英國鐵道事業に於けるボルシェヴィキ主義の應用	大江 武男	〔財經〕	大一一	八
蘇露鐵道從業員の賃銀及勤務時間	大江 武男	〔社政〕	大一一	三三
英國鐵道工場職工の地位	大江 武男	〔社政〕	大一一	三〇
英國鐵道のナショナルプログラムに就て	大江 武男	〔社政〕	大一四	六二
支那鐵道				
黒龍江鐵道の敷設及東清鐵道の政策	瀧波 正勝	〔日經〕	大一一	二
山東鐵道の過去現在及び將來	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
支那に於ける列強の鐵道割據を論ず	野村 徹	〔國際〕	大一三	三
支那に於ける獨逸の鐵道敷設權獲得に就て	吉田 虎雄	〔日經〕	大一五	二
清國の鐵道と商工業	永野八郎	〔日經〕	大一五	四
清國の鐵道借款問題	高橋 榮三	〔國家〕	大一五	一九
東清鐵道會社を論ず	大江 武男	〔社政〕	大一四	一
グラムに就て				
支那鐵道の國際管理問題と日本	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
支那鐵道の敷設と借款團の使命	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
南支那地方鐵道計畫	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
山東鐵道の賃貸	雲底義太郎	〔亞經〕	大一三	四
		〔資料〕	大一三	五
米國對支鐵道利權		〔資料〕	大一三	四
山東鐵道延長線及支線の問題に就て	静岡 雪堂	〔亞經〕	大一三	二
支那鐵道の敷設と借款團の實使命	瀧波 正勝	〔日經〕	大一三	二
支那鐵道の國際管理問題と日本	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
加藤 周吉	木村 鋭一郎	〔外時〕	大10	三
大西 猪之介	馬場 三平	〔東經〕	大一一	四
		〔國經〕	大一一	四
米國鐵道責本の增加	武田 英一	〔國經〕	大一一	四
米國鐵道問題に就て	馬場 三平	〔東經〕	大一一	四
北米合衆國の鐵道業概觀	士岐 嘉平	〔國家〕	大一一	四
歐米鐵路行政に就て	渡邊 水太郎	〔國經〕	大一一	五
日普鐵道經濟比較觀	神戸 正雄	〔日經〕	大一一	六
戰時獨逸に於ける鐵道貨率政策		〔資料〕	大一一	四
獨逸の鐵道問題會に就て	財部 靜治	〔京法〕	大一一	一
獨逸市街鐵道貨率論		〔國經〕	大一〇	二
輸出貿易に對する獨逸の鐵道政策	關 一	〔資料〕	大一〇	五
米國				
佛國鐵道の近狀	佐藤 宏	〔外時〕	大一一	一
獨英佛三國鐵道制度の比較	宮本平九郎	〔外時〕	大一一	二
現在及將來	巽 治郎	〔外時〕	大一〇	一
佛領亞弗利加植民地鐵道の概況				
佛國植民地鐵道概況		〔資料〕	大一一	一
佛國鐵道の活動	松岡 均平	〔國家〕	大一一	一
國家事業としての佛國鐵道政策	高橋 良藏	〔國家〕	大一一	九
佛國				
ルロー・ボリー				
ダッドレー鐵道政策の發展	長瀨 鳳輔	〔外時〕	大一一	三
		〔資料〕	大一一	六
バグダッド鐵道論	長瀨 鳳輔	〔外時〕	大一一	三
バグダッド鐵道		〔資料〕	大一一	五
バグダッド鐵道問題解決	長瀨 鳳輔	〔外時〕	大一一	八
バグダッド鐵道終點問題	長瀨 鳳輔	〔外時〕	大一一	二
バグダッド鐵道と國際關係	長田 長溪造	〔國家〕	大一一	三
バグダッド鐵道				
戰時獨逸の鐵道貨率政策		〔資料〕	大10	七
獨英佛三國鐵道制度の比較		〔資料〕	大一一	四
獨逸鐵道に及したる戰爭の影響		〔資料〕	大一一	五
支那の鐵道——各國の對支政策	栗野 昇太郎	〔國際〕	大一一	四
東支鐵道の跡絕	樹谷 清	〔外時〕	大一二	四
支那鐵道共管及警備問題		〔外時〕	大一二	三
東支鐵道の國際關係と其將來	上田 恭輔	〔外時〕	大一二	四
露支間に採めた東支鐵道の北支三鐵道借款疑義	木村 增太郎	〔亞經〕	大一二	一
最近の東支鐵道問題	井上欣二郎	〔外時〕	大一二	五
話	長瀨 末男	〔國勢〕	大一二	三
西伯利亞鐵道				
西比利鐵道の落成				
對西伯利亞鐵道策	佐藤 宏	〔外時〕	大一一	一
西伯利亞鐵道の完成	宮本平九郎	〔外時〕	大一一	二
西伯利亞鐵道視線の效力	巽 治郎	〔外時〕	大一〇	一
蒙古				
獨逸の鐵道諮問會に就て	財部 靜治	〔京法〕	大一一	一
獨逸市街鐵道貨率論		〔國經〕	大一〇	二
輸出貿易に對する獨逸の鐵道政策	關 一	〔資料〕	大一〇	五
米國				
歐米鐵路行政に就て	渡邊 水太郎	〔國經〕	大一一	五
米國鐵道問題に就て	神戸 正雄	〔日經〕	大一一	六
米國鐵道責本の增加		〔資料〕	大一一	四
大西 猪之介	武田 英一	〔國經〕	大一一	四
北米合衆國の鐵道業概觀	士岐 嘉平	〔國家〕	大一一	四
米國鐵道問題に就て	馬場 三平	〔東經〕	大一一	四
米國鐵道責本の增加	武田 英一	〔國經〕	大一一	四
支那鐵道の國際管理問題と日本	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
支那鐵道の敷設と借款團の使命	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
南支那地方鐵道計畫	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
山東鐵道の賃貸	雲底義太郎	〔亞經〕	大一三	四
		〔資料〕	大一三	五
米國對支鐵道利權		〔資料〕	大一三	四
山東鐵道延長線及支線の問題に就て	静岡 雪堂	〔亞經〕	大一三	二
支那鐵道の敷設と借款團の使命	瀧波 正勝	〔日經〕	大一三	二
支那鐵道の國際管理問題と日本	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
加藤 周吉	木村 鋭一郎	〔外時〕	大10	三
大西 猪之介	馬場 三平	〔東經〕	大一一	四
		〔國經〕	大一一	四
米國鐵道責本の增加	武田 英一	〔國經〕	大一一	四
米國鐵道問題に就て	馬場 三平	〔東經〕	大一一	四
北米合衆國の鐵道業概觀	士岐 嘉平	〔國家〕	大一一	四
歐米鐵路行政に就て	渡邊 水太郎	〔國經〕	大一一	五
日普鐵道經濟比較觀	神戸 正雄	〔日經〕	大一一	六
戰時獨逸に於ける鐵道貨率政策		〔資料〕	大一一	四
獨逸の鐵道問題會に就て	財部 靜治	〔京法〕	大一一	一
獨逸市街鐵道貨率論		〔國經〕	大一〇	二
輸出貿易に對する獨逸の鐵道政策	關 一	〔資料〕	大一〇	五
蒙古				
獨逸の鐵道諮問會に就て	財部 靜治	〔京法〕	大一一	一
獨逸市街鐵道貨率論		〔國經〕	大一〇	二
輸出貿易に對する獨逸の鐵道政策	關 一	〔資料〕	大一〇	五
日普鐵道經濟比較觀	神戸 正雄	〔日經〕	大一一	六
戰時獨逸に於ける鐵道貨率政策		〔資料〕	大一一	四
支那に於ける鐵道割據を論ず	野村 徹	〔國際〕	大一三	三
輸出貿易に對する獨逸の鐵道政策	關 一	〔資料〕	大一〇	五
獨逸の鐵道諮問會に就て	財部 靜治	〔京法〕	大一一	一
獨逸市街鐵道貨率論		〔國經〕	大一〇	二
清國の鐵道借款問題	永野八郎	〔日經〕	大一五	四
清國の鐵道と商工業	虎雄	〔日經〕	大一五	四
支那に於ける獨逸の鐵道敷設權獲得に就て	吉田	〔日經〕	大一五	二
支那に於ける列強の鐵道割據を論ず	今井 嘉幸	〔國際〕	大一三	三
山東鐵道の過去現在及び將來	野村 徹	〔國際〕	大一三	三
黒龍江鐵道の敷設及東清鐵道の政策	瀧波 正勝	〔日經〕	大一一	二
英國の鐵道改造案	増井 幸雄	〔三學〕	大九	五九
英國鐵道會社の埠頭政策		〔資料〕	大10	七一
英國鐵道貨物運賃會議制度について	久保田明光	〔社政〕	大一一	一七
英國の新鐵道政策	増井 幸雄	〔三學〕	大一一	二五
英國鐵道事業に於けるボルシェヴィキ主義の應用	大江 武男	〔財經〕	大一一	八
蘇露鐵道從業員の賃銀及勤務時間	大江 武男	〔社政〕	大一一	三三
英國鐵道工場職工の地位	大江 武男	〔社政〕	大一一	三〇
英國鐵道のナショナルプログラムに就て	大江 武男	〔社政〕	大一四	六二

The Railway situation in the United States — Price 〔國家〕 大二 三年 三卷
米國鐵道の現勢 〔資料〕 大二 四 一 一
米國鐵道貨物賃率引上問題 〔資料〕 大二 四 一 一
米國鐵道と外國貿易 〔資料〕 大六 四 三 一
米國鐵道從業者八時間勞働問題 河田 嗣郎 〔經濟〕 大六 大 四 一
北米合衆國の鐵道官營 門脇 龍雄 〔國經〕 大六 七 三 一
米國鐵道業者の書類保存期間 望月 利八郎 〔會計〕 九八 七六 三四 一五
一九二〇年運輸法制定前後に於ける米國鐵道事情 〔資料〕 大九 大 二 一
合衆國鐵道會社の增頭政策 〔資料〕 大10 七 八 二
米國諸鐵道會社貸借對照表 〔資料〕 大10 七 九 二
米國に於ける鐵道社債の樣式 〔資料〕 大10 七 九 二
北米合衆國に於ける鐵道管理の經過に就て 幾田 松太郎 〔商經〕 大10 一 三 三
米國に於ける鐵道管理問題 〔資料〕 大11 八 七 三
米國に於ける鐵道事輯社債に就いて 〔資料〕 大11 八 九 三
フィラデルフィヤ市街鐵道の國體交涉顚末 ミッチ 〔社政〕 大11 一 一 三
米國鐵道勞働爭議工場職工の主張 大江 武男 〔社政〕 大11 一 一 三

露西亞

露國鐵道の枕木問題 〔資料〕 大二 一 一 一
露國未成鐵道概況 〔資料〕 大二 五 二 一
露國鐵道の現狀及將來 〔資料〕 大六 五 二 五
ソヴイエツトロシアの鐵道事情及政策 〔資料〕 大11 九 一

其他

東洋鐵道の收益力 〔國經〕 明三九 一
テワンテペック鐵道の完成 〔國經〕 明四0 二
自耳義町村鐵道の近況 〔國經〕 明四0 二
歐米鐵路行政に就て 〔國家〕 明四一 三
洪牙利國有鐵道地帶旅客賃率 土岐 嘉平 〔國家〕 大二 二 一
歐亞聯絡橫斷鐵道計畫 松岡 均平 〔國家〕 大二 二 七
南米大陸鐵道事情 〔資料〕 大二 七 四 二
南阿と鐵道經營 〔資料〕 大二 八 五 二
加奈太鐵道梗概 〔資料〕 大二 八 五 二
西班牙國鐵道事情 〔資料〕 大二 八 五 二
ボルドー・オデッサ鐵道の計畫 吉川 潤二郎 〔外時〕 大二 九 三
白耳義に於ける鐵道の復興 〔資料〕 大九 大 五
亞細亞縱貫鐵道の提唱 石川 安次郎 〔東經〕 大10 八 二
ブラジルの鐵道 〔資料〕 大二 八 二
アルゼンチン鐵道の近況 〔資料〕 大二 九 四

鐵道工場職工の主張 大江 武男 〔社政〕 大11 一 一 三
米國鐵道の國體交涉顚末 ミッチ 〔社政〕 大11 一 一 三
フィラデルフィヤ市街鐵道に就いて 〔資料〕 大11 八 九 三
米國に於ける鐵道社債 〔資料〕 大10 七 九 二
米國に於ける鐵道管理問題 〔資料〕 大11 八 七 三
北米合衆國に於ける鐵道管理の經過に就て 幾田 松太郎 〔商經〕 大10 一 三 三
米國に於ける鐵道事輯社債 〔資料〕 大11 八 七 三
米國諸鐵道會社貸借對照表 〔資料〕 大10 七 八 二
合衆國鐵道會社の增頭政策 〔資料〕 大10 七 八 二
米國鐵道事情 〔資料〕 大六 六 一 一
北米合衆國の鐵道官營 門脇 龍雄 〔國經〕 大六 七 四 一
米國鐵道業者の書類保存期間 望月 利八郎 〔會計〕 九八 七六 三四 一五
一九二〇年運輸法制定前後に於ける米國鐵道事情 〔資料〕 大九 大 二 一
米國鐵道の現勢 〔資料〕 大六 四 一 一
米國鐵道貨物賃率引上問題 〔資料〕 大六 四 一 一
米國鐵道と外國貿易 〔資料〕 大六 四 三 一
米國鐵道從業者八時間勞働問題 河田 嗣郎 〔經濟〕 大六 大 四 一
北米合衆國の鐵道官營 門脇 龍雄 〔國經〕 大六 七 四 一
米國鐵道業者の書類保存期間 望月 利八郎 〔會計〕 九八 七六 三四 一五
一九二〇年運輸法制定前後に於ける米國鐵道事情 〔資料〕 大九 大 二 一
合衆國鐵道會社の增頭政策 〔資料〕 大10 七 八 二
米國諸鐵道會社貸借對照表 〔資料〕 大10 七 九 二
米國に於ける鐵道社債の樣式 〔資料〕 大10 七 九 二
北米合衆國に於ける鐵道管理の經過に就て 幾田 松太郎 〔商經〕 大10 一 三 三
米國に於ける鐵道管理問題 〔資料〕 大11 八 七 三
米國に於ける鐵道事輯社債に就いて 〔資料〕 大11 八 九 三
フィラデルフィヤ市街鐵道の國體交涉顚末 ミッチ 〔社政〕 大11 一 一 三
米國鐵道勞働爭議工場職工の主張 大江 武男 〔社政〕 大11 一 一 三

極東に於ける鐵道の國際關係 伊澤 道雄 〔商業〕 大三 二
シャムの鐵道 〔資料〕 大三年 九卷 八號

【デパートメント・ストア】 參照＝販賣。

小賣大店舖制度 開 一 〔國經〕 明四五 二一 二七
デパートメント・ストアに就て 河津 遽 〔國經〕 明四0 二 四
百貨商店に就て 戶田 海市 〔國經〕 明四三 一七 五大
デパートメント・ストアの經營法 河津 遽 〔國家〕 大二 二七 二
〔日經〕 大二 三 四 一七
百貨商店の本質 松崎 蕃 〔商經〕 大八 一 二四
デパートメント・ストア論（ニストルム） 鈴木 隆輔 〔同論〕 大三 一 四

【デボーリン】 (Alexander Deborin)

レーニニズムの世界觀 デボーリン 〔マル〕 大四 三 五
デボーリン「レーニンの辨證法」 河上 肇 〔社問〕 大三 四 一一 三四 六六 九八
デボーリン「レーニンの辨證法に關する斷片について」（譯） 河上 肇 〔我等〕 大三 八 一一三
デボーリン「カントに於ける辨證法」（譯） 扇本 和夫 〔社科〕 大五 二 六

【デモクラシー】 民主主義を見よ。

【デューイ】 (John Dewey, 1859-)

獨逸の歷史哲學 ジョン・デューイ 〔我等〕 大八 一 二

【デュギー】 (Léon Duguit, 1859-)

デュギーの權利不認論の批判 杉山直治郎 〔法協〕 大五 三四 九一二
CGTに對するデュギーの主張 菊池 勇夫 〔國家〕 大11 三六 四一一
デュギーの所有者の社會的職分論 阿武京二郎 〔法會〕 大三 一 一二
デュギーの公法の進化」 板倉 進 〔社科〕 大四 一 七
デュギーの國家論 中島 重 〔社科〕 大五 二 二七

【デュプュイ】 (Arséne Jule Emile Javenal Dupuit, 1804-1866)

イギリスに於ける田園都市

英國田園都市運動の發生 奥井復太郎〔三學〕大11 三大 三四-三六 1
庭園都市に就て 田島錦治〔經濟〕大八 九 1
住居問題及園市國郊 森川端夫〔法政〕大七 一五 1
花園都市の都市計畫 關一〔新報〕大二 三 1
田園都市の理想 櫛田民藏〔日經〕四三 六 六

【田園都市】

イブセン氏過失論 宮本英雄〔京法〕大三 一一 七

【テリー】(Henry Taylor Terry)

デル・ヴェキオの自然法 平野義太郎〔志林〕大14 三七 八-10
Sullo svolgimento storico de diritto Del Vecchio〔法協〕大11 四0 10

【デル・ヴェキオ】(Giorgio Del Vecchio, 1878-)

ハインリッヒ・デルンブルヒ教授逝く 石坂音四郎〔京法〕昭1 三 二

【デルンブルク】(Heinrich Dernburg, 1829-1907)

デュルケームの集團意識論と其の意義 淡徳三郎〔社科〕大14 一 五
デュルケームの社會學論について 松本潤一郎〔社雜〕大三 一 八
宗教社會學と認識論 デュルケーム〔我等〕大三 五 五
社會事實の本質（エミール・デュルケイムの學說） 高瀬荘太郎〔商研〕大11 二 二
社會の强制力（特にデュルケームの學說に就て） 野村兼太郎〔三學〕大九 14 九
社會學 牧野英一〔志林〕大七 三0 六

【デュルケイム】(Emile Durkheim, 1858-1917)

デュプイ著公共的勞務の利用測定に就て 中山伊知郎〔商研〕大13年 四卷 一號
デュプイ著交通機關の利用に及ぼす使用料の影響に就いて 中山伊知郎〔商研〕大13 四 二

【寺田精一】

文學士寺田精一君逝く 牧野英一〔志林〕大11 二四 10

【電氣】

馬爾鈴話園に於ける電氣工業 渡邊二郎〔日經〕大14 一一-一二三
最近に於ける埃國の電氣工業 渡邊二郎〔日經〕大14 一一-一二六
水力電氣の話 澁澤元治〔財經〕大14 二 八
生物電氣の話 永井潛〔財經〕大14 二 一七
電氣事業の國家獨占 神戸正雄〔經濟〕大14 一 一
露國電氣事業と獨逸資本 デュプイ〔資料〕大14 一 一
產業組織の變遷と電氣事業 渡邊鐵藏〔國家〕大3 二六 10
日本電氣事業諸會社の固定 渡邊二郎〔日經〕大13 一二六 五
電氣工業の獨立 渡邊二郎〔日經〕大13 一二六 五
瓦斯と電氣 寺村虎重〔日經〕大13 一三 三
瓦斯の立場に就て 早尾停實〔法協〕四五 三0 七
被傭者としての電氣技術者 早尾停實〔國家〕四五 三六 七
係を論ず
水力電氣と國民經濟との關 莊田秋村〔東經〕四四 一六 三
瓦斯の合同と電燈の競爭 上田貞次郎〔國經〕四四 七 三
共企業法 弓家七郎〔都問〕大13 一卷 一號
獨逸に於ける電氣事業及び運動 三宅順祐〔日經〕四四 一 10
電氣應用の現狀及將來 陳重〔法協〕四三 七 二
電氣と法律 穗積

生れねばならぬ電力國策　師尾藏治〔エコ〕 六五年 四巻 二號

【電氣鐵道】 参照＝市街鐵道。鐵道。

蒸氣鐵道の一部に電車運轉するの利益　西垣直記〔國經〕 四五年 一
電氣鐵道の現在及將來　黒澤酣濱〔東經〕 四四年 六一 一五四五 三
電氣鐵道論　武藤長藏〔日經〕 四四年 四五年 四六年 八一七 一一一 一七六三
都市連絡電氣鐵道　關一〔新報〕 四四年 三 一
電車賃割引變更の影響　莊田秋村〔東經〕 四四年 四五年 一六三九
電車速力問題　秋村居士〔東經〕 四五年 三 一七一〇
市役所に於ける電車從業員の同盟罷工　小林郁〔國經〕 四五年 八 二七 四

【甜菜糖】

獨逸工業界の現狀（甜菜糖業の發達）　長井長義〔財經〕 四五年 三 七
北海道に於ける甜菜糖業の勃興　中島九郎〔農經〕 四四年 一 一
瀧山良一〔洋經〕 四三年 一 二二三四二
大阪市電の罷業　岡得太郎〔社政〕 四三年 一 一 四二九七
本邦電車從業員勞働事情　神戸正雄〔時經〕 四三年 一 一 三五
電車罷業　小林郁〔國經〕 四三年 八 二七
電車乘車券の性質を論じて市が電車看乘車券に加へたる制限は違法　岡松參太郎〔新聞〕 四五年 一 二五〇
東京市が電車看乘車券に加へたる制限は違法　山形東根〔東經〕 四五年 吉 二八〇
電車賃値上問題の研究　松本松治〔法協〕 四五年 三四 九
電車看乘車券の效力に就て　奥田義人〔國國〕 四五年 四四 一〇
市長としての意見　岩田寅造〔國國〕 四五年 四四 一〇
公法關係論　菅木志雄〔國國〕 四五年 四四 一〇
私法契約論　伊藤重治〔財經〕 四四年 二 三
市營電車の法律關係　岩井尊文〔新聞〕 四四年 一 七四
東京市電車問題私議　
市營電車軌道と賃錢の改正に就て（大阪電車の回數乘車券）　

【電車乘車券】

電車乘車券に關する議論と其の性質　岡松參太郎〔新聞〕 四五年 一 二八〇
電車乘車券に付再び卑見を述べ併せて松本博士に質す　岡松參太郎〔新聞〕 四五年 一 二八〇
電車乘車券に關する美濃部博士の說を駁す　松本烝治〔新聞〕 四五年 一 二七九
電車看乘車券の效力に關する美濃部博士の說を駁す　松本烝治〔新聞〕 四五年 一 二七八
電車看乘車券の效力に就て　美濃部達吉〔新聞〕 四五年 一 二七七
岡松博士の說を駁す　松本烝治〔新聞〕 四五年 一 二七四
電車乘車券の性質を論じて　岡松參太郎〔新聞〕 四五年 一 二八〇
東京市が電車看乘車券に加へたる制限は違法　山形東根〔東經〕 四五年 吉 二八〇
電車賃値上問題の研究　松本烝治〔法協〕 四五年 三四 九
電車看乘車券の效力に就て　奥田義人〔國國〕 四五年 四四 一〇
公法關係論　岩田寅造〔國國〕 四五年 四四 一〇
私法契約論　菅木志雄〔國國〕 四五年 四四 一〇
市營電車の法律關係　伊藤重治〔財經〕 四四年 二 三
東京市電車問題私議　岩井尊文〔新聞〕 四四年 一 七四
市營電車軌道と賃錢の改正に就て（大阪電車の回數乘車券）　

誤判　松本重敏〔新聞〕 四五年 一巻 二七號
電車乘車券に關する二審判決當否如何　松本重敏〔新聞〕 四五年 一 二七
市電看乘車券の效力に就き判決及學說を論評して私論に及ぶ　松本烝治〔新聞〕 四五年 一 二七
電車乘車券の性質に關して岡松博士に答ふ　松本烝治〔新聞〕 四五年 一 二八
再び看乘車券の效力に就き異說を駁して私見を明かにす　遊佐慶夫〔新聞〕 四五年 一 二七
電參訴訟に對する大審院判決　遊佐慶夫〔新聞〕 四五年 一 二七
決批判　遊佐慶夫〔新聞〕 四四年 一 二三
畜電參取扱不法　遊佐慶夫〔新聞〕 四四年 一 二三
東京市電の利用關係は公法關係なり　佐々木惣一〔京法〕 四四年 三 二

【電信】 参照＝海底電信。無線電信。

電信保險の問題　眞鍋芳太郎〔保雜〕 四四年 一 二八
佛國の電信制度　米田奈良吉〔國際〕 四四年 四四 一
帝國の對外電信政策　濱部信〔國際〕 四三年 三 一
電報に關する調査の必要　市村富久〔法協〕 四三年 三 八

【天皇】 参照＝憲法。皇室。皇室典範。

君主無責任の理由　近衛篤麿〔國家〕 四三年 六 五
天皇と皇帝、大日本と日本　中村進午〔新報〕 四三年 六 三
統治權を總攬する君主は憲法の爲に制限せらるるや　松浦鎭次郎〔國家〕 四三年 二 一三
憲法第四條の解釋に就て　鐵史樓主人〔新報〕 四三年 九 九
穗積八束君とロバート・フキルマーと論じ　戶水寬人〔法協〕 四三年 六 五
穗積八束君とロバート・フキルマーを讀む　高橋作衛〔國家〕 四三年 四 一
高橋君に答へ幷せて穗積君の答辯を催す　戶水寬人〔國家〕 四三年 四 二
戶水博士に答ふ　高橋作衛〔國家〕 四三年 四 二
國家と宮中との關係　有賀長雄〔國家〕 四三年 四 二
天皇の國法上の地位　井上密〔法政〕 四三年 七 一〇
獨逸電信會社附帶問題要旨　高橋作衛〔國際〕 四五年 一 二
支那電報符號の研究　石川福治〔早經〕 四四年 四 五
海外電報及通信に就て　米田實〔國家〕 四一〇年 三 一
誤れる電信送金の契約方法　三津木清〔銀研〕 四一一年 二 二
電信暗號の編纂方法　水野淳二〔銀研〕 四一一年 二 四
暗號電報に就て　栃澤信吉〔商事〕 四一一年 一 一

胎中天皇 御懲極令譴解
懲極の本義
大禮の法制
ず
英王の神聖不可侵
大禮使官制違法の責任を論
一族父統治と天皇機關說
一國主權者が他國の臣民たるの先例竝に國內に主權者の特權を有する者の常住
帝國憲法を殺す者
機關人格統論
皇室訴訟問題に就て
國家直接機關の特質
機關の三說を駁評す
國家主權、法人主權、君主
天皇の國法上の地位を論す
天皇の權利及訴訟
國家主權說の發達
近世の帝王神權說
元首の地位を論す
君主の國法上の地位

美濃部達吉〔忘林〕 昭二 六 一九
清水澄〔法協〕 昭二 六 一二
井上孚麿〔法政〕 昭二 六 一三
上杉慎吉〔法協〕 昭二 六 一三
穗積八束〔新報〕 明三九 一 一五
稻田正次〔志林〕 明三九 一 一七
村瀨太郎〔新聞〕 明三九 一 一〇
寶藏寺純一〔新報〕 明三九 一 一七
隆克彥〔法協〕 明三九 一 一〇
辯護士〔法協〕 明三九 一 一〇
齋藤隆夫〔辯護士〕 明三九 一 一〇
齋藤悅次郎〔國家〕 明三九 一 一〇
樋口作衛〔新報〕 明三五 一 一〇
高橋原悅次郎〔國家〕 大二 一 一〇
松平三浦周行〔京法〕 大二 一 一〇
市村藏〔辯協〕 大二 一 一七
上杉慎吉〔法協〕 大二 一 一二
克彥〔法協〕 大二 一 一二
忘林〔志林〕 大二 一 一二
美濃部達吉〔忘林〕 大二 一 一二

【丁抹】

高橋誠一郎〔三學〕 大二 一 一九
矢作榮藏〔日經〕 明四二 一 10
三浦哲郎〔日社〕 大二 一 三
山本美越乃〔經濟〕 大二 四 二
〔資料〕 大二 五 四
河上肇〔經濟〕 大七 一 二
〔經濟〕 大七 一 四
小林丑三郎〔經濟〕 大八 一 一四
三浦謝花寬濟〔新聞〕 大七 一 一四
河田嗣郎〔經濟〕 大三 一 三
〔保險〕 大八 一 三
〔經濟〕 大九 一 四

【テンプル】(Sir William Temple, 1682-1699)

板倉松覺 昭二 一 一
森口繁治〔法學〕 大一四 一一 一三
本多重雄〔新聞〕 大七 一一 一三
克彥〔法協〕 大七 一一 一五
卓造〔法研〕 大一四 一一 一五

【ダンチヒ】

上杉慎吉〔法協〕 大四 一一 一
井上孚麿〔法政〕 大四 一一 一
清水澄〔法協〕 大四 一一 一
美濃部達吉〔忘林〕 大四 一一 一

【電話】

高木藏吉〔新聞〕 明四四 一 一
田中智作〔新聞〕 明四五 一 一七
谷口奧利吉〔日經〕 大二 三 三 三一
谷口奧利吉〔日經〕 大二 三 八 一〇
內田嘉吉〔財經〕 大六 四 九
石原雄二郎〔法政〕 大二 一九 三

【勞働】

村井八郎〔國際〕 大一四年 一〇卷 三一四號
米田實〔外時〕 大八 三〇 三五七
寺田四郎〔國際〕 大一〇 三〇 六
板倉卓造〔國際〕 大一一 三 九

憲法第四條の解釋に就て
天皇機關說と危險思想
天皇の本質
君主神權說

【丁抹】

サー・キリヤム・テンプルの經濟論 高橋誠一郎〔三學〕 大二 一 一九
丁抹國の生產組合 矢作榮藏〔日經〕 明四二 一 10
グレゾドルフ「丁抹の底民」 三浦哲郎〔日社〕 大二 一 三
東亞に於ける丁抹の經濟的活動 高等學校より〔譯〕 大二 四 二
植民國としての丁抹の末路 山本美越乃〔經濟〕 大二 五 四
丁抹國の社會主義 河上肇〔經濟〕 大七 一 二
丁抹國禁治產制度と我法例 〔經濟〕 大七 一 四
丁抹の小農地設定事業 小林丑三郎〔經濟〕 大八 一 一四
丁抹生命保險業法 三浦謝花寬濟〔新聞〕 大七 一 一四
丁抹の關係 河田嗣郎〔保險〕 大八 一 三
〔經濟〕 大九 一 四

卜部【獨逸（ドイツ）】

參照＝ウエルテンベルク。歐洲戰爭。サクソニア。普魯西。歐羅巴。バヴアリア。

獨逸諸國に於ける宗教團體制度の變遷及現狀の大略　副島　義一【志林】昭三　二　年　一〇　號
獨逸帝國國力の膨脹　立　作太郎【外時】昭三　二　一　二
獨逸宗教制度の一斑　吾孫子　勝【志林】昭三　二　二　一〇
國族に映する獨逸帝國　松波仁一郎【法協】昭六　二　八
獨逸勃興の眞因　阿部　秀助【日經】昭四　一　三―七
獨逸の全獨逸主義と世界政策　津村　秀松【國經】昭四　二　二―三
獨逸帝國最近の發展　松崎　壽【東經】昭三　五九　一四七、一四八
獨逸に於ける大學と社會との交涉　小野塚喜平次【國家】大　四　二九　一―二
大獨逸主義の一片鱗　川島金五郎【國家】昭四　二五　六
獨逸帝國（一九一三年史）　煙山專太郎【外時】大　二　二八　二一六
全獨逸主義と全露主義　佐々木惣三郎【日經】大　三　一六　二
獨逸勃興の由來　今井　政吉【日社】大　三　一　三
殺氣立つた伯林　小島愛三郎【新聞】大　四　一　一四九一、一四九二
伯林大學事情　小島愛三郎【新聞】大　四　一　一〇〇三
現代獨逸の軍國主義とトライチケの學說　煙山專太郎【國家】大　四　二九　一―二
獨逸の軍國主義　三上　正毅【國國】大　四　三　八
マキアベリズムと獨逸の軍國主義　大山　郁夫【國家】大　四　二九　九―一〇
所謂獨逸文化宣傳策の主張を批評す（講演）　大山　郁夫【日社】大　四　三・一二
獨逸に對する米國學界の論調　伊藤重治郎【外時】大　四　二　二四八【資料】
獨逸の對外教育　田中　義一【國國】大　四　三　一〇
青年教育問題と獨逸　二宮　治重【國國】大　五　四　八
開戰前後に於ける獨逸の青年教育竝青年團の活動　神川　彥松【國家】大　五　三〇　七―八
全獨逸主義概觀　織田　萬【京法】大　五　一　五
獨逸大學に於ける軍國主義　煙山專太郎【外時】大　六　二五　二九四、二九五
獨逸の膨脹運動は如何に開展せるや　稻田周之助【新報】大　六　二七　一〇
獨逸の過去及び將來　奧野　七郎【外時】大　六　二六　三一三
獨逸の覇圖と日本　神川　彥松【外時】大　六　二五　三〇〇
獨逸究竟の運命　西村富三郎【保評】大　七　一一　四
開戰當時に於ける獨逸（講演）　長　壽吉【經叢】大　七　六　一―三
南露に於ける獨逸住民　長井　長義【財經】大　七　八　六八、六九　一一二、一一七
化學者と獨逸國民　松本　雲丹【財經】大　七　五　一―九
戰時獨逸の旅行記　占部百太郎【三學】大　七　一二　一一
タキツスの觀たる古代獨逸
最近に於ける獨逸の學界　松村　光三【國經】大　八　年　二七　卷　四　號
獨逸の將來　玉木　三郎【商經】大　九　一　一七
獨逸建國五十年祭を睹る　大谷　美隆【國國】大　一〇　九　五
獨逸の將來　石川安次郎【外時】大　一一　二五　四―三
獨逸の將來　ハウプトマン【國聯】大　一一　二　二
戰後獨逸の大學生數　岡崎　文規【經叢】大　二　一七　四
獨逸の現狀及將來　ゾルフ【東經】大　二　八五　二一三
ドイツ文化の破滅　水上巖治郎【社政】大　二　一　四四
歐洲平和と新獨逸　早坂　二郎【國知】大　二　五　六
佛蘭西獨逸及び露西亞　稻田周之助【新報】大　二　三五　二
獨逸便り　稻垣　守克【國家】大　二　三九　二
復興を急ぐ獨逸共和國の近況　池田　林儀【國知】大　二五　六　二―四
マルクス・エンゲルス遺稿「獨逸的觀念形態」第一編「フオイエルバツハ論」　櫛田　民藏【我等】大　二五　八　五―六
獨逸の近況概略　森戸　辰男【我等】大　二五　一二　二
我國の現政界とドイツチエ　伊藤　久秋【長彙】大　二五　七　五
イデオロギー　大山　郁夫【我等】大　二五　八　五
移民　移民―獨逸を見よ
海運　海運―獨逸を見よ
革命
獨逸革命の眞相に關する史料　占部百太郎【三學】大　九　一四　五
獨逸反革命運動の眞相　長瀨　鳳輔【外時】大　九　三一　四五〇、四五七
獨逸革命史　田邊　忠男【財經】大　一一　九　六一三
獨逸革命の犧牲者ローザルクセンブルグ　井口　孝親【我等】大　一三　五　六―七
獨逸革命と產業公有制度　桑田　熊藏【國家】大　一三　二八　一〇
獨逸共和國の成立まで　三並　良【外時】大　一五　四三　五〇六
貨幣　貨幣―獨逸を見よ
關稅　關稅―獨逸を見よ
銀行　銀行―獨逸を見よ
金融　金融―獨逸を見よ
軍事
獨逸帝國議會に於ける海軍問題　中村　進午【外時】昭三　三　二七
獨逸の海軍擴張と英吉利の關稅改革　小西　虎雄【國經】昭四　五　二
米露の國防　巽　來次郎【外時】昭四　一　二　四五一、四五二
英獨軍備制限問題　末廣　重雄【京法】昭四　三　四　一一
獨佛兩國軍備充實計畫　田中萃一郎【三學】大　三　八　七
獨逸の軍閥と我國の軍閥　植原悅二郎【國國】大　四　三　一
普魯西軍閥の苦悶　神川　彥松【外時】大　七　二六　三三四
最近獨逸海軍事情　館田　謙吉【國國】大　二　一〇　一一四
獨逸に於ける軍法會議廢止　松永　義雄【辯協】大　一三　二六　三
經濟
獨逸國民の所得高　殖田直太郎【統集】昭二　一　八四

悲観さるゝ露の経済界　雪堂生
戦後における露の経済的発達　舞田長五郎　一〇二
露国の戦後準備　フォックス　七四
露国の戦時経済　宇都宮鼎〔洋書〕　大三
露国の小所得者家計調査に就て　阿部秀助〔国家〕　大三
露国の一家計　日本露清小観　田島信威〔内外時事〕　大三
露国の一家計　高岡熊雄〔日本評論〕　一一
露国の農業保護関税と食料　大山郁夫〔京法〕　四〇
露国の農業保護関税と食料　河田嗣郎〔国家〕　一九
露国の農産と英国　大山郁夫〔京法〕　四〇
露国の穀物輸出禁止　生田長江〔財政〕　五
露国の穀物輸出禁止　生田長江〔財政〕　五
露国の穀物輸出禁止　生田長江〔財政〕　五

最近獨逸に於ける生活の標準			
獨逸戰時經濟と社會學說	伊藤	久秋	〔社政〕 大一二年 一卷 二四號
資本主義國家の一傾着點（獨逸戰後の經濟狀態）	大内	兵衛	〔原パ〕 大一一 一 一
獨逸に於ける銀行及信用組織發達の概要	高木	信威	〔新報〕 大一三 一 一
獨逸の危機と共經濟	河田	嗣郎	〔エコ〕 大一三 一 一一
獨逸國經濟議會制	岡崎	文規	〔經叢〕 大一三 一 一三
獨逸商等官の生計費	岩崎	博	〔銀研〕 大一三 五 三
戰後獨逸の財政通貨及び富	鈴木	孝吉	〔國經〕 大一三 三六 四 四
經濟上より見たる最近の獨逸	目賀	孝義	〔法政〕 大一三 二 一一〇
獨逸の經濟力		金	〔外時〕 大一三 三九 四六二
革命後のドイツ經濟狀態			〔貿科〕 大一三 10 10
獨逸古典學派の勞賃論	山口正太郎		〔經叢〕 大一四 二 一〇 六
ドイツの信託會社と會計士	增地庸治郎		〔會計〕 大一四 一 一七
獨逸財界の近況	西田	宮貞	〔商業〕 大一四 五 二
獨逸に於ける暴利取締令の一問題	栗生	武夫	〔法叢〕 大一四 三 四
ドイツ現代の經濟	生島廣治郎		〔國經〕 大一五 四〇 六
國富論と初期獨逸經濟學者	町田義一郎		〔三學〕 大一五 二〇 四
ドイツに於ける工業社會化	須美	芳夫	〔鐵叢〕 大一三 一 六
獨逸工業問題の基礎	諸井	貫一	〔經論〕 大一三 二 一
獨逸大銀行の商工業に對する關係			
獨逸に於ける暴利取締令の一問題	西田	宮貞	〔商業〕 大一四 五 二
ドイツ現代の經濟	栗生	武夫	〔法叢〕 大一四 三 四
國富論と初期獨逸經濟學者	町田義一郎		〔三學〕 大一五 二〇 四
獨逸に於ける工場衛生問題	生島廣治郎		〔國經〕 大一五 四〇 六
獨逸銀行カルテルと我貿易	今泉嘉一郎		〔財經〕 大一五 三 八
獨逸戰時の加里工業			〔貿科〕 大一五 三 一四
化學工業の進歩	長井	長義	〔財經〕 大一五 三 一一
獨逸の化學工業			〔貿科〕 大一四 一 一
獨逸の鹽業			〔貿科〕 大一四 一 一
最近十五年間に於ける獨逸の電氣工業	渡邊	二郎	〔國經〕 大一四 一六 八一二
獨逸の勝敗と農工立國問題	星野	牛六	〔三學〕 大一四 二 八 八
獨逸の工業と工業原料			〔國經〕 大一四 一八 二
最近に於ける獨逸の電氣工業	松崎	壽	〔國經〕 大一三 一六 甲五
獨逸石炭シンヂケート	松岡	均平	〔國家〕 大一三 一七 三七
獨逸加里工業カルテルの發達			
企業法	上田	貞次郎	〔國經〕 昭二 七 三
獨逸の化學工業	高橋	誠一郎	〔國經〕 明四五 三
獨逸國工業統計に就て	寺田	勇吉	〔統業〕 明三三 一

工業

ドイツに於ける資本主義の發達	石濱	知行	〔社政〕 大一五 一 六九
最近の獨逸財政經濟概觀	本多熊太郎		〔外時〕 大一五 四二 五二
獨逸經濟會議の組織及效用	本多熊太郎		〔外時〕 大一五 四二 五三

獨逸の研究			
獨逸化學工業界の現狀	長井	長義	〔財經〕 大一四 一一 二一
獨逸製鋼シンヂケート論	松岡	均平	〔國家〕 大一四 五 三〇 一一 六
戰時の獨逸化學工業施設	倫	德平	〔財經〕 大一四 五 一一 八
獨逸製鐵シンヂケート論			〔貿科〕 大一四 五 一一 六
獨逸化學工業の三大柱石	渡邊	長義	〔財經〕 大一四 七 一一 六
獨逸工業の戰時利益	渡邊	巖	〔國家〕 大一四 三 一一 六
戰時獨逸に於ける工業勞働問題の供給	舞出	長五郎	〔國家〕 大一四 三 一一 七
戰時及戰後の獨逸製鐵業			〔貿科〕 大一四 八 五 八 七
獨逸石炭鑛業の組織改造問題	山川	端夫	〔國家〕 大一四 八 三 二 七
獨逸に於ける鑛山の社會化		民藏	〔國家〕 大一四 八 三 二 七
工業復活に對する獨逸の努力	森	孝三	〔財經〕 大一四 九 七 二
獨逸に於ける化學工業の現狀	山崎	芳五郎	〔財經〕 大一四 一〇 八 九
獨逸炭坑公有新案	林	栄夫	〔社政〕 大一四 一 一〇
共濟化（獨逸に於ける小工業經營形態の配分關係と工業問題の基礎）			
獨逸大銀行の商工業に對する關係			
ドイツに於ける工業社會化の研究	須美	芳夫	〔鐵叢〕 大一三 一 六
獨逸工業の現狀	諸井	貫一	〔經論〕 大一三 二 一

獨逸の研究			
獨逸化學工業界の現狀	長井	長義	〔財經〕 大一四 一一 二一
獨逸製鋼シンヂケート論	松岡	均平	〔國家〕 大一四 五 三〇 一一 六
戰時の獨逸化學工業施設	倫	德平	〔財經〕 大一四 五 一一 八
獨逸製鐵シンヂケート論			〔貿科〕 大一四 五 一一 六
獨逸化學工業の三大柱石	渡邊	長義	〔財經〕 大一四 七 一一 六
獨逸工業の戰時利益	渡邊	巖	〔國家〕 大一四 三 一一 六
戰時獨逸に於ける工業勞働の供給問題	舞出	長五郎	〔國家〕 大一四 三 一一 七
戰時及戰後の獨逸製鐵業			〔貿科〕 大一四 八 五 八 七
獨逸石炭鑛業の組織改造問題	山川	端夫	〔國家〕 大一四 八 三 二 七
獨逸に於ける鑛山の社會化		民藏	〔國家〕 大一四 八 三 二 七
工業復活に對する獨逸の努力	森	孝三	〔財經〕 大一四 九 七 二
獨逸に於ける化學工業の現狀	山崎	芳五郎	〔財經〕 大一四 一〇 八 九
獨逸炭坑公有新案	林	栄夫	〔社政〕 大一四 一 一〇
共濟化（獨逸に於ける小工業經營形態の配分關係と工業問題の基礎）			
獨逸大銀行の商工業に對する關係			
ドイツに於ける工業社會化の研究	須美	芳夫	〔鐵叢〕 大一三 一 六
獨逸工業の現狀	諸井	貫一	〔經論〕 大一三 二 一

運動	吉田	熊	〔社政〕 大一三 一 四四
獨逸に於ける銀行と工業との關係	串本友三郎		〔銀研〕 大一四 八 五
獨逸紡織業の衛生（シュミット）	大西	清治	〔勞科〕 大一五 二 三
ミュルレル 獨逸帝國の財政	平山	成信	〔國家〕 昭一〇 一 四一〇
ムンク氏のベルリン及びヴィーン二帝都租稅負擔論			
獨逸の新相續稅	瀧本	美夫	〔國經〕 昭一〇 一 一
獨逸帝國の財政改革	瀧本	美夫	〔國經〕 昭一〇 一 六
獨逸に於ける地價差增稅	下條	康麿	〔國家〕 昭一 三 二 三
獨逸帝國の財政改革と宰相辭任	瀧本	美夫	〔國經〕 昭一 三 七 三四
獨佛の財政（講演）	小林	丑三郎	〔日經〕 昭一 三 五 六八
經濟學者ハレ博士と一九〇九年の獨逸帝國財政改革	岡	均平	〔國家〕 昭一 三 四 二
獨逸の新土地增價稅と土地稅史論（獨逸國稅史）	青木	得三	〔法論〕 昭一 三 六 六
一九〇九年に於ける獨逸帝國財政改革	神戸	正雄	〔京法〕 昭一 四 六 五
改良運動	松岡	均平	〔國家〕 昭一 五 一二

獨逸に於ける土地增加稅　高島　誠一〔國經〕大九年　卷一三　號四
獨逸帝國石油專賣法案　關　一〔國經〕大二　二五　四—五
獨逸の戰時財政狀態　〔國經〕大三　一七　六
獨逸財政の前途　奥野　七郎〔日經〕大三　一六　六
獨逸の租稅改革　神戸　正雄〔京法〕大三　九　五
英佛獨諸國の戰時財政　堀江　歸一〔三學〕大四　九　三
獨逸の穀物專賣　瀧谷　善一〔國經〕大四　一八　四
獨逸の戰時財政及金融　〔國經〕大四　一八　一
獨逸の戰時財政　日高　讀爾〔國國〕大四　三　二
獨逸戰時財政の根底如何　阿部　秀助〔三學〕大四　九　六—七
獨逸の財政　雪　堂　生〔財經〕大五　三　四
交戰第一年間の獨逸の金融及財政　高島佐一郎〔國經〕大五　二一　三—五
獨逸の戰時稅　土方　成美〔國家〕大六　三一　七
獨逸の戰費問題　松野清次郎〔商經〕大六　一　八
獨逸戰時財產差增稅新法案に就て　汐見　三郎〔經叢〕大八　九　六
平和克復當時に於ける英獨の財政比較　田尻稻次郎〔國國〕大八　七　八
獨逸戰後の財政經濟　堀江　歸一〔三學〕大九　一四　五
獨逸帝國に於ける稅制の發達を論ず　小川鄉太郎〔經叢〕大一〇　三　一
戰時戰後に於ける獨逸稅制の變革を論ず　小川鄉太郎〔經叢〕大一〇　三　二—五

獨逸共和國豫算の均衡を論ず　青木　得三〔國知〕大一三　四　一〇
戰後獨逸の財政、通貨及び富　鈴木　平吉〔國經〕大一三　三六　六
佛獨財政の整理改善　吉村　貫一〔財經〕大四　三　五
戰前より現時に至るドイツ財政の推移　生島廣治郎〔國經〕大一五　四〇　一—四
最近の獨逸財政經濟概觀　本多熊太郎〔外時〕大一五　四三　五—一

產業

獨逸產業の發達及其原因　河上　肇〔國家〕國一　二一　平六
日獨產業發達比較觀　神戸　正雄〔京法〕明四三　五　三
英獨の產業競爭　奥野　七郎〔日經〕大四　一六　八
獨逸の產業革命及び其發達につきて　石澤久五郎〔國經〕大五　二一　二—三
獨逸產業の膨脹　堀内　泰吉〔國經〕大六　三一　一
獨逸の產業と金融機關　〔資料〕大六　三　九
獨逸の產業的復活　平林初之助〔外時〕大一〇　三四　四〇六
獨逸に於ける產業社會化論　阿部　賢一〔同論〕大一〇　一　四
獨逸に於ける產業委員會議　アウフホイゼル〔社政〕大一一　一　一七
獨逸產業事情　諸井　四郎〔社政〕大一一　一　二〇
獨逸に於ける產業爭議の調停方法　松岡　尙義〔社政〕大一一　一　二〇
獨逸社會民主黨の產業及社會政策　永井　亨〔社政〕大一二　一　三四

戰後獨逸の產業界に於ける新合同法に就て　今泉嘉一郎〔東經〕大二三　八五　二三一　號
獨逸革命と產業公有制度　桑田　熊藏〔國家〕大一三　三八　一〇

社會

獨逸の婦人運動と婦人團體　河田　嗣郎〔京法〕明四五　五　三
英獨市營事業の消長　田中鐵三郎〔國家〕明四四　二五　一
獨逸國市營質屋業定款　吾孫子　勝〔評論〕大二　二　一七
獨逸大市府の住居問題　上西半三郎〔日社〕大三　二　一—二
獨逸消費組合の近況に就て　高野岩三郎〔三學〕大三　八　四
獨逸都市の土地並に住宅政策　村田岩次郎〔三學〕大四　九　六
獨逸戰時の雇主組合　櫛田　民藏〔國家〕大五　三〇　四
獨逸職工組合の軟化　櫛田　民藏〔國家〕大五　三〇　三
獨逸社會黨に於ける社會改良思想　森戸　辰男〔國家〕大五　三〇　九
獨逸に於ける女子の地位の變動と女子運動　森戸　辰男〔統集〕大五　一　四—七
シュモラー教授の獨逸戰後の社會觀　櫛田　民藏〔經叢〕大六　五　三
獨逸國民の民主化　神川　彥松〔外時〕大六　二六　三〇八
獨逸社會主義の二傾向　阿部　秀助〔三學〕大七　一一　一一
獨逸の戰時社會主義　河上　肇〔經叢〕大七　七　四
獨逸都市の住宅巡視員制度　藤澤　穆〔政治〕大八　一　二
獨逸最近の社會事情　宇都宮　鼎〔社政〕大九　一　一—二
獨逸の社會的理想　鈴木　義男〔國家〕大九　三四　六
獨逸に於ける住宅難の救濟　堀切善次郎〔社政〕大一〇　一　一
住宅難に對する獨逸の立法　我妻　榮〔法協〕大一〇　三九　三—六
獨逸農業勞働組合の傾向　岡村梧彌太〔社政〕大一〇　一　一〇
獨逸に於ける失業救濟制度　山口哲太郎〔社政〕大一〇　一　一一—一二
戰後獨逸の社會主義運動　河田　嗣郎〔經叢〕大一〇　三　五—六
エアフルト綱領改正案に對するキュノーの批評　竹内　德治〔國家〕大一〇　三五　二三
獨逸戰時經濟と社會學說　伊藤　久秋〔長彙〕大一一　一　二
伯林郊外の發達に關する研究　一〔國經〕大一一　三三　一—二
大戰後に於ける獨逸の社會運動　安井　英二〔法政〕大一一　一九　二
獨逸に於ける住宅建築に關する公共的施設　渡邊　鐵藏〔經論〕大一一　一　二
革命後の獨逸に於ける社會化の努力　〔資料〕大一一　八　二
獨逸の借家人保護借家協定所　田原　天南〔臺法〕大一一　一六　八—一一
獨逸は果して赤化するか　レーデラー〔エコ〕大一二　一　一二
獨逸の通信吏員組合　若林　米吉〔社政〕大一二　一　三七
獨逸失業者扶助制度　森田　良雄〔社政〕大一二　一　三七
獨逸の職業紹介事業統一　林　癸未夫〔社政〕大一二　一　三一
獨逸の反動運動と秘密結社　池田　林儀〔外時〕大一三　四〇　四七四

			年	卷	號
獨逸失業扶助命の改正と義務勞働	森田	良雄 [社政]	大一三	一	四七
獨逸社會主義の消長	高橋	貞樹 [マル]	大一四	二	一
獨逸最近の社會學論	米田庄太郎	[經叢]	大一三	一八	三一六
獨逸に於ける借家人保護及借家調停所	清水	鼎良 [法曹]	大一三	二	五
ドイツ社會主義運動の近況	水上鐵治郎	[社政]	大一四	一	三
一九二四年獨逸社會政策學會大會	梅田	政勝 [國經]	大一四	三八	一

商業

			年	卷	號
近世に於ける獨逸商業政策の發展を論ず	津村	秀松 [國家]	明三八	一九	一一二
漢堡に於ける市立商業大學の新設	阿部	秀助 [日經]	明四〇	一	一二
英獨取引所の改革案	一關	[國家]	明四一	三	五
獨逸の取引所に於ける取引	黒澤	龍濱 [東經]	明四三	六[一]三[一]三[一]三[一]	一六
伯林取引所に於ける外國手形取引所に就て		[國經]	明四四	一〇	四一五
佛獨取引市場の要素	柴田	藤吉 [國經]	大元	一三	一一三
獨逸の取引所制度を論ず	河津	暹 [國經]	大三	一六	二一四
獨逸の高等商業學校	渡邊	鐵藏 [國家]	大三	二八	二
獨逸に於ける銅取引所	松村	光三 [國經]	大五	二〇	五一六
獨逸戰後のタンビング政策		[資料]	大六	三	六
獨逸の世界商業市場征服策	柴田	藤吉 [商經]	大八	一	一六

			年	卷	號
伯林高等商業學校冬學期講義及演習要目	武藤	長藏 [國經]	大九	二八	一一三
獨逸大銀行の商工業に對する關係	須美	芳夫 [銀叢]	大二	一	六
獨逸ブレーメン綿花取引所の取引	柴田	藤吉 [商經]	大二	一	一一三[一]三[一]三[一]
伯林商科大學經營學研究室の組織及經營	平井泰太郎	[國經]	大二	三五	六
獨逸取引所に於ける歩合取引	青地玄三郎	[長叢]	大三	四	一一二
ライプチヒ商科大學に於ける「會計士」養成科	平井泰太郎	[國經]	大三	三七	三
ライプチヒ商科大學に於ける「稅務研究所」	平井泰太郎	[國經]	大四	三八	一
獨逸ブレキメン綿花取引所の創立及發達事情と大阪三品綿花上場問題	柴田	藤吉 [商經]	大四	一	四一〇
スツツトガードに於ける「輸出商品陳列所」	平井泰太郎	[國經]	大四	三八	五
獨逸に於ける銀行と商業との關係	串本友三郎	[銀研]	大一四	八[一]九[一]一二	六[一]七[一]二
商業政策より見たる獨逸の過去及現在	河津	暹 [經論]	大一五	四	三

植民

			年	卷	號
獨逸植民地司法制度	小山	温 [法協]	明三九	二四	六
獨逸保護領制度の梗概	美濃部達吉	[國家]	明四〇	二一	六
獨逸植民地最近の發展	高木	二郎 [國經]	明四一	五	六
獨逸殖民地發展	尾崎	虎一 [國家]	明四二	三	二
鐵血宰相と殖民政策	赤木	格堂 [外時]	明四五	一五	一七五
獨逸殖民地の財政	稻原	勝治 [外時]	大元	一六	一九二[一]一九三
獨逸の海外發展	小川鄉太郎	[外時]	大二	一七	二〇〇
獨逸南洋殖民地	廣中佐兵衛	[外時]	大二	一八	二〇九[一]二一〇
獨逸殖民研究所調査報告	神戸	正雄 [京法]	大三	一〇	二一二[一]二一五
獨逸の殖民的運動の回想	山本美越乃	[經叢]	大四	一	四
獨逸殖民地交通政策		[資料]	大五	二	七
戰後の獨逸と內地移民問題	阿部	秀助 [三學]	大六	一一	一
獨逸の殖民的發展の起源	山本美越乃	[經叢]	大六	五	三
獨領殖民地の處分問題	山本美越乃	[經叢]	大六	四	五
帝國統一後の獨逸の殖民的活動	山本美越乃	[經叢]	大七	六	四一五
獨逸殖民地の教育制度		[資料]	大七	四	一一
獨逸殖民地の全滅と其結果	蛯川	新 [外時]	大七	二七	三一六
獨逸殖民地の經濟的價值		[資料]	大八	六[一]七[一]二	
獨逸東阿佛利加會社の研究		[資料]	大一一	八	九
ノイギネア會社の研究		[資料]	大一一	八	一〇
獨逸國內殖民事業	河田	嗣郎 [經叢]	大一三	一九	三
戰時獨逸內地殖民制度の改革	伊藤	兆司 [農經]	大一四	一	二
共和獨逸の內地殖民政策に就て	伊藤	兆司 [農經]	大一五	二	一

人口

			年	卷	號
人口統計—獨逸を見よ					
人口統計—獨逸を見よ					

政治及行政

			年	卷	號
獨逸聯邦に於ける國務大臣の任免及責任	岩村	茂 [國家]	明三五	六	六六
比公晩年の經綸	有賀	長雄 [外時]	明三一	一九[一]一〇	
東京市行政と伯林市行政との比較	松浦鎭次郎	[國家]	明三一	一三	一五三
獨逸帝國と之を組織する各邦との關係	宮岡恒太郎	[國家]	明三一	一四	一六一
獨逸國權限爭議制度一般	ナードヒール	[新報]	明三五	一三	四[一]一〇[一]二二
獨逸選擧の教訓	古澤	滋 [日經]	明四四	一	四一五
獨逸帝國の財政改革と宰相辭任	瀧本	美夫 [國經]	明四一	七	三一四
獨逸宰相責任法案に就て	ラバント	[國家]	明四二	三	六
英佛獨三國に於ける君位繼承法の沿革	美濃部達吉	[志林]	明四一	一一	四[一]二[一]三
ウユテンベルヒ國の新市町村制に就て	清水	澄 [法協]	明四一	二六	七一八
テ紙事件と獨逸前宰相との關係を論じて金嶺生を殺					

獨逸皇帝の地位　占部百太郎〔三學〕大一一
獨逸大戰前の獨逸の政策　帶田民藏〔國家〕大一一
獨逸社會民主黨員の軟化論　村田治夫〔三學〕大一一
國議會論　村田治夫〔三學〕大一〇
英佛獨大都會の行政組織　野村淳治〔國家〕大一一　七
ベッチェック教授の獨逸帝國主義及び職工組合　高野岩三郎〔國家〕大一一　二
戰時に於ける獨逸の社會民主黨　森戸辰男〔志林〕大一一　六
獨逸の自治制に就て　財部靜治〔經濟〕大一一　一
獨逸の文武衝突　有賀長雄〔外時〕大一一　三
獨逸帝權衰頽の一端　有賀長雄〔外時〕大一一　三
獨逸宣言書　佐藤丑次郎〔京法〕大一一　八
平和に對する獨佛社會黨の　田中善一郎〔外時〕大一一　二
カイザー論　田中善一郎〔外時〕大一一　二
獨帝權廢二世　田中善一郎〔外時〕大一一　二
黨を論ず　佐藤丑次郎〔京法〕大一一　一
政黨論上より獨逸社會民主　北東生〔三學〕明三年　三卷　二號
獨逸政局の開展　小野塚喜平次〔法協〕大一一　七
獨逸に於ける官僚と政黨　田中善一郎〔外時〕大一一　二
獨況
獨逸に於ける最近の立憲政

超國家の組織と英獨及び日本
獨逸共產黨の政策
獨逸社會民主黨の歷史的背景
獨逸聯立內閣と政黨關係
マックス・ゾンドの現代ドイツ國家批判
獨逸政治の機構としての中央黨
ヒンデンブルグ當選
獨逸に於ける各邦と前爲政
一九二五年度海外政治立法
王侯家間の財產清算問題
事情（獨逸）

封外關係

獨帝遂に三國同盟對三國協商の均勢を破る　有賀長雄〔外時〕大一一　10
獨逸外交の無能　阿部秀助〔外時〕大一一　三六
獨逸の豫期せる所　重德來助〔外時〕大一一　三四
ベルギーランドの將來　渡邊鐵吾〔外時〕大一一　三四
獨逸外交の眞實　田中善一郎〔外時〕大一一　三四

獨逸と英國との關係考察　須藤彌吉郎〔外時〕大一一　四六
獨國信仰分野と分離運動　稻垣守克〔法治〕大一一　10　二
獨逸の政情　稻垣守克〔資料〕大一一　10　二
獨逸勞働制度の沿革　稻垣守克〔法治〕大一一　二
英獨佛三國に於ける普通選　森戸辰男〔原維〕大一一　二　一
ドイツ共產黨の現勢　〔マル〕大一一　一　一
ドイツ兩社會黨合同前史　井口孝親〔我等〕大一一　五　一〇三
ドイツ兩社會黨合同完成の前　永井亨〔社政〕大一一　一　二四
獨逸社會政策　北吟〔外時〕大一一　三七　四八
獨逸社會民主黨の產業及社　廣井辰太郎〔外時〕大一一　三六　四九
獨逸國民性と共の政治的缺陷　井口孝親〔我等〕大一一　四　六
獨逸復辟の可能性　井口孝親〔我等〕大一一　四　二
獨逸社會民主黨の新綱領　蠟山政道〔國家〕大一〇　三　三
獨逸問題の回顧と豫測　堺利彥〔社會〕大一〇　一　二
獨逸多數獨立兩社會黨合同　堺切善次郎〔社政〕大一〇　一　二
ワイマール綱領　堺切善次郎〔社政〕大一〇　一　二
獨逸社會民主黨グールツ　山口義一〔法論〕大七　一　九
獨逸社會民主黨政綱改正案　田原貞次郎〔國家〕大一〇　三五　二
獨逸の政黨　坂千秋〔社政〕大一〇　一　三
獨逸婦人の參政權　堺切善次郎〔社政〕大一〇　一　二
最近獨逸政治事情　堺切善次郎〔社政〕大一〇　一　二
獨逸

獨逸の中立違反は獨定行動　戸水寬人〔新聞〕大一一　一　九六
獨逸の潛航艇戰　末廣重雄〔外時〕大一一　三　三五
獨逸開戰の理由と英國の反駁　兒島多賀太〔國際〕大一一　メル
白耳義に於ける獨逸軍の國際法違反　立作太郎〔外時〕大一一　三　三六
獨逸外交政策の今昔　松崎蓊〔國際〕大一一　一一三
獨逸の作戰　蜷川新〔外時〕大一一　三六一
獨逸の對波蘭土政策　蜷川新〔外時〕大一一　三　三六一
瑞典の對獨露政策　蜷川新〔外時〕大一一　三　三六一
英國捕獲審檢所に於ける獨　重德來助〔外時〕大一一　三　三六一
商船德利號事件の檢定　重德來助〔外時〕大一一　三　三六一
商船の武裝解除に對する獨逸の宣言に就て　板倉卓造〔三學〕大一一　九　二一〇
現戰爭開始の際獨逸の白耳義に對する行動に就て　松波仁一郎〔新聞〕大一一　一　10六二
獨逸は破產すべき乎　ドラッケル〔國際〕大一一　一　一
獨逸の白耳義侵入事件　雪堂生〔財經〕大一一　二　二
Sur l'attitude de l'Allemagne à l'égard de la Belgique á l'Ouverture des presents hostilites.　Faille　〔國際〕大一一　一
民族主義に關する獨逸思想の變調　笑作元八〔外時〕大一一　二　三

獨逸の世界政策と講和條件　神川　彦松〔外時〕六五　一四　二六五
商船の武裝解除に對する獨逸の宣言に就て　松波仁一郎〔新聞〕六五　一　一〇八二
獨逸官憲の行へる白耳義人の移送　立　作太郎〔外時〕六六　二六　三〇四
獨逸の潛航艇戰に關する見解　木村　鋭市〔外時〕六六　二五　二九五
暴宣言の動機に就て　建部　遯吾〔外時〕六六　二五　二九二
獨逸の心事　小山精一郎〔外時〕六七　二八　三二七
獨逸の國際法違反に對する制裁　高橋　桑三〔國際〕六七　一六　六一七
獨逸の膨脹附戰爭時論　原田作之助〔國經〕六七　二五　一
經濟的獨逸人驅逐策　神川　彦松〔外時〕六七　二七　三三
獨逸の新東進政策　立　作太郎〔外時〕六七　二七　三一〇
大戰に關する獨逸の責任と普魯西一流の外交　田中萃一郎〔外時〕六七　二七　三一〇
獨逸は未だ敗れず　矢野　眞〔國國〕六八　七　七
萊因川自由航行問題　〔資料〕六八　五　二
ウクライナ經濟狀態、附獨逸ウクライナ經濟條約　〔資料〕六八　五　八
南米と獨逸との經濟的關係　原　勝郎〔外時〕六八　三〇　三五二
調印前後の獨逸　米田　實〔外時〕六八　三〇　三五七
獨丁間の領土問題　米田　實〔國際〕六八　一七　六
獨逸講和と羅馬尼　吉川潤二郎〔外時〕六八　三〇　三五四
前獨帝處罰に關する紛議　フインランド獨立蹉跌顚末　西山　重和〔外時〕六八　三〇　三五四
獨逸敗北の根本的原因　佐藤　堅司〔外時〕六八　二九　三四三
獨逸の敗戰と過激派　上原　好雄〔外時〕六八　二九　三四〇
獨逸戰敗の原因　高　丘　生〔外時〕六八　二九　三四〇
露獨動員遲速論　原　勝郎〔外時〕六八　二九　三四六
シュレスヰック問題と民族自決主義　有川　治助〔外時〕六九　三一　三七一
平和條約に伴ふ獨逸の損失　山崎　直方〔國家〕六九　三四　四一五
獨逸の平和主義運動に就て　稻垣　守克〔國家〕六一〇　三五　四
獨墺合併問題　石川　實〔外時〕六一〇　三三　三八九
獨逸側より見たる聯合國の對獨經濟政策　小島昌太郎〔經叢〕六一〇　一三　四
獨逸は亡ぶ可きか獨逸を亡ぼすべきか　稻田周之助〔外時〕六一一　三六　四一八
ルーア戰に慘敗したる獨逸　宇都宮　鼎〔外時〕六一三　三九　四二八
壓迫されつつある獨逸　奥野　七郎〔外時〕六一四　四二　五〇〇
國際管理下の獨逸共和國　宇都宮　鼎〔國知〕六一四　五　一一二
獨立社會民主黨の外交政策　稻垣　守克〔法治〕六一四　四　一
獨逸の國際貸借に就て　前田　薫一〔金融〕六一四　二　七

日本

日獨今後に於ける經濟關係に就て　參照＝日獨戰爭。
下の關係と獨逸干渉の動因　ゾルフ〔東經〕六九　八二　二〇七〇
煙山專太郎〔外時〕六一五　四三　五〇六

英國

支那

山東に於ける獨逸を見よ　黒田太久馬〔國國〕六二年　一卷　九號
山東に於ける獨逸の活動　東郷　安〔國國〕六二　一一　一二
支那に於ける獨逸の經營　山本美越乃〔京法〕六三　九　一一二
獨支間の膠洲灣契約の效力　津島　憲一〔新聞〕六四　一一〇二六
獨逸の經濟的勢力　香生　永助〔財經〕六六　四　九

佛蘭西

極東に對する三國聯合（露佛獨）の成立　有賀　長雄〔外時〕昭二四　四　四六
露獨協約案の內容　有賀　長雄〔外時〕昭四四　一四　一五九
兩帝會見後の獨露關係　有賀　長雄〔外時〕六元　一六　一八七
露獨反感の眞相　長瀨　鳳輔〔外時〕六三　一九　二三八
露獨反感の根底　蜷川　新〔外時〕六四　二一　二四八
露獨國是の絕對的衝突　箕作　元八〔外時〕六六　二五　二九六
獨逸の對露講和條件　米田　實〔外時〕六七　二七　三一六
露都に於ける露獨兩帝間の電報の發表　東　讓三郎〔國際〕六七　一六　九
露獨單獨講和の戰局に及ぼす影響　立　作太郎〔新報〕六四　二五　八
獨逸の對露外交と日英同盟　立　作太郎〔外時〕六四　二二　二六〇
獨露間のブエルケーの同盟條約　大庭　景秋〔外時〕六四　二二　二六〇
レスト・リトヴスクの講和談判と獨逸の危險　小川鄕太郎〔經叢〕六六　四　三
　門脇　龍雄〔國經〕六六　二三　三

米國

獨米間の懸案たるルシタニア號事件を論評す　米獨緊張の眞相　長瀨　鳳輔〔外時〕六六　二五　二九六
米獨間の紛議　米獨の國交斷絕　矢野　顯藏〔新聞〕六六　一　一〇二二　一二二六　一二二八
支那の帝政と米獨　獨逸の新聞政策と親獨系の米國新聞王　橘　利康〔國際〕六七　一六　四
米獨斷交と我國經濟界　米國に關する獨逸の逢算　神川　彦松〔外時〕六七　二八　三二一
米獨の經濟關係　講和問題と米獨　末廣　重雄〔外時〕六七　二八　三三六

露西亞

極東に對する三國聯合（露佛獨）の成立　有賀　長雄〔外時〕昭二四　四　四六
露獨協約案の內容　有賀　長雄〔外時〕昭四四　一四　一五九
兩帝會見後の獨露關係　有賀　長雄〔外時〕六元　一六　一八七
露獨反感の眞相　長瀨　鳳輔〔外時〕六三　一九　二三八
露獨反感の根底　蜷川　新〔外時〕六四　二一　二四八
露獨國是の絕對的衝突　箕作　元八〔外時〕六六　二五　二九六
獨逸の對露講和條件　米田　實〔外時〕六七　二七　三一六
露都に於ける露獨兩帝間の電報の發表　立　作太郎〔外時〕六七　二七　三一六
露獨單獨講和の戰局に及ぼす影響　原　勝郎〔外時〕六七　二七　三一七
獨逸の對露外交と日英同盟　蜷川　新〔外時〕六七　二七　三二三
獨露間のブエルケーの同盟條約　立　作太郎〔外時〕六七　二七　三三四
レスト・リトヴスクの講和談判と獨逸の危險　原　勝郎〔外時〕六八　二九　三四一

獨逸帝國職業及營業調査の結果　一八九五年獨國職業調査に就て　相原重政〔統集〕豐九　一
獨逸帝國統計院事務概況　一八七五年十二月一日獨逸　高橋二郎〔統集〕豐九　一
露西亞より見たる露獨條約　長谷川文八尺〔外時〕大三五　豐　五三六
獨逸新約と伊國の飛躍　高木八尺〔外時〕大三五　豐　五三六
露獨新約と伊國の飛躍　高木信威〔外時〕大三五　豐　五三六
獨逸條約影響如何　稻田周之助〔外時〕大三五　豐　五三六
露獨中立條約と國際聯盟　奥野七郎〔外時〕大三五　豐　五三六
聯盟と獨露新條約　高橋清三郎〔國勢〕大三五　六　六
獨露新條約と聯盟　高木信威〔國勢〕大三五　六　六
獨露條約と許す　高木信威〔新報〕大三五　六　八
獨露の經濟的關係　齋藤清太郎〔外時〕大10　三四　四五
最近露獨の關係　齋藤清太郎〔外時〕大10　三四　四四
英獨の對露大計畫　播磨榕吉〔外時〕大10　三四　四三
獨露協約と露西亞　播磨榕吉〔外時〕大10　三四　四二
獨露開係の將來　鷲尾正五郎〔外時〕大八　三〇　三八
對露政策に就て英佛獨の態度を評す　有川治助〔外時〕大八　三〇　三八
獨露開係に關する補論　有川勝郎〔外時〕大八　三〇　三八
一九〇五年七月の獨露親近　吉川潤二郎〔外時〕大八　三〇　三八
獨逸帝國職業及營業調査に就て　一八九五年獨國職業調査の結果　相原重政〔統集〕豐九　一　三一
獨逸の宗教統計　加藤晴比古〔統集〕豐三　一　三一
獨逸に於ける犯罪統計　岡崎文規〔經濟〕大三　三　五
獨逸と見よ　中川貞之助〔經濟〕大三　三　六
職業時に於ける獨逸の統計調査　今井榮之〔統集〕大九　一　四七〇
一九〇七年獨逸帝國職業及營業調査に就て　高野岩三郎〔統集〕大五　一　四四
一九〇七年獨逸の有業婦人　森戸辰男〔統集〕大五　一　四三
職業及營業調査に現はれたる獨逸の統計的研究　津村秀松〔國經〕大四　八　二三
獨逸の國勢及び食物自給力　小川郷太郎〔京法〕大二　八　二
獨逸統計學會　相原重政〔統集〕豐二　一　三九
一九〇九年獨逸帝國自動車調査　相原重政〔統集〕豐九　一　三〇四
狀態　相原重政〔統集〕豐九　一　三〇四
査の結果に於ける僕婢の數　花房直三郎〔統集〕豐七　一　三〇六
一八九五年獨逸帝國職業調査　高野岩三郎〔統集〕豐三　一　三〇五
一八九五年獨逸帝國職業及營業調査報告書　高野岩三郎〔統集〕豐三　一　三〇五
一八九五年に於ける獨逸帝國職業及營業調査　相原重政〔統集〕豐三　一　三〇一
營業調査職業分類　相原重政〔統集〕豐三　一　三〇一
一八九五年獨逸帝國職業及營業調査に就て　相原重政〔統集〕豐三　一　三〇一

獨逸の國際通商上に於ける優劣問題　山本美越乃〔京法〕大二　八　一一
獨逸對本邦の貿易關係と同國近事の經濟狀態　宇都宮鼎〔外時〕大三　四　四七
香港政廳と對獨貿易　森本藤吉〔外時〕大三　四　四五
英佛兩國對獨逸貿易上の關係　生島廣治郎〔國經〕大四　三　一
獨逸は賠償し得べきや乎　吉川潤二郎〔外時〕大八　三〇　三五
賠償金論附對獨關係の要論　高橋龍一〔三學〕大三　二　一七
國際債權の理論と賠償問題　堀江歸一〔三學〕大10　二〇　二五
獨逸賠償免除論　廣井辰太郎〔外時〕大10　二〇　二四
獨逸賠償問題　青木得三〔國勢〕大11　二　一七
世界經濟の復活と獨逸賠償問題　中島久萬吉〔國勢〕大11　二　八
獨逸の賠償問題と債權放消論　有川勝　大11　四五
獨逸賠償金問題　川口酉三〔商業〕大三　三　一
獨逸賠償問題の經過　池田龍藏〔三學〕大三　一七　四一
ルール占領と賠償支拂　西澤英一〔財經〕大三　10　七
獨逸賠償問題の一觀察　水町袈裟六〔外時〕大三　三七　四三
賠償委員會と夫の人物　神川彦松〔外時〕大三　元　四三、四四
タウズ委員會の獨逸賠償金問題提案　堀江歸一〔三學〕大三　二　七
獨逸の復活とタウズ委員會　堀江歸一〔ユニヨ〕大三　二　三
賠償問題解決に向ふ　西澤英一〔財經〕大三　二　九
獨逸對本邦の貿易關係　木村靜幽守之助〔外時〕大三　元　四六〇
獨逸賠償問題の將來　宇都宮鼎〔外時〕大三　四　四七
賠償問題の一段落　森本藤吉〔外時〕大三　四　四五
賠償問題と獨逸の外國貿易　生島廣治郎〔國經〕大四　三　一

獨逸賠償問題研究
獨逸の賠償問題と中心とする歐洲の過去及現在　田村幸策〔保評〕大三　一九　一
賠償問題に現はれたる帝國主義　松下芳男〔法治〕大三　三　四六
前十年紀中萬國市場に於ける獨逸と英佛兩國との競爭　シュクレー〔國家〕豐三　四　三
獨逸帝國外國貿易統計調査法　相原重政〔統集〕豐三　一　三〇
獨逸製造品の輸出方法　關一〔國經〕明元　一　四
クント「獨逸港外貿易發展策につきて」（譯）　河津遼〔日經〕明四〇　一　一〇
輸出貿易に對する獨逸の鹽　渡邊本太郎〔國經〕明四　七　五
英國商圈の國際通商上に於ける優劣問題　山本美越乃〔京法〕大二　八　一一
獨逸對本邦の貿易關係と同國近事の經濟狀態　宇都宮鼎〔外時〕大三　四　四七
香港政廳と對獨貿易　森本藤吉〔外時〕大三　四　四五
英佛兩國對獨逸貿易上の關係　生島廣治郎〔國經〕大四　三　一

獨逸に於ける自由法說に付き
ヤコブ・グリムと獨逸法
英佛獨三國に於ける君位繼承法の沿革
ベーゲンス「獨逸特許法案」評論」（譯）
現獨逸皇帝陛下（一八八年―一九一三年）に於ける獨逸帝國立法事業
獨逸市民法と佛英米
獨逸滅遏動鎭壓令
獨逸戰後の土地法
獨逸の海底電線抵當法
獨逸增價法正文
英佛獨普各國及北米合衆國比較憲法の俗話
獨逸帝國憲法講義
獨逸に於ける憲法に關する近事
獨逸帝國憲法の改正に就て
獨逸國新憲法
獨逸新憲法の三特色
獨逸新憲法の成立
英佛獨三國に於ける君位繼承法の沿革
ベーゲンス「獨逸特許法案」評論」（譯）
現獨逸皇帝陛下（一八八年―一九一三年）に於ける獨逸帝國立法事業
獨逸市民法と佛英米
獨逸滅遏動鎭壓令
獨逸戰後の土地法
獨逸の海底電線抵當法
獨逸增價法正文
英佛獨普各國及北米合衆國比較憲法の俗話
獨逸帝國憲法講義
獨逸に於ける憲法に關する近事
獨逸帝國憲法の改正に就て
獨逸國新憲法
獨逸新憲法の三特色
獨逸新憲法の成立

英獨法制の對象と時局感想　遊佐慶夫〔新聞〕大四・一　1001
ヤコブ・グリムと獨逸法　寺田四郎〔國學〕大三・二　五
獨逸に於ける自由法說に付き　三浦信三〔法協〕大八・三　三
獨逸に於ける英獨判例の差異　水口吉藏〔新聞〕大二・一　大正二・四・五
獨逸に於ける私法學界の趨向　石坂音四郎〔京法〕明四二・三　大七
獨逸近時に於ける私法學界　岡村司〔内外〕明三五・二・三　一
獨逸法理論新思潮　松波仁一郎〔國家〕明三四・三・五　二七
英獨法制研究に就て　久保無二雄〔志林〕明三三・二・三　二三
獨逸大學に於ける法政學科　宮本平九郎〔明法〕明三三・一・一　一
英佛獨三國の權利思想　穗積陳重〔法協〕明三三・七・六　六
英獨佛法律思想の基礎　宮崎道三郎〔法協〕明三三・七・七　大正二・六
未だ述べず　羅馬法の獨逸に傳來せし始末　穗積陳重〔法協〕明二七・二・八　九
英佛獨の法學比較論　堀江歸一〔三學〕大五年一〇卷　三號
戰前の英獨輸出貿易比較研究　松崎壽〔國際〕大六・五　四
大戰前に於ける英獨兩國の輸出貿易　松崎壽〔商經〕大八・一　二六
賠償問題と獨逸の外國貿易　生島廣治郎〔國經〕大四・元　一一
獨逸外國貿易の近狀　藤本幸太郎〔商業〕大五・三　一

ヤコブ・グリムと獨逸法　寺田四郎〔國學〕大三・二　五
獨逸に於ける自由法說に付き　三浦信三〔法協〕大八・三　三
獨逸に於ける英獨判例の差異　水口吉藏〔新聞〕大二・一　大正二・四・五
獨逸に於ける私法學界の趨向　石坂音四郎〔京法〕明四二・三　大七
獨逸近時に於ける私法學界　岡村司〔内外〕明三五・二・三　一
獨逸法理論新思潮　松波仁一郎〔國家〕明三四・三・五　二七
英獨法制研究に就て　久保無二雄〔志林〕明三三・二・三　二三
獨逸大學に於ける法政學科　宮本平九郎〔明法〕明三三・一・一　一
英獨佛三國の權利思想　穗積陳重〔法協〕明三三・七・六　六
英獨佛法律思想の基礎　宮崎道三郎〔法協〕明三三・七・七　大正二・六
未だ述べず　羅馬法の獨逸に傳來せし始末　穗積陳重〔法協〕明二七・二・八　九
英佛獨の法學比較論　堀江歸一〔三學〕大五年一〇卷　三號
戰前の英獨輸出貿易比較研究　松崎壽〔國際〕大六・五　四
大戰前に於ける英獨兩國の輸出貿易　松崎壽〔商經〕大八・一　二六
賠償問題と獨逸の外國貿易　生島廣治郎〔國經〕大四・元　一一
獨逸外國貿易の近狀　藤本幸太郎〔商業〕大五・三　一

ヴィクター「獨逸の法律と法律家」　堀江歸一郎〔講義〕大六・二　千八
平和條約實施の爲にする獨逸の國內法令に就て　末弘嚴太郎〔國際〕大10・一〇　一
現代獨逸に於ける法律哲學の諸傾向通覽　杉山茂顯〔法協〕大二四・四　八
立法學に於ける獨逸思想の孤立　竹井廣〔法曹〕大一・一　第一編第一二一
一九一五年度海外政治立法事情（獨逸）　宮澤俊義〔國家〕大五・四〇　一
英獨市民條例　高橋一郎〔統集〕明四八・一　四一
英佛獨埃比較官吏法（殊に登俸法）　末岡精一〔法協〕明四〇・一　第一編第四三
大權を以て租稅の徵收を免除することを得るや否やに關する獨逸國法學者の論爭　木村喜德郎〔法協〕明三一・六　六
行政法に關する獨逸近著概要　美濃部達吉〔國家〕明四五・一〇　八
獨逸の新結社法に就て　佐々木惣一〔京法〕明四三・四　二
獨逸帝國宰相責任法案に就て　ラバンド〔國家〕明四三・三　六

獨逸新憲法の政治及經濟的意義　奧野彥六〔社政〕大九・一一
獨逸新憲法概觀　小林俊三〔綜協〕大10・三　千四
新獨逸共和國憲法に就て（講演）　上杉慎吉〔法協〕大10・三　七
獨逸新憲法に就て　美濃部達吉〔國家〕大二・三　二八
獨逸新憲法に表はれたる新法律思想　大谷義隆〔法治〕大二・二　10
ドイツ共和國憲法の成立　高橋信司〔同論〕大八・三　一
國家賠償責任制度の一考察（獨逸憲法第一三一條を中心として）　黒田覺〔法叢〕大五・二　一六

民法

獨逸民法草案對比翻譯　〔法記〕明二二・一　第一編第一七
獨逸民法上占有權の法理を論ず　バーチェル　〔法協〕明三二・一　一
獨逸民法上の遲滯を論ず　ザーキル　〔法協〕明三二・七　五
獨逸新民法と勞働者　牧野英一　〔明法〕明四二・一　一
獨逸民法に於ける不法行爲の觀念　ミュラー　〔內外〕明三五・一　二
獨逸民法に於ける論說の摘要　ノイマン　〔新報〕明三二・一一　一一・二
獨逸民法に於ける錯誤の意

獨逸の株式會社論　松波仁一郎〔法協〕　昭三　四　五
獨逸會社法に於ける株主總會の決議取消の訴　毛戸勝元〔京法〕　昭三　四　一一四
獨逸手形法（譯）　〔法記〕　昭三　10　101
獨逸の小作法　澤村康〔國家〕　大四　九　二一四
獨逸民法第一一八條に就て　坂倉勝朝〔法叢〕　大六　四　一
獨逸民法の婚姻豫約制度　勝村東〔民雜〕　大四　三　二
獨逸信託業法の遡及的傾向　竹井巖〔法新〕　昭3　一　三四一
トイツに於ける地上權法の改正　栗生武夫〔法叢〕　大五　三　三
獨逸固有法に於けるGewereの觀念　石田文次郎〔法叢〕　大五　三　四一
商法
獨逸商法改正草案摘要　リング〔法協〕　昭九　四　11
獨逸手形法（譯）　〔法記〕　昭三　10　101
獨逸の準法法　松波仁一郎〔明法〕　昭三　一　五
獨逸帝國保險契約法草案　ペーレンント〔內外〕　昭七　三　四一五
獨逸保險契約法草案　高根義人〔保雜〕　昭七　九　九
獨逸の有限責任會社に就て　山崎覺次郎〔法協〕　昭四　三　四
獨逸小切手法案　山口弘一〔國家〕　昭四　二　四
獨逸簡易振經證書法草案　竹田省〔京法〕　昭四　三　四一四
新獨逸小切手法に就て　毛戸勝元〔京法〕　昭四　三　九
獨逸小切手法一班　岡野敬次郎〔新報〕　昭四　八　11
英法學者の見たる新獨逸小切手法　上杉慎吉〔法協〕　昭四　三　一
獨逸取引所法の改正　戸田海市〔京法〕　昭四　四　一
獨逸保險契約法　毛戸勝元〔京法〕　昭四　四　一一四
獨逸會社論　松波仁一郎〔法協〕　昭三　七　五

獨逸に於ける思潮の歷史　岡田庄作〔刑雜〕　大八　四　三
獨逸草案の定める文書僞造罪　大場茂馬〔國家〕　大七　六　六
獨逸新刑法草案に就て　松岡林平〔法記〕　大10　三　四
獨逸非和保護法　西本辰之助〔法研〕　大二　一　三
獨逸刑法改正一九一九年草案正文　泉二新熊〔新報〕　大二　三　八
獨伊刑法改正案の對照　小野清一郎〔志林〕　大二　三　二一
ドイツ・オーストリアの刑法統一問題　花村美樹〔明司〕　大二　一　一三
獨逸刑法草案に現はれたる威化及保安の制度　小野清一郎〔法曹〕　大二　一　四
罰金に關するドイツの新立法に就て　小野清一郎〔志林〕　大二　一　二
ドイツに於ける刑法改正事業の研究　山岡萬之助〔正義〕　大二　一　三
若干別刑論と獨逸新刑法草案　瀧澤幾明〔正義〕　大二　一　三
最近獨逸刑法の變更　安平政吉〔法曹〕　大二　二　三
獨逸刑法一九二五年草案の成立　大塚仲二〔志林〕　大二　四　七
新獨逸刑法草案について　藥師寺志光〔法協〕　大二　四　四
獨逸刑法一九二五年草案正文　〔志林〕　大二　四　六
獨逸新刑法草案に就て　守屋貫太郎〔法曹〕　大二　四　七

獨逸帝國保險法草案に就て　ピンゾ　大八
獨逸新保險契約法　竹田省〔京法〕　昭四　五　九
獨逸商法に關する近著一班　松本烝治〔法協〕　昭三　五　一
獨逸帝國保險業法（譯）　〔保雜〕　昭四　四　五
獨逸の有限責任會社と株式會社の比較並に其の設立に就て　渡邊藏〔法協〕　大六　三　四
獨逸商事法概説の發達　寺田四郎〔國家〕　大五　三　一
第三者の保護と獨逸商法第一一六一條　金藏〔會計〕　大三　一　一
獨逸帝國海商法（譯）　〔新報〕　大八　一　一
刑法
獨逸に於け假出獄　小山松吉〔法記〕　昭元　五　四
獨逸刑法論　リスト〔法協〕　昭二　六　二10
獨逸國に於ける「無罪の捕者に關する損害賠償法」の制定　副島義一〔新報〕　昭七　一　八
刑行法改正に關する獨逸社會民主黨の議に付て　泉二新熊〔志林〕　昭元　八　三
獨逸刑法草案に對する獨逸諸學者の批評　鳩山秀夫〔法協〕　昭二　六　二六
獨逸刑法草案（現行法對比）　古川五郎〔刑雜〕　昭二　一0　二一
不作爲の殺人罪に關する英獨法の比較　菱谷精亭〔刑雜〕　昭二　三　三

民事訴訟法

近頃の獨逸法曹界 竹井 仲 [辯護協] 大二四 一
獨逸辯護士法（譯） 飯島 榮 [法記] 大二 一
獨逸の辯護士界 川田 鹽 [辯護協] 大三 二
獨逸に於ける辯護士の私法上の責任に就て 末川 博 [法叢] 大八 一
英獨刑事司法廷外觀 飯島 榮 [法記] 大九 二
普國司法官採用試驗規則 栗田 重 [法協] 大六 三
獨逸の參審裁判所 岡田 庄作 [刑訴] 明四五 四
獨墺行政裁判制度概要 渡邊 廉吉 [國家] 明四四 三
獨逸の行政裁判制度 渡邊 部達吉 [國家] 明四四 三
法曹大會第一會」（譯） 吾孫子 勝 [法曹] 大二 三
獨逸の行政裁判制度 美濃 部達吉 [國家] 明四四 三
獨墺行政裁判制度概要 渡邊 廉吉 [國家] 明四四 三
獨逸の參審裁判所 岡田 庄作 [刑訴] 明四五 四
普國司法官採用試驗規則 栗田 重 [法協] 大六 三
英獨刑事司法廷外觀 飯島 榮 [法記] 大九 二
獨逸に於ける辯護士の私法上の責任に就て 末川 博 [法叢] 大八 一
獨逸の辯護士界 川田 鹽 [辯護協] 大三 二
獨逸辯護士法（譯） 竹井 仲 [辯護協] 大四 二

ベーリング「獨逸帝國刑事訴訟法の既往（一八七九―一九一〇）」（譯） 平島 及平 [法記] 明四四 一
ヲルスハッゼン「帝國裁判所刑事部の訴訟延滯に就て」（譯） 相原 重政 [統集] 明四四 一
法曹大會第一會」（譯） 吾孫子 勝 [法曹] 大二 三
旦る伯林所に於ける獨逸二十八日より同三十日に ノイマン「一八六〇年八月
獨逸司法事務問答 小管三保松 [法記] 明四四 二
獨逸國司法實務談 小管三保松 [法記] 明四五 10
獨逸判事休職法案 [法記] 明四五 九
獨逸四大法書 ス ミ ッ [新報] 明四二 八
獨逸國辯護士制度 當 融 [法記] 明四六 二
獨逸國司法參錄官 應 當 融 [法記] 明四五 二
獨逸新刑法草案評論 守安富太郎 [法曹] 大二 四
ドイツ刑法協會の成立 大塚 鄭二 [志林] 大二 三

獨逸民事訴訟法の運用
獨逸民事訴訟法改正に關する命令（譯）
獨逸民事訴訟法の改正
獨逸民事訴訟法改正令
獨逸業務監視法（和議法の改正）
獨逸民事訴訟手續法改正令と英太利民事訴訟法
獨逸に於ける離婚事件審判の實況
ドイツに於ける民事訴訟法學の不振とその原因
獨逸民事訴訟法改正令に於ける簡易訴訟手續

刑事訴訟

獨逸帝國刑事裁判統計調査法
ヲルスハッゼン「帝國裁判所刑事部の訴訟延滯に就て」（譯）
ベーリング「獨逸帝國刑事訴訟法の既往（一八七九―一九一〇）」（譯）

寺田 四郎 [新聞] 大二 三年 1卷
菊井 維大 [法協] 大二 四
齋藤常三郎 [法叢] 大二 二 一三
上田 操 [法曹] 大二 二 二一〇
齋藤常三郎 [法叢] 大二 一 1
脇坂 雄治 [法曹] 大二 一 九
上田 操 [法曹] 大二 一 一
牛村 武 [法曹] 大二 一 10
今村恭太郎 [新聞] 大二 一 二五四
[正義] 大二 一 三
相原 重政 [統集] 明四四 一 二五
平島 及平 [法記] 明四四 一 二五

中尾 芳助 [法記] 明四五 一 一
中川孝太郎 [法協] 明四五 三 七
谷田 三郎 [刑訴] 明四五 二 七
岡田 作 [刑訴] 大二 四 一〇
泉二 新熊 [法記] 大二 三 五
阿部文二郎 [法記] 大二 四 四
武田鬼十郎 [新聞] 大二 一 九六
小野清一郎 [志林] 大二 四 六八
森山武市郎 [法曹] 大二 二 四
清水鼎良 [法曹] 大二 二 六

民事訴訟法

正義の觀念と獨逸訴訟手續 寺田 四郎 [國家] 大二 七
獨逸民事訴訟制度の實況 横田 秀雄 [法記] 明四四 二
獨逸民事訴訟法の由來及推移 楢本 朗造 [京法] 明四五 四
獨逸に於ける民事訴訟法改正の氣運 今村 信行 [新聞] 明四五 一 二六
獨逸及墺太利民事訴訟法 宍戸 深藏 [法記] 明四五 一 一四
獨逸に於ける民事訴訟法第七三〇條及び第七五四條に就て（譯） 相原 貞夫郎 [法記] 明四五 二 二九
獨逸民訴と我民訴との差異 相原 貞夫郎 [法記] 明四五 三 二六
獨逸強制競賣及び強制管理法（譯） 相原 貞夫郎 [法記] 明四五 三 三三
獨逸國破產法（譯） 平島 及平 [法記] 明四五 二 二一
獨逸に於ける民事訴訟法第一辯論期日 スタイン [法記] 明四五 10 10五
獨逸新民事訴訟法に於ける取扱に就て」（譯） 平島 及平 [法記] 明四五 10 10五
獨逸民事訴訟法第五〇四條（我第四一八條及第四二九條）の解釋 ラ イ ン ケ [明法] 明四四 一 一六
ワイスレル「一八九八年五月十七日發布任意裁判權限事件（非訟事件）に關する獨逸帝國法律註釋」（譯） 平島 及平 [法記] 明四五 二 二一
獨逸國破產法（譯） 相原 貞夫郎 [法記] 明四五 三 三三
獨逸強制競賣及び強制管理法（譯） 相原 貞夫郎 [法記] 明四五 三 三三
獨逸民訴と我民訴との差異 相原 貞夫郎 [法記] 明四五 三 二六
獨逸に於ける民事訴訟法改正の主要點の一たる裁判所構成問題に對する草案規定の理由 ドイツ新刑事訴訟法草案について 獨逸に於ける刑事裁判制度の一大變革 獨逸刑事裁判手續に對する新立法 今村 信行 [新聞] 大二 一 二六
獨逸民事訴訟法の運用 寺田 四郎 [新聞] 大二 三年 1卷
獨逸民事訴訟法改正に關する命令（譯） 菊井 維大 [法協] 大二 四
獨逸民事訴訟法の改正 齋藤常三郎 [法叢] 大二 二 一三
獨逸民事訴訟法改正令 上田 操 [法曹] 大二 二 二一〇
獨逸業務監視法（和議法の改正） 齋藤常三郎 [法叢] 大二 一 1
獨逸民事訴訟手續法改正令と英太利民事訴訟法 脇坂 雄治 [法曹] 大二 一 九
獨逸に於ける離婚事件審判の實況 上田 操 [法曹] 大二 一 一
ドイツに於ける民事訴訟法學の不振とその原因 牛村 武 [法曹] 大二 一 10
獨逸民事訴訟法改正令に於ける簡易訴訟手續 今村恭太郎 [新聞] 大二 一 二五四
[正義] 大二 一 三
相原 重政 [統集] 明四四 一 二五
平島 及平 [法記] 明四四 一 二五

獨逸帝國刑事裁判統計調査法
ヲルスハッゼン「帝國裁判所刑事部の訴訟延滯に就て」（譯）
ベーリング「獨逸帝國刑事訴訟法の既往（一八七九―一九一〇）」（譯）

獨逸刑事訴訟法草案に就て 小野清一郎 [志林] 大二 四 六八
獨逸に於ける刑事裁判制度の一大變革 森山武市郎 [法曹] 大二 二 四
獨逸刑事裁判手續に對する新立法 清水鼎良 [法曹] 大二 二 六
獨逸に於ける刑事裁判制度 牛村 武 [法曹] 大二 一 10
獨逸に於ける刑事訴訟法改正の正運動の經過並に其改正 獨逸に於ける刑事裁判制度 阿部文二郎 [法記] 大二 四 四
獨逸せる幼年裁判手續 武田鬼十郎 [新聞] 大二 一 九六
獨逸刑事訴訟法草案に規定せる幼年裁判所の實況に就て 泉二 新熊 [法記] 大二 三 五
獨逸の陪審裁判所 岡田 作 [刑訴] 大二 四 一〇
獨逸の刑事統計に就て 谷田 三郎 [刑訴] 明四五 二 七
獨逸國の立法問題 豐島 直通 [法記] 明四五 二 九
刑事訴追の强制に關する獨逸司法官會決議の要領 中川孝太郎 [法協] 明四五 三 七
獨逸民事訴訟法の運用 中尾 芳助 [法記] 明四五 一 一

獨逸刑事裁判の改革　宇都宮鼎〔社政〕大10・一　四九
獨逸少年裁判所法　矢部貞治〔法協〕大10・一　五一
日本新刑事訴訟法と獨逸新條規定に就て　牧野英一〔法協〕大10・一　一

【勞働】

新獨逸に於ける勞働立法の趨勢　末川博〔法叢〕大九・四　六
勞働協約（團體交渉）に關する獨逸法制　安井英二〔法政〕大10・八　10
戰後に於ける獨逸の社會的立法問題　宇都宮鼎〔社政〕大10・一　四九
勞働協約に關する獨逸の立法並に草案正文　平野義太郎〔法協〕大11・四　1
獨逸に於ける勞働法規の效達　ジンツアイル〔社政〕大11・一　一七
獨逸に於ける勞働立法の效達　中丸叶〔經濟〕大11・七　三
ドイツ勞働協約法の改正　平野義太郎〔法協〕大11・四　六
勞働爭議手續に關する獨逸の新立法　安本政吉〔法曹〕大11・二　二
ドイツに於ける勞働立法の史的發展に就て　森山武市郎〔法曹〕大11・二　四七
獨逸に於ける勞働爭議調停制度新令　中村貳〔新聞〕大11・一　三九
獨逸に於ける勞働爭議調停令　栗本一男〔新聞〕大11・一　三九
獨逸に於ける勞働爭議調停令の研究　上坂酉三〔商事〕大11・二　六

【問屋】 參照＝問屋營業。

獨逸に於ける社會政策的立法の發達に就いて　伊藤清〔經評〕大14・一　一
ヌースバウムの「獨逸新經濟法」の一節（勞働法に就て）　上田操〔法曹〕大13・四　1
戰時國際法に對する日獨觀念の差異　篠田治策〔國際〕大14・一　一
最近の獨逸國際法學者　鵜川新〔國際〕大14・一　四
獨逸思想と陸戰法規　立作太郎〔國家〕大14・一　九八・10
國際法に現はれたる獨逸思想及其由來　立作太郎〔外時〕大14・三　三五

【勞働及び勞働階級】 參照＝獨逸と見よ

【勞働階級】 參照＝獨逸と見よ

【トインビー】 (Arnold Toynbee, 1852-83)

アーノルド・トインビーと經濟學　武藤長藏〔經濟〕大9・四　三
アーノルド・トインビーの遺稿　武藤長藏〔國家〕大9・三　三
アーノルド・トインビーと米、英、佛、獨の經濟學　武藤長藏〔商經〕大9・一　七
アーノルド・トインビーの性行　武藤長藏〔國家〕大9・三・一一　一
アーノルド・トインビーに感化を與へし人々　武藤長藏〔商經〕大9・七　一　九

【トインビー】 (Joseph Toynbee, 1815-1866)

アーノルド・トインビーの父ジョセフ・トインビー　武藤長藏〔商經〕大9・一　五
問屋介入の法律關係に就て　太田孝之助〔新聞〕大2・一　二三
太田辯護士所論問屋介入の法律關係に就てを駁す　烏海一男〔新聞〕大2・一　二九

【問屋營業】

チユルゴーのギルド解放令と水野越前守の問屋組合禁止令　瀧本誠一〔三學〕大四年　二
委託販賣商の權限に關する商慣習　水野錬太郎〔法協〕大10　10
問屋と委託者との關係に就て　竹田省〔法學〕大10・五　三
問屋の介入を論ず　松本烝治〔新報〕大10・二　四
問屋の介入權の行使と賣買の規定　松本烝治〔新報〕大10・三　七
委託賣買の取扱に關する仲買人の權限に就て　田中太七郎〔日經〕大二・二四　五
問屋業者は賣買雙方の委託を受くる能はざる乎　森作太郎〔新聞〕大五・一　一〇七
問屋が委託に基き爲したる賣買の效果　小栗樫國道〔法學〕大九・三　二五
指値（Limitum）　松永義雄〔經協〕大二・三五　二
問屋の報酬請求權　藤原卓藏〔新聞〕大10・一　一八九
問屋は委託者の雙方より報酬を受くることを得るか　藤原卓藏〔新聞〕大10・一　一五10

本邦の鎔業と銅の前途　【銅】
本邦銅の産額に就て　松村　光三　〔國經〕　大正五　三
獨逸に於ける銅取引　松村　光三　〔國經〕　大正五　三
本邦輸入の鉛と銅　加藤　銀藏　〔統集〕　昭四年　一四
加藤　銀藏　〔財經〕　大正六　八
瀧　相原　重政　〔統集〕　昭四年　一四
相原　重政　〔統集〕　昭四年　一四
松村　光三　〔國經〕　大正五　三
加藤　銀藏　〔統集〕　大正五　三
瀧　

謝花學士の登記請求權公權說に就て　我妻　武雄【新聞】大七　年　一四二　號
假登記を論ず　横田　秀雄【國家】大七　卷　一一四　頁
假登記したる權利の法律上の性質　水口　吉隆【國家】大七　六　七
不動產登記の確實の保障に就て　齋藤　巖【新聞】大七　一　一四七
臺灣の登記制度　玲瓏　學人【臺法】大八　一三　三
登記請求權の性質　有賀　成可【法政】大九　一七　一三
賣買豫約權と假登記の效果　白旗　文一【新聞】大九　一　一六九八
登記簿公信主義と臺灣　岩澤彰二郎【臺法】大一〇　一五　六一八
登記省略の契約と其效果　三宅　高時【新報】大一〇　三一　六
實體事實に吻合せざる登記の效力を論ず　横田　秀雄【評論】大一〇　一〇　八
假登記の效力に付て　我妻　榮【法協】大一一　四〇　六
不動產假登記の本質を論ず　横田　俊夫【朝司】大一一　一　四
未登記不動產を讓受けたる者か保存登記を爲したる場合の效力に就て　小林榮太郎【新聞】大一一　一　一九四八、一九四九　八
登記請求權の存否に就て　小松　博美【朝司】大一二　二　二
抵當權設定登記後の所有權移轉の假登記　横田長治郎【法政】大二　二〇　七
臺灣特例大正十一年勅令第四〇七號第八條論　姉歯　松平【臺法】大一三　一八　八
特例勅令第八條に對する一愚見　岩澤彰二郎【臺法】大一三　一八　八
登記の效力に對する疑義　小野　久【辯協】大一三　二八　六
不動產讀實と假登記の關係　藤田　尹【新聞】大一四　一　二四六四
大正十一年勅令第四〇七號第八條の適用範圍　姉歯　松平【臺法】大一四　一九　二
宗中財產の査定と登記　多田　吉鐘【朝司】大一四　四　一三
假登記の效力に就て　佐伯　直【臺法】大一五　二〇　三

【東京】 參照＝震災（大正十二年度）

明治二十八年の東京　横山　雅男【統集】昭二〇　一　一八六、一八七
東京府統計書を評す　水科七三郎【統集】昭二五　一　二五六
東京灣口の砲臺と國際法　蜷川　新【外時】昭二六　六　六六
パナマ運河と東京　田尻稻次郎【日經】昭四一　三　八
東京築港を論ず　松尾小三郎【東經】昭四五　八六、八七、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二二、二二三、二二四、二二五、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、二三一、二三二、二三三、二三四、二三五、二三六、二三七、二三八、二三九、二四〇、二四一、二四二、二四三、二四四、二四五、二四六、二四七、二四八、二四九、二五〇、二五一、二五二、二五三、二五四、二五五、二五六、二五七、二五八、二五九、二六〇、二六一、二六二、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、二六九、二七〇、二七一、二七二、二七三、二七四、二七五、二七六、二七七、二七八、二七九、二八〇、二八一、二八二、二八三、二八四、二八五、二八六、二八七、二八八、二八九、二九〇、二九一、二九二、二九三、二九四、二九五、二九六、二九七、二九八、二九九、三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五〇、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一一、四一二、四一三、四一四、四一五、四一六、四一七、四一八、四一九、四二〇、四二一、四二二、四二三、四二四、四二五、四二六、四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五一、四五二、四五三、四五四、四五五、四五六、四五七、四五八、四五九、四六〇、四六一、四六二、四六三、四六四、四六五、四六六、四六七、四六八、四六九、四七〇、四七一、四七二、四七三、四七四、四七五、四七六、四七七、四七八、四七九、四八〇、四八一、四八二、四八三、四八四、四八五、四八六、四八七、四八八、四八九、四九〇、四九一、四九二、四九三、四九四、四九五、四九六、四九七、四九八、四九九、五〇〇、五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五、五〇六、五〇七、五〇八、五〇九、五一〇、五一一、五一二、五一三、五一四、五一五、五一六、五一七、五一八、五一九、五二〇、五二一、五二二、五二三、五二四、五二五、五二六、五二七、五二八、五二九、五三〇、五三一、五三二、五三三、五三四、五三五、五三六、五三七、五三八、五三九、五四〇、五四一、五四二、五四三、五四四、五四五、五四六、五四七、五四八、五四九、五五〇、五五一、五五二、五五三、五五四、五五五、五五六、五五七、五五八、五五九、五六〇、五六一、五六二、五六三、五六四、五六五、五六六、五六七、五六八、五六九、五七〇、五七一、五七二、五七三、五七四、五七五、五七六、五七七、五七八、五七九、五八〇、五八一、五八二、五八三、五八四、五八五、五八六、五八七、五八八、五八九、五九〇、五九一、五九二、五九三、五九四、五九五、五九六、五九七、五九八、五九九、六〇〇、六〇一、六〇二、六〇三、六〇四、六〇五、六〇六、六〇七、六〇八、六〇九、六一〇、六一一、六一二、六一三、六一四、六一五、六一六、六一七、六一八、六一九、六二〇、六二一、六二二、六二三、六二四、六二五、六二六、六二七、六二八、六二九、六三〇、六三一、六三二、六三三、六三四、六三五、六三六、六三七、六三八、六三九、六四〇、六四一、六四二、六四三、六四四、六四五、六四六、六四七、六四八、六四九、六五〇、六五一、六五二、六五三、六五四、六五五、六五六、六五七、六五八、六五九、六六〇、六六一、六六二、六六三、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七一、六七二、六七三、六七四、六七五、六七六、六七七、六七八、六七九、六八〇、六八一、六八二、六八三、六八四、六八五、六八六、六八七、六八八、六八九、六九〇、六九一、六九二、六九三、六九四、六九五、六九六、六九七、六九八、六九九、七〇〇、七〇一、七〇二、七〇三、七〇四、七〇五、七〇六、七〇七、七〇八、七〇九、七一〇、七一一、七一二、七一三、七一四、七一五、七一六、七一七、七一八、七一九、七二〇、七二一、七二二、七二三、七二四、七二五、七二六、七二七、七二八、七二九、七三〇、七三一、七三二、七三三、七三四、七三五、七三六、七三七、七三八、七三九、七四〇、七四一、七四二、七四三、七四四、七四五、七四六、七四七、七四八、七四九、七五〇、七五一、七五二、七五三、七五四、七五五、七五六、七五七、七五八、七五九、七六〇、七六一、七六二、七六三、七六四、七六五、七六六、七六七、七六八、七六九、七七〇、七七一、七七二、七七三、七七四、七七五、七七六、七七七、七七八、七七九、七八〇、七八一、七八二、七八三、七八四、七八五、七八六、七八七、七八八、七八九、七九〇、七九一、七九二、七九三、七九四、七九五、七九六、七九七、七九八、七九九、八〇〇、八〇一、八〇二、八〇三、八〇四、八〇五、八〇六、八〇七、八〇八、八〇九、八一〇、八一一、八一二、八一三、八一四、八一五、八一六、八一七、八一八、八一九、八二〇、八二一、八二二、八二三、八二四、八二五、八二六、八二七、八二八、八二九、八三〇、八三一、八三二、八三三、八三四、八三五、八三六、八三七、八三八、八三九、八四〇、八四一、八四二、八四三、八四四、八四五、八四六、八四七、八四八、八四九、八五〇、八五一、八五二、八五三、八五四、八五五、八五六、八五七、八五八、八五九、八六〇、八六一、八六二、八六三、八六四、八六五、八六六、八六七、八六八、八六九、八七〇、八七一、八七二、八七三、八七四、八七五、八七六、八七七、八七八、八七九、八八〇、八八一、八八二、八八三、八八四、八八五、八八六、八八七、八八八、八八九、八九〇、八九一、八九二、八九三、八九四、八九五、八九六、八九七、八九八、八九九、九〇〇、九〇一、九〇二、九〇三、九〇四、九〇五、九〇六、九〇七、九〇八、九〇九、九一〇、九一一、九一二、九一三、九一四、九一五、九一六、九一七、九一八、九一九、九二〇、九二一、九二二、九二三、九二四、九二五、九二六、九二七、九二八、九二九、九三〇、九三一、九三二、九三三、九三四、九三五、九三六、九三七、九三八、九三九、九四〇、九四一、九四二、九四三、九四四、九四五、九四六、九四七、九四八、九四九、九五〇、九五一、九五二、九五三、九五四、九五五、九五六、九五七、九五八、九五九、九六〇、九六一、九六二、九六三、九六四、九六五、九六六、九六七、九六八、九六九、九七〇、九七一、九七二、九七三、九七四、九七五、九七六、九七七、九七八、九七九、九八〇、九八一、九八二、九八三、九八四、九八五、九八六、九八七、九八八、九八九、九九〇、九九一、九九二、九九三、九九四、九九五、九九六、九九七、九九八、九九九、一〇〇〇、一〇〇一、一〇〇二、一〇〇三、一〇〇四、一〇〇五、一〇〇六、一〇〇七、一〇〇八、一〇〇九、一〇一〇、一〇一一、一〇一二、一〇一三、一〇一四、一〇一五、一〇一六、一〇一七、一〇一八、一〇一九、一〇二〇、一〇二一、一〇二二、一〇二三、一〇二四、一〇二五、一〇二六、一〇二七、一〇二八、一〇二九、一〇三〇、一〇三一、一〇三二、一〇三三、一〇三四、一〇三五、一〇三六、一〇三七、一〇三八、一〇三九、一〇四〇、一〇四一、一〇四二、一〇四三、一〇四四、一〇四五、一〇四六、一〇四七、一〇四八、一〇四九、一〇五〇、一〇五一、一〇五二、一〇五三、一〇五四、一〇五五、一〇五六、一〇五七、一〇五八、一〇五九、一〇六〇、一〇六一、一〇六二、一〇六三、一〇六四、一〇六五、一〇六六、一〇六七、一〇六八、一〇六九、一〇七〇、一〇七一、一〇七二、一〇七三、一〇七四、一〇七五、一〇七六、一〇七七、一〇七八、一〇七九、一〇八〇、一〇八一、一〇八二、一〇八三、一〇八四、一〇八五、一〇八六、一〇八七、一〇八八、一〇八九、一〇九〇、一〇九一、一〇九二、一〇九三、一〇九四、一〇九五、一〇九六、一〇九七、一〇九八、一〇九九、一一〇〇、一一〇一、一一〇二、一一〇三、一一〇四、一一〇五、一一〇六、一一〇七、一一〇八、一一〇九、一一一〇、一一一一、一一一二、一一一三、一一一四、一一一五、一一一六、一一一七、一一一八、一一一九、一一二〇、一一二一、一一二二、一一二三、一一二四、一一二五、一一二六、一一二七、一一二八、一一二九、一一三〇、一一三一、一一三二、一一三三、一一三四、一一三五、一一三六、一一三七、一一三八、一一三九、一一四〇、一一四一、一一四二、一一四三、一一四四、一一四五、一一四六、一一四七、一一四八、一一四九、一一五〇、一一五一、一一五二、一一五三、一一五四、一一五五、一一五六、一一五七、一一五八、一一五九、一一六〇、一一六一、一一六二、一一六三、一一六四、一一六五、一一六六、一一六七、一一六八、一一六九、一一七〇、一一七一、一一七二、一一七三、一一七四、一一七五、一一七六、一一七七、一一七八、一一七九、一一八〇、一一八一、一一八二、一一八三、一一八四、一一八五、一一八六、一一八七、一一八八、一一八九、一一九〇、一一九一、一一九二、一一九三、一一九四、一一九五、一一九六、一一九七、一一九八、一一九九、一二〇〇、一二〇一、一二〇二、一二〇三、一二〇四、一二〇五、一二〇六、一二〇七、一二〇八、一二〇九、一二一〇、一二一一、一二一二、一二一三、一二一四、一二一五、一二一六、一二一七、一二一八、一二一九、一二二〇、一二二一、一二二二、一二二三、一二二四、一二二五、一二二六、一二二七、一二二八、一二二九、一二三〇、一二三一、一二三二、一二三三、一二三四、一二三五、一二三六、一二三七、一二三八、一二三九、一二四〇、一二四一、一二四二、一二四三、一二四四、一二四五、一二四六、一二四七、一二四八、一二四九、一二五〇、一二五一、一二五二、一二五三、一二五四、一二五五、一二五六、一二五七、一二五八、一二五九、一二六〇、一二六一、一二六二、一二六三、一二六四、一二六五、一二六六、一二六七、一二六八、一二六九、一二七〇、一二七一、一二七二、一二七三、一二七四、一二七五、一二七六、一二七七、一二七八、一二七九、一二八〇、一二八一、一二八二、一二八三、一二八四、一二八五、一二八六、一二八七、一二八八、一二八九、一二九〇、一二九一、一二九二、一二九三、一二九四、一二九五、一二九六、一二九七、一二九八、一二九九、一三〇〇、一三〇一、一三〇二、一三〇三、一三〇四、一三〇五、一三〇六、一三〇七、一三〇八、一三〇九、一三一〇、一三一一、一三一二、一三一三、一三一四、一三一五、一三一六、一三一七、一三一八、一三一九、一三二〇、一三二一、一三二二、一三二三、一三二四、一三二五、一三二六、一三二七、一三二八、一三二九、一三三〇、一三三一、一三三二、一三三三、一三三四、一三三五、一三三六、一三三七、一三三八、一三三九、一三四〇、一三四一、一三四二、一三四三、一三四四、一三四五、一三四六、一三四七、一三四八、一三四九、一三五〇、一三五一、一三五二、一三五三、一三五四、一三五五、一三五六、一三五七、一三五八、一三五九、一三六〇、一三六一、一三六二、一三六三、一三六四、一三六五、一三六六、一三六七、一三六八、一三六九、一三七〇、一三七一、一三七二、一三七三、一三七四、一三七五、一三七六、一三七七、一三七八、一三七九、一三八〇、一三八一、一三八二、一三八三、一三八四、一三八五、一三八六、一三八七、一三八八、一三八九、一三九〇、一三九一、一三九二、一三九三、一三九四、一三九五、一三九六、一三九七、一三九八、一三九九、一四〇〇、一四〇一、一四〇二、一四〇三、一四〇四、一四〇五、一四〇六、一四〇七、一四〇八、一四〇九、一四一〇、一四一一、一四一二、一四一三、一四一四、一四一五、一四一六、一四一七、一四一八、一四一九、一四二〇、一四二一、一四二二、一四二三、一四二四、一四二五、一四二六、一四二七、一四二八、一四二九、一四三〇、一四三一、一四三二、一四三三、一四三四、一四三五、一四三六、一四三七、一四三八、一四三九、一四四〇、一四四一、一四四二、一四四三、一四四四、一四四五、一四四六、一四四七、一四四八、一四四九、一四五〇、一四五一、一四五二、一四五三、一四五四、一四五五、一四五六、一四五七、一四五八、一四五九、一四六〇、一四六一、一四六二、一四六三、一四六四、一四六五、一四六六、一四六七、一四六八、一四六九、一四七〇、一四七一、一四七二、一四七三、一四七四、一四七五、一四七六、一四七七、一四七八、一四七九、一四八〇、一四八一、一四八二、一四八三、一四八四、一四八五、一四八六、一四八七、一四八八、一四八九、一四九〇、一四九一、一四九二、一四九三、一四九四、一四九五、一四九六、一四九七、一四九八、一四九九、一五〇〇、一五〇一、一五〇二、一五〇三、一五〇四、一五〇五、一五〇六、一五〇七、一五〇八、一五〇九、一五一〇、一五一一、一五一二、一五一三、一五一四、一五一五、一五一六、一五一七、一五一八、一五一九、一五二〇、一五二一、一五二二、一五二三、一五二四、一五二五、一五二六、一五二七、一五二八、一五二九、一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三、一五三四、一五三五、一五三六、一五三七、一五三八、一五三九、一五四〇、一五四一、一五四二、一五四三、一五四四、一五四五、一五四六、一五四七、一五四八、一五四九、一五五〇、一五五一、一五五二、一五五三、一五五四、一五五五、一五五六、一五五七、一五五八、一五五九、一五六〇、一五六一、一五六二、一五六三、一五六四、一五六五、一五六六、一五六七、一五六八、一五六九、一五七〇、一五七一、一五七二、一五七三、一五七四、一五七五、一五七六、一五七七、一五七八、一五七九、一五八〇、一五八一、一五八二、一五八三、一五八四、一五八五、一五八六、一五八七、一五八八、一五八九、一五九〇、一五九一、一五九二、一五九三、一五九四、一五九五、一五九六、一五九七、一五九八、一五九九、一六〇〇、一六〇一、一六〇二、一六〇三、一六〇四、一六〇五、一六〇六、一六〇七、一六〇八、一六〇九、一六一〇、一六一一、一六一二、一六一三、一六一四、一六一五、一六一六、一六一七、一六一八、一六一九、一六二〇、一六二一、一六二二、一六二三、一六二四、一六二五、一六二六、一六二七、一六二八、一六二九、一六三〇、一六三一、一六三二、一六三三、一六三四、一六三五、一六三六、一六三七、一六三八、一六三九、一六四〇、一六四一、一六四二、一六四三、一六四四、一六四五、一六四六、一六四七、一六四八、一六四九、一六五〇、一六五一、一六五二、一六五三、一六五四、一六五五、一六五六、一六五七、一六五八、一六五九、一六六〇、一六六一、一六六二、一六六三、一六六四、一六六五、一六六六、一六六七、一六六八、一六六九、一六七〇、一六七一、一六七二、一六七三、一六七四、一六七五、一六七六、一六七七、一六七八、一六七九、一六八〇、一六八一、一六八二、一六八三、一六八四、一六八五、一六八六、一六八七、一六八八、一六八九、一六九〇、一六九一、一六九二、一六九三、一六九四、一六九五、一六九六、一六九七、一六九八、一六九九、一七〇〇、一七〇一、一七〇二、一七〇三、一七〇四、一七〇五、一七〇六、一七〇七、一七〇八、一七〇九、一七一〇、一七一一、一七一二、一七一三、一七一四、一七一五、一七一六、一七一七、一七一八、一七一九、一七二〇、一七二一、一七二二、一七二三、一七二四、一七二五、一七二六、一七二七、一七二八、一七二九、一七三〇、一七三一、一七三二、一七三三、一七三四、一七三五、一七三六、一七三七、一七三八、一七三九、一七四〇、一七四一、一七四二、一七四三、一七四四、一七四五、一七四六、一七四七、一七四八、一七四九、一七五〇、一七五一、一七五二、一七五三、一七五四、一七五五、一七五六、一七五七、一七五八、一七五九、一七六〇、一七六一、一七六二、一七六三、一七六四、一七六五、一七六六、一七六七、一七六八、一七六九、一七七〇、一七七一、一七七二、一七七三、一七七四、一七七五、一七七六、一七七七、一七七八、一七七九、一七八〇、一七八一、一七八二、一七八三、一七八四、一七八五、一七八六、一七八七、一七八八、一七八九、一七九〇、一七九一、一七九二、一七九三、一七九四、一七九五、一七九六、一七九七、一七九八、一七九九、一八〇〇、一八〇一、一八〇二、一八〇三、一八〇四、一八〇五、一八〇六、一八〇七、一八〇八、一八〇九、一八一〇、一八一一、一八一二、一八一三、一八一四、一八一五、一八一六、一八一七、一八一八、一八一九、一八二〇、一八二一、一八二二、一八二三、一八二四、一八二五、一八二六、一八二七、一八二八、一八二九、一八三〇、一八三一、一八三二、一八三三、一八三四、一八三五、一八三六、一八三七、一八三八、一八三九、一八四〇、一八四一、一八四二、一八四三、一八四四、一八四五、一八四六、一八四七、一八四八、一八四九、一八五〇、一八五一、一八五二、一八五三、一八五四、一八五五、一八五六、一八五七、一八五八、一八五九、一八六〇、一八六一、一八六二、一八六三、一八六四、一八六五、一八六六、一八六七、一八六八、一八六九、一八七〇、一八七一、一八七二、一八七三、一八七四、一八七五、一八七六、一八七七、一八七八、一八七九、一八八〇、一八八一、一八八二、一八八三、一八八四、一八八五、一八八六、一八八七、一八八八、一八八九、一八九〇、一八九一、一八九二、一八九三、一八九四、一八九五、一八九六、一八九七、一八九八、一八九九、一九〇〇、一九〇一、一九〇二、一九〇三、一九〇四、一九〇五、一九〇六、一九〇七、一九〇八、一九〇九、一九一〇、一九一一、一九一二、一九一三、一九一四、一九一五、一九一六、一九一七、一九一八、一九一九、一九二〇、一九二一、一九二二、一九二三、一九二四、一九二五、一九二六、一九二七、一九二八、一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二、一九三三、一九三四、一九三五、一九三六、一九三七、一九三八、一九三九、一九四〇、一九四一、一九四二、一九四三、一九四四、一九四五、一九四六、一九四七、一九四八、一九四九、一九五〇、一九五一、一九五二、一九五三、一九五四、一九五五、一九五六、一九五七、一九五八、一九五九、一九六〇、一九六一、一九六二、一九六三、一九六四、一九六五、一九六六、一九六七、一九六八、一九六九、一九七〇、一九七一、一九七二、一九七三、一九七四、一九七五、一九七六、一九七七、一九七八、一九七九、一九八〇、一九八一、一九八二、一九八三、一九八四、一九八五、一九八六、一九八七、一九八八、一九八九、一九九〇、一九九一、一九九二、一九九三、一九九四、一九九五、一九九六、一九九七、一九九八、一九九九、二〇〇〇、二〇〇一、二〇〇二、二〇〇三、二〇〇四、二〇〇五、二〇〇六、二〇〇七、二〇〇八、二〇〇九、二〇一〇、二〇一一、二〇一二、二〇一三、二〇一四、二〇一五、二〇一六、二〇一七、二〇一八、二〇一九、二〇二〇、二〇二一、二〇二二、二〇二三、二〇二四、二〇二五、二〇二六、二〇二七、二〇二八、二〇二九、二〇三〇、二〇三一、二〇三二、二〇三三、二〇三四、二〇三五、二〇三六、二〇三七、二〇三八、二〇三九、二〇四〇、二〇四一、二〇四二、二〇四三、二〇四四、二〇四五、二〇四六、二〇四七、二〇四八、二〇四九、二〇五〇、二〇五一、二〇五二、二〇五三、二〇五四、二〇五五、二〇五六、二〇五七、二〇五八、二〇五九、二〇六〇、二〇六一、二〇六二、二〇六三、二〇六四、二〇六五、二〇六六、二〇六七、二〇六八、二〇六九、二〇七〇、二〇七一、二〇七二、二〇七三、二〇七四、二〇七五、二〇七六、二〇七七、二〇七八、二〇七九、二〇八〇、二〇八一、二〇八二、二〇八三、二〇八四、二〇八五、二〇八六、二〇八七、二〇八八、二〇八九、二〇九〇、二〇九一、二〇九二、二〇九三、二〇九四、二〇九五、二〇九六、二〇九七、二〇九八、二〇九九、二一〇〇、二一〇一、二一〇二、二一〇三、二一〇四、二一〇五、二一〇六、二一〇七、二一〇八、二一〇九、二一一〇、二一一一、二一一二、二一一三、二一一四、二一一五、二一一六、二一一七、二一一八、二一一九、二一二〇、二一二一、二一二二、二一二三、二一二四、二一二五、二一二六、二一二七、二一二八、二一二九、二一三〇、二一三一、二一三二、二一三三、二一三四、二一三五、二一三六、二一三七、二一三八、二一三九、二一四〇、二一四一、二一四二、二一四三、二一四四、二一四五、二一四六、二一四七、二一四八、二一四九、二一五〇、二一五一、二一五二、二一五三、二一五四、二一五五、二一五六、二一五七、二一五八、二一五九、二一六〇、二一六一、二一六二、二一六三、二一六四、二一六五、二一六六、二一六七、二一六八、二一六九、二一七〇、二一七一、二一七二、二一七三、二一七四、二一七五、二一七六、二一七七、二一七八、二一七九、二一八〇、二一八一、二一八二、二一八三、二一八四、二一八五、二一八六、二一八七、二一八八、二一八九、二一九〇、二一九一、二一九二、二一九三、二一九四、二一九五、二一九六、二一九七、二一九八、二一九九、二二〇〇、二二〇一、二二〇二、二二〇三、二二〇四、二二〇五、二二〇六、二二〇七、二二〇八、二二〇九、二二一〇、二二一一、二二一二、二二一三、二二一四、二二一五、二二一六、二二一七、二二一八、二二一九、二二二〇、二二二一、二二二二、二二二三、二二二四、二二二五、二二二六、二二二七、二二二八、二二二九、二二三〇、二二三一、二二三二、二二三三、二二三四、二二三五、二二三六、二二三七、二二三八、二二三九、二二四〇、二二四一、二二四二、二二四三、二二四四、二二四五、二二四六、二二四七、二二四八、二二四九、二二五〇、二二五一、二二五二、二二五三、二二五四、二二五五、二二五六、二二五七、二二五八、二二五九、二二六〇、二二六一、二二六二、二二六三、二二六四、二二六五、二二六六、二二六七、二二六八、二二六九、二二七〇、二二七一、二二七二、二二七三、二二七四、二二七五、二二七六、二二七七、二二七八、二二七九、二二八〇、二二八一、二二八二、二二八三、二二八四、二二八五、二二八六、二二八七、二二八八、二二八九、二二九〇、二二九一、二二九二、二二九三、二二九四、二二九五、二二九六、二二九七、二二九八、二二九九、二三〇〇、二三〇一、二三〇二、二三〇三、二三〇四、二三〇五、二三〇六、二三〇七、二三〇八、二三〇九、二三一〇、二三一一、二三一二、二三一三、二三一四、二三一五、二三一六、二三一七、二三一八、二三一九、二三二〇、二三二一、二三二二、二三二三、二三二四、二三二五、二三二六、二三二七、二三二八、二三二九、二三三〇、二三三一、二三三二、二三三三、二三三四、二三三五、二三三六、二三三七、二三三八、二三三九、二三四〇、二三四一、二三四二、二三四三、二三四四、二三四五、二三四六、二三四七、二三四八、二三四九、二三五〇、二三五一、二三五二、二三五三、二三五四、二三五五、二三五六、二三五七、二三五八、二三五九、二三六〇、二三六一、二三六二、二三六三、二三六四、二三六五、二三六六、二三六七、二三六八、二三六九、二三七〇、二三七一、二三七二、二三七三、二三七四、二三七五、二三七六、二三七七、二三七八、二三七九、二三八〇、二三八一、二三八二、二三八三、二三八四、二三八五、二三八六、二三八七、二三八八、二三八九、二三九〇、二三九一、二三九二、二三九三、二三九四、二三九五、二三九六、二三九七、二三九八、二三九九、二四〇〇、二四〇一、二四〇二、二四〇三、二四〇四、二四〇五、二四〇六、二四〇七、二四〇八、二四〇九、二四一〇、二四一一、二四一二、二四一三、二四一四、二四一五、二四一六、二四一七、二四一八、二四一九、二四二〇、二四二一、二四二二、二四二三、二四二四、二四二五、二四二六、二四二七、二四二八、二四二九、二四三〇、二四三一、二四三二、二四三三、二四三四、二四三五、二四三六、二四三七、二四三八、二四三九、二四四〇、二四四一、二四四二、二四四三、二四四四、二四四五、二四四六、二四四七、二四四八、二四四九、二四五〇、二四五一、二四五二、二四五三、二四五四、二四五五、二四五六、二四五七、二四五八、二四五九、二四六〇、二四六一、二四六二、二四六三、二四六四、二四六五、二四六六、二四六七、二四六八、二四六九、二四七〇、二四七一、二四七二、二四七三、二四七四、二四七五、二四七六、二四七七、二四七八、二四七九、二四八〇、二四八一、二四八二、二四八三、二四八四、二四八五、二四八六、二四八七、二四八八、二四八九、二四九〇、二四九一、二四九二、二四九三、二四九四、二四九五、二四九六、二四九七、二四九八、二四九九、二五〇〇、二五〇一、二五〇二、二五〇三、二五〇四、二五〇五、二五〇六、二五〇七、二五〇八、二五〇九、二五一〇、二五一一、二五一二、二五一三、二五一四、二五一五、二五一六、二五一七、二五一八、二五一九、二五二〇、二五二一、二五二二、二五二三、二五二四、二五二五、二五二六、二五二七、二五二八、二五二九、二五三〇、二五三一、二五三二、二五三三、二五三四、二五三五、二五三六、二五三七、二五三八、二五三九、二五四〇、二五四一、二五四二、二五四三、二五四四、二五四五、二五四六、二五四七、二五四八、二五四九、二五五〇、二五五一、二五五二、二五五三、二五五四、二五五五、二五五六、二五五七、二五五八、二五五九、二五六〇、二五六一、二五六二、二五六三、二五六四、二五六五、二五六六、二五六七、二五六八、二五六九、二五七〇、二五七一、二五七二、二五七三、二五七四、二五七五、二五七六、二五七七、二五七八、二五七九、二五八〇、二五八一、二五八二、二五八三、二五八四、二五八五、二五八六、二五八七、二五八八、二五八九、二五九〇、二五九一、二五九二、二五九三、二五九四、二五九五、二五九六、二五九七、二五九八、二五九九、二六〇〇、二六〇一、二六〇二、二六〇三、二六〇四、二六〇五、二六〇六、二六〇七、二六〇八、二六〇九、二六一〇、二六一一、二六一二、二六一三、二六一四、二六一五、二六一六、二六一七、二六一八、二六一九、二六二〇、二六二一、二六二二、二六二三、二六二四、二六二五、二六二六、二六二七、二六二八、二六二九、二六三〇、二六三一、二六三二、二六三三、二六三四、二六三五、二六三六、二六三七、二六三八、二六三九、二六四〇、二六四一、二六四二、二六四三、二六四四、二六四五、二六四六、二六四七、二六四八、二六四九、二六五〇、二六五一、二六五二、二六五三、二六五四、二六五五、二六五六、二六五七、二六五八、二六五九、二六六〇、二六六一、二六六二、二六六三、二六六四、二六六五、二六六六、二六六七、二六六八、二六六九、二六七〇、二六七一、二六七二、二六七三、二六七四、二六七五、二六七六、二六七七、二六七八、二六七九、二六八〇、二六八一、二六八二、二六八三、二六八四、二六八五、二六八六、二六八七、二六八八、二六八九、二六九〇、二六九一、二六九二、二六九三、二六九四、二六九五、二六九六、二六九七、二六九八、二六九九、二七〇〇、二七〇一、二七〇二、二七〇三、二七〇四、二七〇五、二七〇六、二七〇七、二七〇八、二七〇九、二七一〇、二七一一、二七一二、二七一三、二七一四、二七一五、二七一六、二七一七、二七一八、二七一九、二七二〇、二七二一、二七二二、二七二三、二七二四、二七二五、二七二六、二七二七、二七二八、二七二九、二七三〇、二七三一、二七三二、二七三三、二七三四、二七三五、二七三六、二七三七、二七三八、二七三九、二七四〇、二七四一、二七四二、二七四三、二七四四、二七四五、二七四六、二七四七、二七四八、二七四九、二七五〇、二七五一、二七五二、二七五三、二七五四、二七五五、二七五六、二七五七、二七五八、二七五九、二七六〇、二七六一、二七六二、二七六三、二七六四、二七六五、二七六六、二七六七、二七六八、二七六九、二七七〇、二七七一、二七七二、二七七三、二七七四、二七七五、二七七六、二七七七、二七七八、二七七九、二七八〇、二七八一、二七八二、二七八三、二七八四、二七八五、二七八六、二七八七、二七八八、二七八九、二七九〇、二七九一、二七九二、二七九三、二七九四、二七九五、二七九六、二七九七、二七九八、二七九九、二八〇〇、二八〇一、二八〇二、二八〇三、二八〇四、二八〇五、二八〇六、二八〇七、二八〇八、二八〇九、二八一〇、二八一一、二八一二、二八一三、二八一四、二八一五、二八一六、二八一七、二八一八、二八一九、二八二〇、二八二一、二八二二、二八二三、二八二四、二八二五、二八二六、二八二七、二八二八、二八二九、二八三〇、二八三一、二八三二、二八三三、二八三四、二八三五、二八三六、二八三七、二八三八、二八三九、二八四〇、二八四一、二八四二、二八四三、二八四四、二八四五、二八四六、二八四七、二八四八、二八四九、二八五〇、二八五一、二八五二、二八五三、二八五四、二八五五、二八五六、二八五七、二八五八、二八五九、二八六〇、二八六一、二八六二、二八六三、二八六四、二八六五、二八六六、二八六七、二八六八、二八六九、二八七〇、二八七一、二八七二、二八七三、二八七四、二八七五、二八七六、二八七七、二八七八、二八七九、二八八〇、二八八一、二八八二、二八八三、二八八四、二八八五、二八八六、二八八七、二八八八、二八八九、二八九〇、二八九一、二八九二、二八九三、二八九四、二八九五、二八九六、二八九七、二八九八、二八九九、二九〇〇、二九〇一、二九〇二、二九〇三、二九〇四、二九〇五、二九〇六、二九〇七、二九〇八、二九〇九、二九一〇、二九一一、二九一二、二九一三、二九一四、二九一五、二九一六、二九一七、二九一八、二九一九、二九二〇、二九二一、二九二二、二九二三、二九二四、二九二五、二九二六、二九二七、二九二八、二九二九、二九三〇、二九三一、二九三二、二九三三、二九三四、二九三五、二九三六、二九三七、二九三八、二九三九、二九四〇、二九四一、二九四二、二九四三、二九四四、二九四五、二九四六、二九四七、二九四八、二九四九、二九五〇、二九五一、二九五二、二九五三、二九五四、二九五五、二九五六、二九五七、二九五八、二九五九、二九六〇、二九六一、二九六二、二九六三、二九六四、二九六五、二九六六、二九六七、二九六八、二九六九、二九七〇、二九七一、二九七二、二九七三、二九七四、二九七五、二九七六、二九七七、二九七八、二九七九、二九八〇、二九八一、二九八二、二九八三、二九八四、二九八五、二九八六、二九八七、二九八八、二九八九、二九九〇、二九九一、二九九二、二九九三、二九九四、二九九五、二九九六、二九九七、二九九八、二九九九、三〇〇〇、三〇〇一、三〇〇二、三〇〇三、三〇〇四、三〇〇五、三〇〇六、三〇〇七、三〇〇八、三〇〇九、三〇一〇、三〇一一、三〇一二、三〇一三、三〇一四、三〇一五、三〇一六、三〇一七、三〇一八、三〇一九、三〇二〇、三〇二一、三〇二二、三〇二三、三〇二四、三〇二五、三〇二六、三〇二七、三〇二八、三〇二九、三〇三〇、三〇三一、三〇三二、三〇三三、三〇三四、三〇三五、三〇三六、三〇三七、三〇三八、三〇三九、三〇四〇、三〇四一、三〇四二、三〇四三、三〇四四、三〇四五、三〇四六、三〇四七、三〇四八、三〇四九、三〇五〇、三〇五一、三〇五二、三〇五三、三〇五四、三〇五五、三〇五六、三〇五七、三〇五八、三〇五九、三〇六〇、三〇六一、三〇六二、三〇六三、三〇六四、三〇六五、三〇六六、三〇六七、三〇六八、三〇六九、三〇七〇、三〇七一、三〇七二、三〇七三、三〇七四、三〇七五、三〇七六、三〇七七、三〇七八、三〇七九、三〇八〇、三〇八一、三〇八二、三〇八三、三〇八四、三〇八五、三〇八六、三〇八七、三〇八八、三〇八九、三〇九〇、三〇九一、三〇九二、三〇九三、三〇九四、三〇九五、三〇九六、三〇九七、三〇九八、三〇九九、三一〇〇、三一〇一、三一〇二、三一〇三、三一〇四、三一〇五、三一〇六、三一〇七、三一〇八、三一〇九、三一一〇、三一一一、三一一二、三一一三、三一一四、三一一五、三一一六、三一一七、三一一八、三一一九、三一二〇、三一二一、三一二二、三一二三、三一二四、三一二五、三一二六、三一二七、三一二八、三一二九、三一三〇、三一三一、三一三二、三一三三、三一三四、三一三五、三一三六、三一三七、三一三八、三一三九、三一四〇、三一四一、三一四二、三一四三、三一四四、三一四五、三一四六、三一四七、三一四八、三一四九、三一五〇、三一五一、三一五二、三一五三、三一五四、三一五五、三一五六、三一五七、三一五八、三一五九、三一六〇、三一六一、三一六二、三一六三、三一六四、三一六五、三一六六、三一六七、三一六八、三一六九、三一七〇、三一七一、三一七二、三一七三、三一七四、三一七五、三一七六、三一七七、三一七八、三一七九、三一八〇、三

東京市勢調査事項綜組關係　横山雅男〔統集〕四一　一
調査の價値　横山雅男〔統集〕四一　一
熊本市職業調査と京京市勢調査の對比　横山雅男〔統集〕四一　一三六
東京市市勢調査に就て　横山雅男〔統集〕四一　一三七
東京市勢調査の實行に就て　横山雅男〔統集〕四一　一三七
東京市勢調査の沿革　柳澤保惠〔統集〕四一　一三七
東京市勢調査　島田俊雄〔國家〕四一　一三七
東京市勢調査の沿革　柳澤保惠〔國家〕四一　一三七
長郷有泰〔統集〕四一　一三九

【都市】【人口】【統計】

都市の擇擇　安倍邦衛〔都問〕六四　一　四
高架鐵道と地下鐵道と　黒正重義〔都問〕六四　二一　一
東京市の高速交通機關としての高架鐵道と地下鐵道と　黒正重義〔經濟〕六四　二一　一
德川時代岡山江戸間の海運　松本烝治〔法協〕四四　二九　九
運輸上より見たる東京　金谷重義〔都問〕六四　二一　一
鐵道　阪谷芳郎〔東經〕六10　空　三六四
東京市の交通と交通と地下　森三溪〔東經〕四三　六0　一五六
電車市有問題の解決方法　大和田勇〔東經〕四三　五九　一四六
電車問題に就て　参照＝鐵道＝東京。電車問題事業。
交通　竹内秀夫〔統集〕六八年　一巻
東京市に於ける少額俸給生活者家計の一模型　權田保之助〔原稿〕六三　二　二
最近東京に於ける銀行勘定　前田蓼一〔金融〕六四　二　九
生及供給　参照＝鐵道＝東京。電車問題事業。

【統計】【人口】【都市】

人口統計　上林豐明〔社科〕六五　二　平
人口統計―東京を見よ―　
砂糖を見よ　

【同業組合】【業態】

同業組合に就て　美濃部達吉〔國家〕四0　11　三七

東京市勢調査諸規則註解　
東京市勢調査に就て　吳秀三〔統集〕四一　一　三0
東京市勢調査に就て　高野岩三郎〔國經雜誌〕四四　一四　三五
東京市市勢調査結果の概數に就て　相原重政〔統集〕四一　一　四三
東京市勢調査に就て　嶋永嘉一〔東經〕四一　五九　一四六
東京市市勢調査の概況　三吉朗〔統集〕四一　一　三九

【會社】

東京府衛生年報批評　横山雅男〔統雜〕四五　一　七四
明治中五年中東京府下の衛生　河合利安〔統雜〕四六　一　公
東京市の爸席に就て　石川新藏〔統集〕四四　一　三四
東京府下の職業調査に就て　高橋惟一郎〔統集〕四四　一　三六
淺草木賃宿町の一班　高田慥爾〔刑評〕四四　三　八
最近十年間に於ける東京市の火災統計　高井喜一郎〔保評〕六　一　五　七
東京市の感化救濟事業　田中太郎〔統集〕四三　一　四三
東京に於ける消防設備に就て　近藤成彪〔保雜〕六四　一　三九
東京市内に於ける借地關係の解剖　土屋倫藏〔法新〕六六　一　三七
深川區富川町に於ける木賃宿の研究　

【統計】【人口】【都市】

小東京都市叢統集　六　九　四七四

重要物産同業組合の權限に付て　戸田海市〔京法〕四四　四　六
再び同業組合の權限に付て　戸田海市〔京法〕四四　四　七
同業組合に關する市村博士の見解　松本蒸治〔法協〕六三　三　四
同業組合法の改正に就て　布川靜湖〔東經〕六四　七三　一九三
德川幕府時代に於ける江戸及大阪の同業組合　村本福松〔商經〕六五　一　三
重要物産同業組合制度を論ず　岡實〔國家〕六五　三0　六

【統計】

統計家の責任及技術　岡松徑〔統集〕四五　一　二0
統計方法改良の管見　島村泰〔統集〕四五　一　三
行政和統計論　岡松徑〔統集〕四五　一　三0
明治十五年日本統計進歩の概況　岡松徑〔統集〕四五　一　三
統計の緩急　岡松徑〔統集〕四六　一　二六
土地の統計と詳にするの說　島村泰〔統集〕四六　一　三六
四季別雨量論　和田雄治〔統集〕四六　一　三六
統計學の需要を論ず　高橋二郎〔統集〕四八　一　四
統計諸局役員論　高橋二郎〔統集〕四二　一　四
民間統計論　高橋二郎〔統集〕四八　一　四八

各國統計官衙の組織	吳	文聰	〔統集〕	昭二	一	一	八九
統計は邦國及社會生活と須臾も離る可からざるを論ず	岡松	徑	〔統集〕	昭二	一	一	八九
スタチスチックは人類社會に必要なるを論ず	河合	利安	〔統集〕	昭三	一	一	八九
專ら普魯士國に關して官府統計の組織を論ず	山陽	道人	〔統集〕	昭三	一	一	九〇
萬國比較統計の編纂	岡松	徑	〔統集〕	昭二	一	一	九一
日本帝國スタチスチック	高橋	二郎	〔統集〕	昭二	一	一	九一
統計の圍繞を論ず	宇川	盛三郎	〔スタ〕	昭二	一	一	九一
我國統計の進歩を望む	相原	重政	〔統集〕	昭三	一	一	九二
普魯士國統計協會	高橋	二郎	〔統集〕	昭二	一	一	九二
統計普及策考察	小野	彌一	〔統集〕	昭三	一	一	九二
學理的の用に應ずべき統計	小野	彌一	〔統集〕	昭三	一	一	九二
實式編纂法	小野	彌一	〔統集〕	昭三	一	一	九三
統計協會將來の事業	小野	彌一	〔統集〕	昭三	一	一	九三
中央統計委員會設置の必要を論ず	小野	彌一	〔統集〕	昭三	一	一	九三
地方統計委員を置くの必要	小野	彌一	〔統集〕	昭三	一	一	九三
統計の事實に據て日本と歐							

統計管習一班	吳	文聰	〔統集〕	昭二	一卷	一	九四
本邦統計學不振の原因を敘	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	九四
明治二十一年の統計	河合	利安	〔統集〕	昭三	一	一	九五
新聞紙上の統計を觀るに就	山陽	道人	〔統集〕	昭三	一	一	九五
ての注意	岡松	徑	〔統集〕	昭二	一	一	九五
巴里府萬國大博覽會へ我が	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	九六
國勢一班表を出だす事の必要を論ず	岡松	徑	〔統集〕	昭二	一	一	九六
スタチスチック學の振起せざる所以を論ず	横山	雅男	〔スタ〕	昭三	一	一	九七
新政體の測候器	楠岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	九七
統計略年鑑の刊行を望む	楠山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	九八
新參政者は眞確なる統計に							
隨りて協贊の實を立てざる可からず	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	九八
熟せり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	九九
萬國統計年鑑發兌の機已に							
須く天下の政黨外に立つべし	今井	武夫	〔スタ〕	昭三	一	一	九九
スタチスチック家たる者は							
統計書批評の必要を論ず	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一〇〇
政治學と統計の同室は國の							
大倫なり	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	一〇〇
統計の事業を擴張して新政	相原	重政	〔統集〕	昭三	一	一	一〇一
行政の使用に於ける統計	相原	重政	〔統集〕	昭三	一	一	一〇一
一層統計の擴張に盡力せざるべからず	河合	利安	〔統集〕	昭三	一	一	一〇二
又然らざるべからず	河合	利安	〔統集〕	昭三	一	一	一〇二
統計家は技術家と以て必ず	河合	利安	〔統集〕	昭三	一	一	一〇二
明治二十一二年の統計	河合	利安	〔統集〕	昭三	一	一	一〇二
統計は技術家と以て必ず	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	一〇二
爲す可し	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	一〇二
統計數字を編制して新政體	吳	文聰	〔統集〕	昭三	一	一	一〇三
の備兵と爲すべき事を論ず	吳	文聰	〔統集〕	昭三	一	一	一〇三
常事務者に對する希望	吳	文聰	〔統集〕	昭三	一	一	一〇三
本會名譽會員大隈井上兩伯	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	一〇三
閣下の入閣を賀し併せて	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	一〇四
本會業務の進歩に一層を	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	一〇四
添へられん事を希望す	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	一〇四
司法家も亦統計思想を要す	吳	文聰	〔統集〕	昭三	一	一	一〇五
本邦スタチスチック家の做	岡松	徑	〔統集〕	昭三	一	一	一〇五
歩を論じ併せて候補諸子	岡松	徑	〔スタ〕	昭三	一	一	一〇六
に望む	岡松	徑	〔スタ〕	昭三	一	一	一〇六

統計は施政の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一〇六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一〇七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一〇七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一〇八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一〇八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一〇九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一〇九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一一九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一二九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一三九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一四九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一五九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一六九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一七九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一八九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	一九九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二〇九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一四
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一五
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一六
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一七
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一八
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二一九
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二二〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二二〇
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二二一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二二一
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二二二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二二二
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二二三
統計は政治の基礎なり	横山	雅男	〔統集〕	昭三	一	一	二二三
統計は政治の基礎なり

統計の発達を叙述するを可からず　相原　重政　統集　明三　一　一九
統計の必要及統計調査の方法　寺田　勇吉　統雑　明三　一　一五
統計に関する法規の沿革及其の実施　藤井　正景　統雑　明三　一　一五
統計の興味　徳富猪一郎　統雑　明三　一　一五
第四回国勢統計会議に於ける演説　大隈　重信　統集　明三　一　一五
統計組織の話　高橋　二郎　統集　明三　一　一六
統計院顧問の職に就て　小笠原金三郎　統集　明三　一　一七
統計院専属意見　吳　文聰　統雑　明三　一　一五
統計の進歩　光岡　正彰　統雑　明三　一　一五
統計の大意及明治十一年　内閣訓令第一號　花房直三郎　統集　明三　一　一四
統計改良私見　横山　雅男　統集　明三　一　一三
統計の必要及統計調査の方法　河合　利安　統雑　明三　一　一三
統計家資格論　宮本　基　統雑　明三　一　一三
統計の機運　利安　文聰　統雑　明三　一　一三
統計家は医師の現在の状勢を改良するの訓　河合　利安　統雑　明三　一　一三
統計は人の知るの如くならざるべからず　吳　文聰　統雑　明三　一　一三
統計の必要及統計の参考　寺田　勇吉　統雑　明三　一　一三
統計に関する法規の沿革及其の実施　藤井　正景　統雑　明三　一　一三
統計の興味　徳富猪一郎　統雑　明三　一　一三
第四回国勢統計会議に於ける演説　大隈　重信　統集　明三　一　一三
統計組織の話　高橋　二郎　統集　明三　一　一三
統計院顧問の職に就て　小笠原金三郎　統集　明三　一　一三
統計院専属意見　吳　文聰　統雑　明三　一　一三
統計の進歩　光岡　正彰　統雑　明三　一　一三
統計の大意及明治十一年　内閣訓令第一號　花房直三郎　統集　明三　一　一三
統計改良私見　横山　雅男　統集　明三　一　一三
統計の必要及統計調査の方法　河合　利安　統雑　明三　一　一三
統計家資格論　宮本　基　統雑　明三　一　一三
統計の機運　利安　文聰　統雑　明三　一　一三
統計家は医師の現在の状勢を改良するの訓　河合　利安　統雑　明三　一　一三
統計は人の知るの如くならざるべからず　吳　文聰　統雑　明三　一　一三
統計の必要及統計調査の方法

統計思想に就て（講演）　高野岩三郎　〔統集〕　四四
統計の趨勢と統計事業　大正維新と統計事業　横山雅男　〔統集〕　四四
統計の精神　利安資治　〔統集〕　四四
統計學の改善に就て（講演）　高野岩三郎　〔保評〕　四四
統計思想に就て　渡邊銕藏　〔統集〕　四四
統計思想と統計事業　横山雅男　〔統集〕　四四
一九一一年の海外統計界　高野岩三郎　〔統集〕　四四
阪谷芳郎男を悼む　阪谷芳郎　〔統集〕　四四
統計の效用　相原重政　〔統集〕　四五
統計の大意及人口動態統計　奥村美夫　〔統集〕　四五
統計學效果の測定に就て　岡松參太郎　〔統集〕　四五
統計研究上より兼法に就て　花房直三郎　〔統集〕　四五
統計に對する清國事生の所感　河合利安　〔統集〕　四五
最近の歐米統計界視察談　吳文聰　〔統集〕　四五
統計調査の準備及實問法に就て　高野岩三郎　〔統集〕　四五
中央統計機關に望む　横山雅男　〔統集〕　四五
統計上に於ける感想の二三　池田宏　〔統集〕　四五
統計事時　商橋二郎　〔統集〕　四五
商業と統計　商橋二郎　〔統集〕　四五
統計學管見　岡松參太郎　〔統集〕　四五
統計と拓殖の關係　商橋二郎　〔統集〕　四五
統計要則　平田德太郎　〔明學〕　四五
統計學管見　岡松參太郎　〔統集〕　四五
府縣統計事務に關する案　相原重政　〔統集〕　四五
望　相原重政　〔統集〕　四五
自耳義國統計中央委員會に就て　商橋二郎　〔統集〕　四五
統計上に於ける余の所感　花房直三郎　〔日經〕　四五
本邦統計の改善に就て　高野岩三郎　〔統集〕　四五
最近歐洲の特質上より統計に對する希望　河合利安　〔統集〕　四五
歐米諸大事に於ける統計學　山內正瞰　〔統集〕　四五
北米合衆國に於ける統計學　高野岩三郎　〔統集〕　四五
支那の統計組織に就て　橫山雅男　〔統集〕　四五
條約に就て　池田近男　〔統集〕　四五
統計界に於ける緊急問題八　橫山雅男　〔統集〕　四五
高等小學讀本と統計　橫山雅男　〔統集〕　四五
本邦市統計改良の管見　高橋二郎　〔統集〕　四五
知識を具とを要す　熊谷喜吉　〔統集〕　四五
統計に從事する者は綜合的　高橋二郎　〔統集〕　四五
現今統計概況　高橋二郎　〔統集〕　四五
地方統計講習會に對する希望　花房直三郎　〔統集〕　四五
海外統計視察談　橫山雅男　〔統集〕　四五
統計審查門外觀　財部靜治　〔統集〕　四五
統計學會　橫山雅男　〔統集〕　四五
統計と統計　河合利安　〔統集〕　四五
統計事時　池田宏　〔統集〕　四五
統計上に於ける感想の二三　致岡　橫山雅男　〔統集〕　四五
中央統計機關に望む　橫山雅男　〔統集〕　四五
統計調査の準備及實問法に就て　高野岩三郎　〔統集〕　四五
最近の歐米統計界視察談　吳文聰　〔統集〕　四五
統計に對する清國事生の所感　河合利安　〔統集〕　四五
統計研究上より兼法に就て　花房直三郎　〔統集〕　四五
統計學效果の測定に就て　岡松參太郎　〔統集〕　四五
統計の大意及人口動態統計　奥村美夫　〔統集〕　四五
の概況　相原重政　〔統集〕　四五
て　奥村美夫　〔統集〕　四五

ることゝ勿れ　阪谷芳郎　〔統集〕　四四
一九一一年の海外統計界　高野岩三郎　〔統集〕　四四
統計思想に就て　渡邊銕藏　〔統集〕　四四
統計の大意及人口動態統計　奥村美夫　〔統集〕　四四
統計の效用　相原重政　〔統集〕　四四
統計學效果の測定に就て　岡松參太郎　〔統集〕　四四
統計研究上より兼法に就て　花房直三郎　〔統集〕　四四
統計に對する清國事生の所感　河合利安　〔統集〕　四四
最近の歐米統計界視察談　吳文聰　〔統集〕　四四
統計調査の準備及實問法に就て　高野岩三郎　〔統集〕　四四
中央統計機關に望む　橫山雅男　〔統集〕　四四
統計上に於ける感想の二三　池田宏　〔統集〕　四四
統計事時　商橋二郎　〔統集〕　四四
商業と統計　商橋二郎　〔統集〕　四四
統計學管見　岡松參太郎　〔統集〕　四四
統計と拓殖の關係　商橋二郎　〔統集〕　四四
統計要則　平田德太郎　〔明學〕　四四
統計學管見　岡松參太郎　〔統集〕　四四
府縣統計事務に關する案　相原重政　〔統集〕　四四
望　相原重政　〔統集〕　四四
自耳義國統計中央委員會に就て　商橋二郎　〔統集〕　四四
統計上に於ける余の所感　花房直三郎　〔日經〕　四四
本邦統計の改善に就て　高野岩三郎　〔統集〕　四四
最近歐洲の特質上より統計に對する希望　河合利安　〔統集〕　四四
歐米諸大事に於ける統計學　山內正瞰　〔統集〕　四四
北米合衆國に於ける統計學　高野岩三郎　〔統集〕　四四
支那の統計組織に就て　橫山雅男　〔統集〕　四四
條約に就て　池田近男　〔統集〕　四四
統計界に於ける緊急問題八　橫山雅男　〔統集〕　四四
高等小學讀本と統計　橫山雅男　〔統集〕　四四
本邦市統計改良の管見　高橋二郎　〔統集〕　四四
知識を具とを要す　熊谷喜吉　〔統集〕　四四
統計に從事する者は綜合的　高橋二郎　〔統集〕　四四
現今統計概況　高橋二郎　〔統集〕　四四
地方統計講習會に對する希望　花房直三郎　〔統集〕　四四
海外統計視察談　橫山雅男　〔統集〕　四四
統計審查門外觀　財部靜治　〔統集〕　四四
統計學會　橫山雅男　〔統集〕　四四
統計と統計　河合利安　〔統集〕　四四
統計事時　池田宏　〔統集〕　四四
統計上に於ける感想の二三　致岡　橫山雅男　〔統集〕　四四
中央統計機關に望む　橫山雅男　〔統集〕　四四
統計調査の準備及實問法に就て　高野岩三郎　〔統集〕　四四
最近の歐米統計界視察談　吳文聰　〔統集〕　四四
統計に對する清國事生の所感　河合利安　〔統集〕　四四
統計研究上より兼法に就て　花房直三郎　〔統集〕　四四
統計學效果の測定に就て　岡松參太郎　〔統集〕　四四
統計の大意及人口動態統計　奥村美夫　〔統集〕　四四
の概況　相原重政　〔統集〕　四四
て　奥村美夫　〔統集〕　四四

地方統計講習會に關する注意　橫山雅男　〔統集〕　四四
一種の生產業として觀たる統計事業　高野岩三郎　〔統集〕　四四
歐洲平和後の統計趨勢は如何　岡松參太郎　〔統集〕　四四
統計學の性質に就て　坂本孝　〔統集〕　四四
職業類別の制定に就て　熊谷喜吉　〔統集〕　四四
統計譯字の略考　利安資治　〔統集〕　四四
統計事務の改良に就て　高畑誠一　〔統集〕　四四
故加藤先生と統計　橫山雅男　〔統集〕　四四
大隈首相の統計改善に關する訓令に就て　田中穗積　〔統集〕　四四
再び地方統計講習會に就て　橫山雅男　〔統集〕　四四
農村の疲弊荒廢を救ふ唯一方法は統計なり　兒山庚　〔統集〕　四四
地方統計事務に就て　橫山雅男　〔統集〕　四四
本邦統計界の現狀に對する意見　花房直三郎　〔統集〕　四四
雇岡生　統計講習會に關する注意　橫山雅男　〔統集〕　四四
時務と統計　河合利安　〔統集〕　四四
故杉博士と統計學校　橫山雅男　〔統集〕　四四
軍需工業動員に關する工場事業場臨時調査を批評す　田中穗積　〔統集〕　四四
統計學的統計調查の觀念　高野岩三郎　〔統集〕　四四
英國政府統計調查委員會委　橫山雅男　〔統集〕　四四

統計は施政の基礎　小野氏の統計趣旨書　歐米統計界最近視察談　「戰前戰後に於ける國富統計」を讀みて　（講演）本邦統計界の現狀に就て　統計と度量衡　改正農商務統計規則に就て　日本の數學　市政と統計　統計家座右銘　統計改善論　Playfair の統計要覽　都市統計局の設置を望む　統計界の時事問題三四　統計に移すべし　内閣統計局は内務省の所管　産業統計改善私議　統計の實務　統計入門　統計の著述　統計論　統計の限界　スタチスチックの事實を集むるの例　スタチスチックの話　ブロック氏スタチスチック論　スタチスチックの算法　スタチスチック未來の效用　統計學の範圍　統計學著書の批評　スタチスチックと以て社會を論ずる說　スタチスチック理論　經濟學と統計學

小野清一郎　後藤淸　三浦新七　市來乙彥　佐藤正　利安人　加藤弘之　河合良成　和田垣謙三　吉野作造　高橋龜吉　小野塚喜平次　杉榮三郎　中村進午　東一　杉榮三郎　小島昌太郎　小野一一郎　高橋誠一郎　菊地武夫　大藏公望　岡松參太郎　佐藤寬次　横山雅男　財部靜治　岩名昇　雅男　山上義夫　橫山雅男　森三樹三郎　橫山雅男　橫山雅男　橫山雅男

統計の事を論じ併せて藤澤博士に質す　吳　河合　利安〔統集〕豐七　一

統計活論を評す　吳　横山雅男〔統雜〕豐七　一

再び統計を論ず　吳　横山雅男〔統雜〕豐七　一

藤澤博士の統計法論を讀む　吳　臼井喜之作〔統雜〕豐七　一

藤澤理學博士の統計活論に就て　吳　渡邊洪基〔統集〕豐二　一

統計之精髓を讀む　吳　岡松徑〔統雜〕豐二　一

統計は何を顯はすか　吳　塚本定吉郎〔統雜〕豐二　一

統計算位の處作　吳　平山雄太郎〔統雜〕豐二　一

リユーメッソン氏統計論　吳　本利喜〔國家〕豐二　一

統計學の研究　吳　田中文聰〔統雜〕豐二　一

統計法論一口評　吳　河合利安〔統雜〕豐二　一

統計學上の一大疑問に答ふ　吳　田中文聰〔統雜〕豐二　一

統計學の近況　吳　田中太郎〔統集〕豐二　一

科學者としての統計　吳　飯田文聰〔統集〕豐二　一

統計の話　吳　飯田文聰〔國家〕豐二　一

統計の本體及問題　吳　飯田文聰〔統集〕豐二　一

未來の測量　蔵部〔統雜〕豐二　一

統計の組織に就て　高橋一郎〔統集〕豐二　一

歐洲に於ける近世統計技術の二大進歩　花房直三郎〔統集〕豐二　一

統計表章の疑問　岡松徑〔統雜〕豐二　一

統計の定義及其語源　河合利安〔統雜〕豐二　一

統計の必要及統計調査の方法　河合利安〔統雜〕豐二　一

齊一なる事の必要　河合利安〔統雜〕豐二　一

統計材料取調べ方に就きて　田中勇吉〔統雜〕豐二　一

スタチスチックの方法　杉亨二〔統雜〕豐二　一

計數の價置に就て　河合利安〔統雜〕豐二　一

統計材料の蒐集方法　河合利安〔統雜〕豐二　一

科學的檢討　吳　南岳〔統雜〕豐二　一

統計の數字　河合利安〔統雜〕豐二　一

何をか實際統計と謂ふや　河合利安〔統集〕豐二　一

實際統計と整理するに要する心得如何　河合利安〔統集〕豐二　一

統計學は算術に非ず　吳　光岡正彰〔國家〕豐二　一

統計の學說及技術　吳　水谷七三郎〔統雜〕豐二　一

略數に就て　吳　文聰〔統雜〕豐二　一

統計は科學なりや否や　柳澤保惠〔統雜〕豐二　一

統計に就て　河合利安〔統雜〕豐二　一

統計の調査法に就て　吳　文聰〔統雜〕豐二　一

統計の誤謬及誤解　田中太郎〔統集〕豐二　一

統計の組織に就て　高橋一郎〔統集〕豐二年　一卷

歐洲に於ける近世統計技術の二大進歩　花房直三郎〔統集〕豐二　一

統計表章の疑問　岡松徑〔統雜〕豐二　一

統計の定義及其語源　河合利安〔統雜〕豐二　一

統計の必要及統計調査の方法　河合利安〔統雜〕豐二　一

齊一なる事の必要　河合利安〔統雜〕豐二　一

統計材料取調べ方に就きて　寺田勇吉〔統雜〕豐二　一

スタチスチックの方法　杉亨二〔統雜〕豐二　一

計數の價置に就て　河合利安〔統雜〕豐二　一

統計材料の蒐集方法　河合利安〔統雜〕豐二　一

科學的檢討　吳　南岳〔統雜〕豐二　一

統計の數字　河合利安〔統雜〕豐二　一

何をか實際統計と謂ふや　河合利安〔統集〕豐二　一

實際統計と整理するに要する心得如何　河合利安〔統集〕豐二　一

統計學は算術に非ず　吳　光岡正彰〔國家〕豐二　一

統計の學說及技術　吳　水谷七三郎〔統雜〕豐二　一

略數に就て　吳　文聰〔統雜〕豐二　一

統計は科學なりや否や　柳澤保惠〔統雜〕豐二　一

統計に就て　河合利安〔統雜〕豐二　一

統計の調査法に就て　吳　文聰〔統雜〕豐二　一

統計の誤謬及誤解　田中太郎〔統集〕豐二年　一卷

統計の組織に就て　高橋一郎〔統集〕豐二　一

人類の學問及統計的學藝　岡松　統計學　一
統計略史　箕作　統計約說　一
照憲の大意　財部　統計　一
スタイン氏統計約說　靜治　京法　統集　一
ミイデン計算法について　驛吉　京法　統集　一
池田　近芳　統集　一
統計とは何ぞや　高野岩三郎　統集　一
統計原論（ツイスル著）　相原　重政　統集　一
社會統計學の效用　吳　文璋　明堂　統集　一
統計原論　高橋　二郎　明堂　統集　一
統計學と國家顯著事項　花房直三郎　統集　一
白耳義惠氏統計學理論　高橋　二郎　明堂　統集　一
トエンニース氏比較法　花房直三郎　統集　一
ケテレー氏の統計學に於ける位置　新渡戸稻造　靜治　京法　統集　一
統計と數學との關係　岡松　靜治　京法　統集　一
統計學の獨立存在に就て　財部　靜治　京法　統集　一
道德統計學の獨立存在否定論　高橋　二郎　明堂　統集　一
佛國フオール統計論の一　馬屋原彰　財部　靜治　京法　統集　一
統計數學と統計學　財部　靜治　京法　統集　一
中庸と統計學との平均（中）　宮本　仲　統集　一
數（ことに）との關係に就て　志　統集　一
ゼボンス數授と統計學　出浦　勝　統集　一
統計の圖示特に對數圖表に　藤本幸太郎　統集　一
數の計算の繁簡に就て　小倉金之助　統集　一
數の計算の繁簡に就て　山本赤水　統集　一
平均値の大小に就て　宗藤　圭三　同論　統時　一
簡易平均法に就て　岡崎　文規　部藏　統時　一
私經濟統計概論　財部　靜治　部藏　統時　一
照憲計算の一方法　鹽川　彌三郎　部藏　統時　一
シュワーベの法則　岡崎　文規　部藏　統時　一
數理統計序論　佐藤　保兒　國部　統集　一
經濟學と統計學　都　菊之助　商藏　統集　一
小倉金之助著「國計算及圖」　佐藤　保兒　國部　統集　一
フィシャー氏原著デイクソン表」　都　菊之助　統集　一
統計の起因に就て　中村　孝也　統集　一
加々美角表の事　財部　靜治　京法　統集　一
推測と記數調査と何れが危　宮本　仲　統集　一
統計數學と數學との關係　馬屋原彰　財部　靜治　京法　統集　一
統計學と統計學　財部　靜治　京法　統集　一
統計學と統計學　高橋　二郎　統集　一
統計學と統計學　岡松　參太郎　統集　一
統計學と統計學　新渡戸稻造　靜治　京法　統集　一
統計學と統計學　花房直三郎　統集　一
統計學と統計學　高橋　二郎　統集　一
統計學と統計學　花房直三郎　統集　一
統計學と統計學　財部　靜治　京法　統集　一
統計學と統計學　高橋　二郎　統集　一
統計學と統計學　花房直三郎　統集　一
統計學と統計學　藤本幸太郎　統集　一
統計學と統計學　兒玉　一造　統集　一
統計學と統計學　兒玉　一造　統集　一
統計學と統計學　高田　保馬　京法　統集　一
統計學と統計學　兒玉　一造　統集　一
統計學と統計學　高田　保馬　京法　統集　一
統計學と統計學　兒玉　一造　統集　一
統計學と統計學　藤本幸太郎　統集　一
統計學と統計學　藤本幸太郎　統集　一
統計學と統計學　花房直三郎　統集　一
統計學と統計學　田中　敬　統集　一
統計學と統計學　高野岩三郎　統集　一
統計學と統計學　池田　近芳　統集　一
統計學と統計學　驛吉　京法　統集　一
統計學と統計學　財部　靜治　京法　統集　一

中村孝也著「統計學の政治測量」　財部　靜治　統集　一
統計材料蒐集に就て　中村　孝也　統集　一
Newmarch の統計學に就て　財部　靜治　統集　一
管理統計學に就て　松井　勇　國部　統集　一
企業統計學に就て　中瀨勝太郎　會計　統集　一
メールアルトの經濟統計論　松風　明　統集　一
統計材料に就て　宮川　剛　統集　一
統計とアンウィートの指數造　小枝　健造　統時　一
公算と統計　佐藤　保兒　國部　統集　一
統計歷史の相關法に就て　森田　優三　統集　一
「調査」の意義に就て　福田　德三　統集　一
統計學概論」　佐藤　保兒　國部　統集　一
統計より見たる平均と物價　佐藤　保兒　國部　統集　一
指數　佐藤　保兒　國部　統集　一
百分比の算出法に就て　神山　信二　統集　一
クイルヘルム・レキシス博士の統計學　柴田　銀次郎　統集　一
統計圖作成に要する數學　神山　信二　統集　一
統計學の基礎概念　水谷　良一　統集　一
統計調査に於ける單位と標識に就て　都　菊之助　統集　一
統計數列を論ず　大內　武夫　商藏　統集　一
統計の特別數列に就て　大內　武夫　商藏　統集　一
統計的計數　都　菊之助　商藏　統集　一
蓋然率に就て　岡崎　文規　商藏　統集　一
統計的特別數列を論ず　佐藤　保兒　國部　統集　一
統計調査の際に就て　松岡　友長　國部　統集　一
統計的想像性及法則性の研　中川　明　國部　統集　一

			年	巻	号
究	郡	菊之助	【國經】大一三	三七	四一五
度數分配の整理法に就て	成實	清松	【商叢】大一三	二	一
統計指數の性質種類を論ず	郡	菊之助	【商叢】大一三	二	一
平行坐標と其の應用	與石丑太郎		【保雜】大一三	一	三〇三
再平行坐標を論じグラジュエーションの方式に及ぶ	與石丑太郎		【保雜】大一四	一	三〇五
統計圖作製上の注意	藤高善太郎		【統集】大一四	一	山口二四八 三二九
カウフマンの統計研究方法（故花房博士口述）	濱田	富吉	【統集】大一四	一	五二四
統計的研究に於ける選擇意志	岡崎	文規	【經叢】大一四	二〇	四
統計に用ひらるる指數の意義	大內	武次	【經商】大一四	四	五
竹田武男譯「應用統計學」を讀む	郡	菊之助	【國經】大一四	三八	五
統計指數の方法論	郡	菊之助	【統集】大一四	一	山口二四八 三二九
平均値に就て	中川	友長	【統集】大一四	一	四三三
數位句點に就て	宮本	基	【統雜】大一五	一	四七五
數理經濟學への一貢獻 A. L. Bowley: The mathematical groundwork of economics. を讀む	中山伊知郎		【商研】大一四	五	一
加重平均（Weighted mean）の簡便の計算法に就いて	山本恭次郎		【長彙】大一四	五	一
多元交聯關係測定法と其根據	小林	新	【早商】大一五	一	二
近似値としての算術平均	岡崎	良藏	【商經】大一五	一	四二
チイチエック統計學の結構について	木村喜一郎		【商經】大一五	一	四二
平均値の大小に就て	龜田豐次郎		【統時】大一二	一	五
統計指數の沿革	郡	菊之助	【商叢】大一五	三	一
公算論の統計に於ける應用	山本恭次郎		【商濟】大一五	六	一一二
經濟學と統計學	郡	菊之助	【統雜】大一五	一	四七七
統計史					
統計協會の來歷	宇川盛三郎		【統集】明一三	一	一
各國官府統計の略史	岡松	徑	【統集】明一四	一	三
統計學士傳	墨山	櫟叟	【統集】明一〇	一	七六
スタチスチックの沿革	寺田	勇吉	【スタ】明一〇	一	三
スタチスチックの歷史	吳	文聰	【スタ】明一〇	一	山一六 三七一 五七九
普國統計局事務沿革誌	中村	東吉	【統集】明一〇	一	一〇
スタチスチック歷史一斑	河合	利安	【スタ】明一一	一	七七
日本統計事務沿革史略	臼井喜之作		【統集】明一五	一	山一四一 三一〇九
日本統計事業沿革一覽	村山	通定	【統集】明一六	一	一四四
日本統計略誌			【統集】明一六	一	山九〇 三九四
各國統計局設立史	高橋	二郎	【統雜】明一六	一	
東京統計協會創立第十六年の景況	相原	重政	【統集】明一七	一	一四九
	橫山	雅男	【統集】明一二	一	一九九

			年	巻	号
統計學史を汎論し併せて本邦統計の沿革を論ず	橫山	雅男	【統集】明二一	一	山一〇二 三一〇三
日本統計の沿革	橫山	雅男	【統集】明二三	一	二二八
東京統計協會沿革抄			【統集】明二五	一	二六〇
統計史要	高橋	二郎	【統集】明二七	一	山二八 三八八
明治三十七年本邦統計略志	松重	主人	【統雜】明二八	一	二三五
本邦統計の發達	伊東	祐毅	【統集】明二八	一	二八九
統計學社沿革概要			【統雜】明二九	一	二五一
統計學年表	橫山	雅男	【統雜】明三〇	一	山一四一 三一〇二
日本統計史料	布施	千造	【統雜】明四〇	一	山一四二 三一〇六
統計學史上のハルリー	松嶺	仙史	【統雜】明四一	一	山一四二 三一七九
巴里統計協會の沿革	財部	靜治	【國經】明四三	九 二	山一四三 三二九九
統計學社の略歷	高橋	二郎	【統雜】明四三	一	二九三
東京統計協會の起源	河合	利安	【統集】明四四	一	三五九
統計萬國會議の沿革及概況	田中	太郎	【統集】明四四	一	三五九
本邦中央統計機關の沿革	高橋	二郎	【統集】明四四	一	三五九
共立統計學校	橫山	雅男	【統集】明四四	一	三五九
本社の上古史（統計學社）	橫山	雅男	【統雜】明四四	一	山二〇〇 三二〇二
日本統計史料	勝古迂人		【統雜】明四四	一	山二三五
統計懷舊談	杉	亨二	【統雜】大 四	一	山二五〇 三二五一
日本統計の沿革に就て	橫山	雅男	【統雜】大 六	一	山二六九 三二七四
統計懷舊談	吳	文聰	【統雜】大 六	一	山二七四 三二七八
故統計家及統計關係者諸氏					
祭典執行記事			【統雜】大一〇	一	山二四六 三二六
統計學界故實錄	財部	靜治	【統時】大一一	一	四一五
統計書					
各國統計年報科目順序	高橋	二郎	【統集】明一六	一	三
享保年間奮幕記錄統計	高橋	二郎	【統集】明一七	一	三七
歐洲諸國對比統計	千葉	文爾	【統集】明一八	一	山四七 三九四
日本帝國統計摘要（露紙評論）			【統集】明二一	一	七
日本帝國第六回統計摘要に就き魯露士國統計局長エミル・ブレンク氏の批評論	相原	重政	【統集】明二六	一	一四〇
佛國ヴハシエル氏の第十一回日本帝國統計の摘要の批評	高橋	二郎	【統集】明二一	一	二一
十九二十統計年鑑異同辨	墨山	仙史	【統集】明二五	一	山二〇〇 三二〇一
東京府統計書を評す	水科七三郎		【統集】明二五	一	二五六
統計的日本	河合	利安	【統集】明二五	一	山二〇〇 三二〇四
日本帝國第十九統計年鑑に就て	墨山	仙史	【統集】明二三	一	二三六
巴里ニヴエール新聞日本統計の評論	墨山	櫟叟	【統集】明一七	一	二八三
日本帝國第二十五第二十六統計年鑑異同辨	墨山	櫟叟	【統集】明四一	一	三三

聖彼得堡萬國統計協會議 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
期末大都府統計に關する第九回萬國統計協會議 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
萬國統計公會の決議 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
勿耳加里侯國統計院に關する法律 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
一八九九年クリスチャニヤ萬國統計協會議の決議 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
萬國統計協會議の要領及希望の要領 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
獨逸帝國統計院勞働統計部 …… 相原重政 統集 明治四十一年 一
議員會規定 …… 相原重政 統集 明治四十一年 一
各國の統計官衙 …… 吳文聰 統集 明治四十一年 一
一九〇三年萬國統計協會伯林會議狀況 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
瀋斯國代議院議員の選擧 …… 相原重政 統集 明治四十一年 一
統計院統計家及萬國統計事 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
會 …… 横田 萬 内外 明治四十一年 一
地方機關の統計事務に對する一般の心得 …… 花房直三郎 統集 明治四十一年 一
統計事務大要 …… 松野長俊 統集 明治四十一年 一
改正農商務省統計様式說明 …… 吳文聰 統集 明治四十一年 一
一九〇九年七月巴里萬國統計協會議概況 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一

【統計】

第二十六及第二十七帝國統計年鑑異同辨 …… 仙史 統集 明治四十年 一
各國統計中央局定期統計一覽 …… 羅山 統集 明治四十年 一
各國統計中央局定期統計一覽 …… 相原重政 統集 明治四十一年 一
本邦各市統計改良の意見 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
白耳義國統計官制一班 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
官府統計組織大要 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
萬國統計事務協會規約 …… 小野 統集 明治四十一年 一
統計萬國協會に關する法律 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
英國ヒーバル氏日本統計の概覽 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
統計書の刊行及交換に關する公會の決議 …… 高橋二郎 統集 明治四十一年 一
帝國統計年鑑の改正に就て …… 高橋勝弘 統集 明治四十一年 一
花房直三郎 統集 明治四十一年 一
奈良縣統計書の改正に就て …… 高畑松 統集 明治四十一年 一
內閣統計局展覽會陳列の圖 …… 花房直三郎 統集 明治四十一年 一
表及圖書目錄 …… 高畑 統集 明治四十一年 一
統計事務の概說 …… 財部靜治 統集 大正元年 一
本邦統計事業概觀 …… 高野岩三郎 國勢 大正元年 一
外國統計事業概觀 …… 高野岩三郎 國家 大正元年 一
日本國勢寫眞の編者に就て …… 篠崎 高野岩三郎 國家 大正二年 一

【統計】

統計綱目（）萬國統計公會議 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
雜形 …… 杉 孝二 統集 明治四十二年 一
人別調入心得並家別表書込 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一

制度及會議

萬國統計協會決議陸海軍統計調 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
萬國公會決議陸海軍統計調 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
查綱目 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
萬國公會決議市町村統計調 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
查綱目 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
都府縣統計機關 …… 花房直三郎 統集 明治四十二年 一
會議所の質問の答 …… 花房直三郎 統集 明治四十二年 一
統計條例に關する松江商業 …… 高橋 統集 明治四十二年 一
獨逸帝國統計院事務概況 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
伊太利王國統計官制 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
計會の概況 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
一八八〇年九月巴里萬國統 …… 相原重政 統集 明治四十二年 一
幾及び事務 …… 高橋勝弘 統集 明治四十二年 一
普魯士國中央統計委員の組 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
る公會の決議 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
統計書の刊行及交換に關す …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
伊太利國フロレンス府萬國統計公會決議 …… 相原重政 統集 明治四十二年 一
各國統計官制考 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一

聖彼得堡萬國統計協會議 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
萬國統計公會決議 …… 相原重政 統集 明治四十二年 一
萬國統計協會決議 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
萬國統計協會決議 …… 高野岩三郎 國際 明治四十二年 一
萬國統計協會決議 …… 高橋二郎 統集 明治四十二年 一
萬國統計協會決議 …… 高野岩三郎 統集 明治四十二年 一
萬國統計協會決議 …… 高橋二

英吉利に於ける官衙統計改善に關する論議
第十五回國際統計會議に於て採擇せられたる希望及意見　濱田　寫尾　弘　彈　〔統集〕　六二年
國際統計會議　富吉　〔統時〕　六三　一　一卷
英國民の海外投資額　滿河　鞠見　山内　正　〔國家〕　豐　乳　三〇　一　一　一卷
海外放資と戰爭との關係　本合　良成　〔法協〕　豐二　三七　六　六　五　五
海外放資の膨脹力に就て　美夫　〔國經〕　豐二　七　六　六　五　五
株式投資の理由　原　明治郎　〔國經〕　六二　二　二　五　一　一　三
近代放資の二大要項　高島佐一郎　〔國經〕　六二　二　五　一　一　三
投資論　惣崎　貞夫　〔保險〕　六二　六　九　一　三　四　一　五
海外放資理論　黒澤　和雄　〔東經〕　豐五　六　九　一　三　五
米國戰後の海外投資　神戸　正雄　〔日經〕　豐四　九　一　三　五
米國東亞放資機關　〔東經〕　豐四　六　九　一　三　五
戰後英國の金利と對外放資　〔資料〕　六七　一　一　三　四
英國の對外放資一班　飯島　幡司　〔國經〕　六六　三　三　四　一　五
戰爭と英國放資界の變遷　上田辰之助　〔國經〕　六六　三　三　四　四
米國の海外放資力　津村秀松　〔國經〕　六六　三　三　四　四　五
英國資本の眞相「放資原價說」　津村　正雄　〔國經濟〕　六六　三　四　五　五
米國の中南米投資　樽井　榮藏　〔資料〕　六六　三　三　三
英國の對米放資回收に關する規程一班　堀江　歸一　〔三學〕　六五　10　三
英國の海外投資　濱田　藤吉　〔商經〕　六五　一
英國の海外放資制限と我國の辨　堀江　歸一　〔財經〕　六四　四　二　三
英國民の覺悟　一宮房次郎　〔財經〕　六四　三　九　三
日米兩國の對支投資に就て　〔三學〕　六四　三　九　三
歐洲戰爭と英國對外放資　〔財經〕　六四　三　九　三
投機、賭博、保險、及放資　〔亞經〕　六四　三　九　三
英國の對米放資回收に關す　〔國經〕　六二　一　一　三
佛國の外國放資　〔經濟雜〕　六二　一　一　三
佛國の海外投資　京法　六二　四　四　一　一
英國の海外放資制限と我國　濱　正雄　京法　六二　四　四　10　一
米國の中南米投資　松崎　誌　〔國經〕　六二　一　一　三
小川郷太郎　〔經濟雜〕　六二　一　一　三

日本產業發達の裏書＝陶磁器業
支那陶磁業史論　小林　儀夫　〔亞經〕　六三　八　一　四
支那陶磁に表はれたる西域文化　小林　儀夫　〔亞經〕　六一　一〇　二
知半解樓　〔財經〕　六四　一　七
陶磁器　〔財經〕　六七　一　一　三

當事者訊問＝重鎭と見よ
當事者＝訴訟當事者と見よ

統治＝參照＝委任統治。國家。政治。統治權。
法治主義と論ず　穗積　八束　〔國家〕　豐三　三　三　三
法治國の辨　冷眼子　〔新報〕　豐六　三　三　三
法治國の本義　菊池　武夫　〔新報〕　豐四　二　二　三七
統治權の作用を論ず　島田　俊雄　〔新報〕　豐五　三　二　10
國家統治權の作用に就て　島田　俊雄　〔國家〕　豐五　一　一　四

國家作用の區別　上杉慎吉〔法政〕大五・一〇
立憲政治の妙用　ジェリネック〔志林〕大五・一〇
國家直接機關の特質　菱谷精吉〔法政〕大五・一〇
法治國の壓制　穗積八束〔法協〕四〇・一〇
憲法の政治的作用　佐々木惣一〔京法〕四二・一〇
國家作用と三權の分立　仁保龜松〔京法〕四三・一
國家の公權に關する疑義　野村淳治〔法協〕四三・一〇
立憲法治の發達を論ず　牧野英一〔志林〕大三・一
法治主義より科學主義　稻原勝治〔外時〕大八・一
日本人に法治國民の素質あり　三浦周行〔京法〕大八・一
デモクラシーと我國統治に就て　笹倉新治〔法政〕大八・一
國家統制論　今中次麿〔同論〕大一四・一

【統治權】

參照＝國家。政治。天皇。統治。

有賀學士の批評に對し卿かに及ぶ　島田燁吉〔法協〕四〇・一
統治權を論じて憲法の規定に及ぶ　穗積八束〔法協〕四三・一
國家全能主義　穗積八束〔法協〕四四・一
主義の本體を明にす　穗積八束〔法協〕四三・一
統治權と主權　美濃部達吉〔國家〕四〇・一
三權分立　佐々木惣一〔新報〕四〇・一
主義　美濃部達吉〔志林〕四二・一
近世憲法に於ける權力分立　佐々木惣一〔京法〕四二・一
主權の起源と主權の作用　穗積八束〔法協〕四二・一
國家及主權　牧野英一〔國家〕四二・一〇
國家作用と三權分立　松本順吉〔法政〕四二・一〇
立憲國に統治權の總攬者あり　上杉慎吉〔國家〕四二・一〇
國家作用の區別　上杉慎吉〔新報〕四二・一〇
國家直接機關の特質　ジェリネック〔志林〕四二・一〇
立憲政治の妙用　菱谷精吉〔法政〕四二・一〇
法治國の壓制　穗積八束〔法協〕四二・一〇
憲法の政治的作用　佐々木惣一〔京法〕四二・一〇
國家作用と三權の分立　仁保龜松〔京法〕四三・一
國家の公權に關する疑義　野村淳治〔法協〕四三・一〇
立憲法治の發達を論ず　上杉慎吉〔新報〕四三・一〇
法治主義より科學主義　牧野英一〔志林〕四三・一
日本人に法治國民の素質あり　稻原勝治〔外時〕大八・一
デモクラシーと我國統治に就て　三浦周行〔京法〕大八・一
國家統制論　笹倉新治〔法政〕大八・一

參照＝國家。政治。天皇。統治。

今中次麿〔同論〕大一四・一
島田燁吉〔法協〕四〇・一
穗積八束〔法協〕四三・一
穗積八束〔法協〕四四・一
美濃部達吉〔國家〕四〇・一
佐々木惣一〔新報〕四〇・一
美濃部達吉〔志林〕四二・一
佐々木惣一〔京法〕四二・一
穗積八束〔法協〕四二・一
牧野英一〔國家〕四二・一〇
松本順吉〔法政〕四二・一〇
上杉慎吉〔國家〕四二・一〇
上杉慎吉〔新報〕四二・一〇
ジェリネック〔志林〕四二・一〇
菱谷精吉〔法政〕四二・一〇
穗積八束〔法協〕四二・一〇
佐々木惣一〔京法〕四二・一〇
仁保龜松〔京法〕四三・一
野村淳治〔法協〕四三・一〇
牧野英一〔志林〕大三・一
稻原勝治〔外時〕大八・一
三浦周行〔京法〕大八・一
笹倉新治〔法政〕大八・一
今中次麿〔同論〕大一四・一

島田法學士の「統治權を論じて憲法の規定に及ぶ」を讀みて私見を述ぶ　島田燁吉〔法政〕四二・一〇
統治權　上杉慎吉〔國家〕四二・一〇
モンテスキューの三權分立論　上杉慎吉〔新報〕四二・一〇
主權に關する統念　上杉慎吉〔志林〕四二・一〇
ジアン・ボダーンの主權論　佐々木惣一〔京法〕四二・一〇
權力分立論一班　仁保龜松〔京法〕四三・一
權力分立說の近世憲法に及ぼしたる影響　野村淳治〔法協〕四三・一〇
オースチンの主權及公法に關する學說　牧野英一〔志林〕大三・一
國家威力と主權との觀念に就て　稻原勝治〔外時〕大八・一
國家及主權　今中次麿〔同論〕大一四・一
主權の起源と主權の作用　穗積八束〔法協〕四三・一
近世憲法に於ける權力分立主義　穗積八束〔法協〕四四・一
三權分立　美濃部達吉〔國家〕四〇・一
統治權と主權　美濃部達吉〔新報〕四〇・一
權力の分立　美濃部達吉〔志林〕四二・一
國家作用と三權分立　佐々木惣一〔新報〕四〇・一
立憲國に統治權の總攬者あり　美濃部達吉〔國家〕四〇・一
統治權と論じて憲法の規定に及ぶ　穗積八束〔法協〕四三・一
國家全能主義　穗積八束〔法協〕四四・一
主義の本體を明にす　穗積八束〔法協〕四三・一
有賀學士の批評に對し卿かに及ぶ　島田燁吉〔法協〕四〇・一

統治權の本質　市村光惠〔京法〕大五・一〇
國家觀念の要素としての主權と統治權　市村光惠〔京法〕四四・一
權力分立論の變遷　穗積八束〔三學〕大一・一
統治權在君說と統治權在國說との調和　岡村玄治〔志林〕大一・一〇
統治權の發現　松本重敏〔新聞〕大一・一
統治權の本義　松本重敏〔新聞〕大一・一
果して統治權は可分なりや　松本重敏〔新報〕大一・一〇
三權分立と我國に於ける其運用　松本重敏〔新聞〕大一・一
統治權と國家力　松本重敏〔新聞〕大一・一
國權統治權及主權　美濃部達吉〔國家〕大一・一
統治權の主體に就て　樋口豐太郎〔法協〕大一・一
ナショナル・ギルドと國家主權と統治權の主體を論ず　松本重敏〔新聞〕大一・一
アリストートルの三權分立論　中島重〔同論〕大一・一
主權論に主權と中央集權主義と聯邦主義並ラスキ「主權と聯邦主義」　蟻山政道〔新報〕大一・一

參照＝道徳。

副島義一〔早法〕大三・一
淺野正一〔法叢〕大三・一

【道徳】

道徳的現象に及ぼす戰爭の影響　高橋一郎〔統帥〕昭七・一
勢力階級と新道徳　丹羽筑山〔東經〕昭二・一
社會道徳と議會政治　荘田秋村〔東經〕昭二・一
國家道徳論と讀む　今村力三郎〔辯協〕大一・一
日本の商業道徳と國民道徳　津村秀松〔國經〕大一・一
國民道徳の涵養　鵜澤總明〔國經〕大一・一
機械と道徳　植原悦二郎〔日經〕大一・一
社會道徳の腐敗　太田實時〔辯協〕大一・一
國民道徳統一の必要を論ず（講演）　高橋一郎〔統帥〕昭七・一
國民道徳を論ず　吉野作造〔國家〕昭元・一
節儉と道徳　上杉慎吉〔國家〕昭元・一〇
古道徳と危險思想　牧野英一〔國家〕昭元・一〇
可變の道徳と不變の道徳　松本順吉〔法政〕四二・一〇
デューイの改修　佐々木惣一〔新報〕四〇・一

參照＝國體。國體道徳。

三權分立の現代に於ける意義　鈴木義男〔社科〕大一四・一
ケルゼンの權力分立論　堀眞琴〔法研〕大一四・二
佛國憲法に於ける統帥權と國務大臣の責任　中野登美雄〔早法〕大一四・一

論と其功利主義的倫理　高橋誠一郎〔三學〕大九　一四　一
道徳的判断の標準　佐々木英夫〔法政〕大九　一七　三
支那法と孝道　東川　徳治〔志林〕大九　三　一〇
道徳生活に於ける教會の位置　佐々木英夫〔法政〕大九　一七　一一
ハイヘン「社會主義と唯物史觀と倫理學」に就て　河上　肇〔社問〕大九　一　一九
法律的規範と道徳的規範　齋藤　要〔法政〕大一〇　一八　二
道徳生活に於ける快樂の位置　佐々木英夫〔法政〕大一〇　一八　三
元首道徳を論じて國民道徳の標準に及ぶ　仁保　龜松〔法叢〕大一〇　五　二
戰爭と道徳の原則　財部　靜治〔經叢〕大一一　一五　五
倫理的態度の現代的效果　長谷川萬次郎〔我等〕大一一　四　八
ルーズベルト著實踐倫理學を讀む　佐々木英夫〔法政〕大一一　一九　八一九
藝術と道徳（講演）　石丸　悟平〔法政〕大一一　一九　九
生存の道徳　長谷川萬次郎〔我等〕大一一　四　一
刑法上の孝道觀　長岡　熊雄〔新聞〕大一一　一　二〇三
國民道徳の本質としての祖先崇敬　補永　茂助〔法政〕大一二　二〇　三一五
道徳と國民性　田中　義能〔法政〕大一二　二〇　一
道徳の支配と支配の道徳　長谷川萬次郎〔我等〕大一二　一五　一
道徳の社會的基礎　波多野　鼎〔我等〕大一二　一五　五
道徳に於ける自律性と法則性　岸　興詳〔商濟〕大一三　四　二
有産者の倫理　河上　肇〔我等〕大一三　五　一
法律家の道徳　イーデベッカー〔新聞〕大一三　一　二三四
アダム・スミスの「道徳情操論」に就て　川合　貞一〔三學〕大一三　一七　七
道徳意識論　藤森　達三〔法治〕大一三　二　二一四
最近の倫理思潮　吉田　靜治〔法政〕大一三　二〇　一
獨立道徳と奴隷道徳　齋藤　隆夫〔新聞〕大一三　一　二五七
倫理思想家としてのアダム・スミス　杉村　廣藏〔商研〕大一三　三　一
職業と道徳　松倉慶三郎〔新聞〕大一三　一　二九二
カントの理性道徳と現代の社會思潮　友枝　高彦〔社政〕大一三　一　四三
個別的倫理法則と歷史的世界觀　杉村　廣藏〔商研〕大一三　四　二
クロポトキンの「倫理學」　森戸　辰男〔我等〕大一四　七　一
マキヤベリの政治思想と道徳觀念とに就て　朝日　融溪〔社雜〕大一四　一　一三
「道徳の經濟的基礎」を讀む　大木陽一郎〔マル〕大一四　二　三
社會的適應の原理としての道徳　友枝　高彦〔社政〕大一四　一　五二
ランゲの唯物史觀と倫理　山口正太郎〔社政〕大一四　一　六一

國家主義倫理と普遍主義倫理　中込本治郎〔社政〕大一四　一　六三
マンデウイルの倫理（譯）　ロージヤトス〔社政〕大一五　一　六四

經濟と道徳

經濟と道徳　河上　肇〔日經〕昭四　一　二一三
經濟上の價値と道徳上の價値　丹羽　筑山〔東經〕昭二　五九　四七二
經濟と道徳の調和　桑田　熊藏〔新報〕昭四五　二三　一
經濟と倫理　鹽澤　昌貞〔國經〕大一二　一四　二
經濟と道徳との關係　田島　錦治〔京法〕大一三　九　五
社會問題と經濟及び道徳　山田　利淳〔東經〕大一四　七一　一七九六
經濟的行爲と道徳的行爲との關係　穗積　重遠〔志林〕大七　二〇　四

倫理と經濟との關係

法律と道徳との別　丹羽　筑山〔東經〕昭二　五九　四七二
法の倫理的效用　桑田　熊藏〔新報〕昭四五　二三　一
道徳と法律の別　鹽澤　昌貞〔國經〕大一二　一四　二
道徳統計の話　田島　錦治〔京法〕大一三　九　五
法律と道徳（講演）　山田　利淳〔東經〕大一四　七一　一七九六
法律と道徳との區別　穗積　重遠〔志林〕大七　二〇　四
法制と道義心との關係に就て　阿部　溫和〔歸協〕大一三　二八　一
法律と道徳との關係　高柳　賢三〔社科〕大一四　一　一

法律と道徳

道義統計論　相原　重政〔統集〕昭一八　一　四四
道徳教育に就きスタチスチックの效用　加藤　弘之〔スタ〕昭二〇　一　一九
エツチングン氏モラールス・タチスチック論　岡松　徑〔スタ〕昭二〇　一　一
マイエル氏道徳統計論　岡松　徑〔統集〕昭二四　一　一
道徳統計の範圍　世良　太一〔統雜〕昭二六　一　二〇六
エツチングン氏の道徳統計論　瀧本　美夫〔統集〕昭二九　一　三〇六
道徳統計の話　橫山　雅男〔統集〕昭四三　一　
道徳統計學の獨立存在否定論　財部　靜治〔京法〕昭四三—四　二
フオン・イナマステルネツク氏フオン・マイヤー氏の道徳統計に關する意見　花房直三郎〔統雜〕大二　一
道徳統計論概說　財部　靜治〔經叢〕大一三　一一八　一

【動物】